

子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査報告書

平成31年3月
養 老 町

も く じ

調査の概要

1	調査の目的	2
2	調査方法、回収結果等	2
3	集計・分析にあたって	2

第Ⅰ部 就学前児童保護者調査

第1 子どもと家族の状況

1	子どもの年齢と子どもの人数	6
2	小学校区	6
3	世帯の状況	6
4	調査票の回答者	7
5	配偶者の有無	7
6	子育てを主に行っている人	7

第2 子どもの育ちをめぐる環境

1	子どもをみてる人はいるか	8
2	相談相手	9
(1)	子育ての相談相手はいるか	9
(2)	相談相手	10

第3 保護者の就労状況等

1	母親の就労状況	11
(1)	母親の就労状況・形態	11
(2)	母親の就労日数と就労時間数	12
(3)	母親の家を出る時刻と帰宅時刻	13
2	父親の就労状況	14
(1)	父親の就労状況・形態	14
(2)	父親の就労日数と就労時間数	14
(3)	父親の家を出る時刻と帰宅時刻	15
3	フルタイムへの転換希望	16
(1)	母親のフルタイムへの転換希望	16
(2)	父親のフルタイムへの転換希望	16
4	働いていない母親の就労意向	17
(1)	働いていない母親の就労意向	17
(2)	子どもが何歳になったら就労したいか	17
(3)	希望する就労形態・日数・時間	18

第4 平日の定期的な教育・保育事業

1	定期的な教育・保育事業の利用の有無	19
2	利用している定期的な教育・保育事業の種類	20

3	定期的な教育・保育事業の利用状況	21
	(1) 保育園／21 (2) 認定こども園／22	
4	定期的な教育・保育事業の利用希望日数・時間	23
	(1) 保育園／23 (2) 認定こども園／24	
5	定期的な教育・保育事業を利用していない理由	25
6	利用したい定期的な教育・保育事業	26
	(1) 利用したい定期的な教育・保育事業／26 (2) 幼稚園の利用を強く希望するか／27	
	(3) 定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向／27	
7	教育・保育事業を利用したい場所	28
第5 地域子育て支援事業		
1	地域子育て支援拠点事業の利用の有無	29
2	地域子育て支援拠点事業の利用回数	29
3	地域子育て支援拠点事業の利用意向	30
4	地域子育て支援拠点事業の利用希望回数	31
第6 休日の定期的な教育・保育事業の利用意向		
1	土曜日	32
2	日曜・祝日	33
3	土曜日または日曜・祝日に月に1～2回利用したい理由	34
4	1号認定で認定こども園または幼稚園の長期休暇期間中の利用	35
5	長期休暇期間中に週に数日利用したい理由	36
第7 子どもが病気の時の対応		
1	子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無	37
2	子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法	38
3	子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の施設の利用意向	40
第8 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり		
1	不定期に利用している教育・保育事業	41
2	不定期の教育・保育事業の利用意向	42
	(1) 不定期の教育・保育事業の利用意向／42 (2) 不定期の教育・保育事業の利用目的／43	
3	宿泊を伴う一時預かり	44
	(1) 子どもを泊まりがけで預けなければならなかったことの有無／44	
	(2) 子どもを泊まりがけで預けなければならなかった時の対処方法／45	
第9 子ども・子育て支援事業の評価等		
1	子ども・子育て支援の認知度・利用経験・利用意向・満足度	46
	(1) 認知度／46 (2) 利用経験／49 (3) 利用意向／52 (4) 満足度／55	
2	ファミリー・サポート・センターの認知度と利用意向	58
	(1) ファミリー・サポート・センターの認知度／58	
	(2) ファミリー・サポート・センターの利用意向／59	

3	改善してほしい・利用してよかったサービス	60
	(1) 改善してほしいこと・利用してよかったこと	60
	(2) 改善してほしいこと・利用してよかったことの見数の件数	66
4	養老町は子育てのしやすいまちか	67
5	子育て支援を感じたことがあるか	72

第10 子育ての状況

1	子育てに関する不安感や負担感	76
2	子育てに関して悩んでいること	77
3	父親の1日の子育てや家事の時間	79
4	子どもへの暴力	80
	(1) 子どもに暴力をふるったことがあるか	80
	(2) 子どもへの暴力の内容	81
5	産後うつ	82
	(1) 産後うつを感じたことがあるか	82
	(2) 産後うつの対処法	83
6	仕事と子育ての両立	84
7	暮らしの状況	85
8	経済的な理由で断念したこと等があるか	86

第11 育児休業制度等

1	育児休業の取得	87
2	育児休業を取得していない理由	88
3	育児休業取得後の母親の職場復帰	90
	(1) 育児休業取得後の母親の職場復帰	90
	(2) 母親の育児休業取得期間と取得希望期間	91
	(3) 母親が希望の時期に職場復帰しなかった理由	92

第2部 小学生保護者調査

第1 子どもと家族の状況

1	子どもの学年と子どもの人数	94
2	小学校区	94
3	世帯の状況	94
4	調査票の回答者	95
5	配偶者の有無	95
6	子育てを主に行っている人	95

第2 子どもの育ちをめぐる環境

1	子どもをみてくれる人はいるか	96
2	相談相手	97
	(1) 子育ての相談相手はいるか	97
	(2) 相談相手	98

第3 保護者の就労状況等

1	母親の就労状況	99
(1)	母親の就労状況・形態	99
(2)	母親の就労日数と就労時間数	100
(3)	母親の家を出る時刻と帰宅時刻	101
2	父親の就労状況	102
(1)	父親の就労状況・形態	102
(2)	父親の就労日数と就労時間数	102
(3)	父親の家を出る時刻と帰宅時刻	103
3	フルタイムへの転換希望	104
(1)	母親のフルタイムへの転換希望	104
(2)	父親のフルタイムへの転換希望	104
4	働いていない保護者の就労意向	105
(1)	働いていない保護者の就労意向	105
(2)	子どもが何歳になったら就労したいか(母親)	105
(3)	希望する就労形態・日数・時間	106

第4 放課後等の子どもの居場所

1	平日の放課後の過ごし方	107
(1)	1年生から3年生	107
(2)	4年生から6年生	108
2	土曜・休日の過ごし方	109
(1)	1年生から3年生	109
(2)	4年生から6年生	110

第5 留守家庭児童教室・放課後子ども教室

1	留守家庭児童教室の利用状況	111
(1)	留守家庭児童教室の利用の有無	111
(2)	留守家庭児童教室の利用日数	112
2	留守家庭児童教室の利用希望日数・時間等	112
(1)	留守家庭児童教室の利用希望日数	112
(2)	留守家庭児童教室の利用希望時間帯	113
(3)	留守家庭児童教室の利用児数と利用希望児数	115
(4)	留守家庭児童教室の利用希望学年	115
(5)	留守家庭児童教室の利用理由	116
3	放課後子ども教室	116
(1)	放課後子ども教室の利用意向	116
(2)	放課後子ども教室の利用希望日数	118

第6 子どもが病気の時の対応

1	子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無	119
2	子どもが病気等で学校を休んだ場合等の対処方法	120
3	子どもが病気等で学校を休んだ場合等の施設の利用意向	121

第7 不定期の事業や宿泊を伴う一時預かり

1	不定期に利用している事業	122
2	不定期の預かり等の事業の利用意向	123
(1)	不定期の預かり等の事業の利用意向	123
(2)	不定期の預かり等の事業の利用目的	124
3	宿泊を伴う一時預かり	125
(1)	子どもを泊まりがけで預けなければならなかったことの有無	125
(2)	子どもを泊まりがけでみてもらわなければならなかった時の対処方法	126

第8 子育て支援事業の評価等

1	ファミリー・サポート・センターの認知度と利用意向	127
(1)	ファミリー・サポート・センターの認知度	127
(2)	ファミリー・サポート・センターの利用意向	128
2	改善してほしいこと・利用してよかったこと	129
(1)	改善してほしいこと・利用してよかったこと	129
(2)	改善してほしいこと・利用してよかったことの見数の件数	135
3	養老町は子育てのしやすいまちか	136
4	子育て支援を感じたことがあるか	141

第9 子育ての状況

1	子育てに関する不安感や負担感	145
2	子育てに関して悩んでいること	146
3	父親の1日の子育てや家事の時間	148
4	子どもへの暴力	149
(1)	子どもに暴力をふるったことがあるか	149
(2)	子どもへの暴力の内容	150
5	仕事と子育ての両立	151
6	暮らしの状況	152
7	経済的な理由で断念したこと等があるか	153

第3部 意見・要望

第1 就学前児童保護者調査

1	子育て全般	156
2	保育園・幼稚園・こども園	160
3	子育て支援センター	165
4	病児・病後児保育	166
5	留守家庭児童教室	166
6	預かりサービス	167
7	障がいのある子どもへの対応	168
8	ひとり親家庭等への支援	168
9	保健センター・保健事業	168
10	児童館・図書館	169
11	プール	170
12	公園等の遊び場	170
13	教育・学校	172
14	医療	172
15	子育て環境・安全	173
16	相談・情報提供	173

17	イベント	174
18	経済的支援	174
19	役や行事の負担	177
20	アンケート	178

第2 小学生保護者調査

1	子育て全般	179
2	留守家庭児童教室	181
3	障がいのある子どもへの対応	183
4	ひとり親家庭等への支援	184
5	その他の子育て支援	185
6	学校・教育	186
7	医療	188
8	図書館・体育館等	188
9	公園等の遊び場	189
10	通学等の環境・安全	190
11	子育て環境	191
12	就労環境	192
13	役や行事の負担	194
14	経済的支援	198
15	アンケート	201
16	その他	201

第4部 まとめ

1	就労している母親の増加	204
2	育児休業	204
3	子育て支援の評価	204
4	留守家庭児童教室・放課後子ども教室	205
5	公園等の野外の遊び場	205
6	児童虐待の防止	205
7	子ども会やPTA等の活動	205
8	NPO法人、ボランティアの活用	206
9	広報・情報提供	206
10	子育てのしやすいまち	206
11	少子化対策	207

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、住民の子育て支援に関する状況や今後の利用希望等を把握することで、今後の子育て支援施策を進め、「第2期 養老町子ども・子育て支援事業計画」を策定のための基礎資料を得ることを目的とし、小学校6年生以下の児童を持つ保護者を対象として実施しました。

就学前児童の保護者に対しては、保育サービス等の利用状況や利用意向、評価、子育てについての悩み、仕事と子育てなどについて、また、小学生の保護者に対しては、留守家庭児童教室の利用状況や利用意向、仕事と子育て、暮らしの状況などについてお聞きしました。

2 調査方法、回収結果等

就学前児童保護者調査	調査対象者	就学前児童の保護者。ただし、就学前児童が2人以上いる世帯は1人（一番下の児童）を対象児童とした	
	調査方法	就園児童は園にて配布・回収。未就園児童は郵送配布・郵送回収	
	調査基準日	平成31年1月1日	
	調査期間	平成31年1月8日～1月25日	
	回収結果	配布数 829 うち郵送は216	回収数（回収率） 649（78.3%） うち郵送は99（45.8%）
小学生保護者調査	調査対象者	小学生の保護者（就学前児童のいる世帯は除く）。ただし、小学生が2人以上いる世帯は1人（一番下の児童）を対象児童とした	
	調査方法	小学校にて配布・回収	
	調査基準日	平成31年1月1日	
	調査期間	平成31年1月8日～1月25日	
	回収結果	配布数 1,099	回収数（回収率） 751（68.3%）

（注）回収数は無効票（回答が不十分のもの）を含みます。

3 集計・分析にあたって

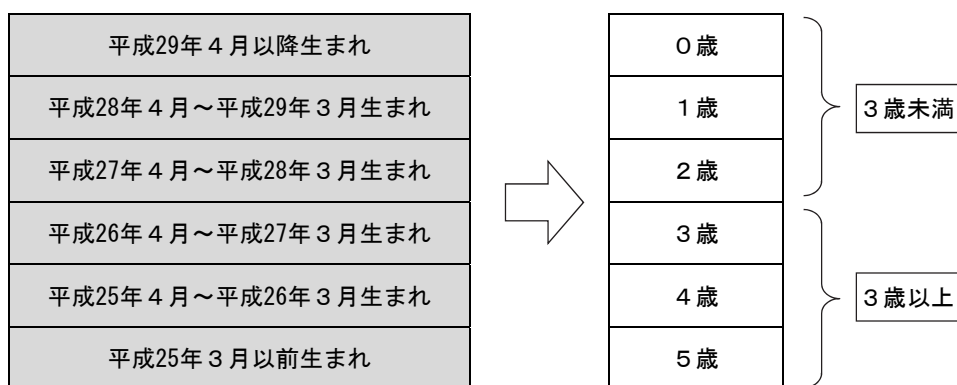
- ① 回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- ② 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100.0%にならない場合があります。

③ 各調査には、子どもの年齢・学年、保育状況、地区等について、下表の不詳数があります。

そのため、全体の回答数と属性別の回答数が一致しない場合があります。

区 分	地 区	子どもの年齢・学年	子どもの人数	保育状況
就学前児童	11	8	0	4
小 学 生	0	2	1	-

④ 就学前児童の年齢については次の区分で集計しました。



⑤ 調査項目によっては、過去に行った調査と比較分析を行いました。「平成21年」とあるのは、平成21年度に実施した「養老町次世代育成支援に関するニーズ調査」、「平成25年」とあるのは平成25年度に実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」、「平成30年」とあるのは今回の調査です。

第 1 部

就学前兒童保護者調查

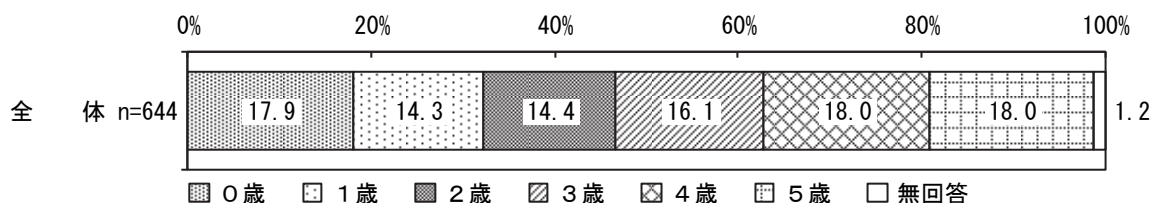
第1 子どもと家族の状況

1 子どもの年齢と子どもの人数

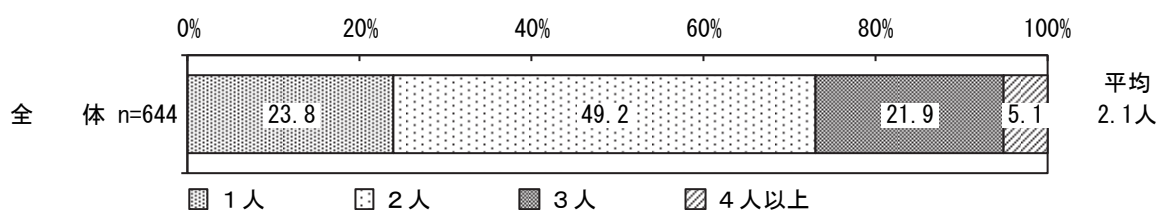
対象となった子どもの年齢は、図表1-1のとおりです。

子どもの人数は、「2人」が49.2%を占めており、平均は2.1人です（図表1-2）。

図表1-1 子どもの年齢



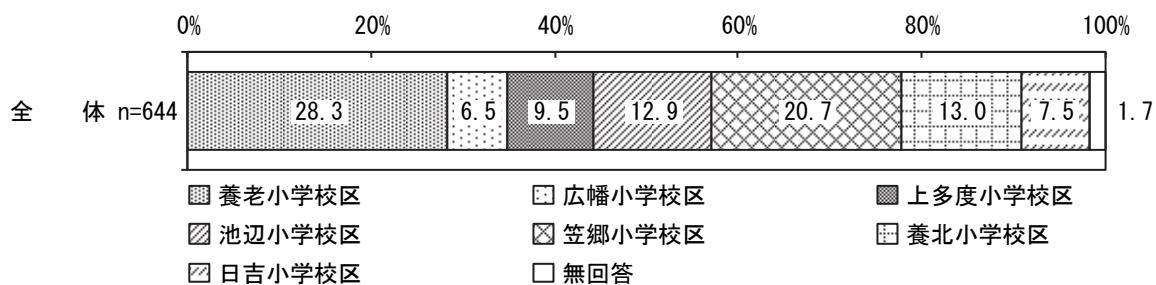
図表1-2 子どもの人数



2 小学校区

小学校区は、「養老小学校区」（28.3%）および「笠郷小学校区」（20.7%）が多く、「広幡小学校区」（6.5%）が少なくなっています。

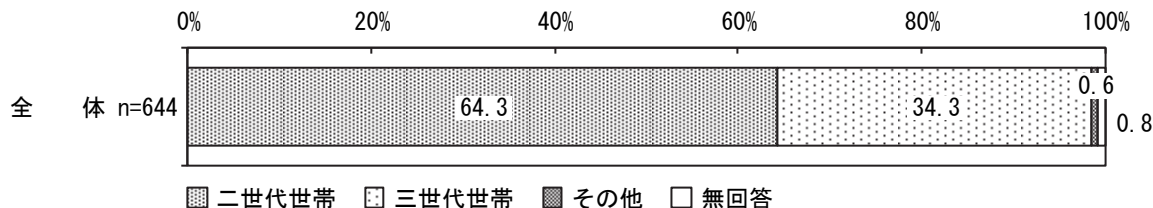
図表1-3 小学校区



3 世帯の状況

世帯の状況を見ると、「二世帯世帯」が64.3%を占めています。

図表1-4 世帯

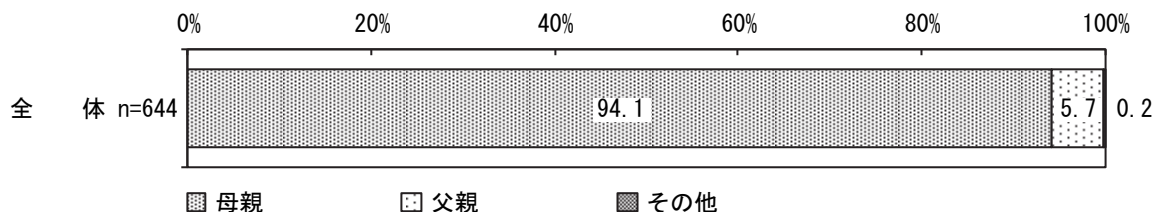


4 調査票の回答者

調査票の回答者は、「母親」が94.1%を占めています。

「その他」として「祖母」という記載がありました。

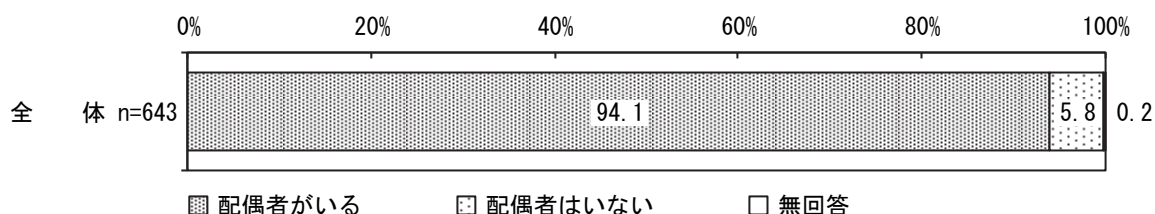
図表 1-5 回答者



5 配偶者の有無

調査票の回答者は、配偶者のいる人が94.1%、配偶者のいない人が5.8%です。

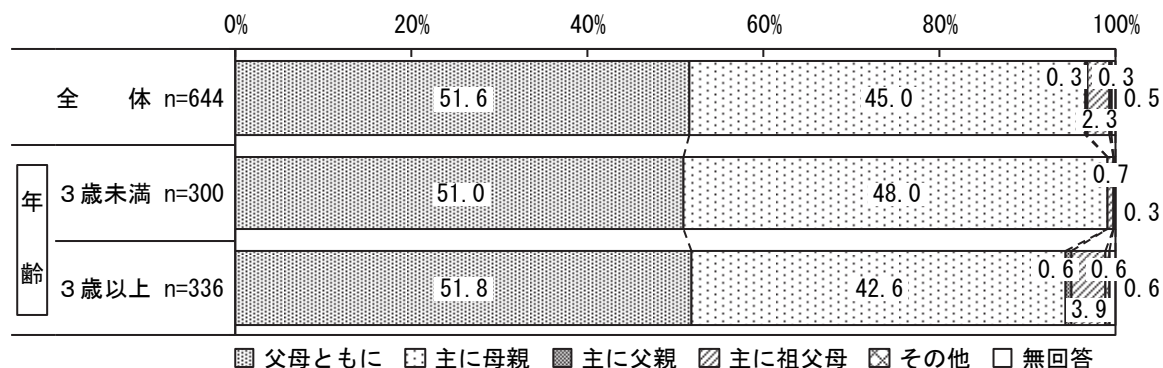
図表 1-6 配偶関係



6 子育てを主に行っている人

子育て（教育を含む）を主に行っているのは、「父母ともに」（51.6%）と「主に母親」（45.0%）で96.6%を占めています。3歳未満、3歳以上ともに「父母ともに」が「主に母親」を上回っています。

図表 1-7 子育てを主に行っている人



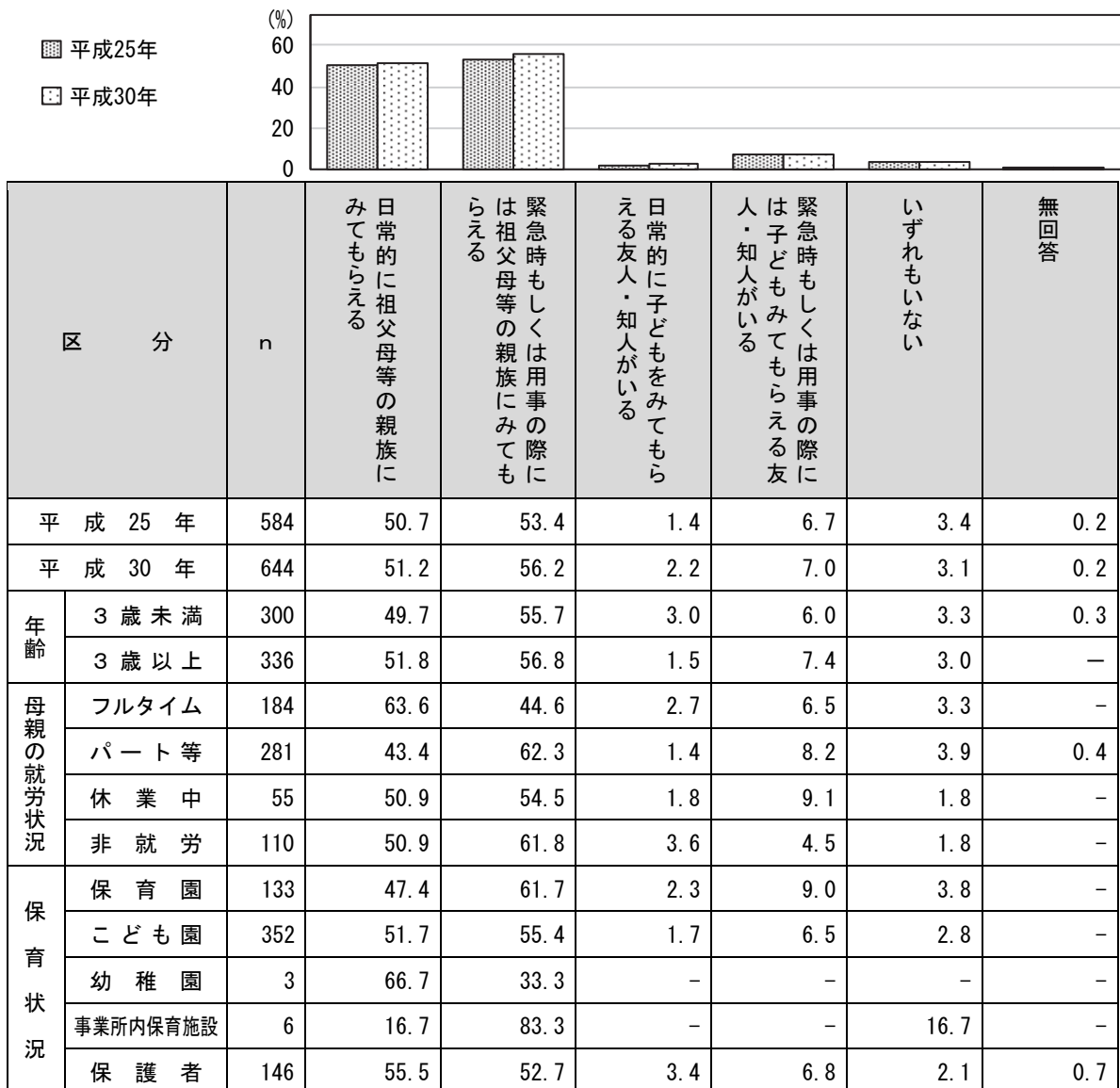
第2 子どもの育ちをめぐる環境

1 子どもをみてくれる人はいるか

日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人がいるかたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が56.2%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が51.2%となっています。「いずれもない」は3.1%（20人）です。平成25年と比べると、「いずれもない」以外は高くなっています。

図表1-8 子どもをみてくれる人はいるか（複数回答）

単位：nは人、他は%



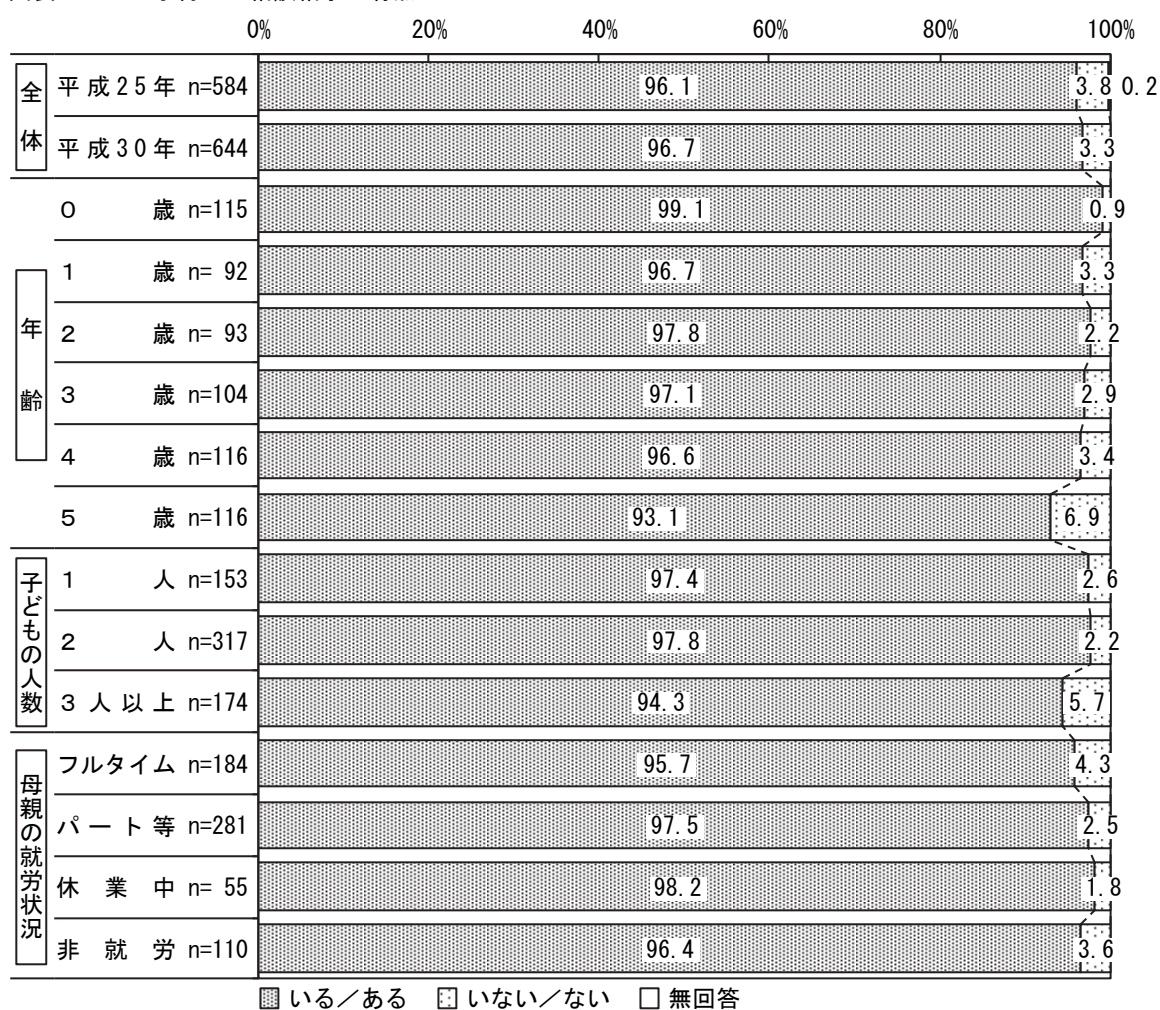
2 相談相手

(1) 子育ての相談相手はいるか

子育ての相談を気軽にできる相手がいるかたずねたところ、「いる／ある」が96.7%を占め、「いない／ない」が3.3%（21人）となっています。平成25年と比べて大きな変化はありません。

「いない／ない」が比較的高いのは、年齢別では5歳、子どもの人数別では3人以上、母親の就労状況別ではフルタイムです。

図表 1-9 子育ての相談相手の有無

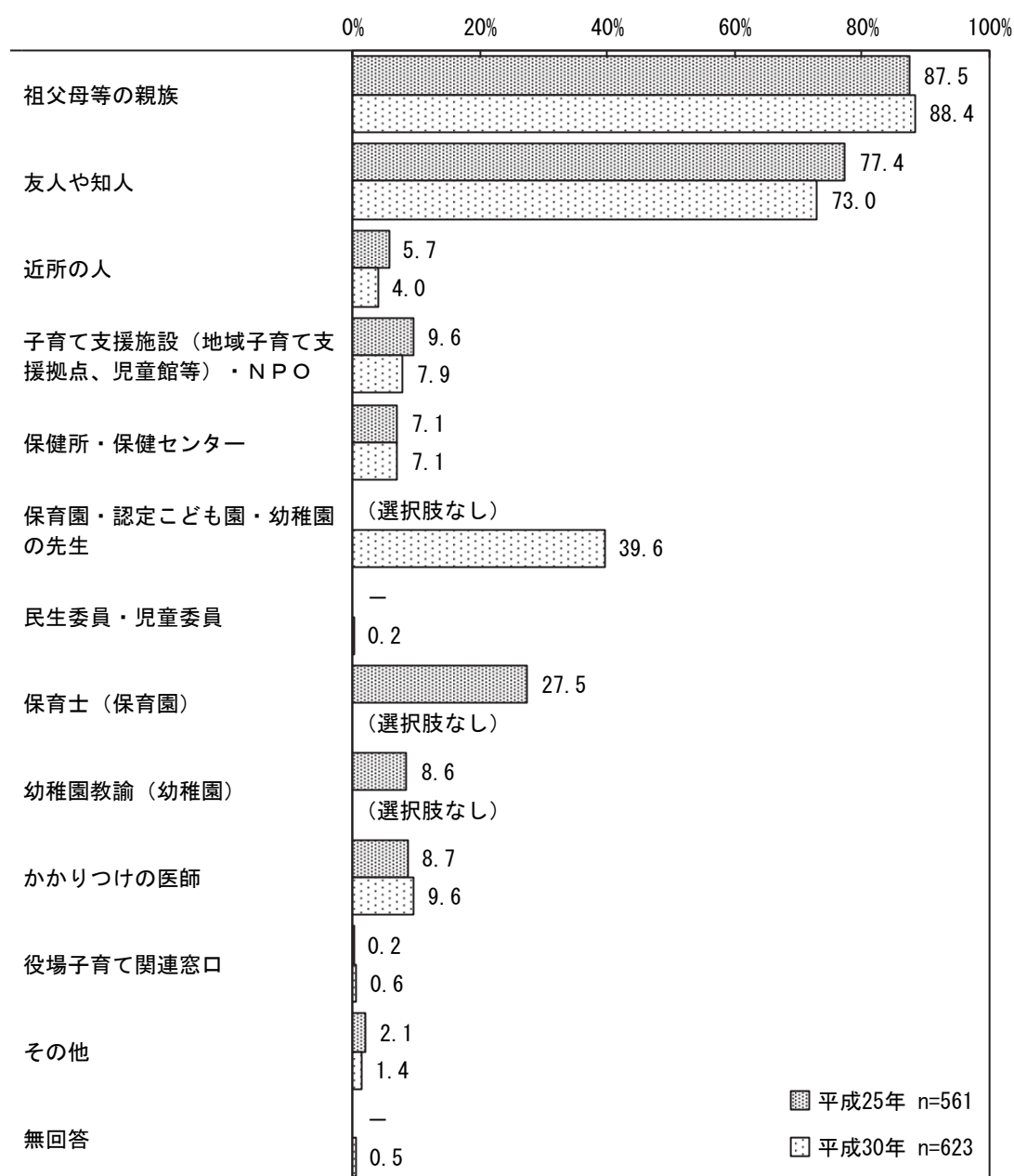


(2) 相談相手

前問で子育てに関する相談相手が「いる／ある」と答えた人の相談相手は、「祖父母等の親族」が88.4%と最も高く、次いで「友人や知人」が73.0%、「保育園・認定こども園・幼稚園の先生」が39.6%などとなっています。平成25年と比べると、「友人や知人」が4.4ポイント低下しています。

「その他」として、「職場」（4件）、「職場の同僚」（2件）、「訪問看護師」「小学校の先生」という記載がありました。

図表 1-10 子育てに関する相談相手（複数回答）



第3 保護者の就労状況等

1 母親の就労状況

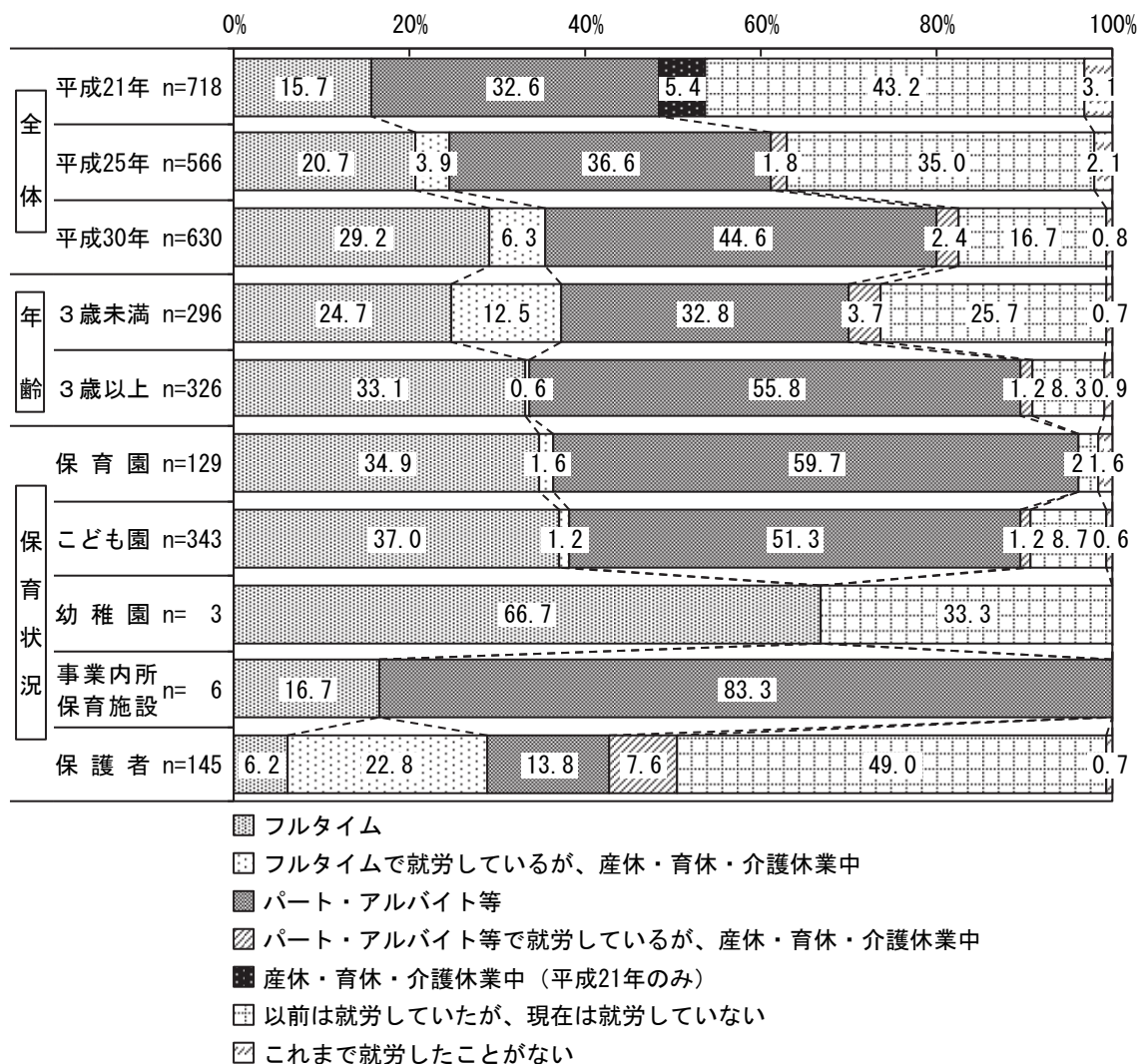
(1) 母親の就労状況・形態

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が44.6%と最も高く、次いで「フルタイム」が29.2%などとなっています。産休・育休・介護休業中は、フルタイムとパート・アルバイト等を合わせると8.7%になります。平成21年および平成25年と比べると、フルタイム、パート・アルバイト等および産休・育休・介護休業中は高くなっています。

子どもの年齢別にみると、3歳未満は「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中」「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中」「以前は就労していたが、現在は就労していない」が高くなっています。

保育状況別にみると、保育サービス等を利用していない保護者は「以前は就労していたが、現在は就労していない」が49.0%を占めています。

図表1-11 母親の就労状況・形態



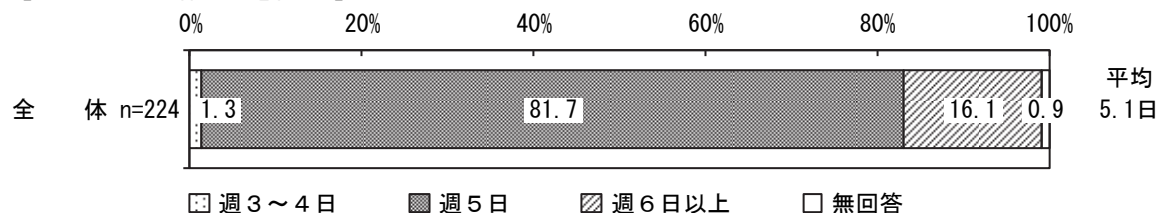
(2) 母親の就労日数と就労時間数

図表1-12および図表1-13は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、1週当たりの平均就労日数が5.1日、1日当たりの平均就労時間数が8.1時間です。

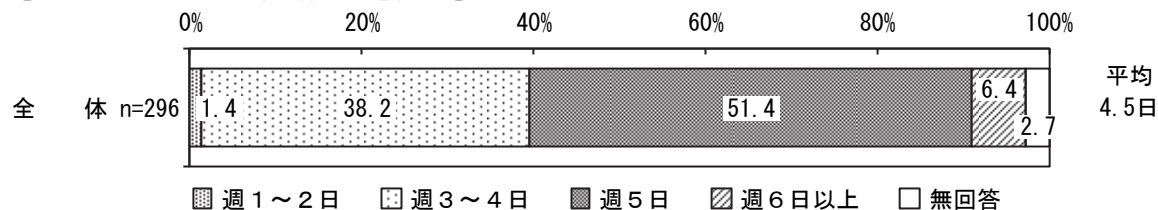
パート・アルバイト等は、1週当たりの平均就労日数が4.5日、1日当たりの平均就労時間数が5.4時間となっています。

図表1-12 母親の就労日数

【フルタイム（休業中を含む）】

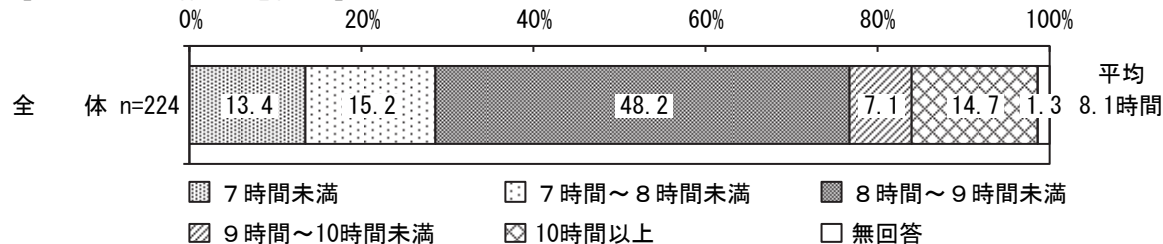


【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

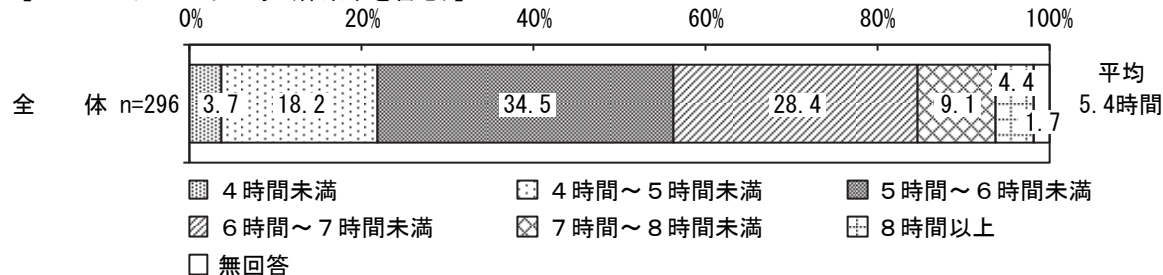


図表1-13 母親の就労時間数

【フルタイム（休業中を含む）】



【パート・アルバイト等（休業中を含む）】



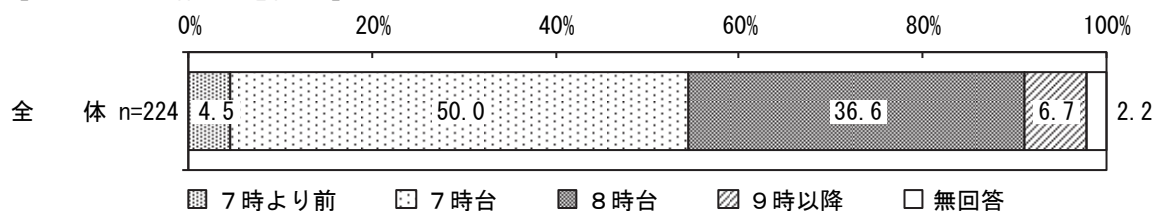
(3) 母親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表1-14、図表1-15は、図表1-11で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、家を出る時刻が「7時台」（50.0%）と「8時台」（36.6%）で大半を占めており、帰宅時刻は「18時台」（36.6%）が最も高く、18時以降に帰宅する割合が過半数を占めます。

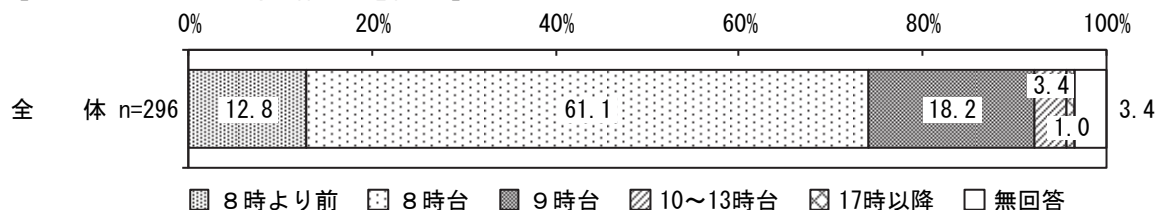
パート・アルバイト等が高いのは、家を出る時刻が「8時台」（61.1%）、帰宅時刻が「15時台」（34.8%）と「16時台」（20.9%）です。

図表1-14 母親の家を出る時刻

【フルタイム（休業中を含む）】

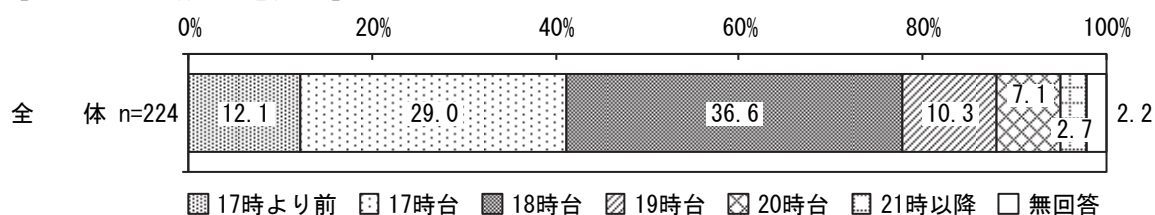


【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

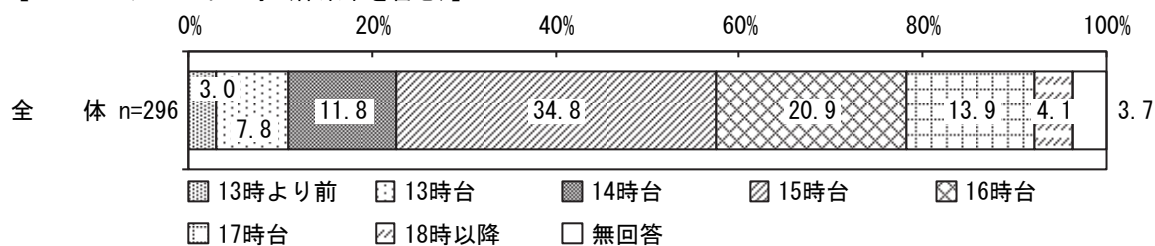


図表1-15 母親の帰宅時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

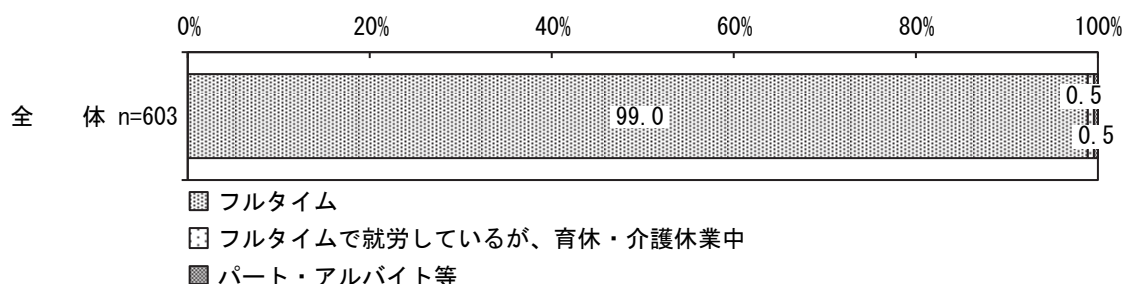


2 父親の就労状況

(1) 父親の就労状況・形態

父親は、「フルタイム」が99.0%を占め、「フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中」「パート・アルバイト等」がそれぞれ0.5%（3人）となっています。

図表 1-16 父親の就労状況・形態



(注)「パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中」「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまで就労したことがない」という選択肢には該当がなかった。

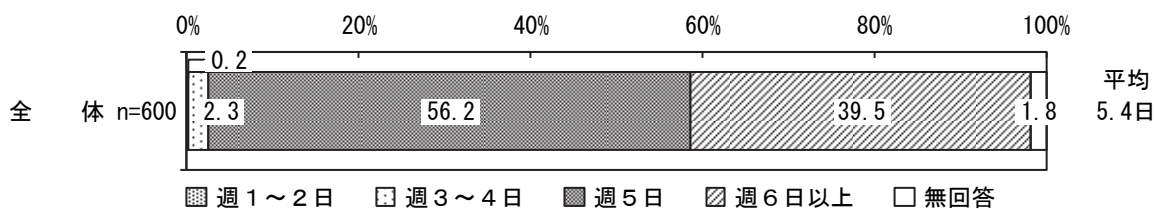
(2) 父親の就労日数と就労時間数

図表 1-17、図表 1-18は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数をたずねた結果です。フルタイムで働いている父親の1週当たりの平均就労日数は5.4日、1日当たりの平均就労時間数は9.9時間です。

パート・アルバイト等で働いている父親の就労日数は、「週1日」「週3日」「週5日」がそれぞれ1人、1週当たりの平均就労日数は3.0日です。就労時間数は、「4～5時間」「5～6時間」「12～13時間」がそれぞれ1人、1日当たりの平均就労時間数は7.2時間です。

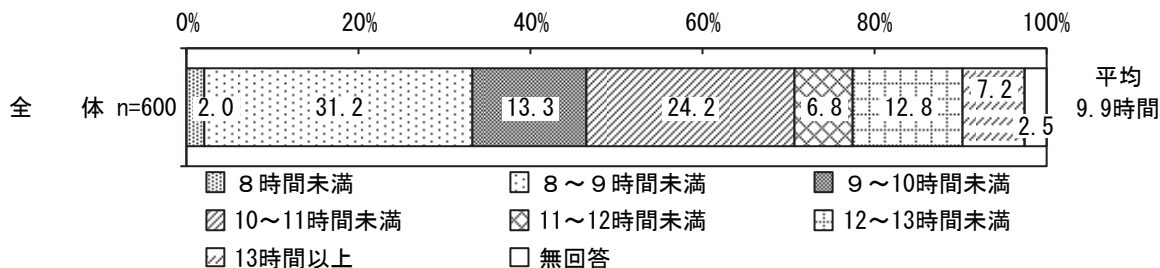
図表 1-17 父親の就労日数

【フルタイム（休業中を含む）】



図表 1-18 父親の就労時間数

【フルタイム（休業中を含む）】



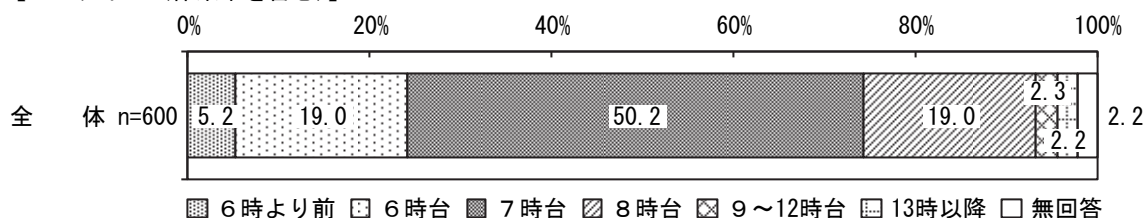
(3) 父親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表1-19、図表1-20は、図表1-16で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻をたずねた結果です。フルタイムで働いている父親の家を出る時刻は、「7時台」(50.2%)が最も高く、8時より前に家を出るのが74.4%となっています。帰宅時刻は「18時台」(20.5%)が最も高く、18時以降に帰宅するのが80.1%となっています。

パート・アルバイト等で働いている父親の家を出る時刻は、「6時台」が1人、「8時台」が2人となっています。帰宅時刻は「13時台」「14時台」「22時台」がそれぞれ1人となっています。

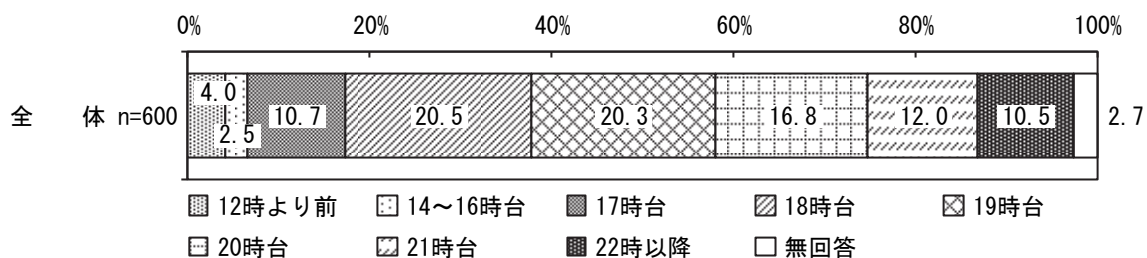
図表1-19 父親の家を出る時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



図表1-20 父親の帰宅時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



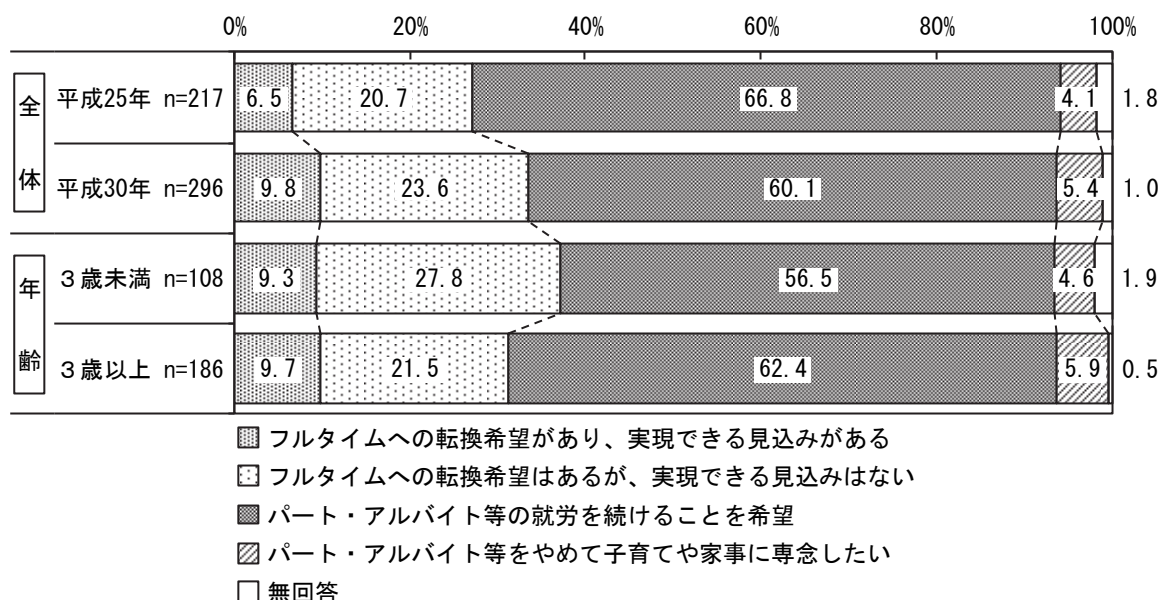
3 フルタイムへの転換希望

(1) 母親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と答えた母親のフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合計した＜転換希望がある＞は33.4%です。平成25年と比べると、＜転換希望がある＞は6.2ポイント高くなっています。

子どもの年齢別にみると、「希望がある」は3歳未満が高くなっていますが、「実現できる見込みがある」はどちらも9%台となっています。

図表 1-21 母親のフルタイムへの転換希望



(2) 父親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と答えた父親のフルタイムへの転換希望をたずねたところ、3人全員が「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答しています。

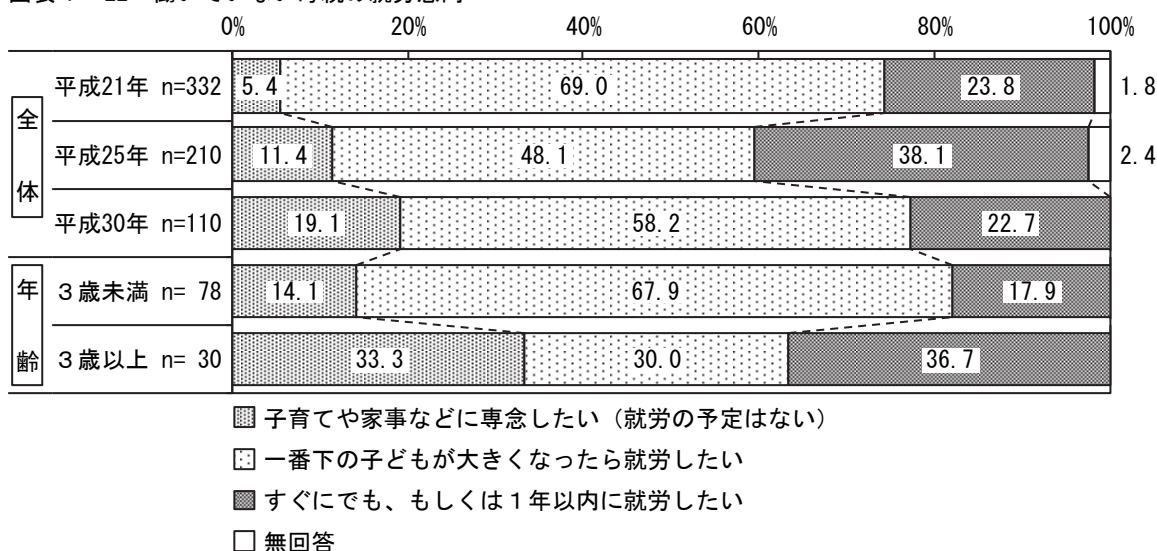
4 働いていない母親の就労意向

(1) 働いていない母親の就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が58.2%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が22.7%となっています。平成21年および平成25年と比べると、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が高くなり続けています。

子どもの年齢別にみると、3歳以上は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が36.7%と高くなっています。

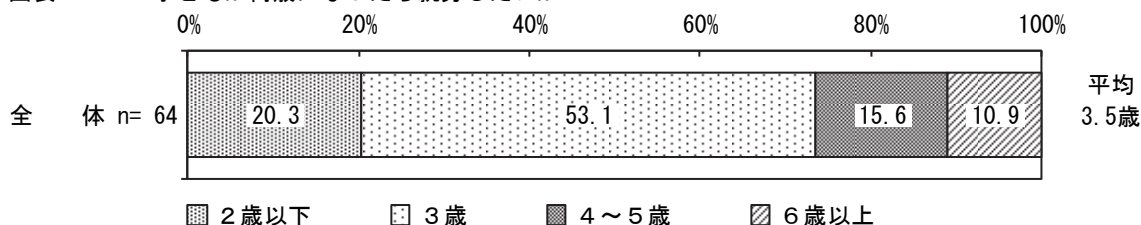
図表 1-22 働いていない母親の就労意向



(2) 子どもが何歳になったら就労したいか

図表 1-22で「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と答えた母親に、子どもが何歳になったら就労したいかたずねたところ、「3歳」が53.1%と最も高く、次いで「2歳以下」が20.3%となっています。

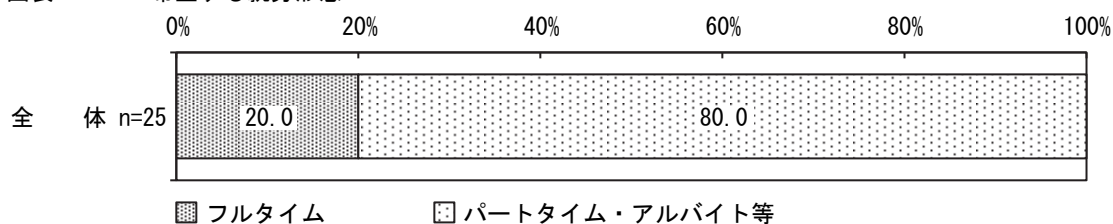
図表 1-23 子どもが何歳になったら就労したいか



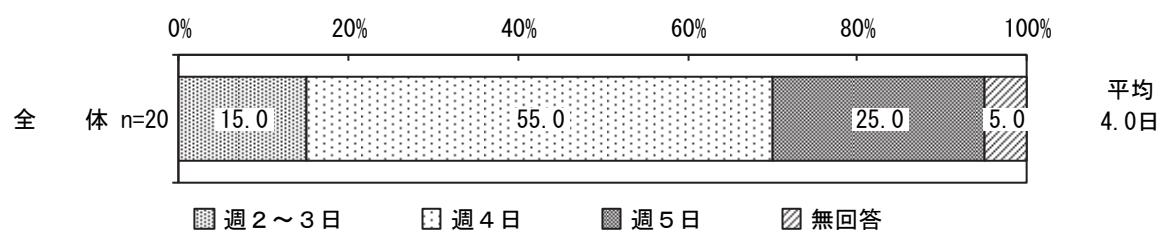
(3) 希望する就労形態・日数・時間

図表1-22で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた母親の希望する就労形態は、80.0%が「パート・アルバイト等」です（図表1-24）。また、パート・アルバイト等と答えた人の1週当たりの就労希望日数は、「週4日」が55.5%と最も高く、1週当たりの平均就労希望日数は4.0日です（図表1-25）。1日当たりの就労希望時間は、「5時間」が45.0%と最も高く、1日当たりの平均就労希望時間は5.0時間です（図表1-26）。

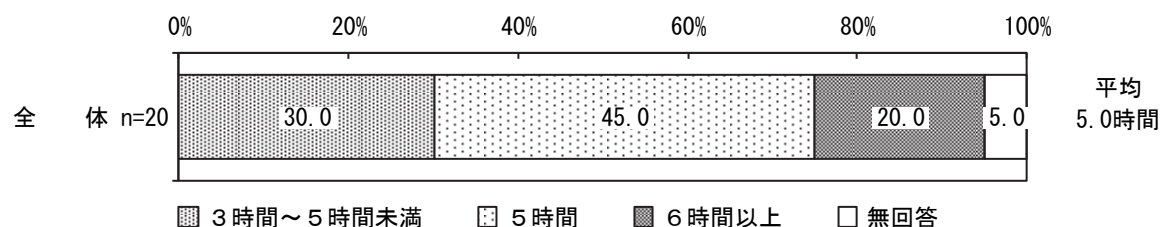
図表1-24 希望する就労形態



図表1-25 パート・アルバイト等の就労希望日数



図表1-26 パート・アルバイト等の就労希望時間



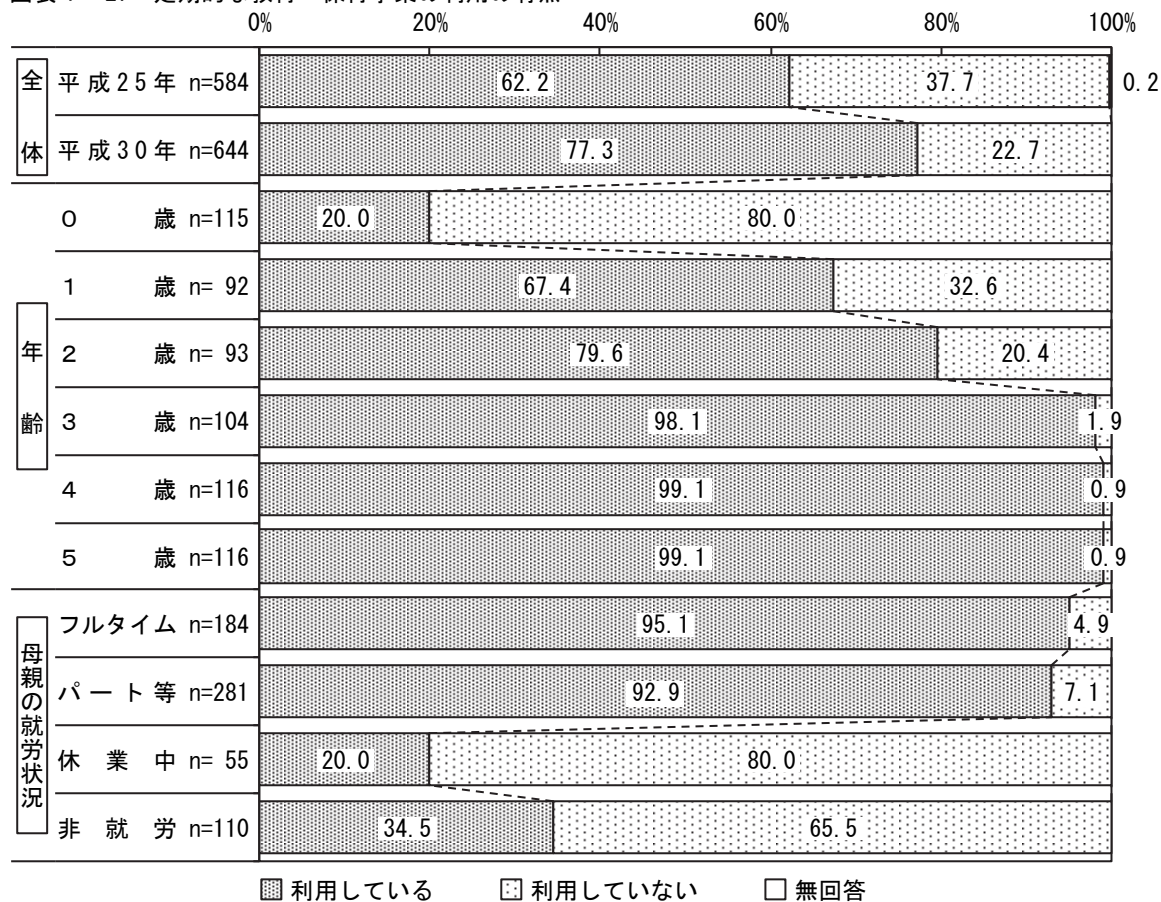
第4 平日の定期的な教育・保育事業

1 定期的な教育・保育事業の利用の有無

「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用しているサービスをいい、保育園、認定こども園、幼稚園などが該当します。定期的な教育・保育事業は、調査対象である子どもの77.3%が利用しており、平成25年と比べて15.1ポイント高くなっています。

子どもの年齢別では、3歳までは年齢が上がるにつれて「利用している」が高くなり、3歳以上ではほとんどの子どもが利用しています。母親の就労状況別に利用率をみると、フルタイムおよびパート・アルバイト等が90%台となっています。

図表1-27 定期的な教育・保育事業の利用の有無

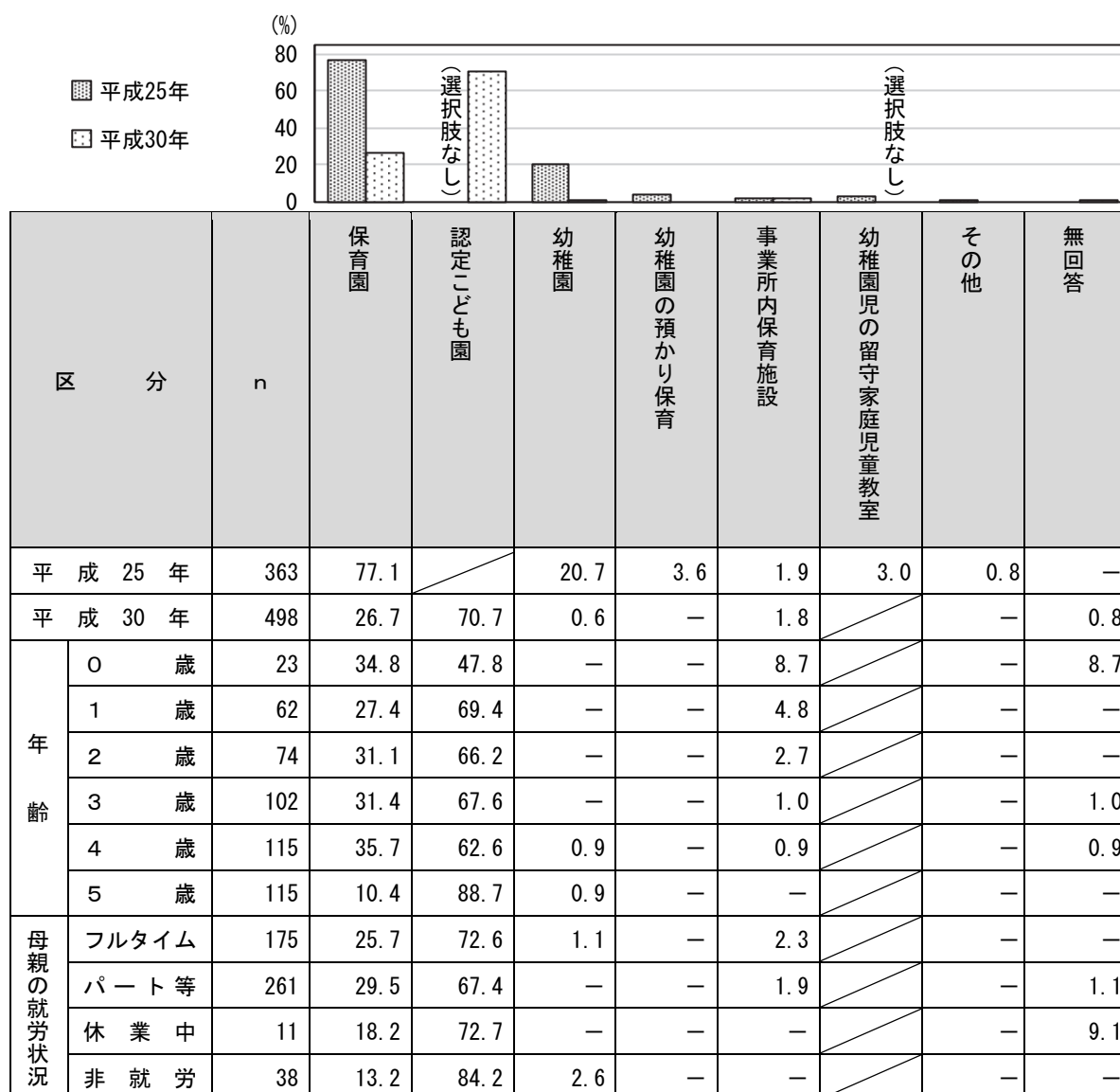


2 利用している定期的な教育・保育事業の種類

利用している定期的な教育・保育事業の種類は、「認定こども園」が70.7%と最も高く、次いで「保育園」が26.7%となっています。平成25年の調査時には認定こども園がなく、多くの子どもが保育園と回答していました。

子どもの年齢別にみると、「認定こども園」は1歳から60%台となり、5歳では88.7%となっています。

図表1-28 利用している定期的な教育・保育事業の種類（複数回答）



(注) 平成25年の調査には「小規模な保育施設」という選択肢はなく、平成30年では該当がなかった。「家庭的保育」「その他の認可外の保育施設」「居宅訪問型保育」「ファミリー・サポート・センター」という選択肢には該当がなかった。

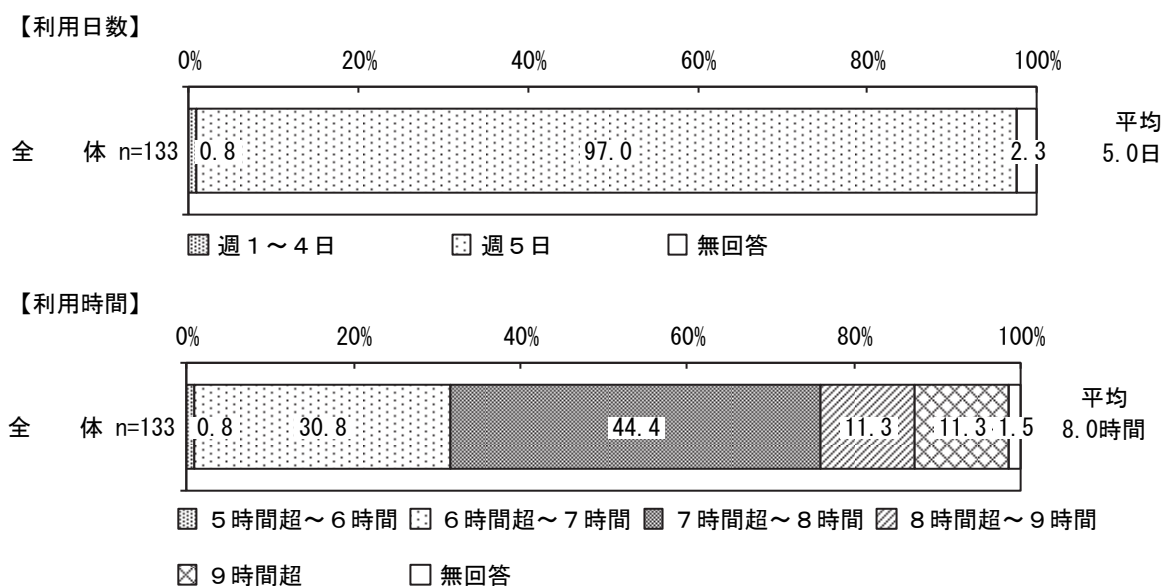
3 定期的な教育・保育事業の利用状況

(1) 保育園

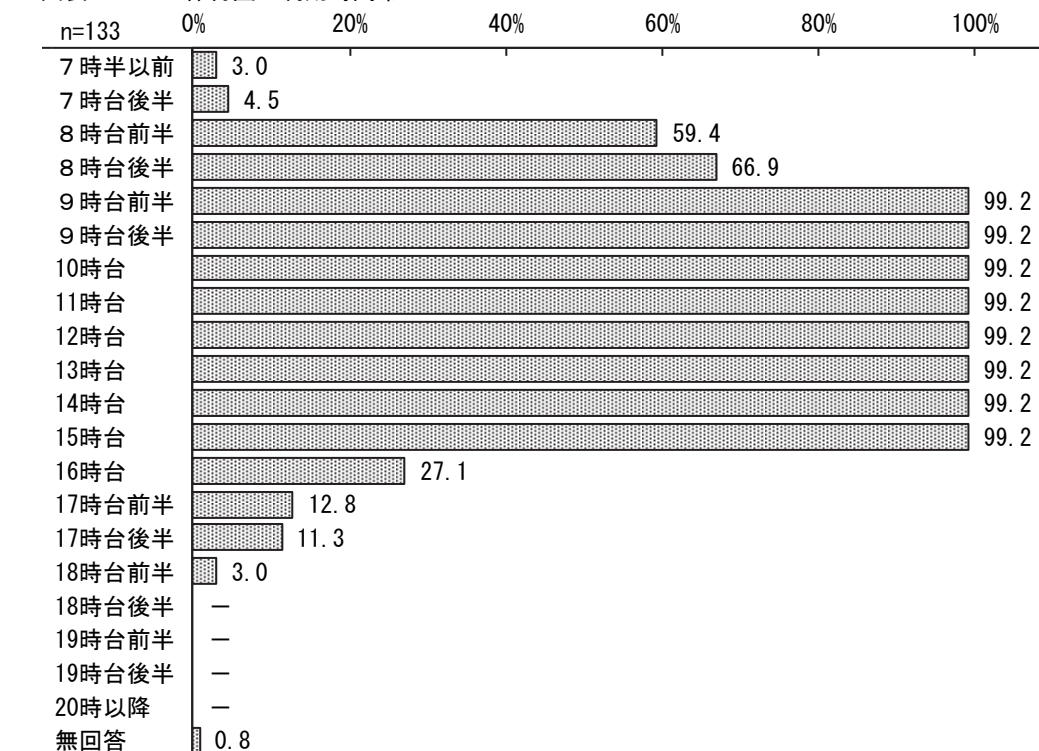
保育園を利用している子どもの1週間の利用日数は、「週5日」が97.0%を占めています。

1日の利用時間は「7時間超～8時間」が44.4%と最も高く、1日当たり平均利用時間は8.0時間となっています（図表1-29）。また、利用時間帯は、9時台前半から15時台が高くなっています（図表1-30）。

図表1-29 保育園の利用日数・利用時間



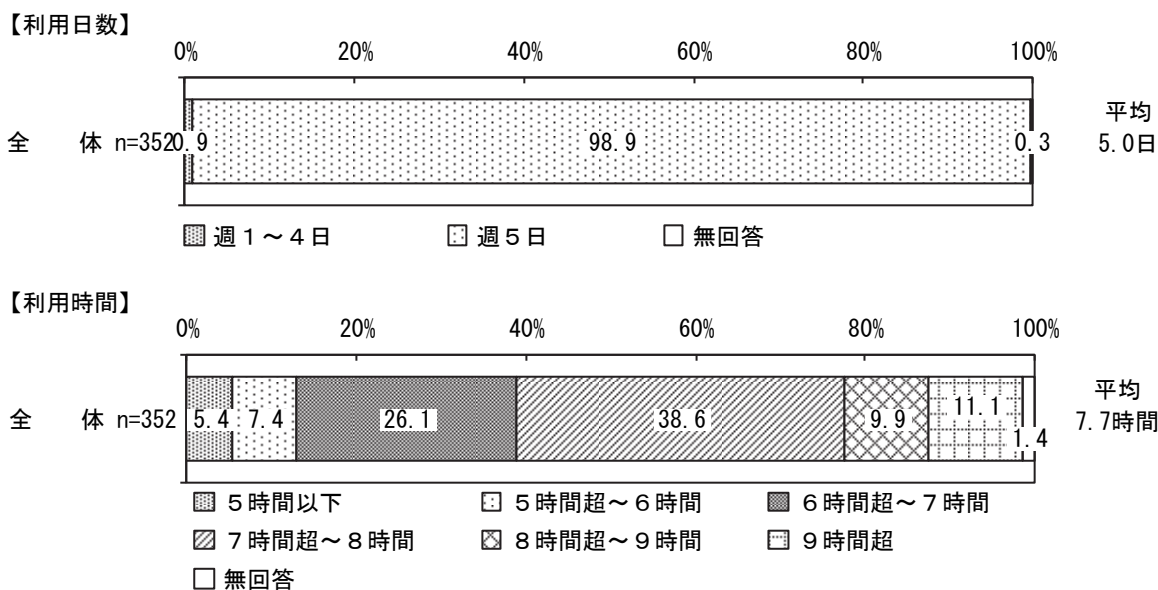
図表1-30 保育園の利用時間帯



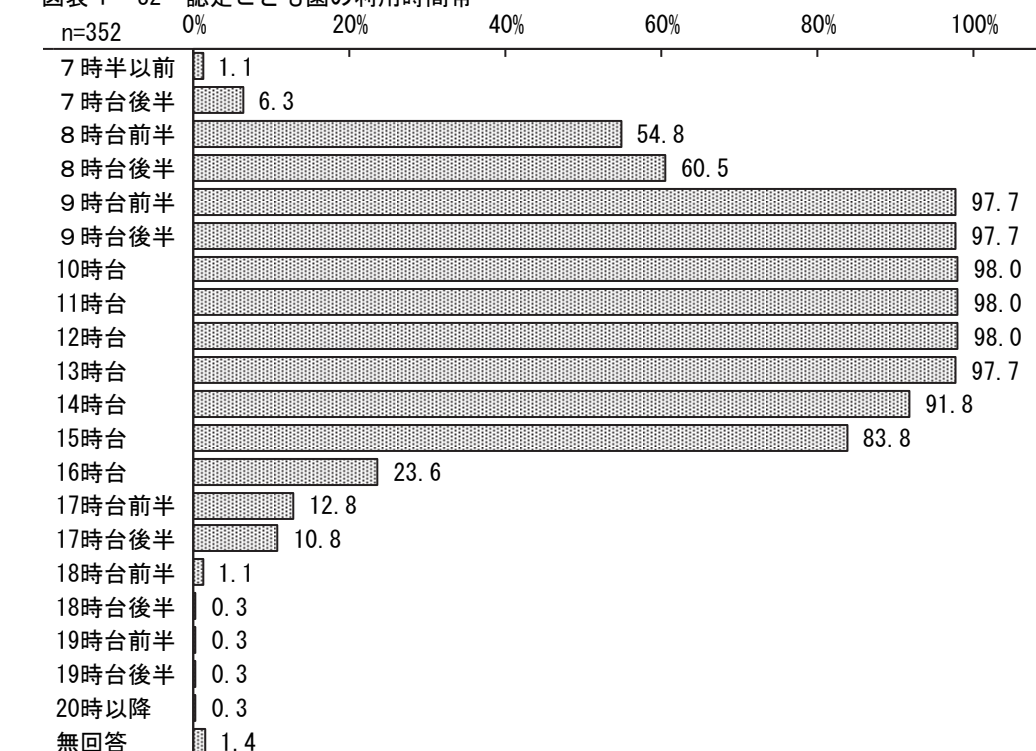
(2) 認定こども園

認定こども園を利用している子どもの1週間の利用日数は、「週5日」が98.9%を占めています。1日の利用時間は「7時間超～8時間」が38.6%と最も高く、1日当たり平均利用時間は7.7時間となっています（図表1-31）。また、利用時間帯は、9時台前半から13時台が高く、14時台、15時台と徐々に低下しています（図表1-32）。

図表1-31 認定こども園の利用日数・利用時間



図表1-32 認定こども園の利用時間帯

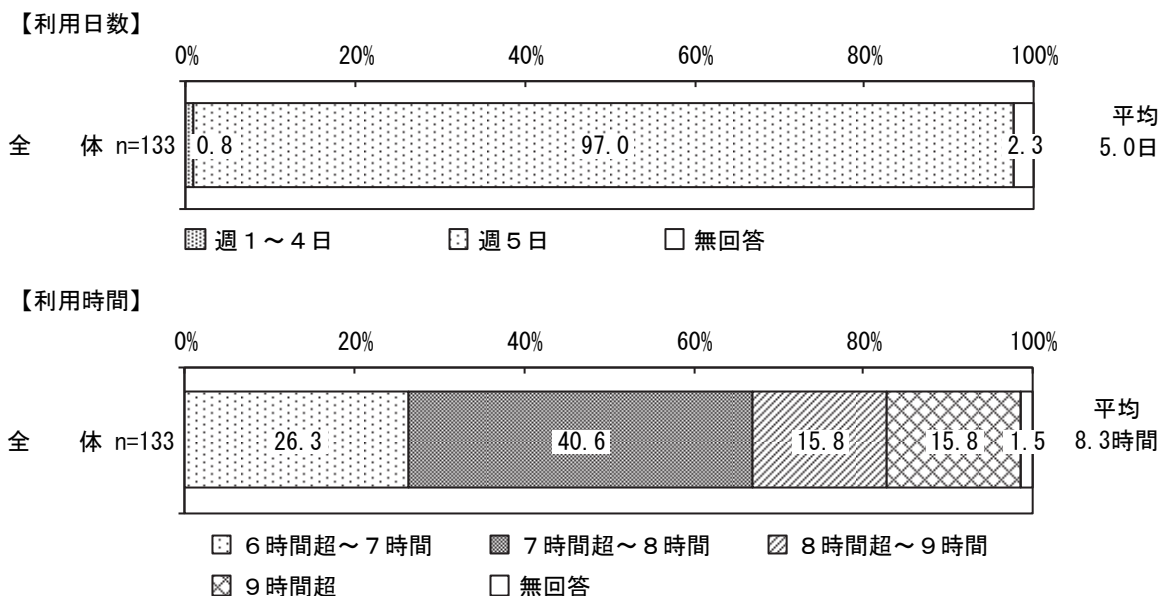


4 定期的な教育・保育事業の利用希望日数・時間

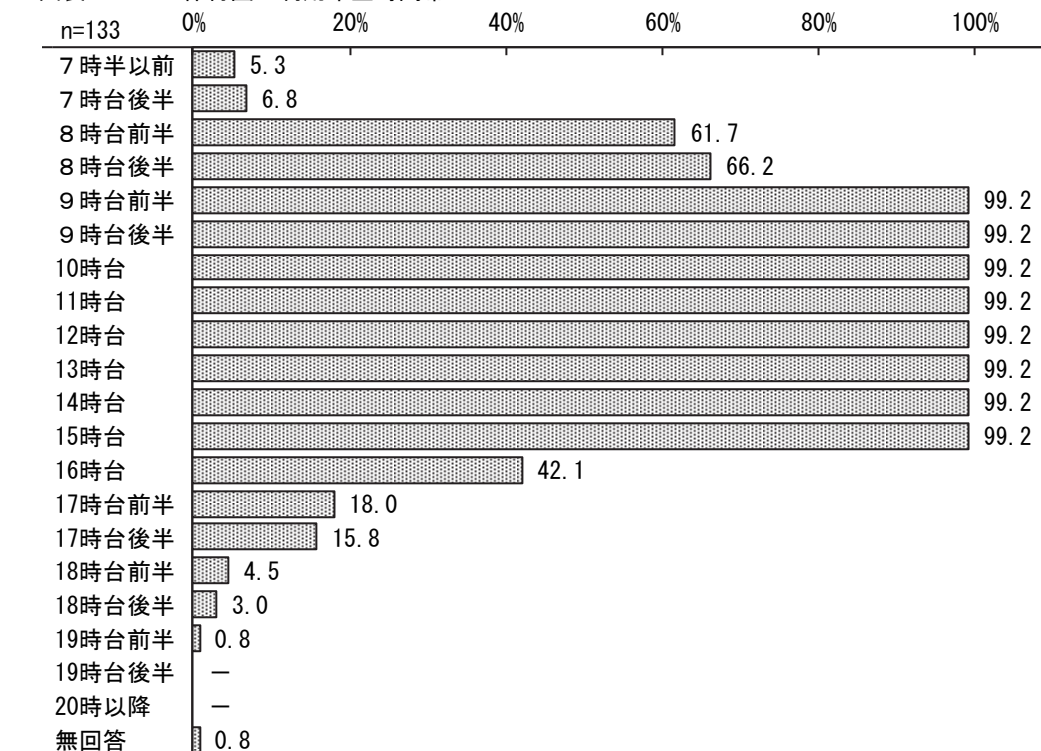
(1) 保育園

保育園の1週間の利用希望日数は、「週5日」が97.0%を占めています。現在の利用日数と同様です。1日の利用希望時間は「7時間超～8時間」が最も高く、1日当たり平均利用時間は8.3時間と、現在の平均利用時間より高くなっています（図表1-33）。また、利用希望時間帯は、9時台前半から15時台が高くなっています（図表1-34）。

図表1-33 保育園の利用希望日数・利用希望時間



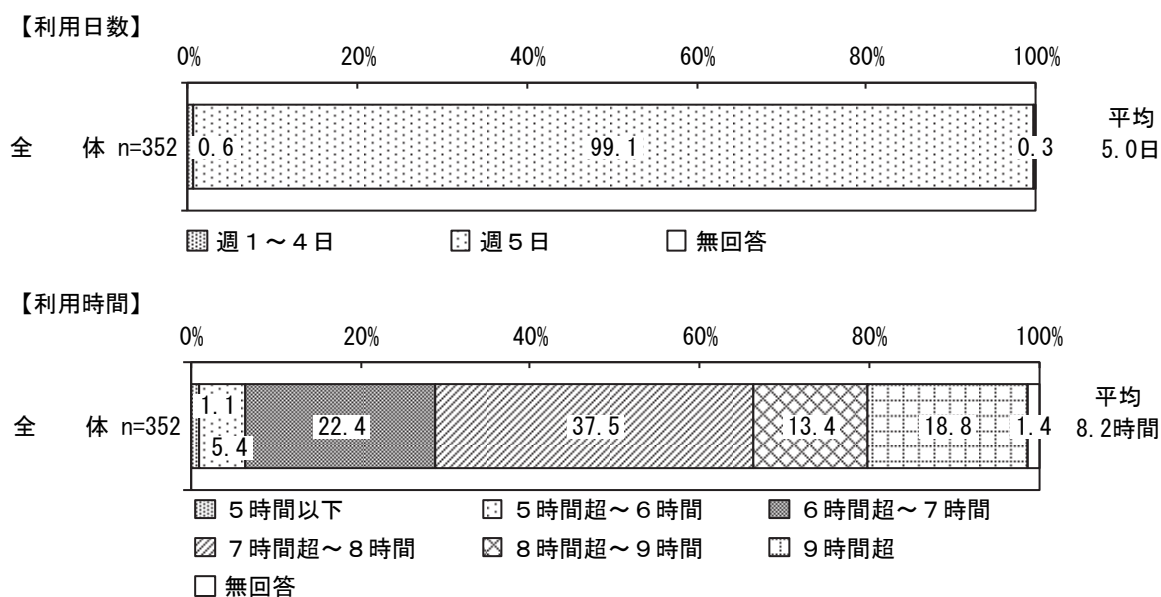
図表1-34 保育園の利用希望時間帯



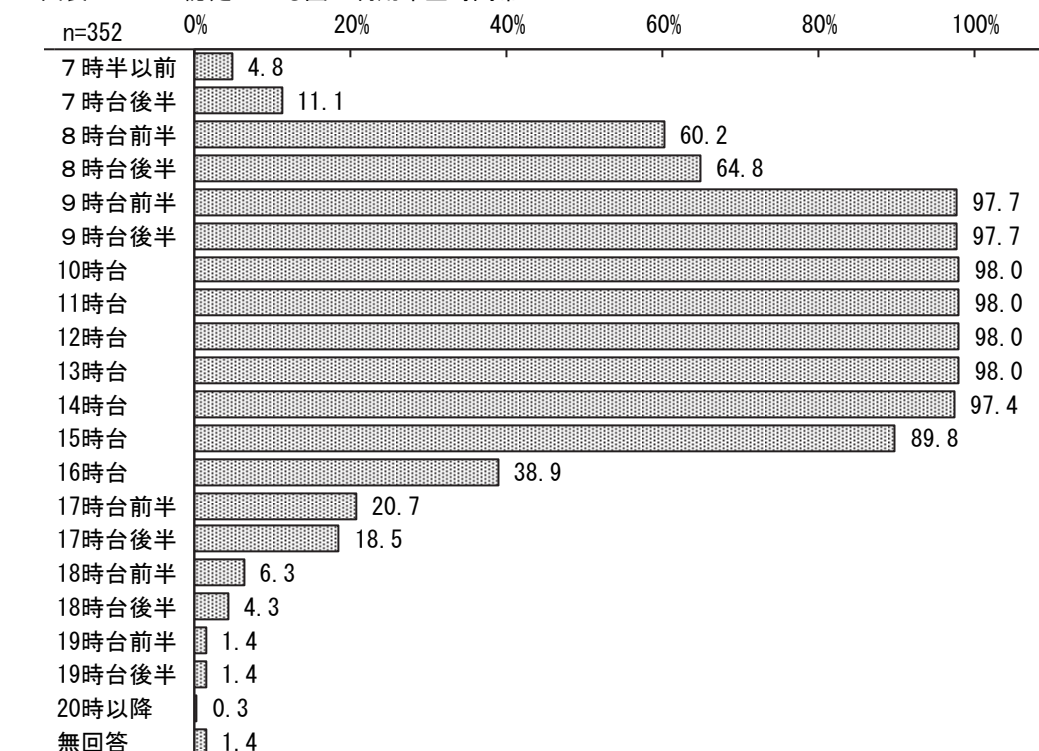
(2) 認定こども園

認定こども園の1週間の利用希望日数は、「週5日」が99.1%を占め、現在の利用日数からわずかに高くなっています。1日の利用希望時間は、現在の利用時間と比べて「9時間超」が7.7ポイント高くなり、1日当たり平均利用時間は8.2時間と、現在の平均利用時間より0.5時間長くなっています（図表1-35）。また、利用希望時間帯は、9時台前半から14時台が高く、16時台は利用時間より15.3ポイント高くなっています（図表1-36）。

図表1-35 認定こども園の利用希望日数・利用希望時間



図表1-36 認定こども園の利用希望時間帯



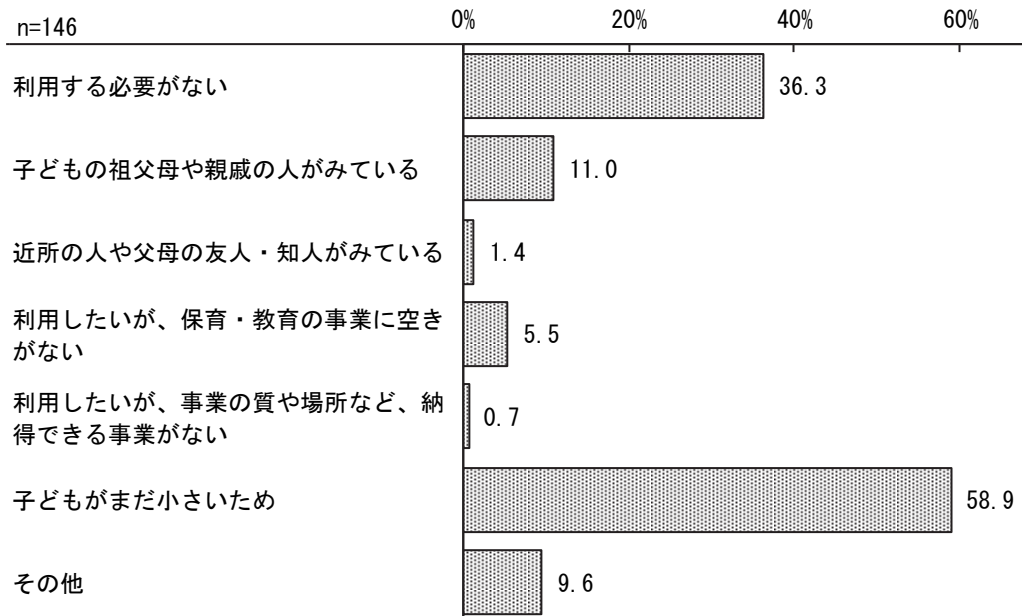
5 定期的な教育・保育事業を利用していない理由

定期的な教育・保育事業を利用していない人の利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため」が58.9%と最も高く、次いで「利用する必要がない」が36.3%などとなっています（図表1-37）。

「その他」として、図表1-38の内容が記載されていました。

「子どもがまだ小さいため」と答えた人に何歳くらいになったら利用しようと考えているかたずねたところ、「3歳」が59.3%を占め、利用しようと考えている平均年齢は2.6歳です（図表1-39）。

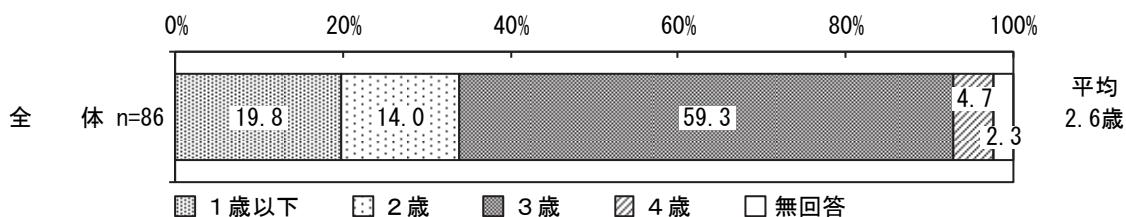
図表1-37 定期的な教育・保育事業を利用していない人の利用していない理由（複数回答）



図表1-38 定期的な教育・保育事業を利用していない人の利用していない理由（その他）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月から入園予定（4件） ・ 年少から入園しようと思っている ・ 1年育休のため、4月、1歳になり入園予定 ・ 本年度より、利用する予定（申込み済） ・ 来年からこども園に行けるように、手続きしました 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合否待ち ・ 2人目出産の都合（タイミング）、申込み中 ・ 利用したいが、母親が就労していないため、利用できない ・ 利用したいが、母親が育休中のため入れない ・ 障がいと心臓病のため、良いところがない
--	---

図表1-39 定期的な教育・保育事業を子どもが何歳くらいになったら利用したいか（「子どもがまだ小さいため」と答えた人）



6 利用したい定期的な教育・保育事業

(1) 利用したい定期的な教育・保育事業

現在、利用している、利用していないにかかわらず、平日の教育・保育事業として、定期的に利用したい事業は、「認定こども園」が77.8%と最も高く、次いで「保育園」が36.0%、「幼稚園」が18.8%などとなっています。

子どもの年齢別にみると、0歳は他の年齢に比べて「認定こども園」「事業所内保育施設」以外の選択肢が高くなっています。母親の就労状況別にみると、非就労は「幼稚園」が38.2%と比較的高くなっています。

「その他」として、「病児保育」（4件）、「夜預かってもらえるところ」「専門的（ST、PT、OT）な先生が常駐している障がい児支援施設」「障がいのある人や心臓病の人が安心して通えるところ」という記載がありました。

図表1-40 利用したい定期的な教育・保育事業（複数回答）

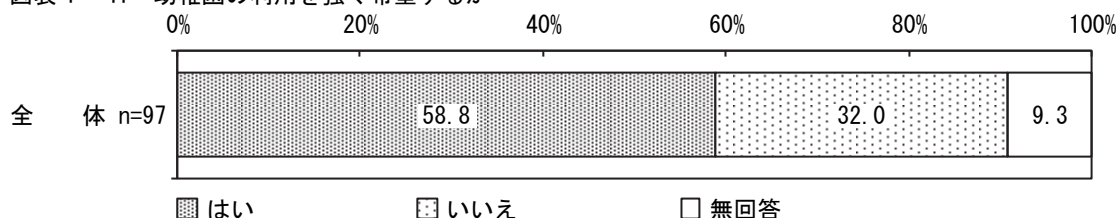
単位：nは人、他は%

区分	n	保育園	認定こども園	幼稚園	幼稚園の預かり保育	小規模な保育施設	家庭的保育	事業所内保育施設	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答	
全体	644	36.0	77.8	18.8	8.2	1.9	1.4	5.7	0.3	2.5	4.2	1.9	0.8	
年齢	0歳	115	50.4	79.1	32.2	16.5	6.1	5.2	9.6	0.9	3.5	5.2	3.5	1.7
	1歳	92	42.4	80.4	14.1	2.2	—	—	3.3	—	3.3	4.3	3.3	2.2
	2歳	93	31.2	86.0	17.2	7.5	1.1	—	9.7	—	—	3.2	1.1	—
	3歳	104	27.9	72.1	16.3	5.8	1.0	—	4.8	—	2.9	4.8	1.0	1.0
	4歳	116	41.4	70.7	12.1	4.3	2.6	2.6	2.6	0.9	2.6	3.4	1.7	—
母親の就労状況	フルタイム	184	32.6	78.3	14.7	9.2	1.1	0.5	6.0	—	2.7	3.8	1.6	0.5
	パート等	281	32.0	77.6	12.8	5.0	1.8	1.4	4.6	0.4	3.6	3.9	2.1	0.4
	休業中	55	49.1	80.0	27.3	16.4	3.6	3.6	12.7	1.8	—	7.3	1.8	—
	非就労	110	46.4	76.4	38.2	11.8	2.7	1.8	5.5	—	—	3.6	1.8	2.7

(2) 幼稚園の利用を強く希望するか

幼稚園利用について、正確にニーズを把握することを目的として、図表1-40で「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」の利用を希望し、かつそのほかのサービスも希望した人に、特に幼稚園の利用を強く希望するかたずねたところ、58.8%が「はい」と回答しています。

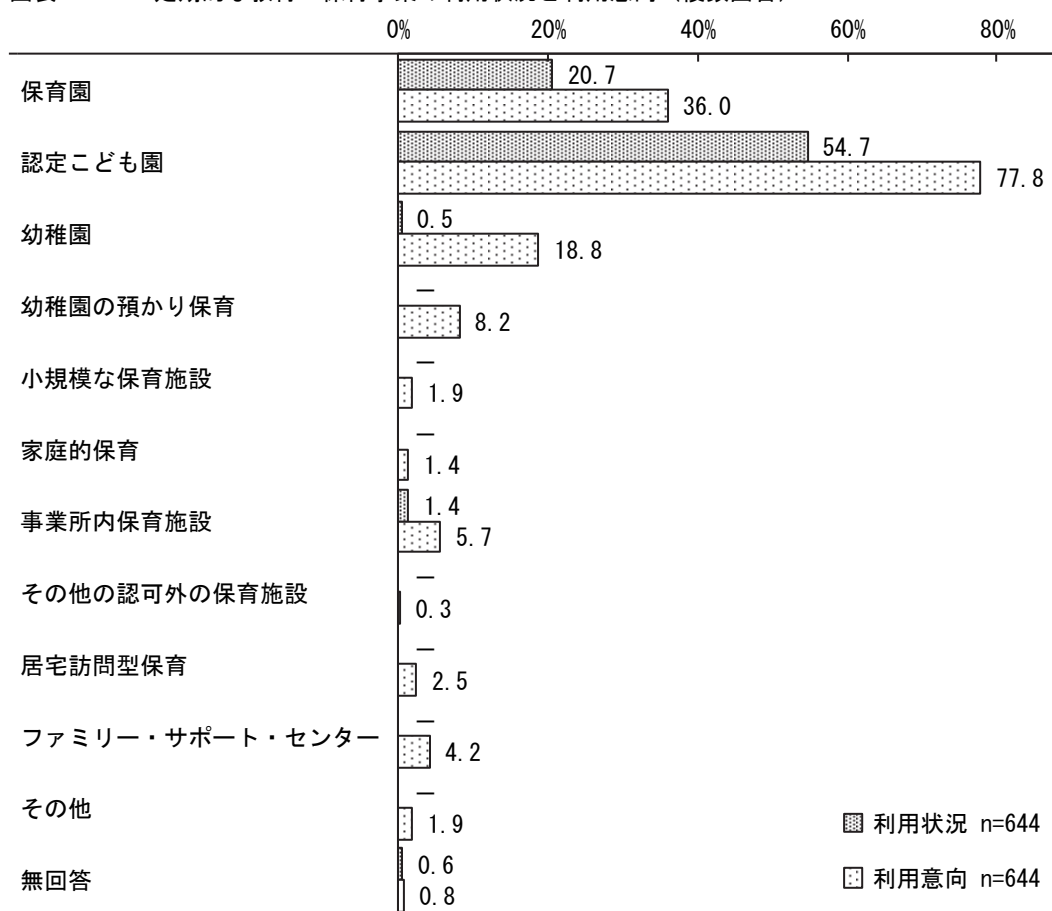
図表1-41 幼稚園の利用を強く希望するか



(3) 定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向

平日の定期的な教育・保育事業は、すべての事業において利用状況より利用意向が上回っています。特に「保育園」「認定こども園」「幼稚園」は15ポイント以上高くなっています。

図表1-42 定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向（複数回答）



(注) 20頁の図表1-28は、定期的な教育・保育事業を利用している人を分母としているが、本表においては利用していない人を含めた全数を分母として計算した。

7 教育・保育事業を利用したい場所

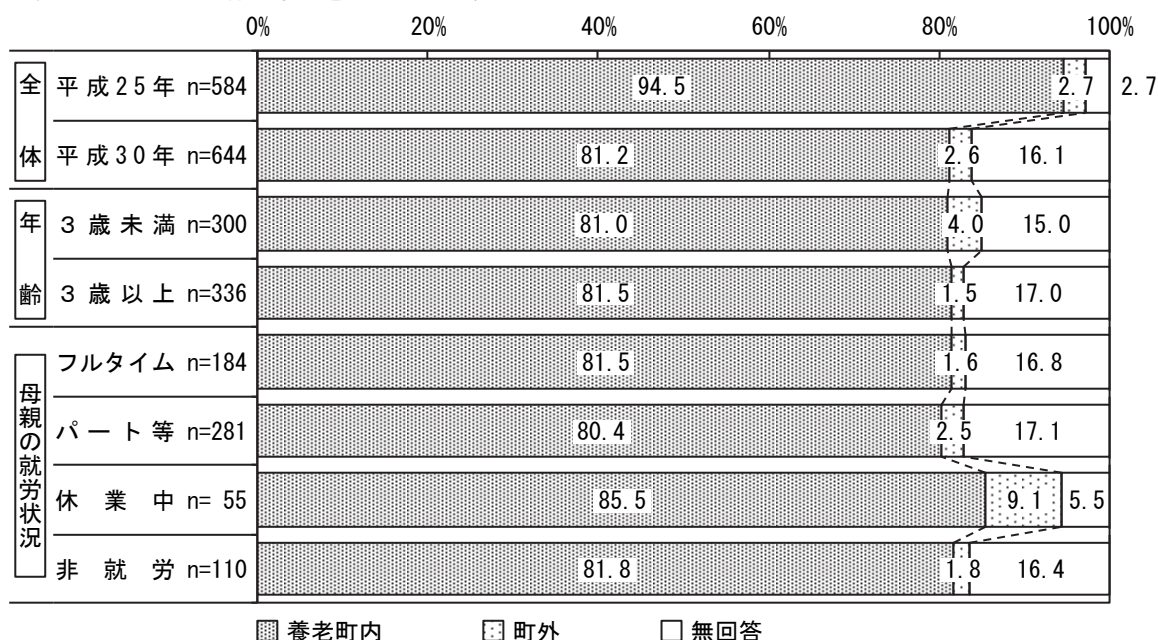
教育・保育事業を利用したい場所としては、「養老町内」が81.2%を占めています。平成25年と比べると、「養老町内」は大きく低下していますが、無回答が多くなっていることが影響していると考えられます。

「町外」が比較的高いのは、母親の就労状況別の休業中です。

町外の利用したい場所としては、「大垣市」（4件）、「海津市」「池田町」「揖斐川町」「神戸町」という記入がありました。

町外を利用している理由としては、図表1-44の内容が記載されていました。

図表1-43 教育・保育事業を利用したい場所



図表1-44 町外を利用している理由

<ul style="list-style-type: none"> ・職場に近い（2件） ・施設の充実（2件） ・教育の内容がいい（2件） ・保育内容がよく考えられている ・仕事（会社）が、大垣方面のため、あわせて送りたい ・上の子の幼稚園が大垣のため ・養老町には希望する施設がないため 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容があることに特化していて、自分たちの教育方針と合うため ・私立に通園させたい ・社会活動の他、学研、体育指導、音楽指導があるため ・子どもが多い ・利用料が安い
--	---

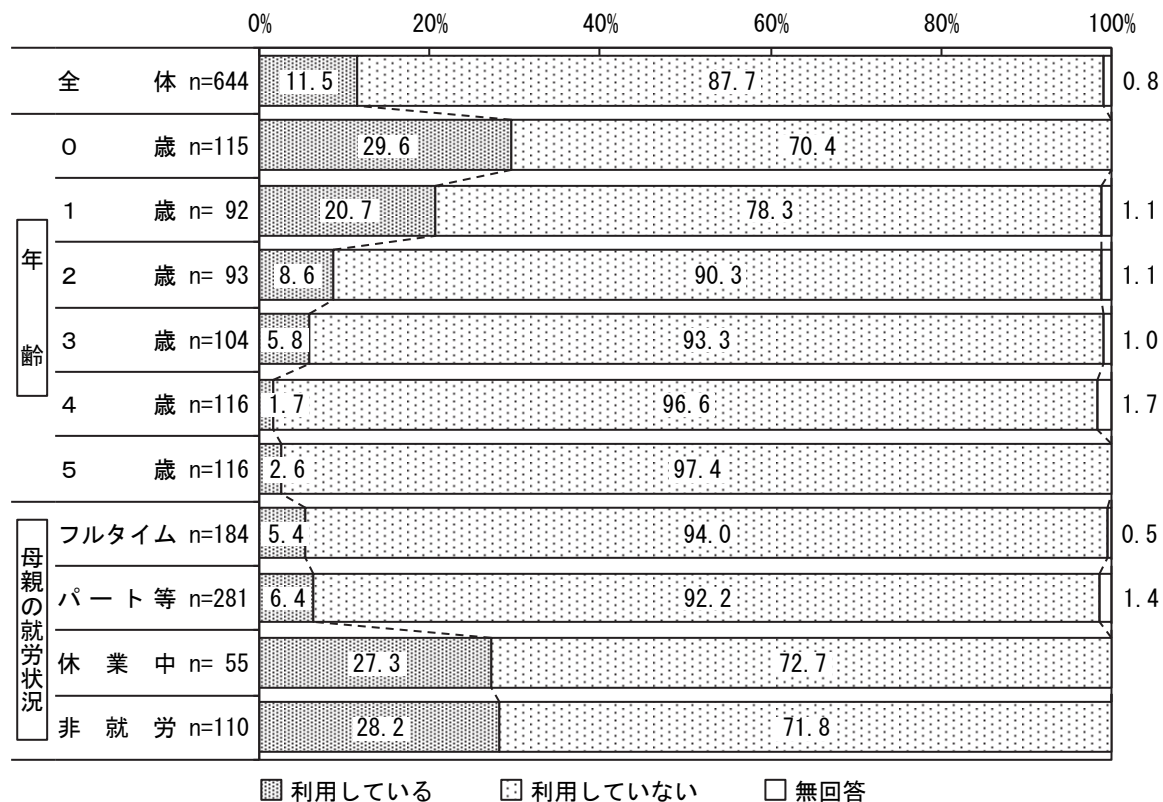
第5 地域子育て支援事業

1 地域子育て支援拠点事業の利用の有無

地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援センター」などが含まれます）を利用しているかたずねたところ、「利用している」は11.5%となっています。

子どもの年齢別にみると、「利用している」は0歳が29.6%と高く、年齢が上がるほど低下する傾向にあります。母親の就労状況別にみると、「利用している」は休業中および非就労の母親が高くなっています。

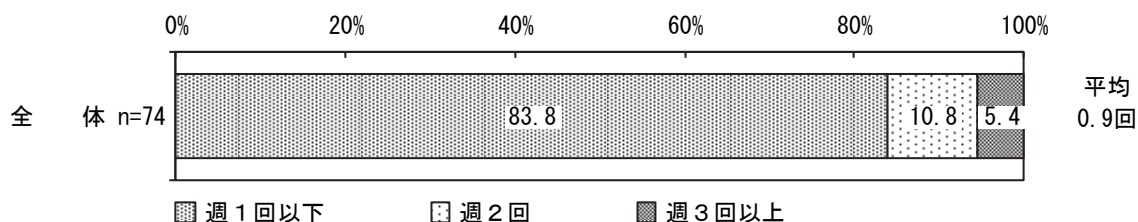
図表1-45 地域子育て支援拠点事業の利用の有無



2 地域子育て支援拠点事業の利用回数

図表1-45で「利用している」と回答した人に利用回数をたずねたところ、「週1回以下」が83.8%を占め、1週当たりの平均利用回数は0.9回となっています。

図表1-46 地域子育て支援拠点事業の利用回数

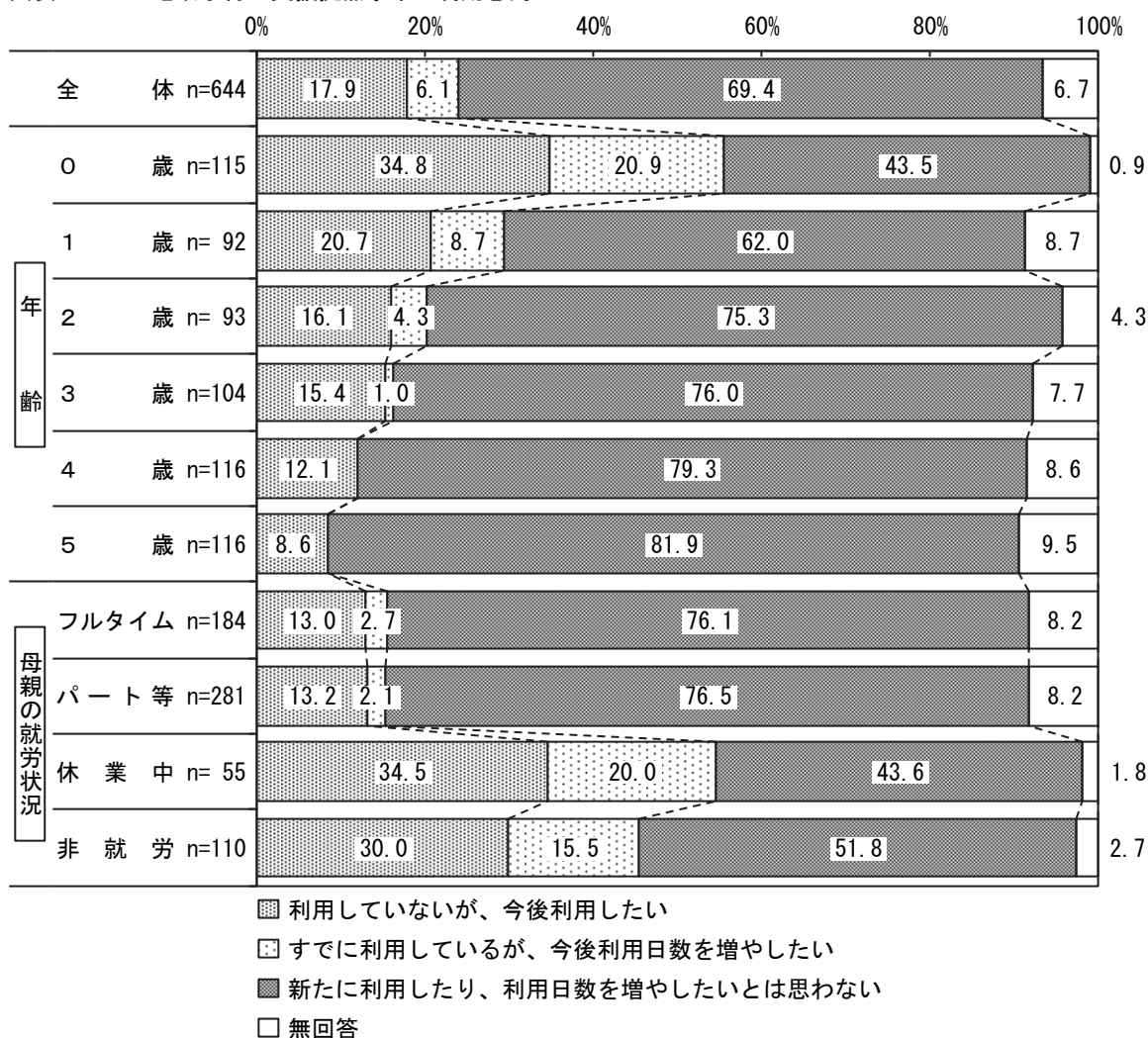


3 地域子育て支援拠点事業の利用意向

地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思うかたずねたところ、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が69.4%を占め、次いで「利用していないが、今後利用したい」が17.9%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が6.1%となっています。

子どもの年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「利用していないが、今後利用したい」および「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が低下しています。母親の就業状況別にみると、休業中および非就労の母親は「利用していないが、今後利用したい」が30%以上と高くなっています。

図表 1-47 地域子育て支援拠点事業の利用意向

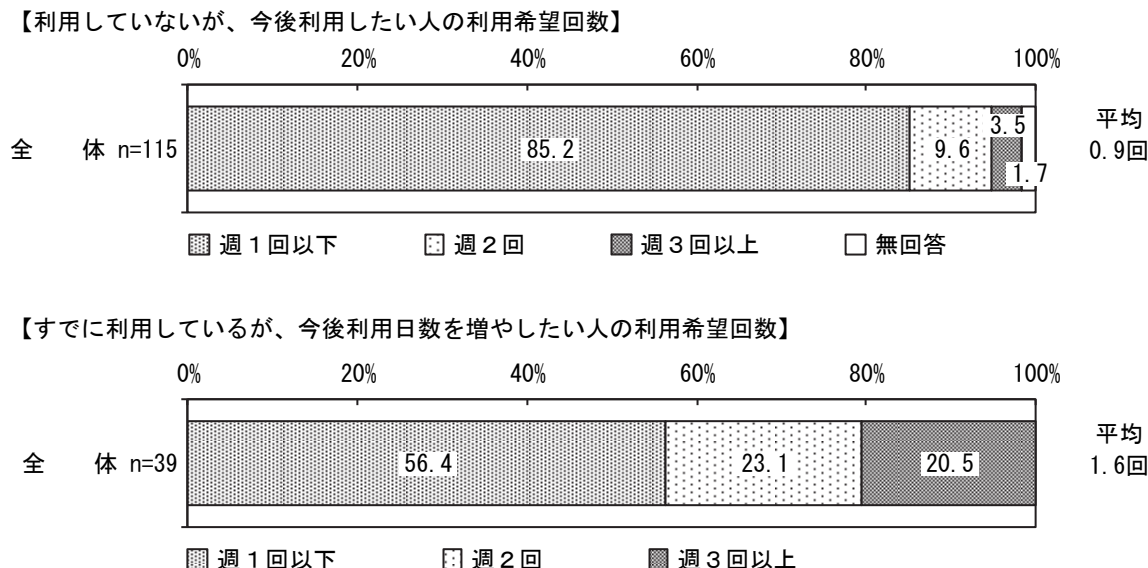


4 地域子育て支援拠点事業の利用希望回数

図表1-47で「利用していないが、今後利用したい」または「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した人に利用希望回数をたずねたところ、「利用していないが、今後利用したい」と回答した人は、「週1回以下」が85.2%を占め、1週当たりの平均利用希望回数は0.9回です。

「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した人は、「週1回以下」が56.4%と最も高くなっていますが、週2回以上が43.6%となっており、1週当たりの平均利用希望回数は1.6回です。

図表1-48 地域子育て支援拠点事業の利用希望回数



第6 休日の定期的な教育・保育事業の利用意向

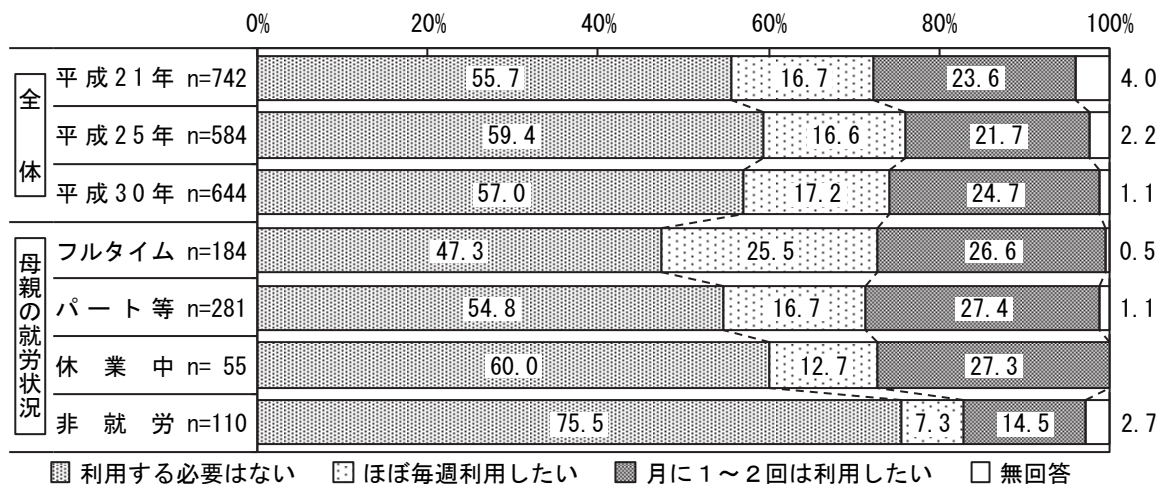
1 土曜日

土曜日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が57.0%を占めていますが、「月に1～2回は利用したい」が17.2%、「ほぼ毎週利用したい」が24.7%と、合わせて41.9%の利用希望があります。平成21年および平成25年と比べると、わずかながらも利用希望は高くなっています。

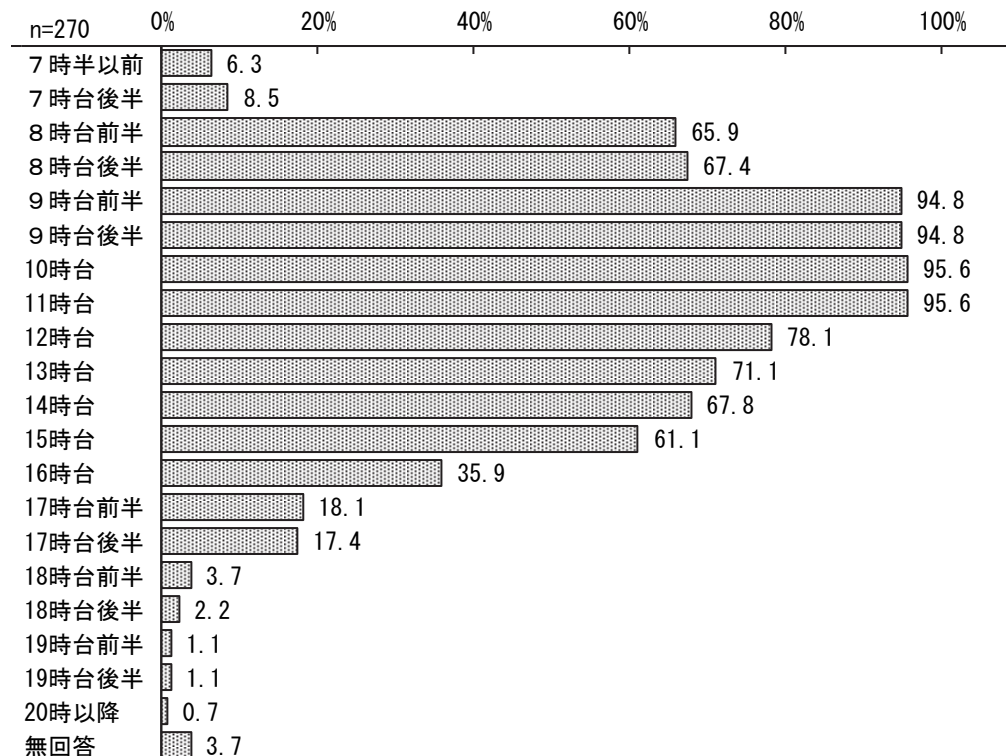
母親の就労状況別にみると、フルタイムの利用希望は52.1%を占めています（図表1-49）。

利用希望時間帯をみると、9時台前半から11時台が高くなっています（図表1-50）。

図表1-49 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向



図表1-50 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望時間帯



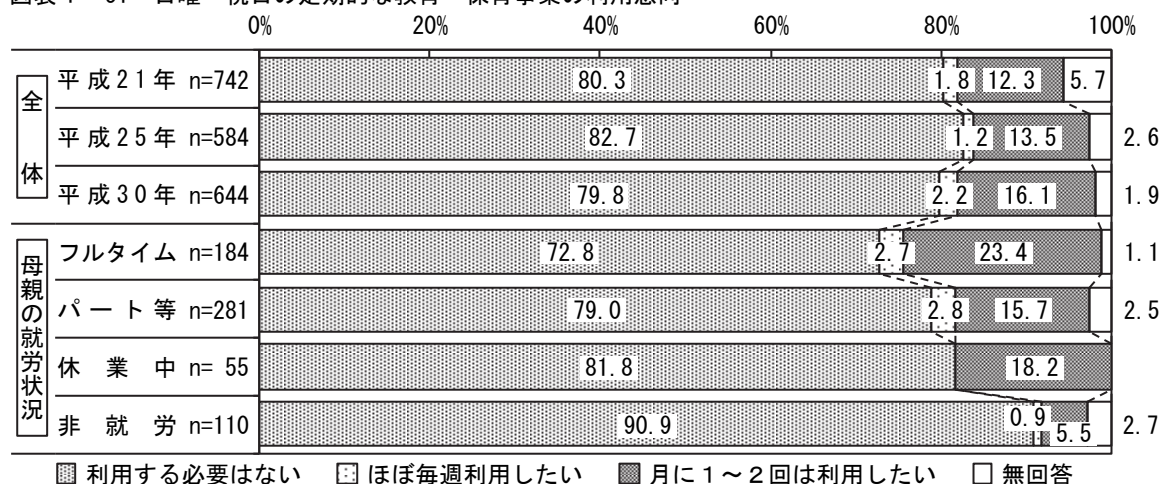
2 日曜・祝日

日曜・祝日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が79.8%を占めています。「月に1～2回は利用したい」（16.1%）、「ほぼ毎週利用したい」（2.2%）を合計した利用希望は18.3%です。平成21年および平成25年と比べると、利用希望は高くなっています。

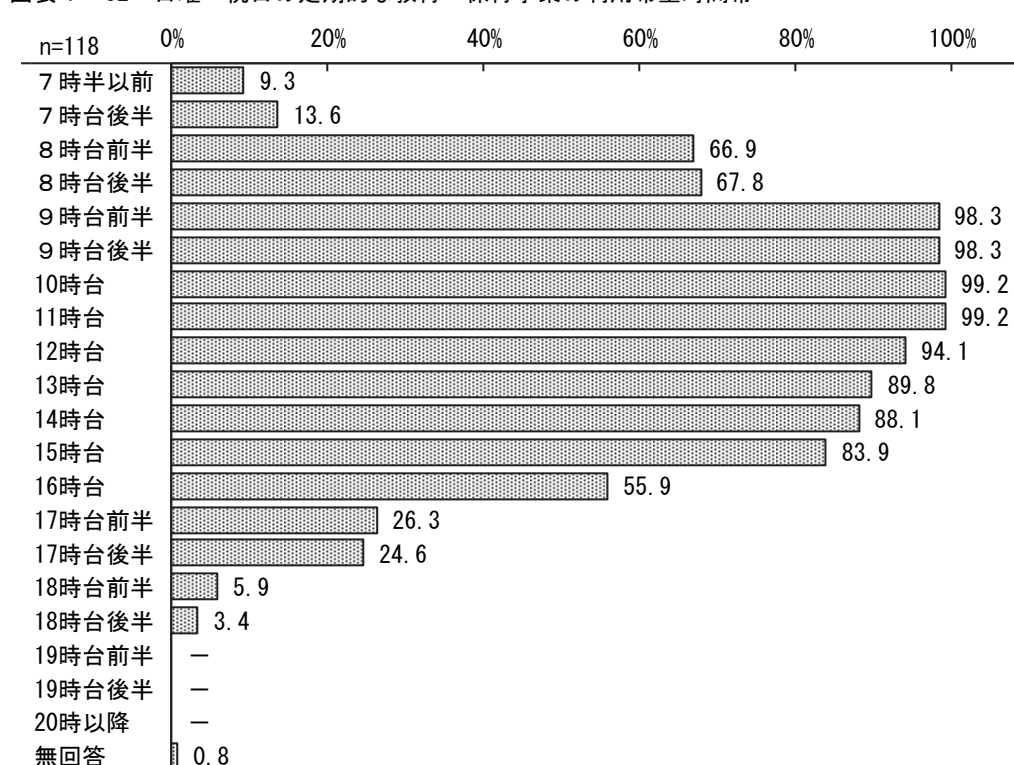
母親の就労状況別に利用希望をみると、フルタイムが26.1%、パート・アルバイト等が18.5%、休業中が18.2%などとなっています（図表1-51）。

利用希望時間帯をみると、9時台前半から12時台が高く、その後徐々に低下していきませんが、15時台でも60%を上回っています（図表1-52）。

図表1-51 日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向



図表1-52 日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望時間帯

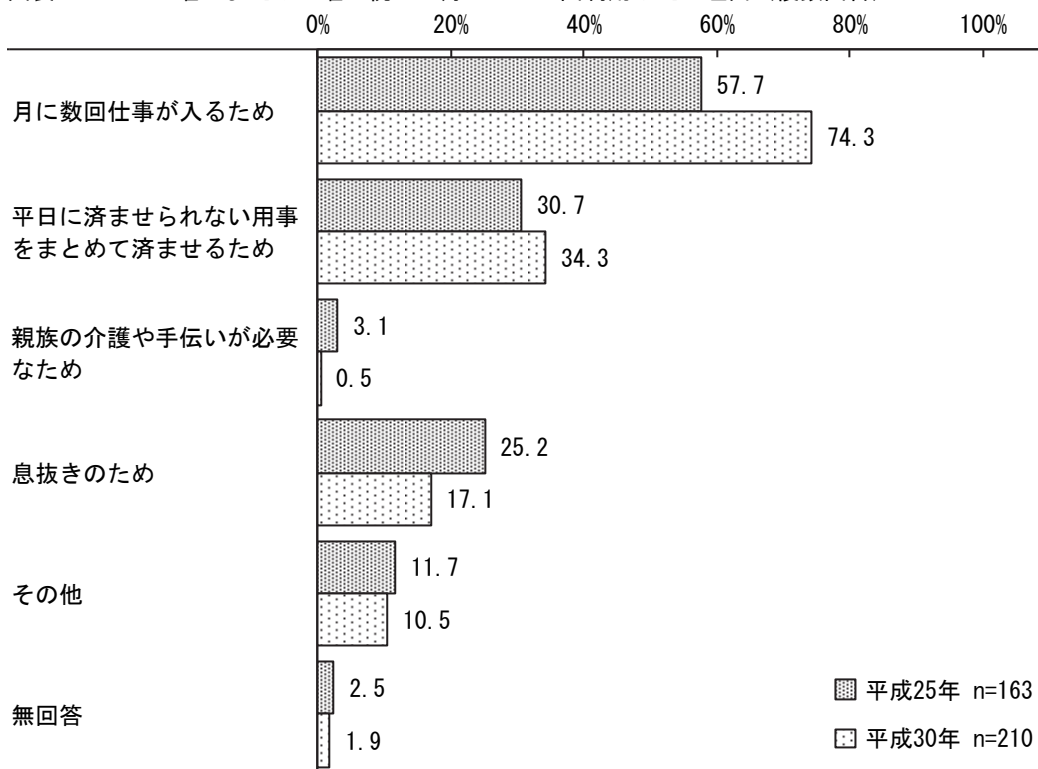


3 土曜日または日曜・祝日に月に1～2回利用したい理由

土曜日または日曜・祝日に月に1～2回は定期的な教育・保育事業を利用したいと答えた人の毎週利用するのではなく、たまに利用したい理由としては、「月に数回仕事が入るため」が74.3%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が34.3%となっています。平成25年と比べると、「月に数回仕事が入るため」「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が高くなっています。

「その他」として、図表1-54の内容が記載されていました。

図表1-53 土曜日または日曜・祝日に月に1～2回利用したい理由（複数回答）



図表1-54 土曜日または日曜・祝日に月に1～2回利用したい理由（その他）

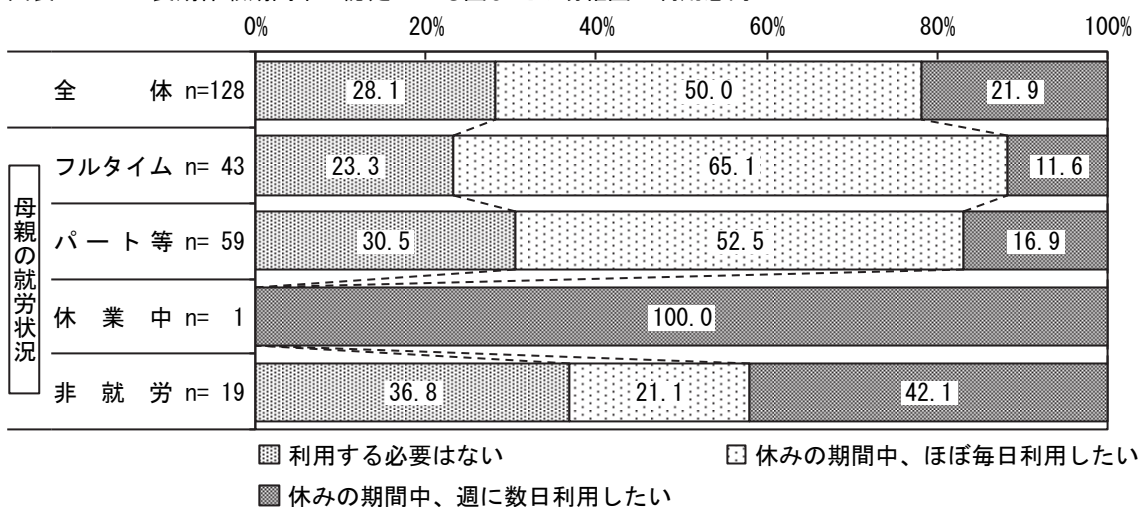
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の土曜授業で、参観日の時（2件） ・小学校での行事参加の時 ・今は仕事をしていないが、仕事を始める時に、選択肢が増える ・毎週土曜日は仕事のため、祖父母に預けているが、祖父母もフルタイムで働いているため、月に2回利用して息抜きをしてもらいたい ・祝日に仕事がある場合、仕事を休まなくてよくなるため ・今後の派遣先の勤務体系により、土・日・祝日が、出勤になった場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人と過ごしてもらうため ・上の子の学校の用事等に合わせる ・きょうだいの学校行事（運動会、習い事の遠征等）の時等 ・きょうだいの予定、用事のため ・母親学級、授業参観に子どもを連れずに行きたいので。他の方に、なるべく迷惑を掛けたくない（3歳児にじっと大人しくさせることはできない） ・小さい子がいるので、上の子の思うように遊んであげられない時もある ・通院のため
--	---

4 1号認定で認定こども園または幼稚園の長期休暇期間中の利用

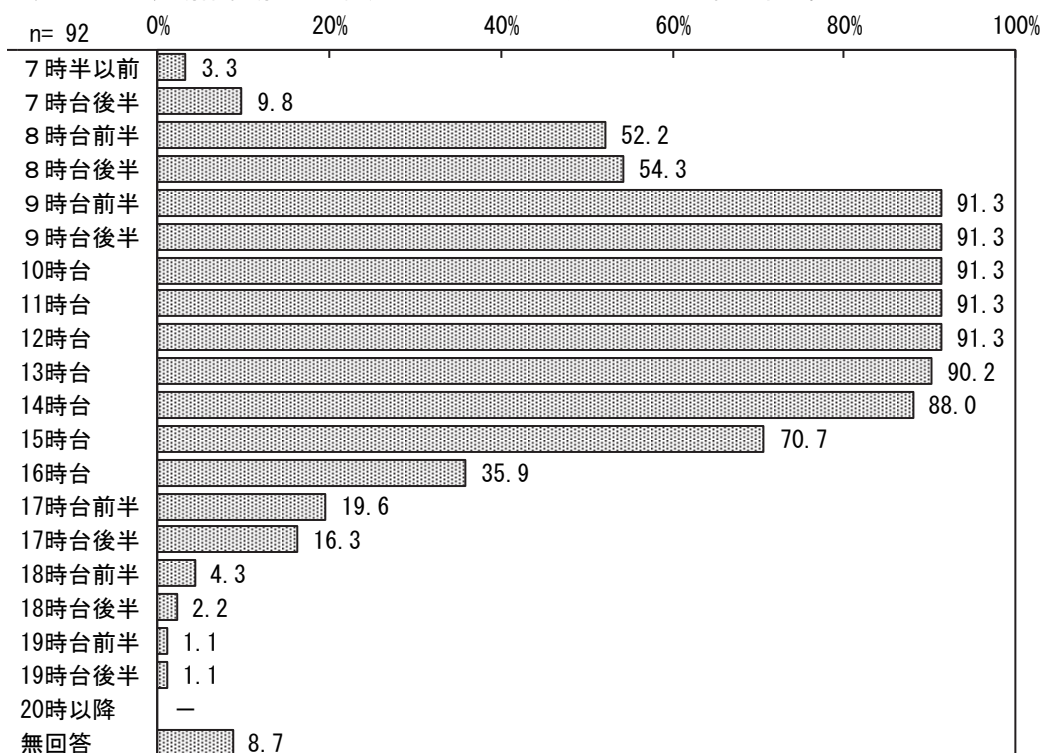
図表1-55は、1号認定で認定こども園または幼稚園を利用している人に夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用意向をたずねた結果です。「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が50.0%を占め、「休みの期間中、週に数日利用したい」が21.9%と、利用意向は71.9%となっています。

利用希望時間帯をみると、9時台前半から13時台が高くなっていますが、15時台も70%を上回っています（図表1-56）。

図表1-55 長期休暇期間中の認定こども園または幼稚園の利用意向



図表1-56 長期休暇期間中の認定こども園または幼稚園の利用希望時間帯

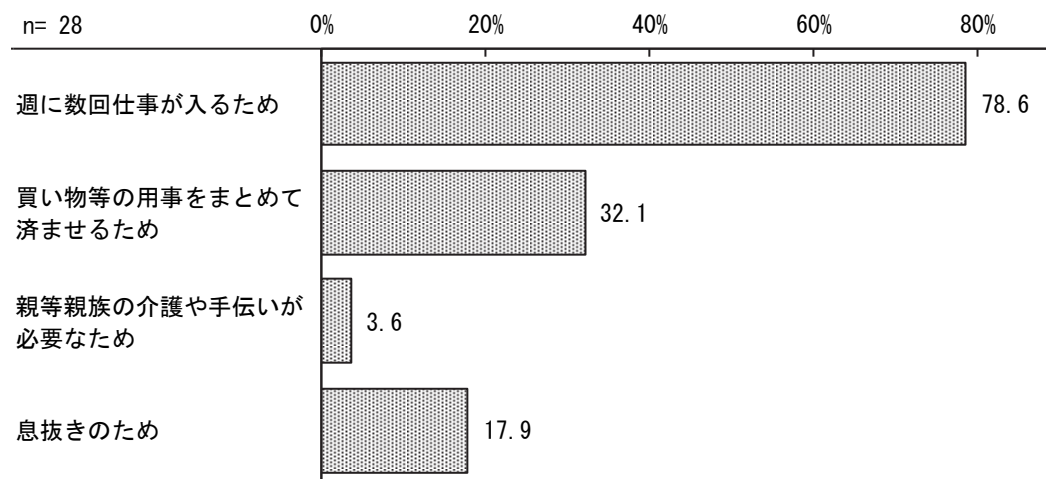


5 長期休暇期間中に週に数日利用したい理由

長期休暇期間中に週に数日は認定こども園または幼稚園を利用したいと答えた人の毎日ではなく、たまに利用したい理由としては、「週に数回仕事が入るため」が78.6%と最も高く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が32.1%などとなっています。

「その他」として、「子どもが友だちにも会いたいと言うため」「休みが長いと行くのを嫌がるため」「ずっと家に居ても、たいくつだと思う」「定期的に通園しているが、今年度は他の子がほとんど2号で1人だけ休みだったので、園の子との交流をつくりたかったため」との記載がありました。

図表 1-57 長期休暇期間中に週に数日利用したい理由（複数回答）

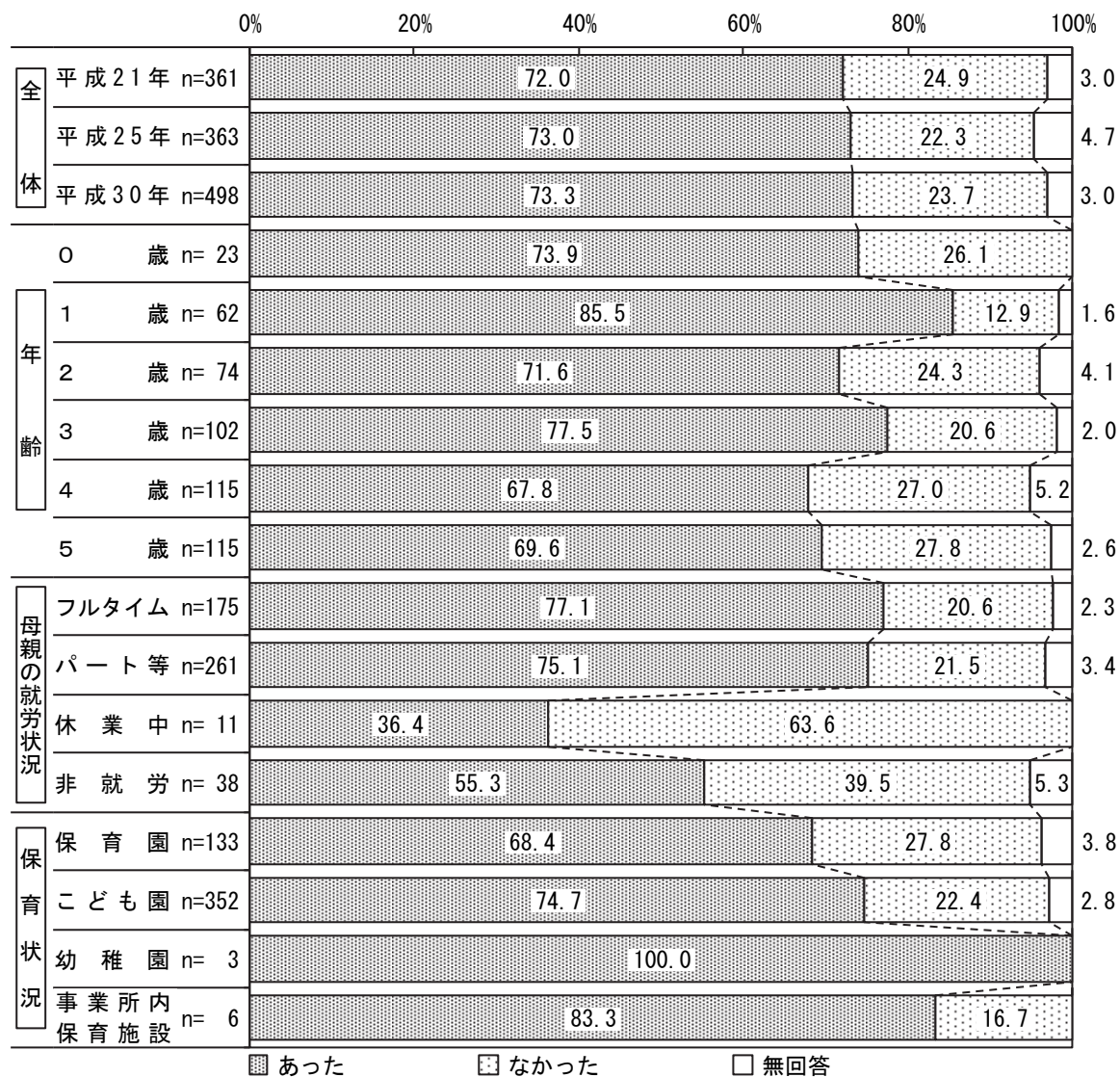


第7 子どもが病気の時の対応

1 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無

定期的な教育・保育事業を利用している子どもが病気やケガで通常の定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無については、「あった」が73.3%、「なかった」が23.7%です。平成21年および平成25年と比べると、変化は小さいですが「あった」は高くなっています。

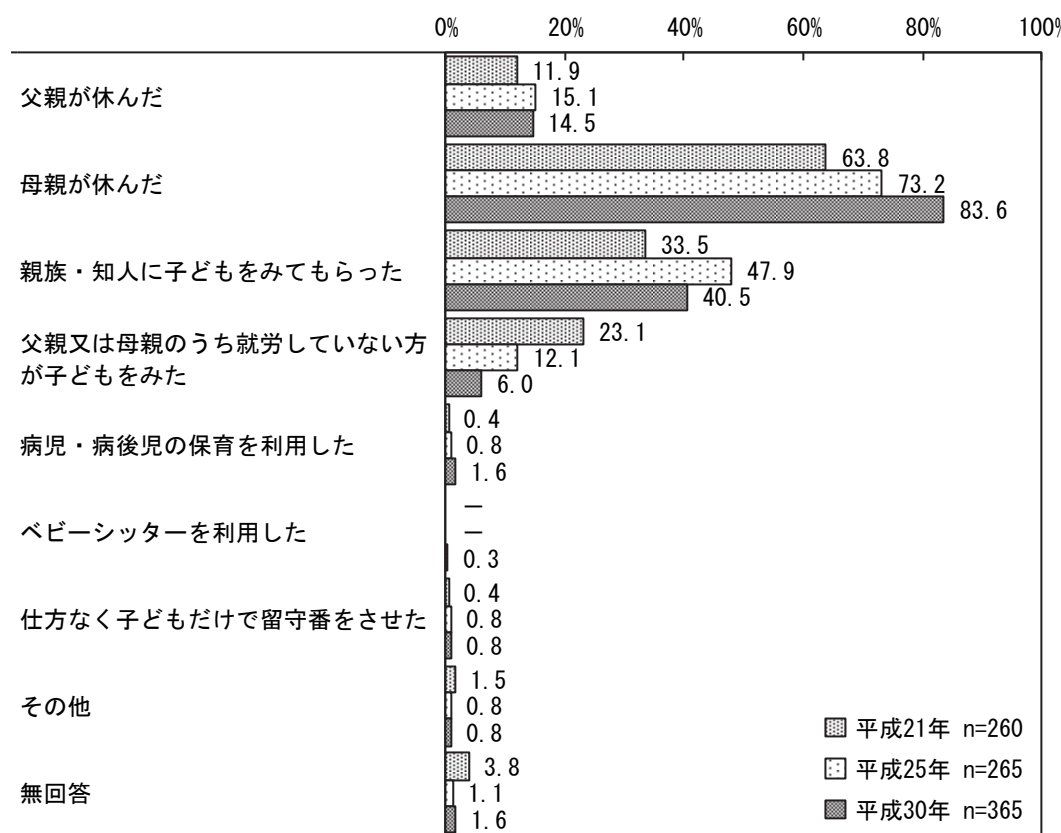
図表1-58 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無



2 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法

定期的な教育・保育事業を利用している子どもが病気等で事業が利用できなかった時の、この1年間に行った対処方法については、「母親が休んだ」が83.6%と最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった（同居者を含む）」が40.5%、「父親が休んだ」が14.5%などの順となっています。「病児・病後児の保育を利用した」は1.6%（6人）です。平成21年および平成25年と比べると、「母親が休んだ」は高くなり続けており、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」は低下が続いています（図表1-59）。

図表1-59 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法（複数回答）



（注）「ファミリー・サポート・センターを利用した」という選択肢には該当がなかった。

1年間に対処が必要だった日数の平均を対処方法別にみると、「母親が休んだ」日数が7.4日と最も多く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった（同居者を含む）」日数が6.0日、などとなっています。平成25年と比べると、「病児・病後児の保育を利用した」は5.5日低下しています（図表1-60）。

図表1-60 1年間に対処が必要だった平均日数

単位：日／年

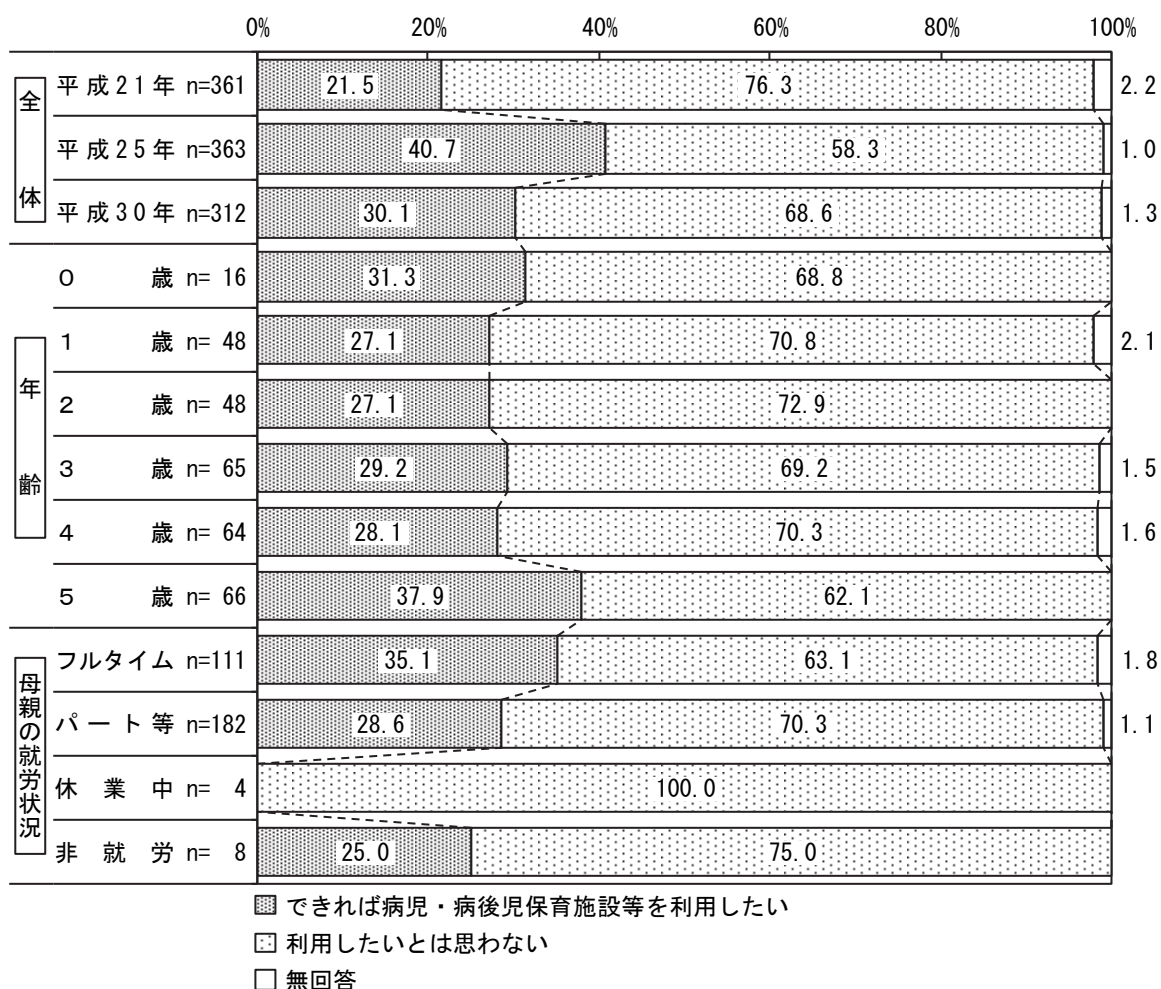
区 分	父親が休んだ	母親が休んだ	親族・知人に子どもをみてもらった	父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	病児・病後児の保育を利用した	ベビーシッターを利用した	仕方なく子どもだけ留守番をさせた	その他
平成25年	2.5	6.3	6.0	6.4	7.5	—	5.5	2.5
平成30年	3.1	7.4	6.0	4.2	2.0	3.0	4.3	18.0

3 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の施設の利用意向

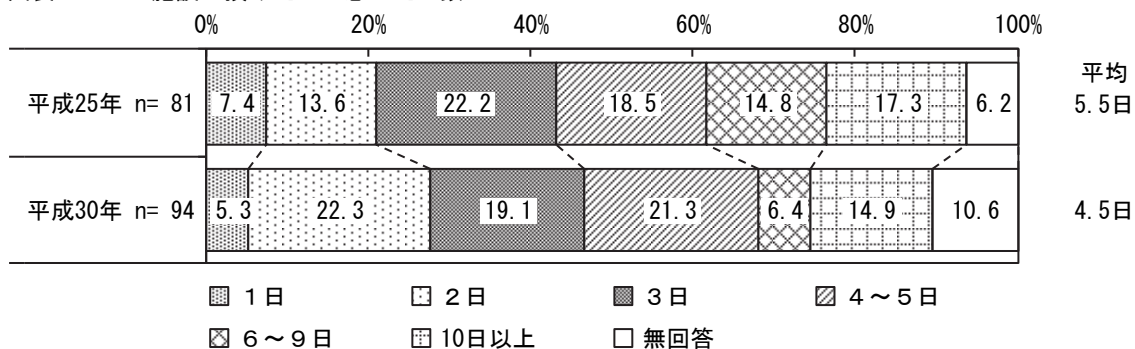
子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できず、親が仕事を休んで対処した人のうち、病児・病後児保育施設等を利用したいと答えた人は30.1%です。「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は平成21年と比べて高く、平成25年と比べて低くなっています。(図表1-61)。

1年間で預けたいと思った日数の平均は4.5日です。平成25年と比べると、1.0日低下しています(図表1-62)。

図表1-61 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できず、親が仕事を休んだ人の施設の利用意向



図表1-62 施設に預けたいと思った日数



第8 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり

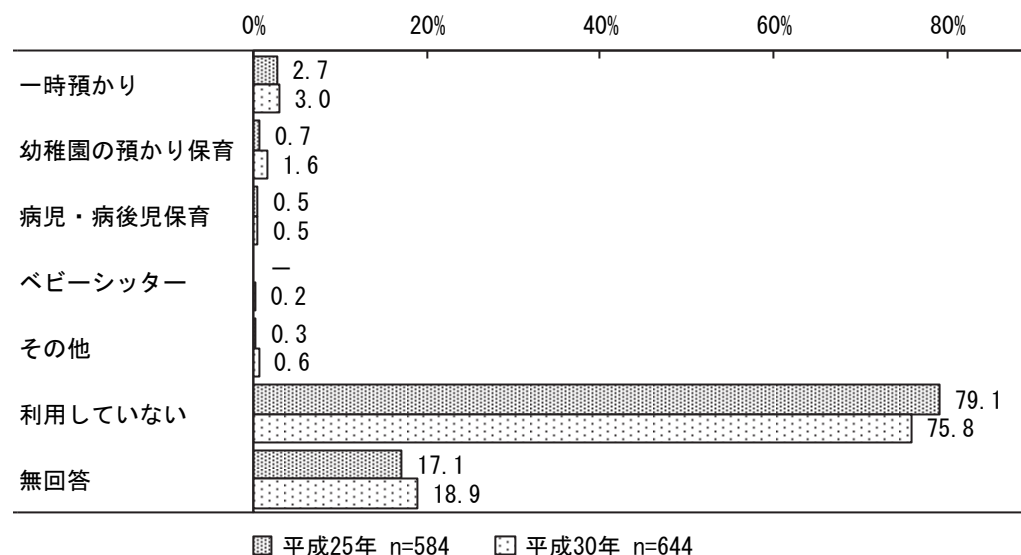
1 不定期的に利用している教育・保育事業

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、不定期的に利用している事業としては、「一時預かり」(3.0%)、「幼稚園の預かり保育」(1.6%)、「病児・病後児保育」(0.2%)、「ベビーシッター」(0.6%) などがありました。平成25年と比べると、大きな変化はありませんが、「幼稚園の預かり保育」が0.9ポイント高くなっています(図表1-63)。

また、1年間の平均利用日数は、平成25年と比べて「幼稚園の預かり保育」が高くなっています(図表1-64)。

「その他」として、「職場の託児所」(3件)という記載がありました。

図表1-63 不定期的に利用している教育・保育事業(複数回答)



(注) 「ファミリー・サポート・センター」「夜間養護等事業(トワイライトステイ)」「ベビーシッター」という選択肢には該当がなかった。

図表1-64 1年間で不特定の教育・保育事業を利用した平均利用日数

単位: 日/年

区分	一時預かり	幼稚園の預かり保育	病児・病後児保育	ベビーシッター	その他
平成25年	30.8	10.7	5.5	—	2.0
平成30年	7.6	18.6	2.3	—	32.7

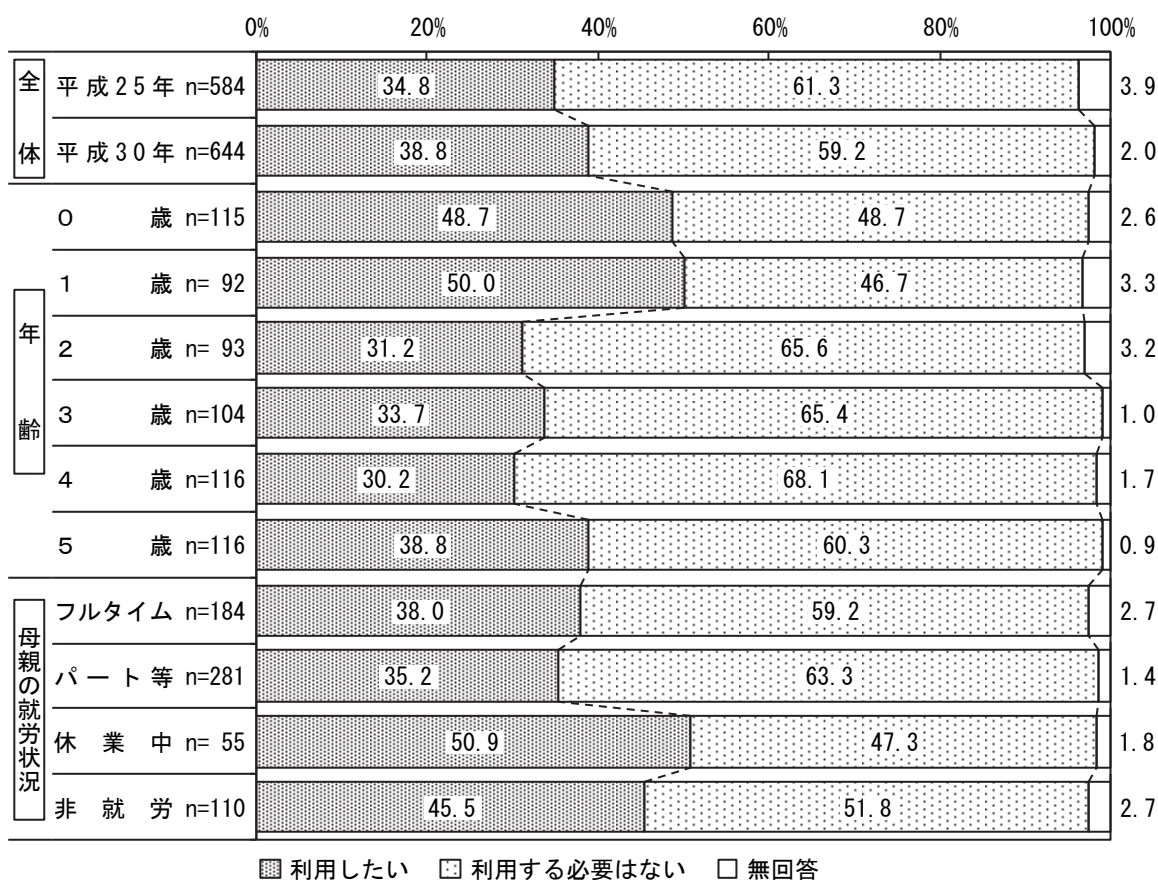
2 不定期の教育・保育事業の利用意向

(1) 不定期の教育・保育事業の利用意向

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期の教育・保育事業を「利用したい」と答えているのは38.8%です。平成25年と比べると、「利用したい」が4.0ポイント高くなっています。

「利用したい」が高いのは、子どもの年齢別にみると0、1歳、母親の就労状況別にみると休業中、非就労です。

図表 1-65 不定期の教育・保育事業の利用意向



(2) 不特定の教育・保育事業の利用目的

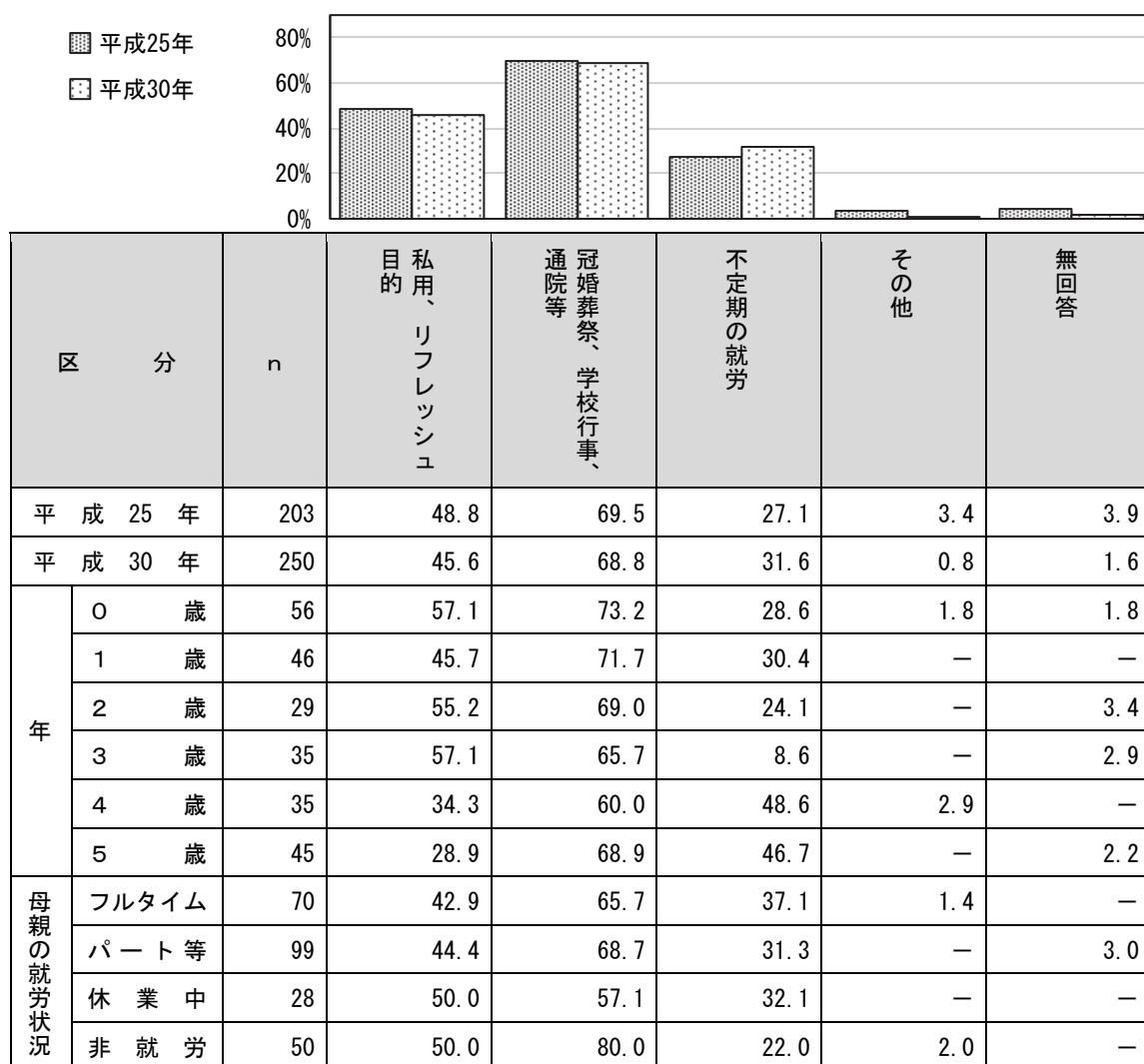
図表1-66は、図表1-65で「利用したい」と答えた人の利用目的をたずねた結果です。「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が68.8%と最も高く、次いで「私用、リフレッシュ目的」が45.6%、「不特定の就労」が31.6%などとなっています。平成25年と比べると、「不特定の就労」が高くなっています（図表1-66）。

図表1-67で各目的別の1年間の利用希望日数をみると、「不特定の就労」の15.6日が最も多くなっています。平成25年と比べると、「その他」以外の選択肢は減少しています。

「その他」として、「出産」「少年団、PTA等の役員の仕事」などの記載がありました。

図表1-66 目的別の不特定の教育・保育事業の利用希望（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表 1-67 不定期的に利用している教育・保育事業の平均利用希望日数

単位：日／年

区 分	私用、リフレックシユ目的	冠婚葬祭、学校行事、通院等	不定期の就労	その他
平成 25 年	12.3	8.9	18.3	9.8
平成 30 年	10.2	7.3	15.6	10.5

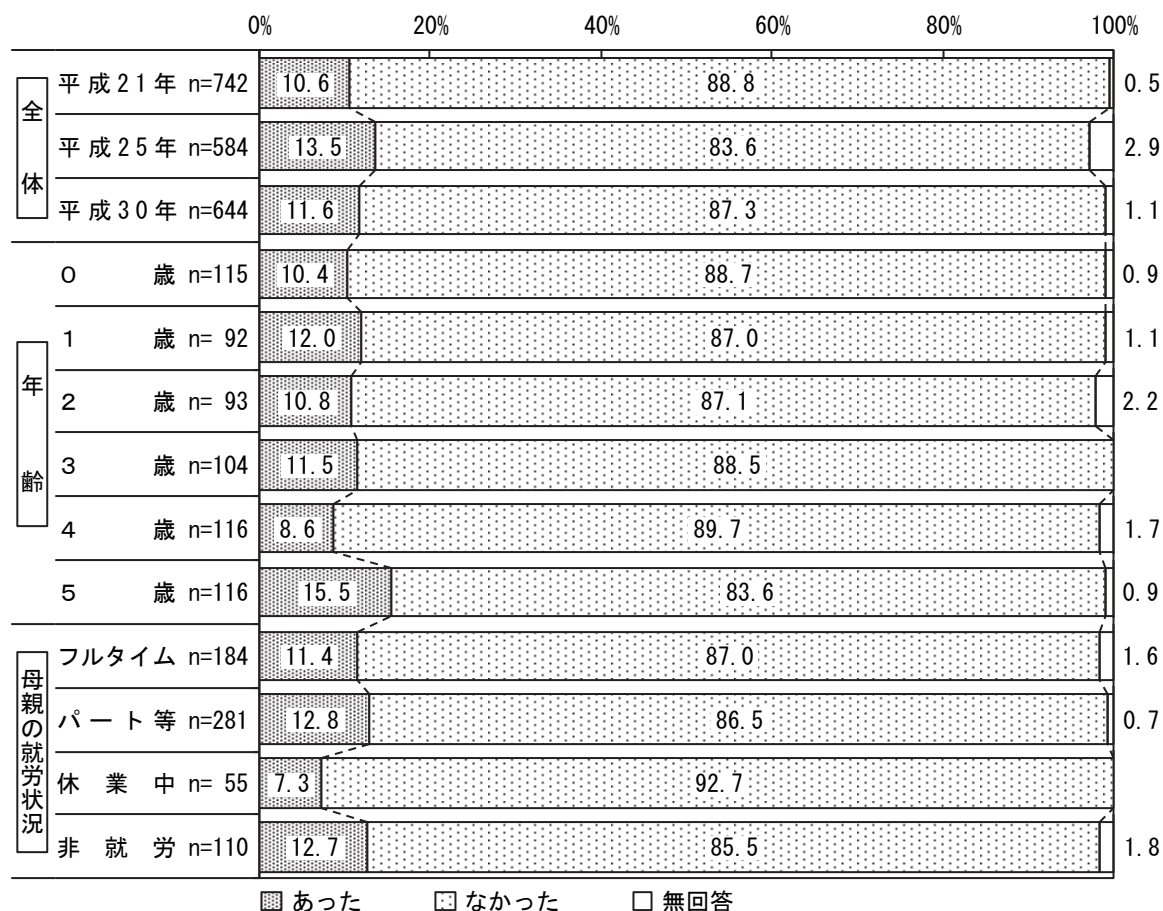
3 宿泊を伴う一時預かり

(1) 子どもを泊まりがけで預けなければならなかったことの有無

この1年間に、子どもを泊まりがけで家族以外の人に預けなければならなかったこと（預け先がみつからなかった場合を含む）の有無は、「あった」が11.6%です。平成21年より高く、平成25年より低くなっています。

「あった」は、子どもの年齢別では5歳、母親の就労状況別ではパート・アルバイト等、非就労が高くなっています。

図表 1-68 子どもを泊まりがけで預けなければならなかったことの有無

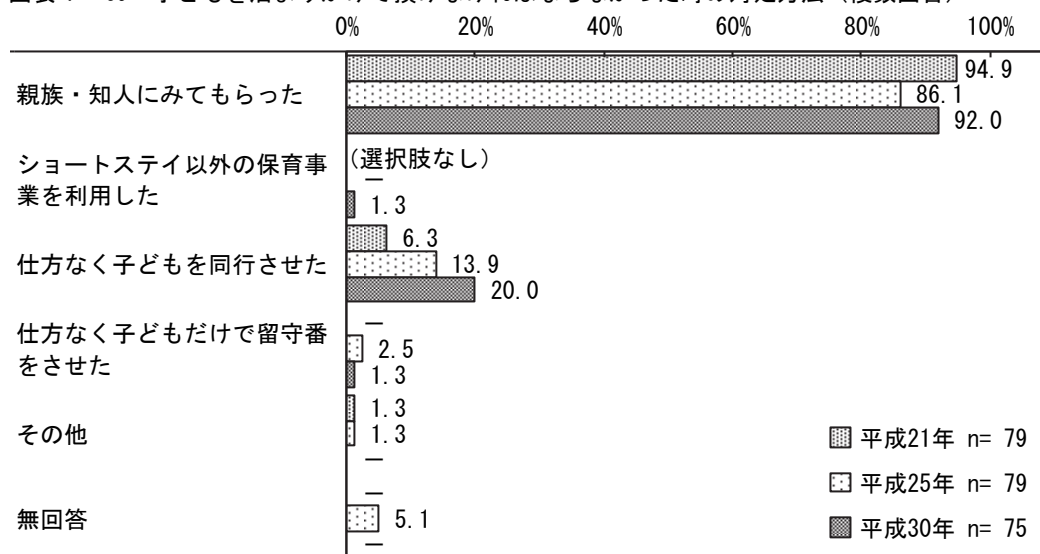


(2) 子どもを泊まりがけで預けなければならなかった時の対処方法

保護者の用事などにより、子どもを泊まりがけで預けなければならなかった時の対処方法については、「親族・知人にみてもらった」が92.0%と最も高くなっています。平成21年および平成25年と比べると、「仕方なく子どもを同行させた」が高くなり続けています（図表1-69）。

対処が必要だった泊数の平均は、「親族・知人にみてもらった」が9.7泊と最も多くなっています（図表1-70）。

図表1-69 子どもを泊まりがけで預けなければならなかった時の対処方法（複数回答）



(注) 平成21年は「ショートステイを利用した」「ショートステイ以外の保育事業を利用した」という選択肢がなく、「保育サービス（ショートステイ事業を実施している施設、認可外保育施設、ベビーシッターなど）を利用した」という選択肢があったが該当はなかった。平成25年、平成30年は「ショートステイを利用した」という選択肢には該当がなかった。

図表1-70 子どもを泊まりがけで預けなければならなかった時の平均泊数

単位：泊／年

区分	親族・知人にみてもらった	ショートステイ以外の保育事業を利用した	仕方なく子どもを同行させた	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	その他
平成21年	6.2	—	8.8	—	—
平成25年	5.7	—	2.3	1.0	—
平成30年	9.7	—	3.9	—	—

第9 子ども・子育て支援事業の評価等

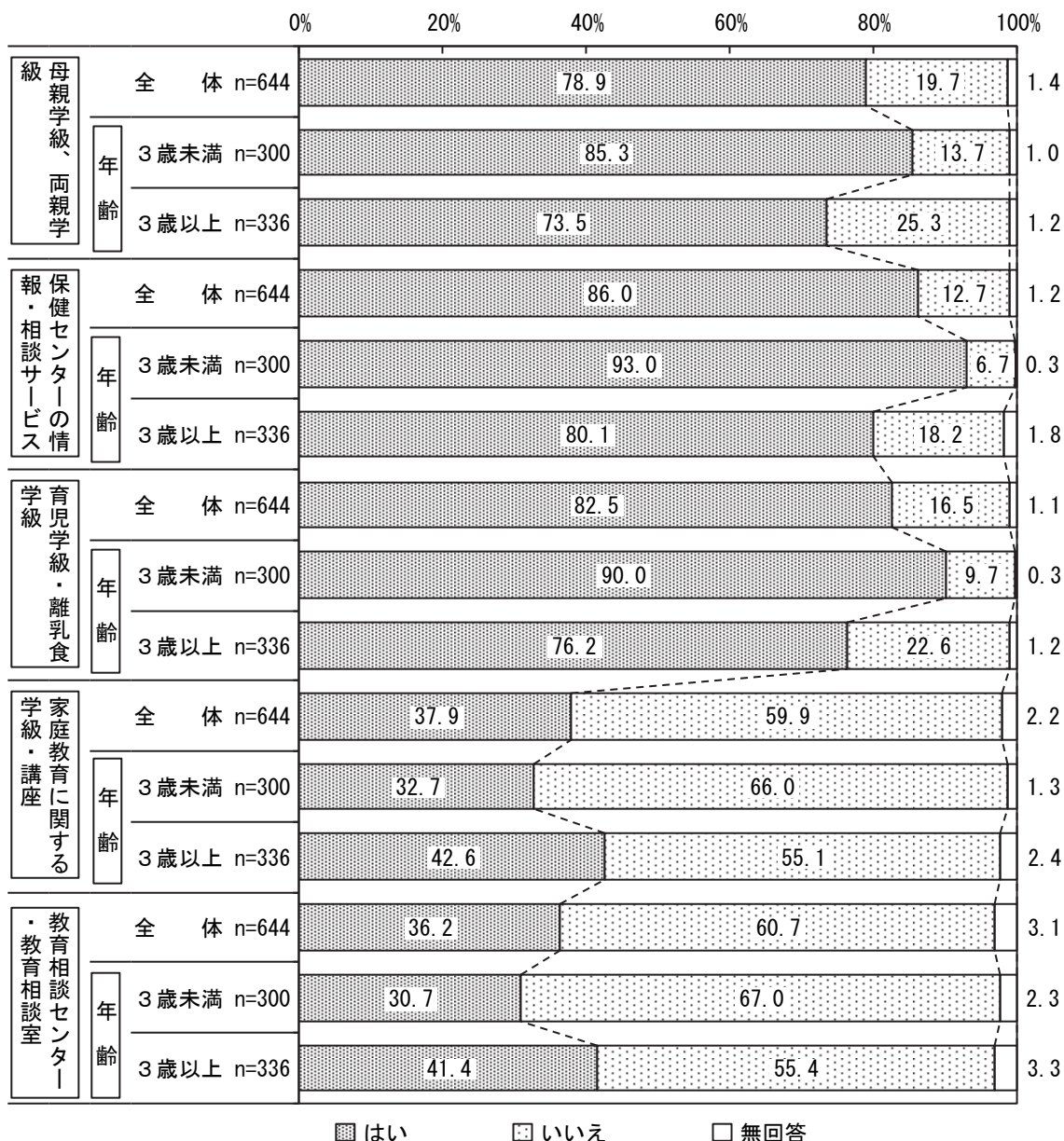
1 子ども・子育て支援の認知度・利用経験・利用意向・満足度

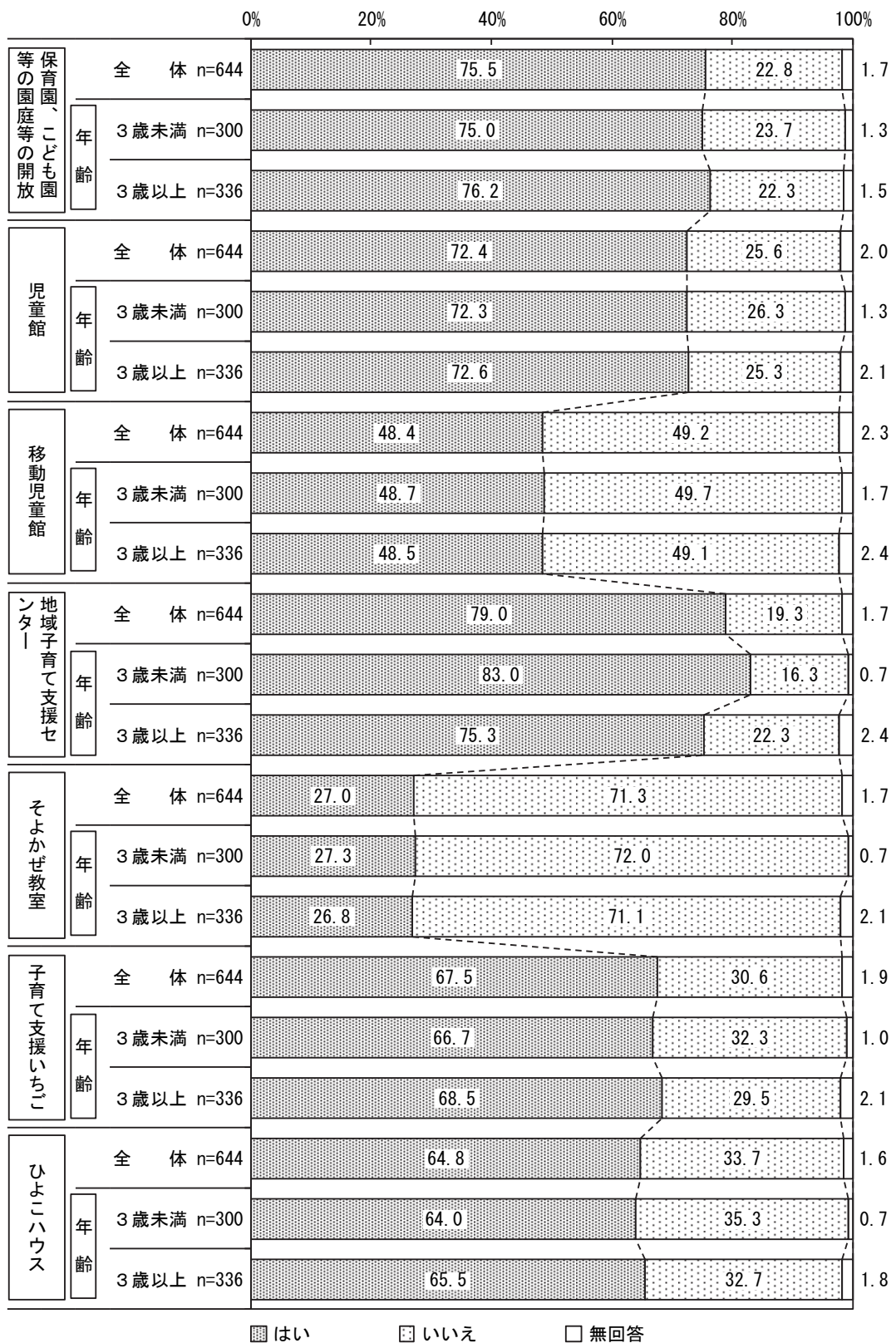
(1) 認知度

子育て支援に関連する16の施設・事業の認知度は、「保健センターの情報・相談サービス」「図書館の読み聞かせ」「育児学級・離乳食学級」が80%以上と高く、「そよかぜ教室」「子育て勉強室」「子育て応援ガイドブックのホームページ」は30%以下となっています。

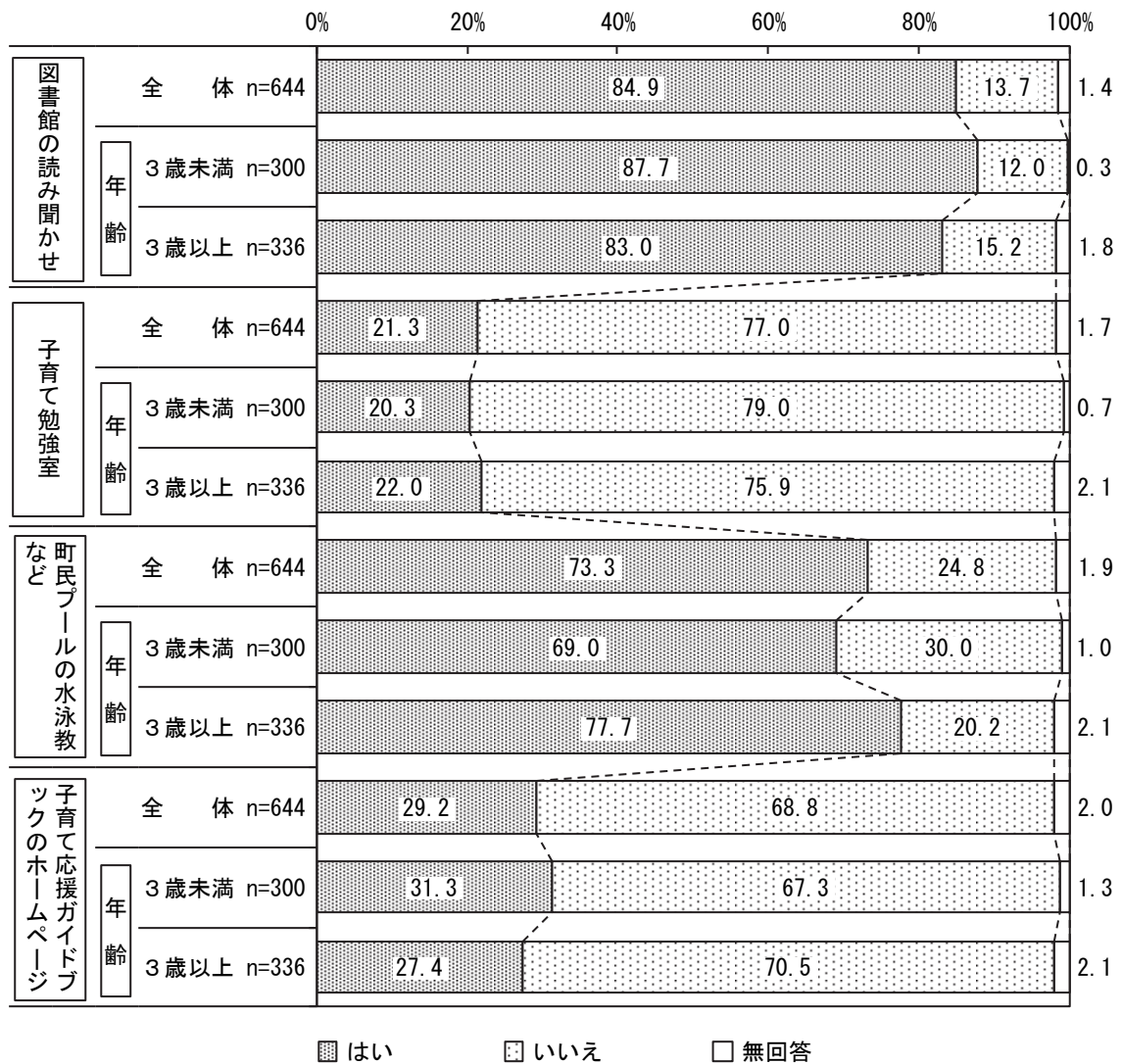
年齢別にみると、3歳以上に比べて3歳未満が高いのは、「母親学級、両親学級」「保健センターの情報・相談サービス」「育児学級・離乳食学級」などで、3歳以上が高いのは「家庭教育に関する学級・講座」「教育相談センター・教育相談室」などです。

図表1-71 子ども・子育て支援事業等の認知度





■ はい ■ いいえ □ 無回答

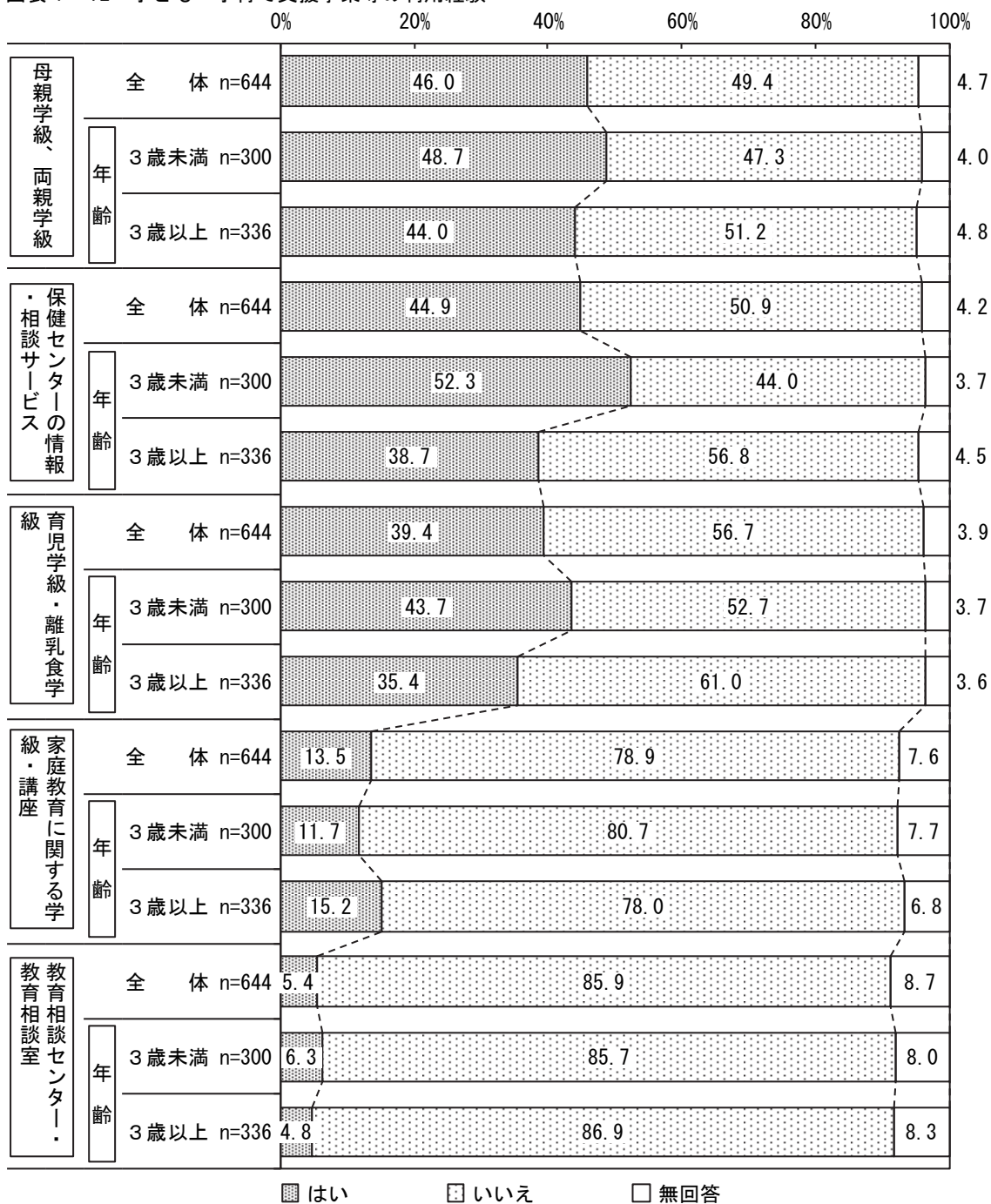


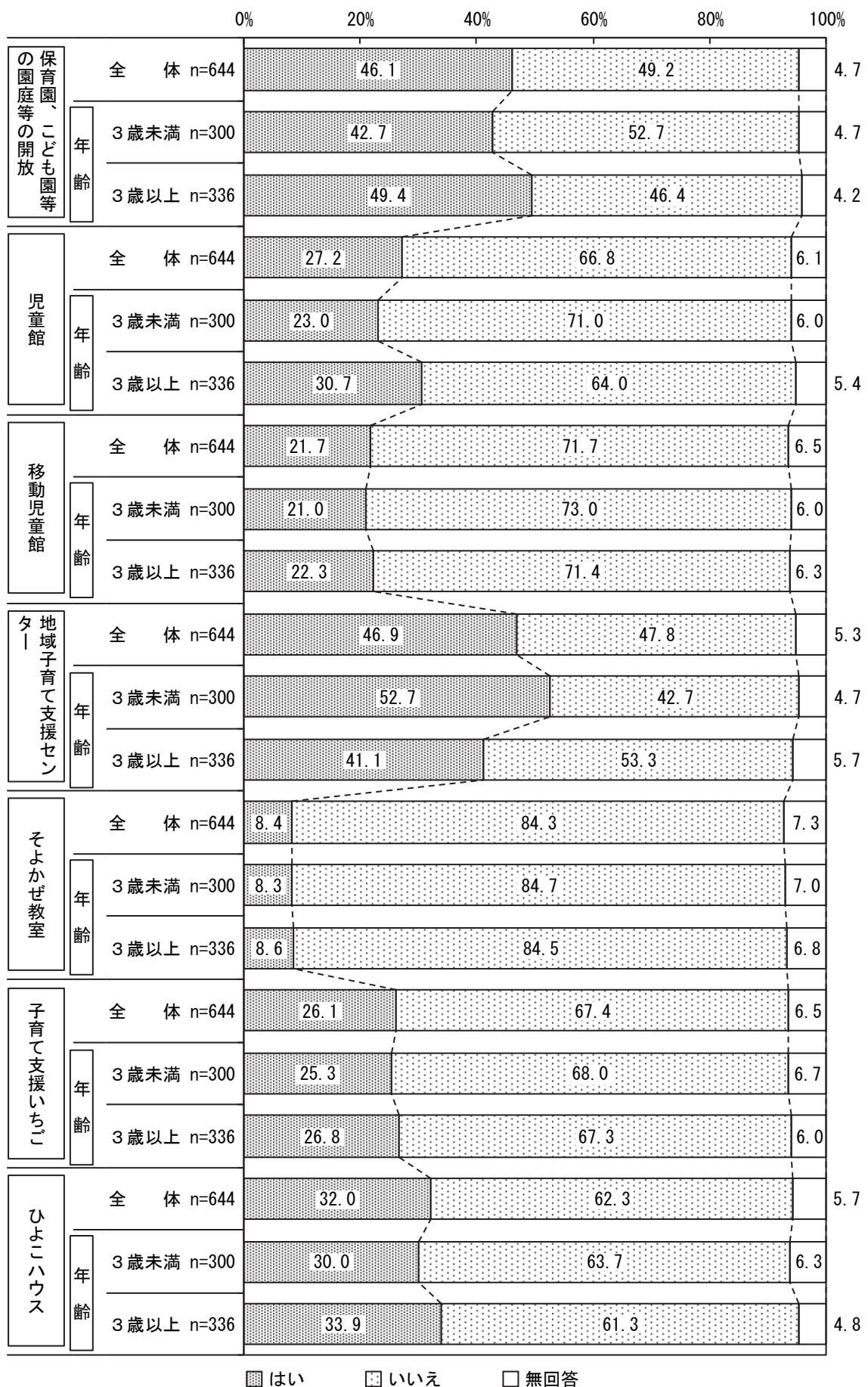
(2) 利用経験

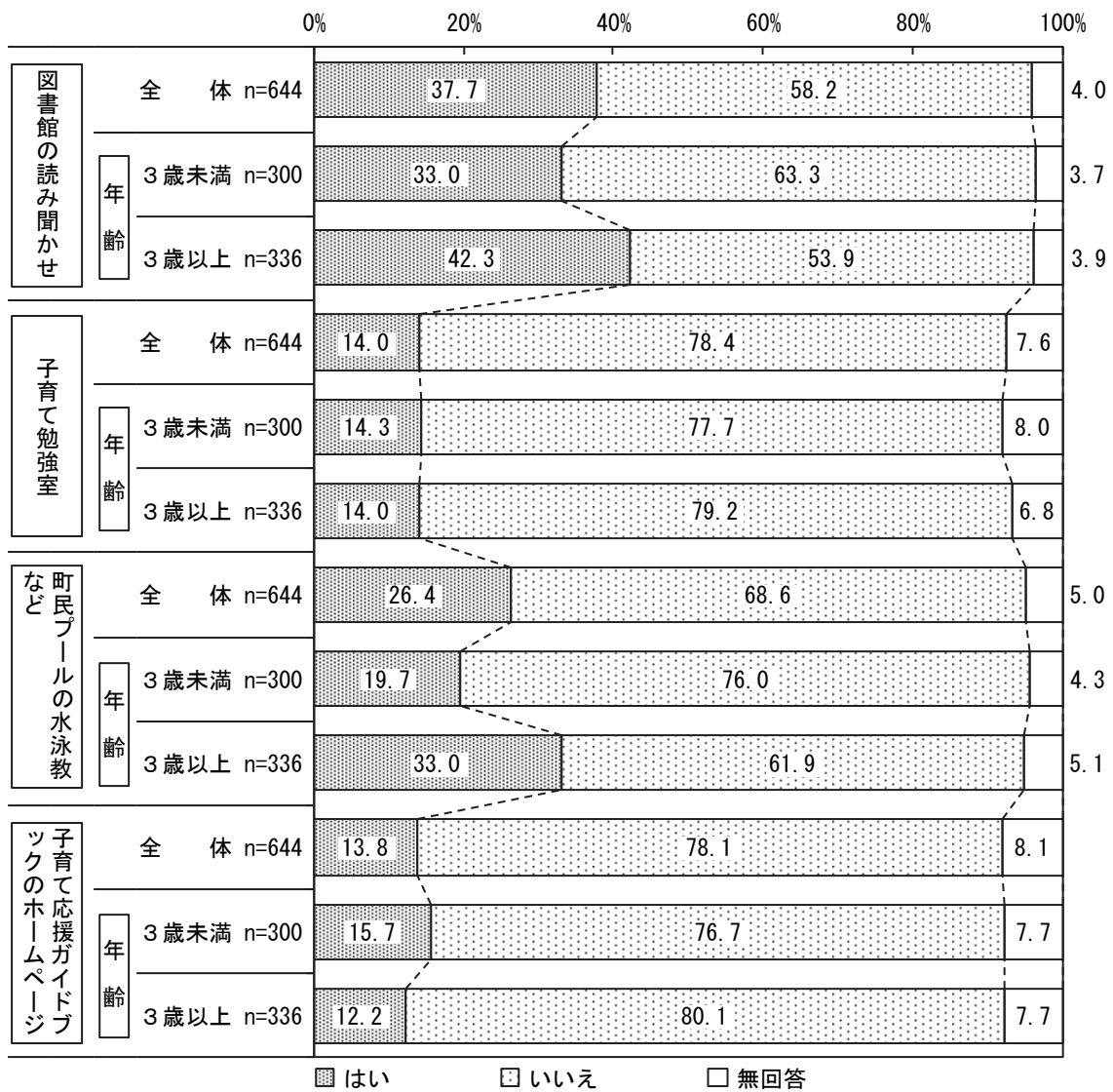
利用経験が高いのは、「母親学級、両親学級」(46.0%)、「保健センターの情報・相談サービス」(44.9%)、「保育園、こども園等の園庭等の開放」(46.1%)、「地域子育て支援センター」(46.9%) などです。

年齢別にみると、3歳以上に比べて3歳未満が高いのは、「保健センターの情報・相談サービス」「地域子育て支援センター」などで、3歳以上が高いのは「図書館の読み聞かせ」「町民プールの水泳教など」などです。

図表 1-72 子ども・子育て支援事業等の利用経験





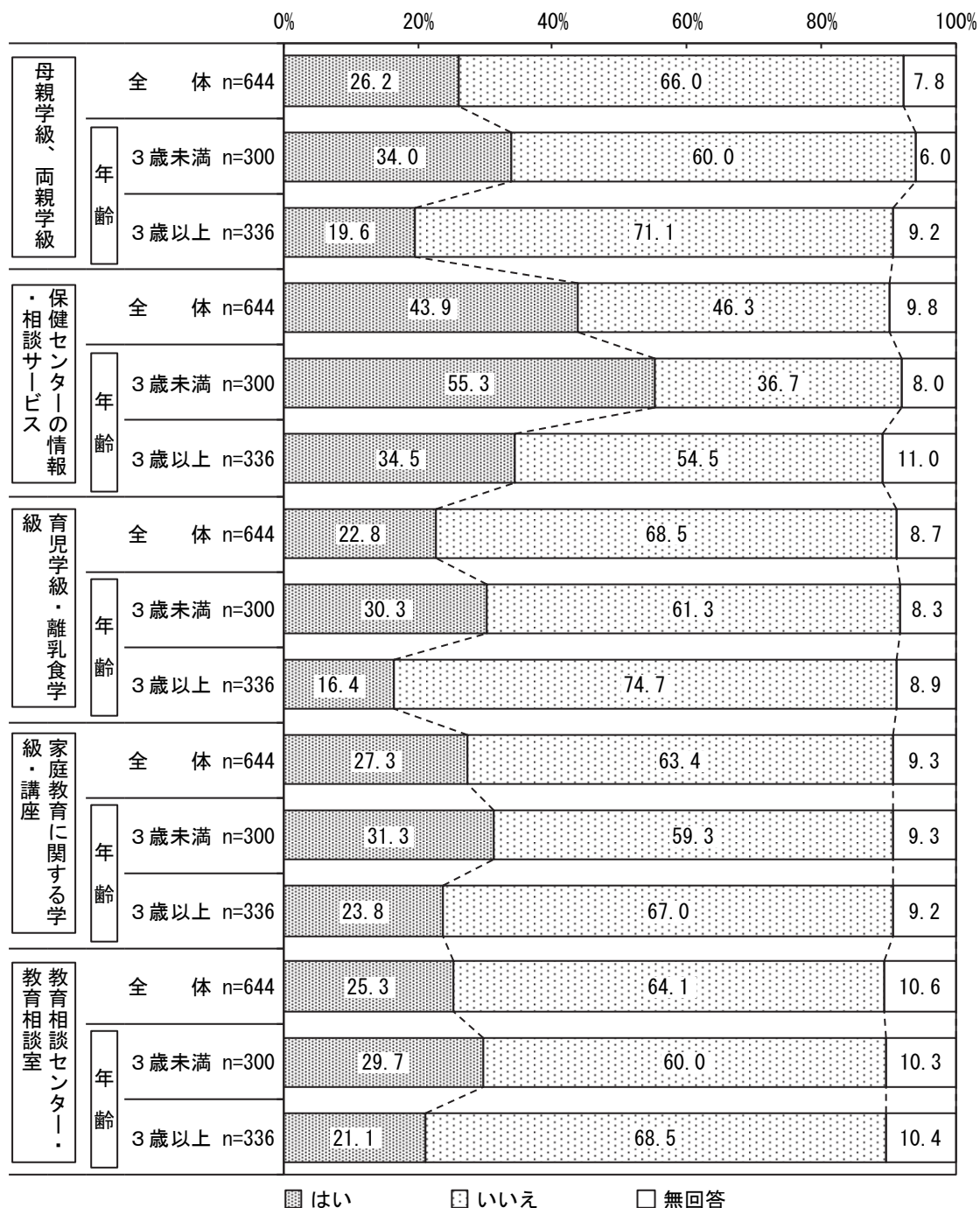


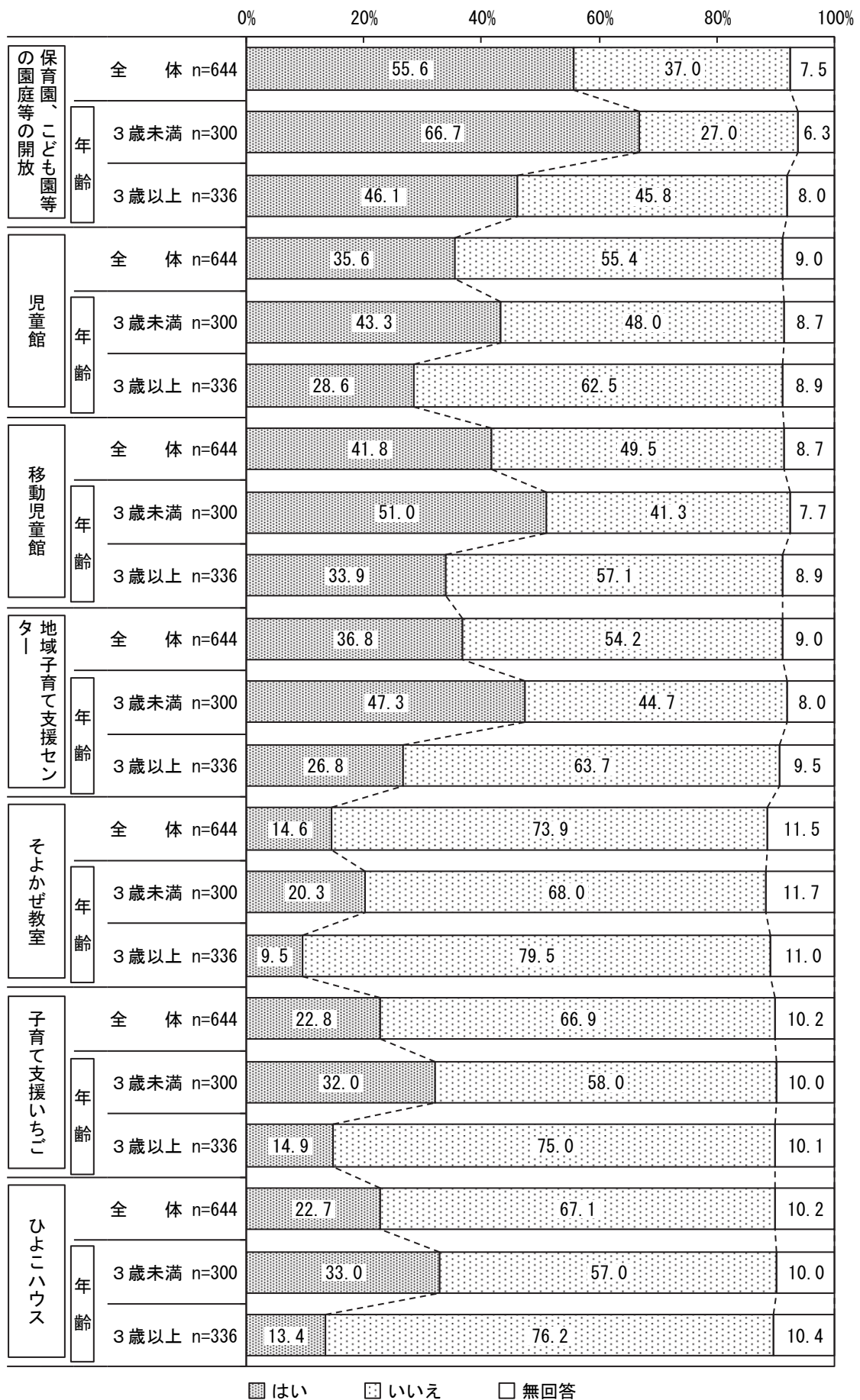
(3) 利用意向

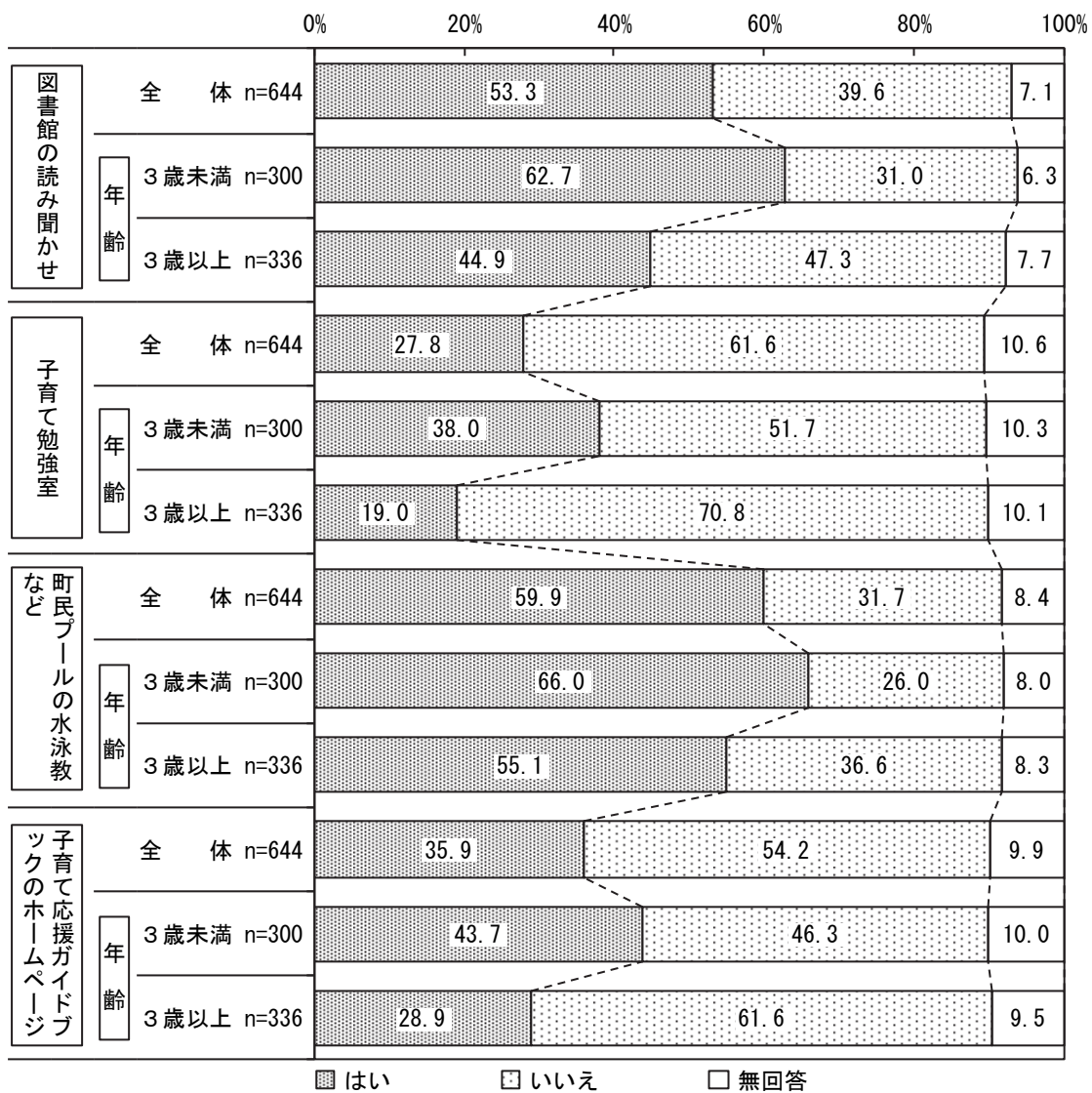
利用意向では、「保育園、こども園等の園庭等の開放」「図書館の読み聞かせ」「町民プールの水泳教など」が50%以上と高くなっています。

年齢別にみると、全ての施設・事業で3歳以上より3歳未満が高く、上記3項目は60%を上回っています。また、「保健センターの情報・相談サービス」「移動図書館」も50%以上です。

図表 1-73 子ども・子育て支援事業等の利用意向





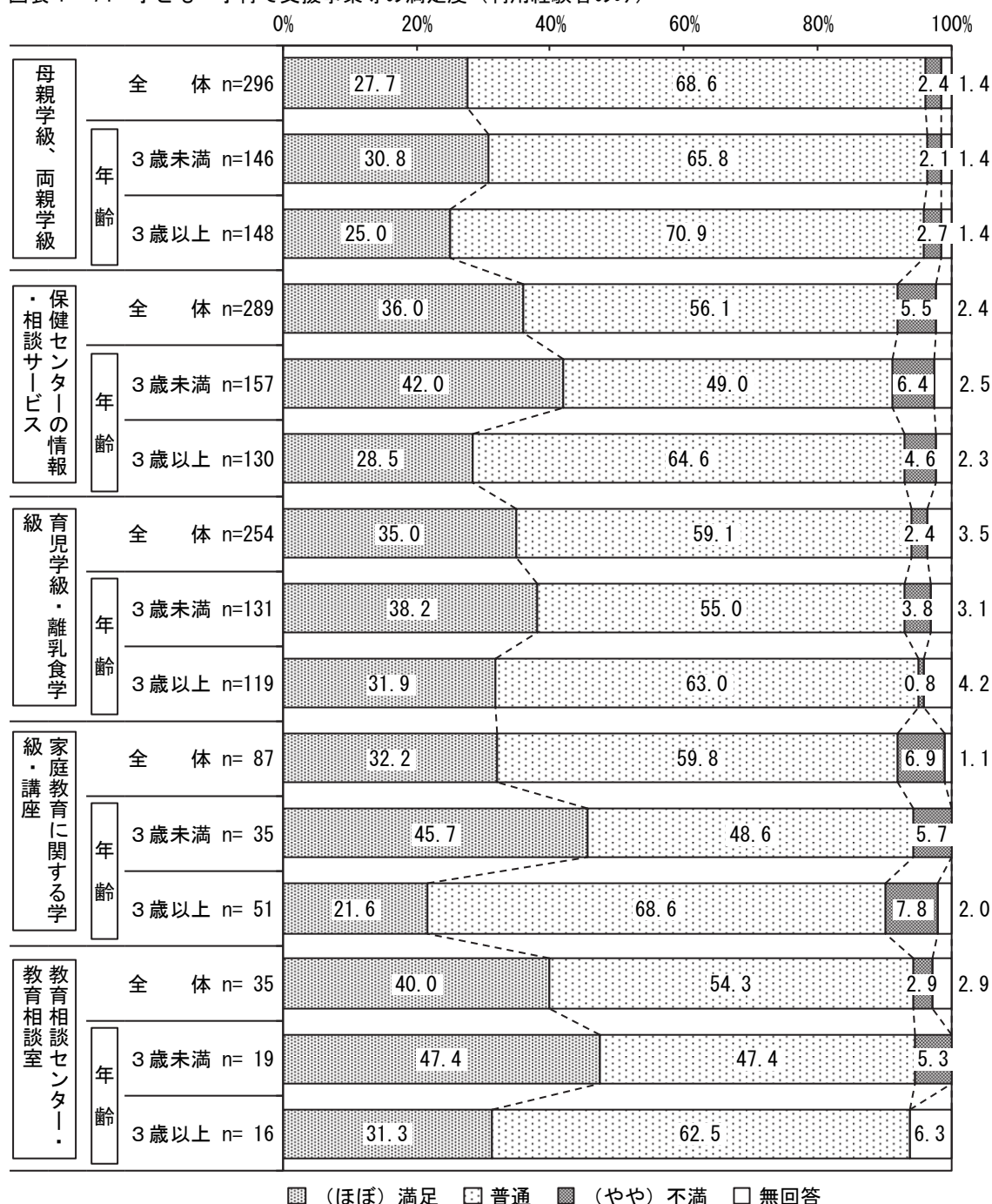


(4) 満足度

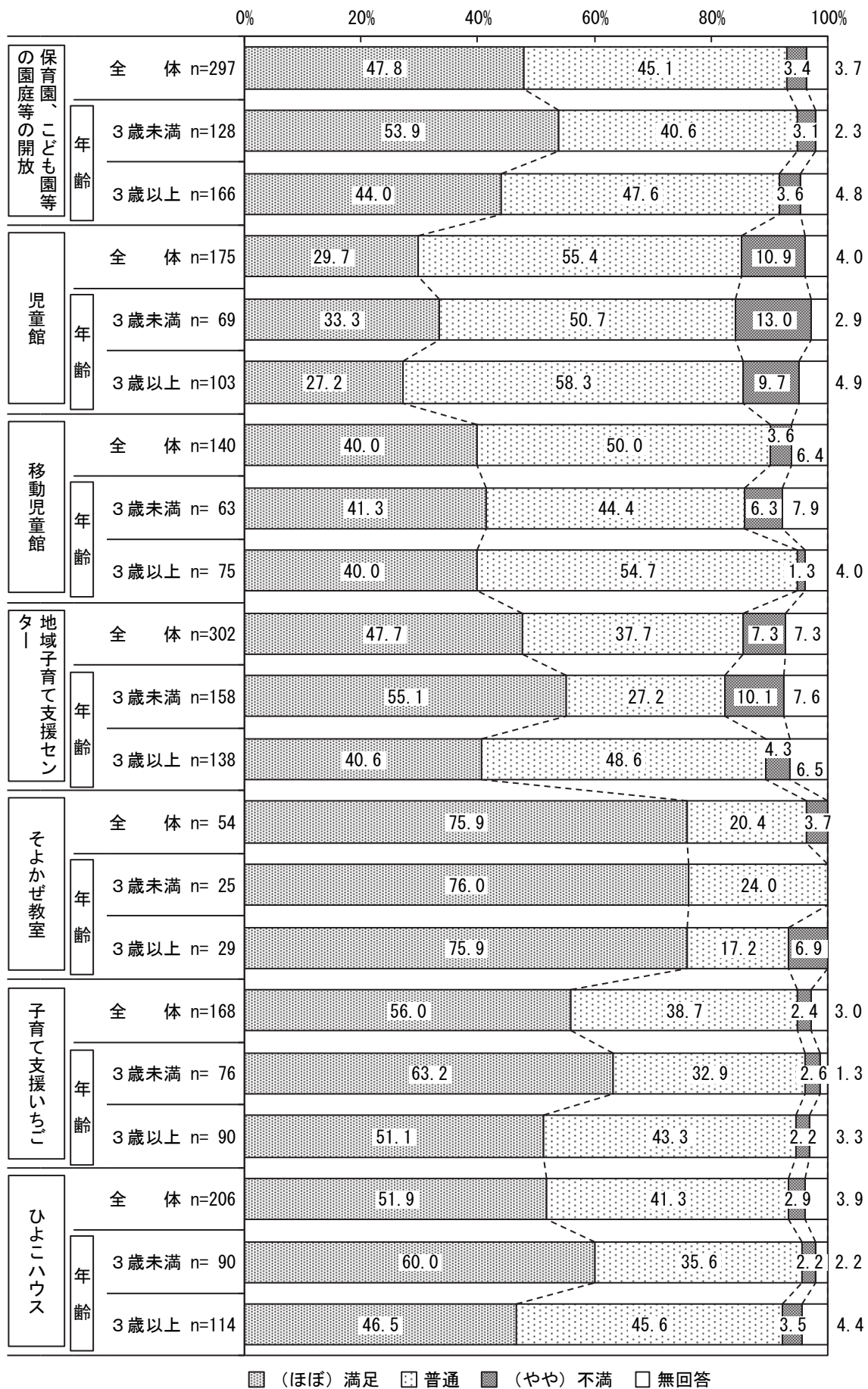
施設・事業を利用したことがある人の満足度については、「そよかぜ教室」の「(ほぼ)満足」が75.9%と突出して高く、「子育て支援いちご」「ひよこハウス」も「(ほぼ)満足」が過半数を占めます。「(やや)不満」が10%以上となっているのは、「児童館」「町民プールの水泳教など」「子育て応援ガイドブックのホームページ」です。

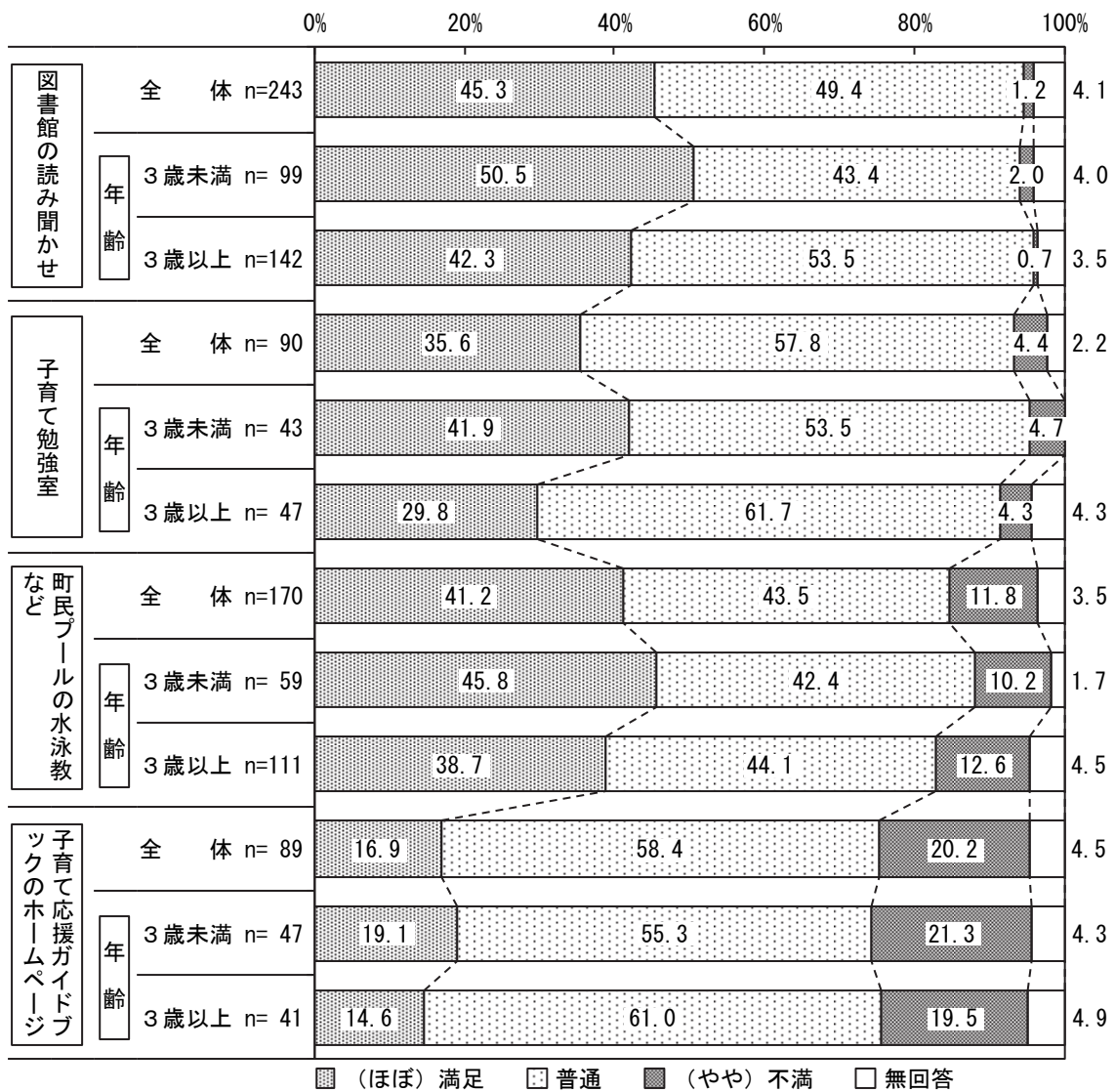
年齢別にみると、全ての施設・事業で3歳未満が高くなっています。

図表 1-74 子ども・子育て支援事業等の満足度（利用経験者のみ）



■ (ほぼ)満足 □ 普通 ■ (やや)不満 □ 無回答





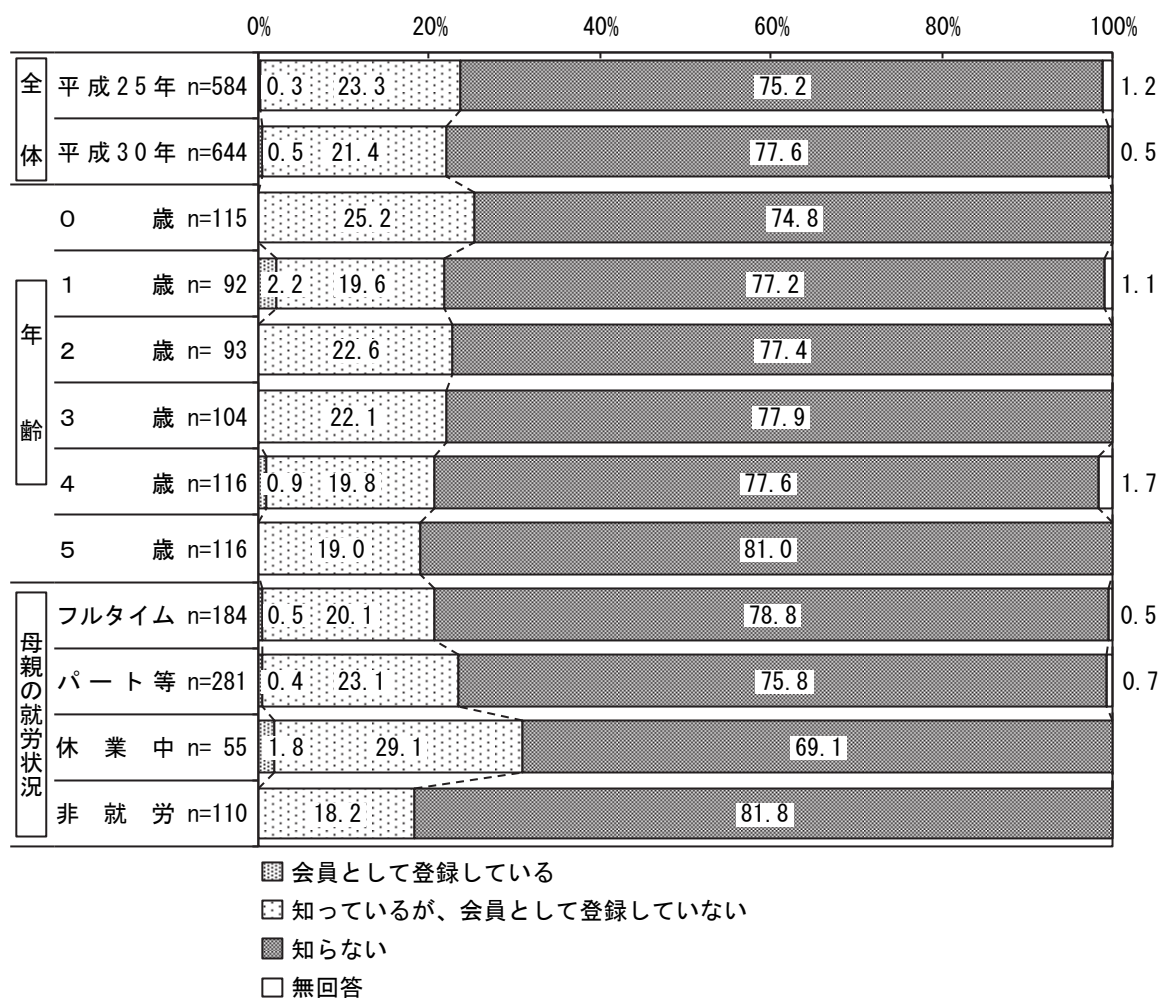
2 ファミリー・サポート・センターの認知度と利用意向

(1) ファミリー・サポート・センターの認知度

ファミリー・サポート・センターについては、「会員として登録している」(0.5%)と「知っているが、会員として登録していない」(21.4%)とを合計した<知っている>は21.9%です。平成25年と比べると、<知っている>は2.2ポイント低くなっています。

<知っている>が高いのは、子どもの年齢別では0歳、母親の就労状況別では休業中です。

図表1-75 ファミリー・サポート・センターの認知度

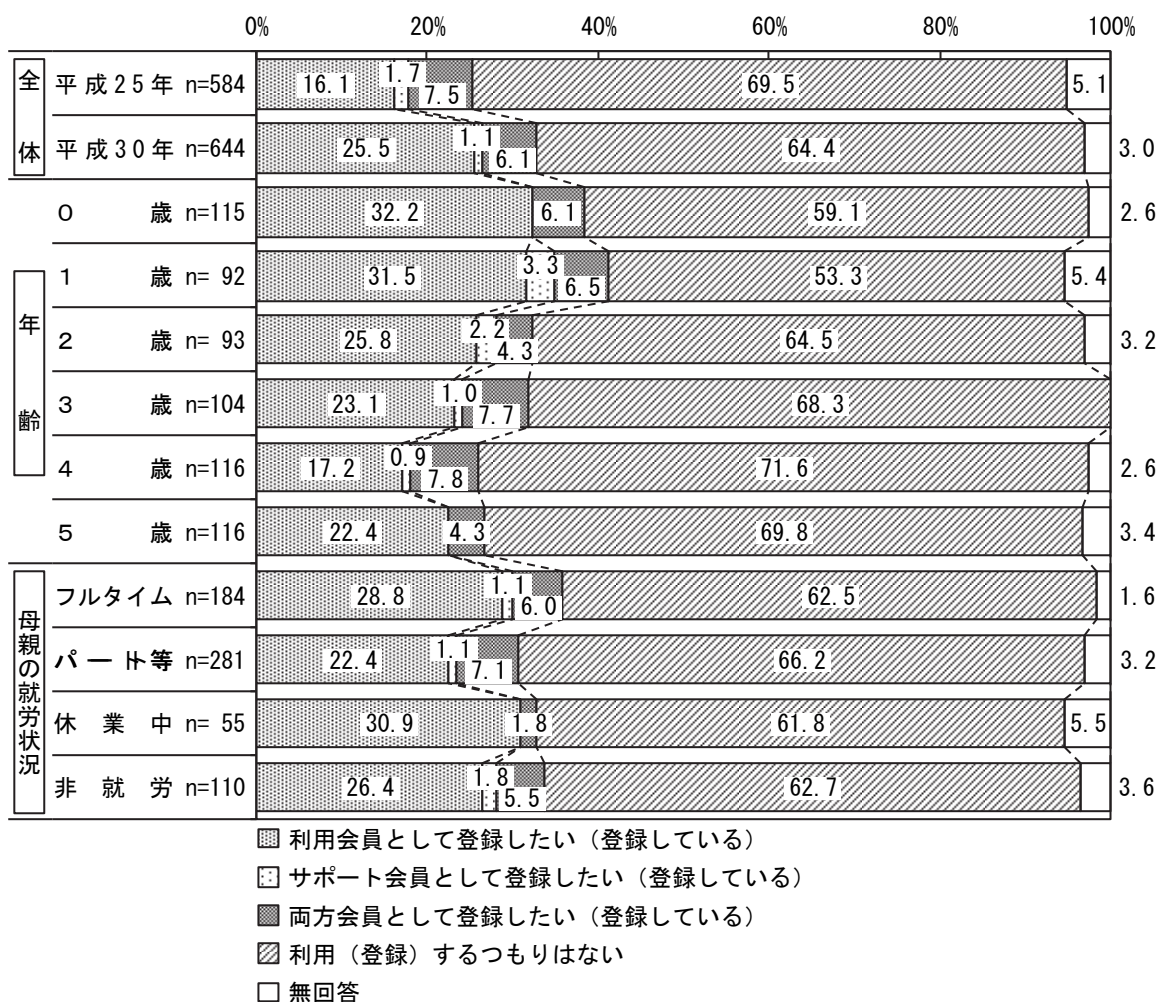


(2) ファミリー・サポート・センターの利用意向

ファミリー・サポート・センターを実施した場合、利用したいかという設問に対しては、「利用会員として登録したい（登録している）」が25.5%、「サポート会員として登録したい（登録している）」が1.1%「両方会員として登録したい（登録している）」が6.1%となっています。平成25年と比べると、「利用会員として登録したい（登録している）」が9.4ポイント高くなり、「利用（登録）するつもりはない」は5.1ポイント低下しています。

利用会員として登録したい（登録している）」が30%以上となっているのは、子どもの年齢別では0、1歳、母親の就労状況別では休業中です。

図表 1-76 ファミリー・サポート・センターの利用意向



3 改善してほしい・利用してよかったサービス

(1) 改善してほしいこと・利用してよかったこと

図表1-77は、「現在利用している保育園、認定こども園などの子育て支援サービスについて、改善してほしいこと、利用してよかったサービスがあればご記入ください」という設問に記述されていたことをまとめたものです。

図表1-77 改善してほしいこと・利用してよかったこと

【保育園】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・定員制限で入れないので、入れるようにしてほしい ・設備をきれいにしてほしい ・園内（教室内）の環境・衛生面 ・教員数を増やしてほしい ・行事では何より、子どもの笑顔を大切にしてほしい ・園児が多すぎる ・就労するために入園しているのに、親が参加する行事が多く、風邪で休みがちな上に、さらに休みを申請するのは大変 ・駐車場を増やしてほしい ・教育面にも力を入れてほしい（有料でもいい。外部講師を招く等） ・教育面に力を入れてほしい（養護に偏りすぎ） ・教育的要素をもっと取り入れてほしい（2件） ・保育参観が少なすぎる ・平日の保護者出席を減らしてほしい ・保護者役員はいらない ・各週でもいいので、土曜日も全日利用できるとありがたい ・土曜日を昼間ではなく、15:00か16:00くらいまで預かってほしい ・土曜日1日、保育してほしい（2件） ・祝日も保育してほしい ・走り回ったりするのに、角があったり、危ないと思う部分が多々ある。クッション等を付けてほしい ・運動場が狭い ・園庭が狭いこと ・養老小学校区に近い保育園がない ・認定こども園との交流。教育内容の統一 ・土曜日の行事を減らしてほしい ・完全給食にしてほしい ・給食のご飯持参をやめてほしい ・子育て支援の場所を増やしてほしい ・バスに乗せてほしい ・ざっくりでいいので、何時頃に何をしたか等、日々の様子をもっと教えてほしい ・連絡帳だけでなく、口頭で今日はどうだったとか教えてほしい ・年少・年中・年長の3年保育にしてください 	<ul style="list-style-type: none"> ・開放 ・子どもの成長を少し離れることで、より感じることができた ・子どもの成長を教えてくれる ・子どもの成長を感じられる ・できることが、増えた ・友だちと遊ぶこと、片付けができるようになった ・トイレができるようになってうれしい。 ・急な預かりでも対応してくれる（2件） ・融通が利く ・利用時間の自由がきくこと ・仕事を続けることができる（2件） ・仕事に専念できる ・仕事復帰のため1歳未満でも受け入れてもらえた ・パートに行ける ・利用することで、就労可能なこと ・職員の皆さんが、親切で安心 ・子どもの様子をしっかり見ていてくれて安心です ・相談にのってくれる ・バス送迎があるので助かる（4件） ・車を持っていないので、バス送迎はありがたい ・毎日やっている支援センターは、気軽に行けて、大変助かっている ・人見知りが減った ・季節毎に行事を行ってくれる ・園の行事を楽しんでいる ・小学校との連携がとれていて、スムーズに入学できた ・乳幼児期から預かってもらえたので、早期に仕事復帰できて助かりました ・親子共々、先生が親身になって教育していただけた ・いろいろな体験ができる。友だちもできて、色々、学んでいます ・家庭だけでは、経験し得ないことをさせてもらえる。きょうだいがいなくても、上の子どもたちがきょうだいのよう。社会勉強になっている ・いいなと思える先生がいること ・親の負担が少ない ・子どもが喜んで、毎日、行ってくれること ・園に行くのが、楽しそう ・子どもを預かってもらって助かる

<ul style="list-style-type: none"> ・耐震対策をしっかりとってほしい ・預ける際の、短時間・長時間の判定に通勤時間も含めてほしい ・料金が安い ・年齢に合わせた遊具を設けてほしい ・職員の対応を共通してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に子どもを見てもらえた ・養護面で温かい保育、見守りをしていただいた ・リフレッシュできる ・子どもが少ないので、保育が一人一人行き届いているように思える ・色んなことを覚えて帰ってくるのでありがたい ・土曜日も午前中あること
--	---

【認定こども園】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・定員制限で入れないので、入れるようにしてほしい ・未就園児（下の子）がいる家庭の上の子に対する一時預かり、延長保育等を、下の子が1歳までと限定しないで、もっと利用しやすいようにしてほしい ・全ての認定こども園で、未満児も保育してほしい ・家の前にあるのに使えない。わざわざ車を出して、遠くまで送らなくてはいけない ・テレビをやめてほしい ・保育園の時は、参観等が多くて良かったが、こども園になってから格段に少なくなってしまったのが残念 ・親の参観を増やしてほしい ・子どもの日常生活の姿をもう少し見たい ・子どもたちの行事が、もっと見られるといいなと思います ・おもらしして、汚れたズボンやパンツをそのまま袋に入れるのではなく、簡易的でもいいので、洗ってほしい ・トイレトレーニングをしてほしい ・園での子どもの様子が分からない ・平日の保護者出席を減らしてほしい ・平日の行事をやめてほしい。預かってもらって、仕事ができる環境でなくなってきている ・平日の行事が多いので、土曜日にしてほしい ・親参加の行事が多すぎる（2件） ・行事を少なくしてほしい ・先々の行事の予定は、早めに教えてほしい ・行事や参観の日を、曜日が偏らないように、年間を通して調整してほしい ・保護者役員は要らない ・駐車場を設けてほしい（3件） ・駐車場を整地してほしい ・駐車場が狭い ・台風で警報が発令された際、仕事は休みではないので、園で預かっていただけたら助かる ・台風ですぐに、休みになる ・お盆や春休み等、延長を利用してほしくないという先生方の気持ちが透けて見えて心苦しいです。先生方も大変だとは思いますが、仕事が休めず、快く受け入れてもらえると嬉しいです ・16:00を過ぎると延長料金がかかってしまうこと ・延長保育に料金が発生すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を使っていろいろな遊びをするようになった ・いろいろな遊びをたくさんしてくれるので、良かったです ・外遊びや、季節に合ったイベント等をしていただいて、子どもも楽しんで行っている ・開放 ・とても子どもの成長を感じられる（2件） ・子どもの成長を感じられる（3件） ・上の子の学校行事で、小さい子を連れて行けない時、一時預かりは本当に助かる ・先生が細かく、子どものことを教えてくれて、大きな行事の度に、成長を感じられる ・ノートで、出来事を報告してもらえる ・子どもの成長について、とても温かく見守ってくださる ・送迎時にほぼ毎日、先生から子どもの様子が聞ける点 ・子どもの様子を教えてくださり、丁寧に対応されている ・子どもの成長を助けてくれる ・子どもの発達が促されたこと ・子どもが色々、覚えて帰って来たりして、できることが増えたこと ・お友だちができたこと ・親子とも、友だちができたこと ・子どもに友だちがいっぱいできて楽しそうにしている ・子どもと離れるのは寂しいですが、子ども同士の関わりや、自分でできることが少しずつ増えていくのは嬉しいです ・自立ができた。言葉が増え、集団生活でのルールが分かった ・団体行動ができるようになった ・土曜保育 ・延長保育 ・両親が働ける ・朝早くから受け入れてもらえ、とても助かっています ・子どものやりたいことに応え、発達に合わせた遊びをしてくれる ・子どもが楽しそうに、通園している（3件） ・子どもがのびのびと楽しく園で過ごせていて、よいです（2件） ・子どもがすごく楽しんでいること

<ul style="list-style-type: none"> ・降園時、園庭開放してくれるのは、ありがたいが、なくてもよい。終了時間を早めに設定してほしい ・先生によって指導にムラがある。園児の前で、先生同士の指導で怒鳴るのはやめてほしい ・常勤の先生を増やしてほしい。年長なのに、途中で担任がいなくなるのはおかしい ・保育教諭不足のため、資格がなくとも保育者になれるため、不安もある。保育レベルにばらつきが出ることもあるのではないか ・スタッフの確保 ・園長にふさわしい人間を配してほしい。子どもの教育上、よくない ・園長先生が言うことは、全て正しいという感じがよくない。園長も3年くらいで交代すべき ・口頭での伝達による情報の漏れ ・年長までのクラスをつくり、1つの園で卒園できるようにしてほしい。 ・1号認定でも15:00までのところと、時間が違うのはどうして？ ・現在、1号として利用。幼稚園だったころより、迎えの時間が早い（子どもが満足していない）。夏休みにプールを開放してほしい（親同伴でも可）。教室の清掃（教員が増えれば、改善できるのでは？） ・9:00～14:00の預かり時間は短いので、15:30までにしてほしい ・預けられる時間を長くしてほしい ・預ける際の、短時間・長時間の判定に通勤時間も含めてほしい ・保育時間内の担任の出張をなくしてほしい ・担任不在 ・土曜日、利用できる場所を増やしてほしい ・土曜日は、別の子ども園しか利用できないこと ・土曜保育を頼むとき、提出する用紙を記入する部分をもう少し少なくするか、毎回、書くことは同じなので、名前と日付の記入だけにしてほしい ・希望を出さなくても土曜日、利用したい ・就労による土曜日の利用しかできない ・土曜保育が厳しすぎると思う ・土曜保育を再開してほしい（母親のみ仕事の時は、預かってくれない） ・土曜の預かりが、以前、各園だったのが、まとまり利用しづらくなった（遠い） ・仕事との両立が大変なので、土曜保育の弁当持参をなくしてほしい ・急に仕事が入るときもあるので、連絡したらみてもらえるとうありがたい ・祝日も保育してほしい ・預かり時間帯 ・お盆休み、正月休み中にある、希望保育期間に、仕事があったが、子どもを預かってもらえなかった。一体、どういう場合なら、預かってもらえるのか、しっかり決めてほしい。まるで、願いすれば預かってくれるような書き方はしてほしい ・滑舌が悪く病院に通わないといけないなら、早く 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが喜んでいる ・ときどきある手作りのおやつ等も、子どもは喜んでます ・一人で遊ぶ力が身についた ・先生が子どもにとっても親身になってくれるので、安心して預けられます（4件） ・先生が熱心。特に園長先生 ・先生方がハキハキと明るく接してくれる。安心して預けられる ・明るく、優しく、おおらかに子どもに接して下さるので、満足しています ・子どもに優しく接して下さる ・先生方は優しく、細かいところまで見ていただけている ・いい先生が多い ・3号認定の現在は、フルタイムで働いても長時間、子どもを預かってもらえる。子どもの成長を助けていただいていると実感しています ・地域との交流や就学の場との交流がある点 ・小学校との連携が強化されてきた ・周りの人との関わりが持てた ・よく相談にのっていただけ、融通も利いて、ありがたいです ・集団生活ができるようになった。身についた力がたくさんある ・行事や友だちとの関わりを通じて、社会でのルールを教われること。第三者からなら、子どももちゃんと聞けるので ・友だちができた ・生活習慣、家だけでは学べないことが身に付いた ・学校行事で迎えが遅くなくても対応してもらえる ・利用することで、両親共働きに出ることができた ・預かってもらえる時間が多くなってよかった ・時間の融通が利く ・園庭開放でお友だちと、楽しそうに遊んでいる。そこで、親同士の交流も深まる ・友だちとの関わりが学べること ・同年代の子どもと遊べる ・集団生活をするので、できることが増えた。お友だちと交流できる ・お箸の使い方や、お絵かきが上手になったこと ・体を動かしたり、子どもの意欲を大事にする取組がいいと思う ・家庭セミナーのように、保護者の会の学習の場が設けられたこと ・教育もしてくれるのでいいと思います ・幼稚園がなくなったので、きょうだいと一緒に通園できた ・年長まで同じ園で過ごすことができる ・公立なので、教育方針や目的、育てたい姿等が、明確で安心できる ・家ではなかなかできないことをやらせてもらえる ・2歳からお世話になり、たくさん社会性を身に付けられたと思う ・パートに行ける ・安心して家事や仕事ができます ・いろいろな活動をしてもらえること
---	---

<p>言ってほしかった。あと2～3ヶ月で卒園なのに、何ができるのか。すぐ、治るならいいが…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く、新しい園舎になってほしい（2件） ・園庭や設備を新しくしてください。古すぎる ・設備が古い ・遊具の修理 ・元幼稚園舎の利用のためか、年代が切り替わるためなのか、曖昧だったり、母子家庭に不利な内容が多い ・園舎を早く1つにしてほしい ・園舎が分かれていること ・園舎が1つになっていないことで、行事や送り迎え等で不都合を感じる点がある ・保育園と同じ園舎にしてほしい ・上の子と別の園舎になる ・園内で流行、または発生があった感染症は早めに知らせてほしい。同じ症状があれば、もしかしてと考えることができる。情報がなかなか入らないのが困る ・耐震対策をしっかりとってほしい ・保育園と幼稚園が合併したので、規模が大きくなり、行事を行うと時間がかかり、大人の人数も増えて面倒になった ・保育園から、認定こども園になったことで、教育面が全面に出ている気がする ・運動会は、半日（弁当なし）で計画してほしい ・一時預かりの料金について、1号と2号の1時間当たりの額を同じにしてほしい。給食費が違うのもよく分からない ・料金 ・料金が高い ・給食時に、お茶を出してほしい ・トイレが汚い ・施設。特にトイレの数、トイレトレーニング用の小さい子ども用 ・オムツ等の処分もしてほしい ・エアコン故障への対応が遅かった ・園庭の安全面（ロープは危ない） ・挨拶 ・アンケートに要望を書くが全然、反映されていません ・教育的な部分。平仮名・片仮名等教えてもらいたいです。カルタの宿題が出たけど、読めない子もいて、困っていると聞きました ・就学前の教育をもう少し強化してほしい ・ベースが保育であるため教育面（元々幼稚園で行われてきた内容）を充実させてほしい ・年長クラスの内容を充実させてほしい。就学前に身に付けたいことが、全くできていない。以前の保育園の延長になっているだけ ・教育面に力を入れてほしい。他園との差が出てしまいそうで心配 ・認定こども園になってから、写真の希望販売がなくなってしまったので、是非、再開してほしい ・保育に欠けている子を預けているのに、平日の保護者の負担が大きい。入園式に毎年、親を参加させるのは、すぐにやめてもらいたい。子も親も慣 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも子育てを支えていただきありがたいです ・平日、たくさん遊び、学び、本当に感謝しています ・柔軟に対応していただけることが、ありがたい ・先生がこちらが不安だと思っていることを、気にかけてくれている ・利用していなければ、心に余裕が持てず、もっとイライラしていたと思う ・自由ですが、参観日が多いので、子どもの様子をよく見に行ける ・バスで送迎してくれる
---	--

<p>習的に、服を用意しなくてはならないので、経済的負担が非常に大きい。午後も保育なしとなるのも、保育園としての役割を果たしていないのではないか。各種行事もなるべく土・日曜開催にしてほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船附こども園の2歳児の保育室はトイレが室内にないばかりか、一番遠い場所にあるので、改善してください。トイレトレーニング等、大切な時期の子どもたちが過ごす部屋です ・保育士の数が足りていないので、増やしてください。足りていない分、保護者会役員に負担をかけるすぎると思います ・卒業アルバムをつくる作業が園でしかできなかったので、自宅でもできたら良かったと思う ・1日に起きたことをもっと詳しく聞きたい ・「三世帯が当たり前…」という考え方の先生が多い気がする ・手続きについて、役場とこども園との説明が異なる時がある ・発熱時は、お迎えの時間まで、別室で待機させてほしい ・教育の仕方が足りていない ・保育の質の低下。公立、私立での内容の違い ・小学校と連携がとれていない気がする ・運動会の会場が狭い ・土曜日も、夕方までやっていると助かります。 ・2年保育、3年保育と園によって、異なり、制度の変わり目により、子どもが振り回されている。確定してから、実施してほしい。これにより、住んでいる小学校区から離れる子どもが増え、小学校入学時に、初めて揃う状況になっている。 	
---	--

【幼稚園】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの内容（絵等の制作内容） ・先生によって差がある ・役員等保護者の負担になることは、時代に合わせて軽減してほしい ・働く人にとっては、行事が多く大変だった ・なくなって残念です ・昨年まで、写真販売があったけど、今年からはなくなり、便りだけでは内容が把握できず、写真販売（L版）は、定期的にあった方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・お友だちができたこと ・姉が2人通い、本当に成長しました ・鉄棒の逆上がりや、言葉のしりとり、手遊び歌等、着々と覚えています。体力・知力がついていきます ・園の行事等、参加することが多く、子どもと関わられた。母親同士の繋がりも深くなった ・学校に入学する準備が、心も体もしっかり整った

【ファミリー・サポート・センター】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・養老町でも、実施してほしい（2件） ・知らなかったなので、もっと情報を知らせてほしい ・存在すら分かりません。周知度を上げ、利用しやすくしてください ・早めの対応を。大垣市との共同実施を 	

【病児・病後児保育】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・今現在、養老町にはないので、是非、養老町でも行ってもらいたい（10件） ・養老町内にあると利用しやすい ・場所が遠い ・大垣市のように、母子家庭は無料で利用できるようにしてほしい ・病院内の一室にあれば、便利なのではないでしょうか ・手続きを改善 ・このような保育があることが、わかるように子ども園等に、もっとアピールしてほしい（申込み方法等） ・第1期計画で、他市町村のものを紹介したり、利用補助をするだけで、実施したとするのは、おかしいと思います。町内でサービスを提供して、初めて実施したと言えるのではないのでしょうか。町外で利用するのは現実的ではありません。 ・定員をたくさん増やしてほしい（2件） ・インフルエンザの利用の規定が厳しすぎて、使えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・とても良かった ・安心して任せられる ・安心して仕事に行けるので、すごく助かります ・体調管理をしっかりやってくださいました

【子育て支援センター】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し部屋を広くしてほしい。または、部屋を増やしてほしい ・とにかく狭い。子どもに対してあの広さは…。駐車場も狭い ・もう少し、きれいにしてほしい ・各園に子育て支援センターをつくっていただけると嬉しい ・1度利用したが、ただ園庭で遊んでいるのを見守っているだけで、公園に行くのと変わらないと思った 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子ともに、顔馴染みの友だちができたこと ・同じ年代の子どもと友だちになれたり、親同士も情報交換ができて良い ・他の子どもと同じ空間いることで、刺激を受け、自宅では見られない表情や動きが見られた ・先生方が親切で、よく相談にのってくださいました

【その他】

サービス名	改善してほしいこと	利用してよかったこと
ベビーヨガ	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の筋トレになっているので、ベビーヨガではない ・クリスマスに手がたスタンプをしたが、子どもが手を舐めるのに、インクを付けてやるのは、どうかと思う 	
保健センター	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師さんのアドバイス・対応が参考にならないので、もう少し勉強していただきたいです 	<ul style="list-style-type: none"> ・身長・体重測定に利用して、成長を確認できて良かった
女性の共生参画講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミサポ等、養老で利用できないことを、お話しされても…という感じ 	
養老町の支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・先生と仲の良い親たちが、すでに関係性ができ上がっており、入りづらい雰囲気がある 	

いちごハウス	・ 保育施設に入所している児も利用したい	・ 同じ年の子どもを持つ親同士で、相談できてとても助かることがあります
ひよこハウス	・ 毎回、同じ玩具のため、種類を増やす等して、マンネリ化しないようにしてほしい ・ 聞いていた時間より早く終わってしまうことがあるため、もう少し、充実して遊べる時間がほしい。回数を増やしてほしい ・ 保育施設に入所している児も利用したい	・ 同じ年の子どもを持つ親同士で、相談できてとても助かることがあります ・ 同じ子育て世代の親と交流できるのが良い。子どもも友だちと触れあって、いつもと違う環境で遊べ刺激をもらっている。利用する人が増えると、もっと活気が出ていいと思う ・ 園に気兼ねなく入ることができ、生活を少し見せてもらうことができた
そよかぜ教室	・ 時間通りに終わってほしい	・ 子どもが家で、一人で過ごしているよりも、教室に行って、色々なことを体験して、回を重ねる毎に、できることが増えていっているのので、このまま続けたい。何より、子ども自身が楽しそう
児童館	・ いつでも遊べるスペースがほしい ・ ひどすぎる	
町立図書館	・ 赤ちゃん連れや小さい子どもが使いやすい、お手洗いにしてほしいです。お座りができる月齢の子を連れて行ったとき、お腹が痛くなりお手洗いに困りました	
町民プール	・ 町内と町外の人の使用料が一緒なのはおかしい。町内の方は、使用しやすいように安くすべき	
一時預かり	・ 養老町でも実施してほしい	

(2) 改善してほしいこと・利用してよかったことの見解の件数

図表1-78は、子育て支援サービスについて、改善してほしいこと、利用してよかった点について記述していただいた件数をまとめたものです。保育園、認定こども園について、多くの要望や感謝の記述がありました。

図表1-78 意見の件数

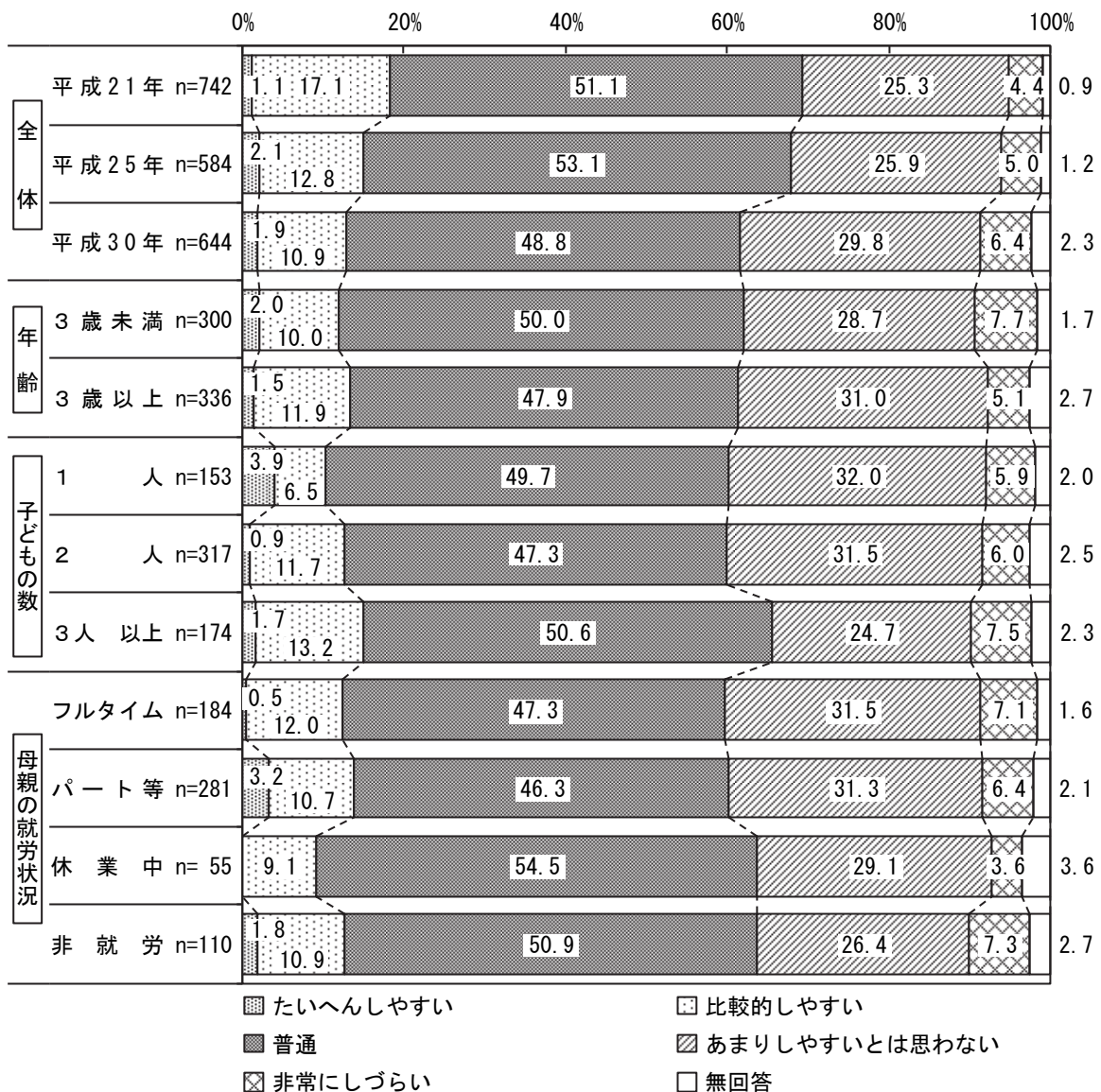
単位：件

サービス名	改善してほしいこと	利用してよかったこと
保育園	38	45
認定こども園	108	84
幼稚園	6	5
ファミリー・サポート・センター	5	0
病児・病後児保育	20	4
子育て支援センター	5	4
その他	16	6

4 養老町は子育てのしやすいまちか

「養老町は子育てのしやすいまちだと思いますか」という設問に対しては、「普通」が48.8%を占めています。「たいへんしやすい」(1.9%)と「比較的しやすい」(10.9%)を合計した<しやすい>が12.8%、「あまりしやすいとは思わない」(29.8%)と「非常にしづらい」(6.4%)を合計した<しづらい>が36.2%となっています。平成21年および平成25年と比べると、<しやすい>は低下しており、<しづらい>が高くなっています(図表1-79)。

図表1-79 養老町は子育てのしやすいまちか



図表1-80は、<しやすい>と答えた人の「子育てしやすい理由」、<しづらい>と答えた人の「子育てしづらい理由」の記述をまとめたものです。

図表 1-80 子育てしやすい理由と子育てしづらい理由

【子育てしやすい理由 (65件)】

<p>【豊かな自然・子育て環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然がたくさんある (7件) ・自然豊かで、おだやか (2件) ・のんびりしている (2件) ・0歳児を連れて役場などに行っても、泣いたら気遣って、面倒を見てくださったり、対応がすごく優しかった ・田舎なので、のどか ・のびのび遊べる場所がある ・車が少なく、子どもを遊ばせやすい。 ・危険が少ない気がする ・公園もある ・養老こどもの国は、きれいに整備された <p>【サービスが利用しやすい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども園や保育園に入園しやすい (5件) ・こども園が近くにあるため ・こども園が多くある ・こども園に入園できる ・希望の園に入園できた ・待機児童が少ないと思う ・子どもが少ないから、保育園に入りやすい。のびのび育てられる ・保育園等、定員割れしているのでしょうか。預かり時間等、おらかな園が多いように思います ・フルタイムで働くのに、時間を合わせた保育をしてくれる、育休中も保育を利用できる ・一時保育がときどき、空いているので、利用可能 ・気軽に保健センターで相談でき、対応してもらえる (2件) ・支援センターや母親学級が充実している ・子育て支援センターの先生方が、とても良い方ばかりです。そこで、ママ友や情報交換がたくさんできました ・近くに支援センターがあり行きやすい ・いちご・ひよこ・支援センターは、どれもアットホームな感じで、行きやすい。名前もすぐに覚えてもらえて、色々話しかけてもらえる ・近くに幼稚園、保育園、小・中学校がある 	<p>【地域の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くに知り合いが多いので、安心 (2件) ・家族が養老に住んでいて、助け合っている ・近くに祖父母がいるから ・地域の人が声をかけてくれる ・地域のコミュニケーションがとれている ・親切 ・相談できる人生の先輩がたくさんいらっしゃって、自然の中でのんびりと生活できる ・いろんな行事があって、町の人と仲良くできる ・地域の人の協力がある ・地域の人が見守ってくれる ・三世代家族が多く、地域で子育てをしているのを感じる <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学まで、医療費無償 (2件) ・こども園が都会に比べて安価 ・子どもに近く、親身になってくれるところ ・子どもの人数が少ないので仲のいい友だちができてやすい ・園や学校だけでなく、町としての教育行事に力を入れてくれているから ・気楽でいられる ・地元だから ・保育園やこども園等、就労している親は安心して子どもを預けることができるから ・小児科の先生が優しい ・園や学校が地域と連携して、行事を行っているから ・食物アレルギー児への給食対応が助かります ・手続きがスムーズ ・支援体制が充実している ・現在は、特に困っていないから
---	---

【子育てしづらい理由 (248件)】

<p>【子育て支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援センターの数が少ない (5件) ・支援センターが遠い (4件) ・支援センターが古い ・支援センターが大垣市に比べて少なすぎる ・子育て支援センターが充実していない ・支援センターが土・日曜日もやっていると助かる ・支援センターは、時間が短かすぎたり、融通が利かない 	<p>【保育園・こども園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土・日曜保育がないため (2件) ・早い時間から預けられる保育園がない (2件) ・保育園の空きが少なかった (未満児) (2件) ・預かってもらえる時間が短い (朝30分早く、延長1時間が理想) ・延長保育の時間が短い ・私用とかでは、預けにくい雰囲気がある ・保育の利用条件が厳しすぎる ・保護者の負担が大きい
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・保育園も祖父母の協力が前提で成り立っていると思う ・年長まで、1つの園で保育を受けることができない ・仕事をしたいのに、こども園に10か月で入れなかった ・こども園に入れるのに、2号では親が必ず働かないといけないから。昔は親が働いていなくても自由に保育園に入れていた。子どもの集団行動を学ぶ場として保育園を存在させてほしい ・最近少し解消されてきたが、小学校に入る前に、保育園、幼稚園両方行かなければならない制度がすぐく変 ・こども園の行事に、祖父母が入りすぎ ・園の数が少ないため、選択肢がない ・幼稚園が利用できない ・近くに保育園がない ・きょうだいで違う保育園に通う子が多い ・幼稚園、保育園、小学校の連携が強くあることで、他の地域の幼稚園に行きにくい（小学校に入った時、仲間外れになる心配） ・こども園の時間帯 ・保育園の前の道がでこぼこ過ぎる <p>【保育料の軽減・無償化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育料が高い（3件） ・3人目の保育料がいるから（2件） ・こども園、小・中・高と4人子どもがいても、年が離れているため、フルに保育料を支払ってきました。子どもがいて楽しいけれど、3人目以降の保育料は無料にしてほしいです ・こども園の無償化。早くしてほしい ・認定こども園になって保育料が上がった ・所得によって第3子の減免がされない ・保育費半額のカウントの幅が狭すぎて不公平 <p>【留守家庭児童クラブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童も4年生までしか、みてくれない ・学童の制度に難有り ・のぞみ教室が4年生までで、きょうだいがいると困る <p>【病児・病後児保育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児の保育サービスがない（3件） ・子どもが病気の時に、預ける場所がない <p>【その他の子育て支援サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の市町村と比べて子育て支援体制が遅れている（ファミリーサポート、病児・病後児保育等）（3件） ・サポートが手厚くない（3件） ・ファミリー・サポート・センターがない（2件） ・福祉サービスが他市町村より少なすぎる（2件） ・急な一時預かり等の整備がない ・一時預かりがない ・サービスを受けられる場所が少ない。選べない。情報が入ってきにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業がいまいち。もっと画期的なものなら参加したい。他町村はもっとおもしろいことをしていると思う。新しいことを取り入れるべき。ただ、やっているだけでは意味がない。HPも、どれが最新なのか分からない。ひとつに絞り随時更新すべき。養老町は古い ・初めての子育てで分からないことばかりです。例えば、離乳食教室に参加しましたが、期待外れで、色々実践できると思っていたのに、（エプロン、三角巾着用だったため）行ってみると説明ばかりでした。結局、よく分からないまま終了しました。大垣市は、前・中・後期に分けて教室があるため、親切だと思いました <p>【施設が不十分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・子育てに対して、町の施設・設備が不足しているから（2件） ・学校等の施設・設備が充実していない ・IT関係の設備が整っていない ・施設がすべて古い ・公共施設が子ども連れに不親切なつくり。公民館のトイレは洋式トイレが少ない。オムツ換えスペースがない ・保育施設が古い ・保育施設が充実していない <p>【医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の小児科診療 ・小児科が少ない ・小児救急が診てもらえない（受付や電話で拒否される） ・耳鼻科・産院がない ・病院が少ない ・休日診療で幼児は診てもらえなかったり、かかりたい診療科がない ・信頼できる医療機関がない ・病院が18:00までというのが辛い <p>【公園・遊び場が少ない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くに公園や広場がなく、子どもを遊ばせるところがない（20件） ・公園がない、少ない（18件） ・近くに公園がない（12件） ・子どもたちが、安全に遊べる場所が少ない（7件） ・歩いて行ける距離に公園がない（2件） ・小さい公園が点在しない（遊具なしで、花壇だけでもいいのでほしい）（2件） ・幼児が安心して遊べる公園が少ない（2件） ・遊具のある公園が少ない（2件） ・公園等の施設が少ない ・小規模な公園がない ・公園がない。遊ばせる場所がない。サポートが悪すぎる ・公園が少ない。特に高田地区 ・公園が点在していて、歩いて行ける距離にない ・近くに大きな公園がない
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・小さな公園が管理されていない ・公園が少ないので、外で遊ぶことがない ・子どもの遊び場がない。犬の糞が多く道が汚い ・外での遊び場が少なすぎて、室内遊びが増えた ・外で遊ばせづらい（2件） ・子ども優先のものが少ない ・子どもが遊ぶところが、養老公園しかない ・就学前の子どもが遊ぶところがない ・環境が整備されていない ・駐車場も含め無料の広い公園や、遊水池のような水遊びができる場所が少ない ・いつも、大垣、神戸等の公園に行くことになる。子どもだけで遊べるところが少ない ・公園をつくってほしいと、このようなアンケートに何回書いても、つくってもらえなかった ・子ども用の施設がない（大型モールや遊び場があるといい）（2件） ・年長が使える体育系の遊ぶ場所が少ない <p>【児童館・図書館等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館がない ・児童館に魅力がない ・児童館が1つしかなく、1度行った時、居心地がよくなかった ・図書館、中央公民館等施設まで遠い ・他の市町村と比べて、図書館の本が少ない <p>【イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味がある「〇〇教室」等、平日しかやっていないので、参加したくてもできない（月1でもいいので、土・曜日にもやってほしい） ・もっと親子で気軽に参加できる企画がほしい ・イベントがよくあり強制参加 <p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報が入手しづらい（6件） <p>【居場所・交流の場が少ない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンが閉鎖的なイメージ ・休日等に連れて行ける場が少ない ・子どもだけで、気軽に集まれる場所がない ・大垣のキッズピアみたいな子どもと一緒に遊べる施設・（お座敷のある）レストランがない ・子どもを連れて、ママ友ランチをしたり、お茶等するお店がない ・交流の場所がない ・未就園児が気軽に集まれる場所が少ない ・地域の協力が少ない ・町の行事が多すぎて、役員続きで忙しい <p>【経済的支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費の無料が中学3年まで（9件） ・福祉医療助成制度の年齢を18歳までに引き上げてほしい（4件） ・医療費の補助期間が短い（3件） ・高校生の医療費を無料化してほしい（2件） ・医療費の助成が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種（インフルエンザ、その他任意のもの。）の補助が出ない（2件） ・助成金が少ない。町民のメリットがない（2件） ・チャイルドシートの支援がなくなった。大垣市と比べて、助成が少ない（2件） ・お金の支援が少ない ・子どもに対して、補助が少ない ・町からの支援が少ない ・支援があまり充実していない ・支援が少ない ・育休中の住民税の減免措置が行われていない ・ごみが有料（2件） <p>【障がい児等への支援が不十分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいや医療的ケアが必要な子どもに対して、非協力的 ・障がい児の療育や受け入れ先等、少なすぎる ・母子家庭へのサービス等が少ない <p>【習い事の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習い事をするのに、遠くまで通わなくてはならない（2件） ・習い事をさせる先が少ない（2件） ・習い事をするにも、買い物をするにも、立地的に不便 ・習い事をさせたいが、近場がない ・習い事は、町外まで行く必要がある <p>【学校、教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校まで遠い（2件） ・中学校が少なく遠い ・小学校まで遠い ・高校が少なく、大垣まで通学させると送り迎えが必要になる ・教育面で町外との差を感じる ・高校が近くにない ・PTA等、親への負担が大きい ・小学校にあがると、毎年、数件で役員をまわさないといけないので ・他の小学校まで連れて行かなければならないので、広幡小学校に支援学級をつくってほしい ・町民運動会、希薄 ・小学校のエアコン設置 <p>【地域の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が少ない分、地域のイベントでの親の負担が多い ・親同士の協力性がない <p>【地域の負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の会等、役員の仕事が多く子どもといる時間が減る（4件） ・消防団の集まりが、多すぎる（3件） ・地区の自治会、行事、強制的に子ども会もあり、休む暇がない ・町の行事が多すぎる。大垣市の方が少なかった
--	---

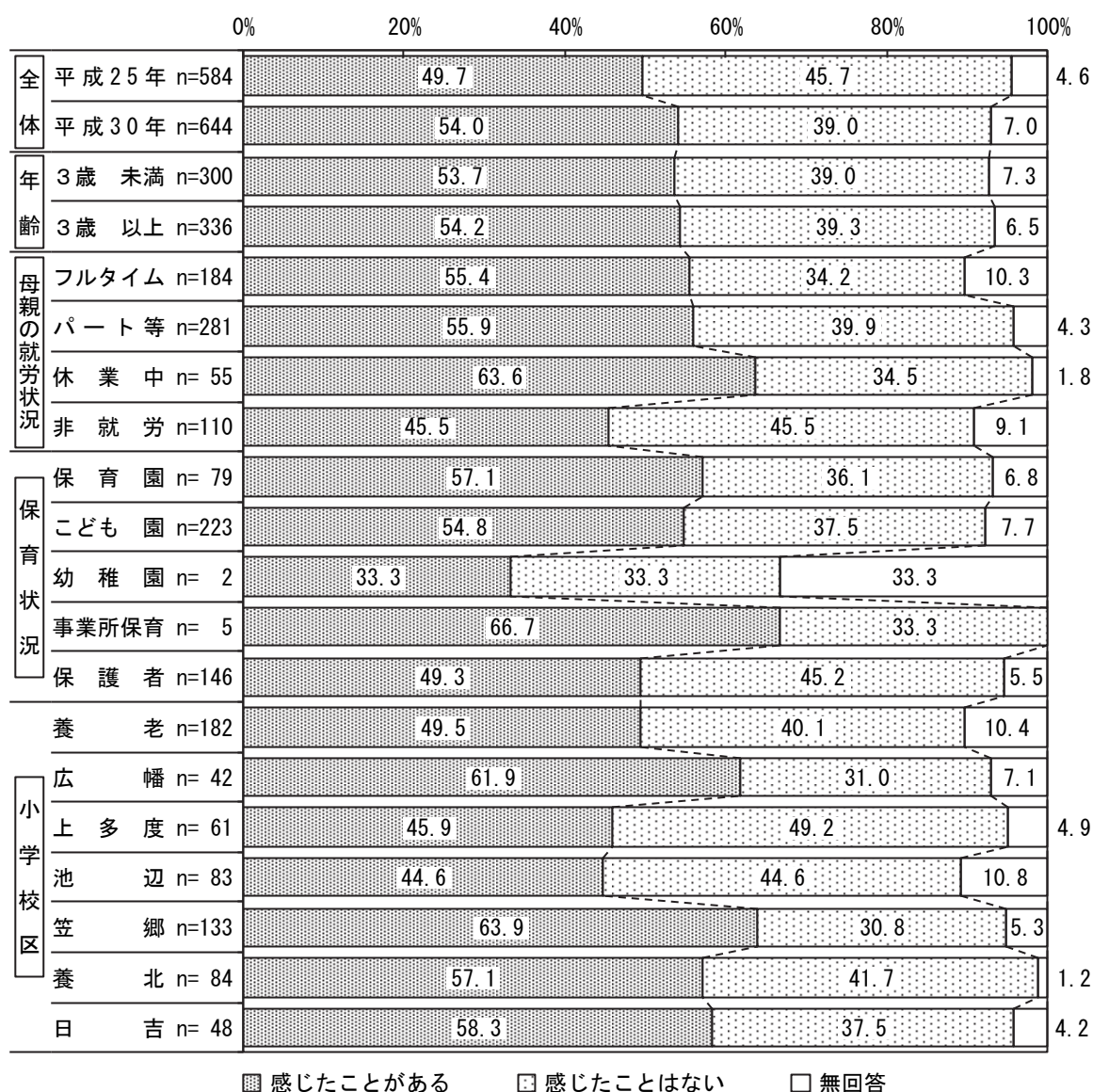
<p>【子どもが少ない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ない（6件） ・近所に同い年の子がいない ・近所に年が近い子どもが少ない ・若い親が少ない ・人が少ない。大人も子どもも少ない ・子どもが少ないため、学校、地域、子ども会の役目の負担が大きくて、子育てが楽しめない ・子どもの数が減ってきているので、こども園の人数も少なく、人間関係の広がりがあまりない <p>【他市町と比べて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣に比べて、支援が少ない（2件） ・大垣市のように支援を手厚くしてほしい ・大垣に比べて、子育てサービスが少ない ・大垣市に比べて、子育て世代へのサポートがない ・大垣市は子どもが体験できるセミナー等、事業がたくさんあっていいと思う。できるなら転出したい ・大垣から引っ越して来たが、比べると外に出て行きづらい。支援センターが遠い ・大垣市から引っ越して来たが、比べると子育て支援やサービスが少ない。特に未満児が参加できるサロンや身体をつかったり走ったりできる室内場がない。定期的な「いちご」や「ひよこハウス」はあるが、頻度が少なく予定が合わないと参加できない。人口の減少、特に子どもの減少が顕著で、使用できるサービスや支援が減りそうで、今後、子育てをしていくことにとても不安である ・大垣市と比べると取りかかりが遅いと感じる ・大垣市、岐阜市に比べると全然駄目 ・他の市町村と比べると何事も遅い ・幼稚園・保育園が少ない。公園もなく、未就学児が遊べる環境が少ない。一步、大垣市に出れば、様々な幼稚園があり、ホームページで教育方針等を調べられ、カリキュラムも様々あり、充実していると感じてしまう ・税金も水道代も他市より高い <p>【町の施策の方向性、窓口対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度が整っていない（2件） ・制度が曖昧 ・子育て制度が独特・町全体がお年寄りに優しく、子育てに重点を置いていないように思う（2件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに、力を入れすぎ ・子どもたちよりも、お年寄りに力を注ぐ町なのだと思う。いつも後回しで、やっつけ仕事が多い ・養老町は、予算関係もあると思うが、子どもよりも老人を大事にする町の印象が強い ・役場の対応が雑だった ・家庭に事情があり、色々、手続きする際、柔軟性や改善する姿勢があっても良いと思う。古いマニュアルではなく、他の地域で実施している活動やマニュアルを取り入れてもらえると、もっと良くなると思う <p>【環境・交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通が不便（2件） ・移動手段がない ・車移動が中心で、公園等、親子で遊べる場所に行きづらい。公共のバス等の使い方も子どもには、覚えづらい ・人通りが少ない。街灯が少ない（2件） ・路駐の車が多すぎて危ない ・田んぼが多く、冬は煙の中、登校が不安 ・雪が多い ・飲食店が少ない ・デリバリーがほとんどない ・閉鎖的 <p>【子育て全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに優しい、もっと優遇があって良いのでは ・仕事をしている母親が多く、孤独感を感じる人が多い ・子どもに色々なスポーツに、触れさせる機会がほとんどない ・子どもに対する支援がない。特にスポーツに対して ・少年団等の団体が少ない ・親参加の行事が多い ・保育、学童、時間・料金の検討 ・核家族には子育てしにくい ・行事ごとの親の負担が多い ・昔ながらが、抜け切れていないところ ・特化していることはないと思う ・同居していない母の負担が重い ・働いていると何もできない
---	--

5 子育て支援を感じたことがあるか

地域、園、学校、職場、行政の関係施設などにおいて、子育て支援をしてもらっていると「感じたことがある」と答えているのは54.0%です。平成25年と比べると、「感じたことがある」は4.3ポイント高くなっています。

「感じたことがある」が60%以上となっているのは、母親の就労状況別の休業中、保育状況別の事業所保育（事業所内保育施設）、小学校区別の広幡、笠郷です。

図表 1-81 子育て支援を感じたことがあるか



「支援してもらっていると感じたこと」の内容は、図表 1-82のとおりです。

図表 1-82 子育て支援を感じたことの内容

<p>【保育園・こども園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども園に預かってもらっていること ・こども園では、早い時間から預かってもらえる ・こども園での長期休暇の預かり ・こども園で、土曜日に預かってもらえること ・こども園では、とてもお世話になっている ・こども園の先生が、子どものことを考えていると伝わった時 ・こども園の先生は、子どもをよく見てくださっている ・こども園での様子を、先生が教えてくれる ・こども園の対応が親切 ・こども園で色々な人と関わり、教育をしていただいていること ・こども園の先生が親身になってくれる ・こども園で子育てのアドバイスをもらい参考になる ・こども園の保育士の方が、親にも子にも温かい ・こども園が好き ・未満児だが、こども園では、その年なりの成長を助けてもらっている。親の知識や関わりだけで、教えられないこともある ・こども園で、マイナスだと思っていた子どもの性格をプラスにとらえ、上手に引き出してくれた。副担任のおかげで、そこが好きになれた ・園が存在すること ・園にはいつもお世話になっている ・園での集団生活を通して、様々な能力が身につけてきたこと ・集団行動が出来るように、育ててもらっていること ・土・日曜日、年末年始も預かっていただけ ・土・日曜日の預かり ・就労中、預ける場所がある ・先生たちのおかげで働くことも出来、子ども色々な体験をすることで成長している ・仕事をしているので、園で預かってもらえることは、助かる（2件） ・働く親としては、定時まで子どもを預かってもらえているから ・こども園に預けて、教育していただいて、仕事が出来るのはありがたいです。 ・自分の仕事（パート）に合わせた、こども園での子どもの預かり時間 ・こども園では時間延長も受け入れてくれる ・こども園では、子どもの成長を、一緒に喜んでくれる ・こども園は途中入園でしたが、とても対応が良かったです ・子どもに色々なことを教えてくれる ・こども園で先生に相談しやすい（2件） ・就業時の保育 ・希望の保育園にすぐに入れた ・待たずに入園出来たこと ・保育園に入りやすい ・保育園では、ちょっとしたこと（病気）なら、預かってもらえたこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園に安心して預けられる（2件） ・保育園で日常生活の自立が出来てきた ・保育園、こども園を通して、自分のことを自分で出来るようになった ・保育園の先生が、親身なって相談にのってくれた ・保育園は、子どもの相談等、気軽に話せる先生が多い ・保育園で、子どもをみてもらえることが、支援と感じる ・先生が良く見てくださるので、親だけでは気づかない、我が子の新しい発見がある ・園、学校では、担任にもよるが、子どもの性格を理解し、指導してもらえること ・先生方が相談しやすい ・一時保育はとても助かる ・一時保育を利用したこと ・延長保育（4件） ・用事があった場合、園で一時的に預かり時間を延長出来るから ・長時間、子どもを預かってもらえているため ・子どもを預かってもらえること ・保育園の先生は、とても優しく、熱心で、ありがたい ・毎日、笑顔で安心して預けられるから ・子どもから園での話を聞いた時 ・仕事で子どもの園行事に出席出来なかった時、園長先生自ら子どもを帯同出来る人を探してくださった ・クリスマス会等の行事 ・季節ごとの行事 ・日常生活に必要なこと（手洗い、挨拶等）や、集団行動（協調性）を教えてもらえる ・子どものことを、しっかり見てもらえる ・しつけ、教育がきちんとしている ・自分では出来ない子どもの苦手な部分への指導をしてもらった ・仕事の終わりが遅い時 ・年の近い兄弟が3人いて、思うように遊んであげられなかったり、時間の余裕がなくて悩んでいる時に、園に通うようになって、子どもも活き活きし、私自身も余裕が出来た ・日中みてもらえる ・仕事が出来 ・子どもをいろいろな面で育ててもらっている（食べ方、挨拶、勉強等） <p>【子育て支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援センター等で、子どもの成長について相談にのってもらえたこと ・支援センターに行くと、他の母親と交流出来たり、保育士に相談出来ること ・支援センター等でアドバイスがいただけた ・支援センターで温かく話を聞いてもらえる ・支援センターは、親子ともに良い刺激もあり息抜きになる
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターが利用しやすい（一時保育、育児相談等）（2件） ・支援センターの先生が親切で、イベントも楽しい ・公園が少ない分、支援センターにはお世話になっている ・子育て支援センターは、公園と違って囲まれているので、子どもが飛び出したりすることもなく敷地内で自由に遊ばせてもらえ助かりました ・子育て支援センターで、先生に相談出来て、自分の気持ちが楽になった <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診（3件） ・保健センターの健診（2件） ・保健センターの方が親切（2件） ・保健センターで相談にのってもらえる（2件） ・保健師さんの家庭訪問（2件） ・定期健診でよく見てもらえていると感じたから ・保健センターが手厚いと感じる ・保健センターの方は、いつも親身になって話を聞いてくださる ・保健センターでの育児相談や、いちご、ひよこハウスで遊べたこと ・保健センターからの連絡（成長記録等） ・保健センターから予防接種の通知がくる ・保健センターで、歯科健診があったり、相談にのってもらった時 ・保健師さんが、話しを覚えていてくれて、聞いてくれる ・保健師さんが、手厚く関わってくださる ・精神的な持病を持ちながら、子育てしているので、保健センターの保健師さんが、電話をしてくれたり、何かと気に掛けてくれて助かっています。よく話も聞いてくれるので、気持ちが楽になり支援してもらっていると感じます ・赤ちゃん訪問 2 ・出産後の訪問で、色々とお親切にしていただけました ・家庭では気づけなかった、子どもの特性を知ることが出来、支援も受けている ・自分では教えられないことを教育してもらえる ・家で手の回らないことを、園や学校で補ってくれている <p>【子どもの成長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長をともし見守ってくださる ・子どもの成長を感じた時（心、身体能力） ・子どもの成長を感じた時（3件） ・子どもの良さを大切にしてくれて、伸ばしてもらっていること ・子育ての悩みを聞いてもらったり、子どもの成長を共に喜んでもらえる、周りの人に支えてもらっていると実感する <p>【そよかぜ教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そよかぜ教室での支援（5件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・そよかぜ教室の利用がスムーズに出来ている ・そよかぜ教室を、案内してもらった ・ことばの教室（受け入れの有無は個人によるが） ・ことばの教室、小児リハビリに通っていますが、こども園との支援で、成長が見られ、本当に感謝しています <p>【サロン活動・イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちごさん、ひよこさん、手作りランドさんには、大変お世話になり、ありがたいです（2件） ・子育て支援いちごやひよこハウスは乳幼児の時に、月に1～2回、とても楽しく過ごせました ・子育て支援。いちごやひよこハウスで遊ばせてもらえるだけでなく、相談もしやすかった ・いちごさんでは名前でも呼んでもらえる ・ひよこハウス、いちご等で子どもが他の子と遊んだり出来ること ・いちごやひよこハウスのイベントがあること ・子育て支援いちご ・いちごを利用したが、おやつも用意してもらえて、スタッフの数も多く、すごいなと思った ・イベントに安い会費で参加出来て、子どもにたくさんおやつも貰える ・行事・イベントがあり、親子で楽しめること ・いろいろな行事に参加させてもらえる <p>【学校・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育 ・小学校の先生が「（町は何もしてくれないので）個人的に力になります」と言ってくれて助かりました <p>【留守家庭児童クラブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のぞみ教室（2件） ・学童が各学校にあること ・小学校での学童（のぞみ教室） ・保育園の先生やのぞみ教室の先生の何気ない声かけに、支えていただいていると感じています <p>【経済的支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費の無償（12件） ・中学まで医療費が助成されている ・3人目の保育料が無料 ・多子保育料の免除 ・子ども手当（4件） ・児童手当（3件） ・母子家庭にありがたいサービス（母子手当、児童手当）を受けたとき（2件） ・育児給付金は、とてもありがたいと思う ・助成金 ・補助金がもらえる ・出産祝い金 ・3人目を産んだ時の役場からの祝い金は、ありがたかった（2件） ・4人目出産でお祝い金をいただけた
---	---

<p>【ぎふっこカード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぎふっこカードの利用（４件） ・ようろうっこカードの配布 <p>【職場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て優先で仕事が出来る（４件） ・職場では園の行事を優先させてもらえる（３件） ・職場では子育てを考慮してもらえる ・お休みをとりやすく配慮していただいている ・職場での理解 ・職場では子どものことを理解し、働きやすい ・職場では、子どもの行事や病気で休むことに理解がある（７件） ・職場では看護休暇がある（２件） ・育休の取得（４件） ・産休の取得 ・仕事を休むことに、職場の理解がある（５件） ・会社の上司には、早退、欠勤を快く受けしてもらえる（２件） ・パート職員でも、育休・産休がもらえた ・残業がない ・急な休み調整も大体行える ・子どもが病気の時は、しっかり休ませてくれる ・子どもが病気になった時等、「お互いさま」と言って、休み・休ませてあげられる職場です（町内） ・職場の仲間に理解があり、すごく助かる ・職場の方が、子育てに理解があり、協力してくれる ・正社員で働いていても、子ども優先にしてくれて、融通が利く ・職場では、子どものための休暇が一応とれる ・急な休みでも職場が対応してくれたこと（２件） ・子連れでの入社（１日） ・職場に時短あり、残業なし、有給利用可能等 ・短時間勤務で働ける（正社員） ・職場では、短時間勤務を利用させてもらっていること（２件） ・職場では勤務時間に配慮がある（２件） ・勤務調整 ・職場に土・日曜日、祝日、長期休暇中の託児施設がある ・職場では、子ども向けのイベントもしてくれている ・子どもが病気の時に、休みをもらえた <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さりげなく声をかけてもらえる ・周りの大人たちが、みんな優しい。 ・近所の方が、子どものことを気に掛けてくれる ・近所の方に声をかけていただける ・子どもと一緒に育てようとしてくれる姿勢や意欲が感じられた ・登下校時の見守り（２件） ・下校時の見守り ・地域の人による登下校の見守り（小学生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの方が、通学路の交通安全の見守りをしている ・シルバークン見守り隊の活動 ・学校行事に地域の方が参加してもらっている ・義母が亡くなっていたので、嫁としての負担が大きいだろうと、子どもが小さいうちは、地域の掃除などを免除してもらえた <p>【各種相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困った時に、相談出来る（５件） ・相談事に対して様々な対策を考えてもらえます ・相談出来る施設が多くある ・子ども課に相談にのってもらえた ・相談にのってもらえた時（８件） ・アドバイスがいただけたこと ・相談出来る場所がある ・支援団体に入っているため、色々な話を聞いてもらえるのが良いです ・育児に不安な時、すぐに来てくれて対応してもらえた ・心配なことがあれば、家に来てくださる ・話を聞いてもらえる <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・園・学校との連携が取れていた ・地域、園、学校が、協力し合っているところ ・園小交流、三園交流等、たくさんかの子ども達との交流 ・情報共有がなされている <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知人・友人 ・読み聞かせ、お茶等のサポート ・図書館にカーペットがある（寝転んでもOK） ・自由に利用出来る広場やおもちゃがある ・こども園に入る前は児童館をよく利用していた ・大垣ですが、室内の安全な遊び場はありがたいなあと感じます ・児童館をよく利用している。先生は親身になって子育ての話を聞いてくださる。子どものこともかわいがってくださり、とても助かっている ・食物アレルギーの対応をしっかりともらえる点は、とても支援してもらえていると思います ・西美濃リハビリで支援あり ・自己肯定感が高まるような支援をしてもらっていること ・日常生活やお友だちとの関わり方等、集団生活での在り方 ・ベビースペースがある ・特に感じないが、自分の知らないところで、支援してもらっていると思うし、そう思いたい ・役場の対応が良かった ・病院の受診
--	---

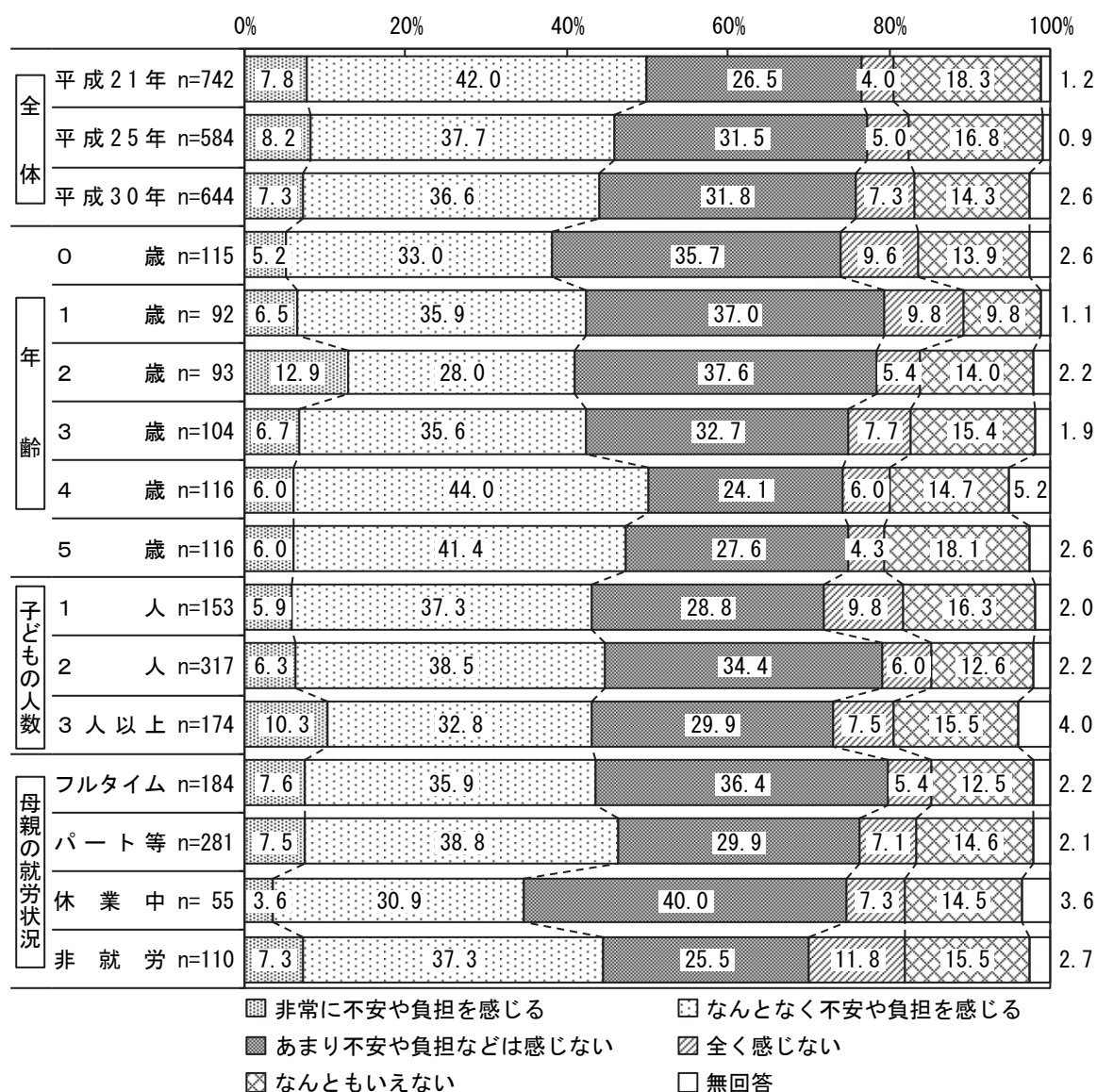
第10 子育ての状況

1 子育てに関する不安感や負担感

子育てに関する不安感や負担感については、「非常に不安や負担を感じる」(7.3%)と「なんとなく不安や負担を感じる」(36.6%)を合計した<不安や負担を感じる>が43.9%となっています。平成21年および平成25年と比べると、<不安や負担を感じる>は低下し続けています。

子どもの年齢別にみると、<不安や負担を感じる>は4、5歳が高くなっていますが、「非常に不安や負担を感じる」は2歳が12.9%と高くなっています。

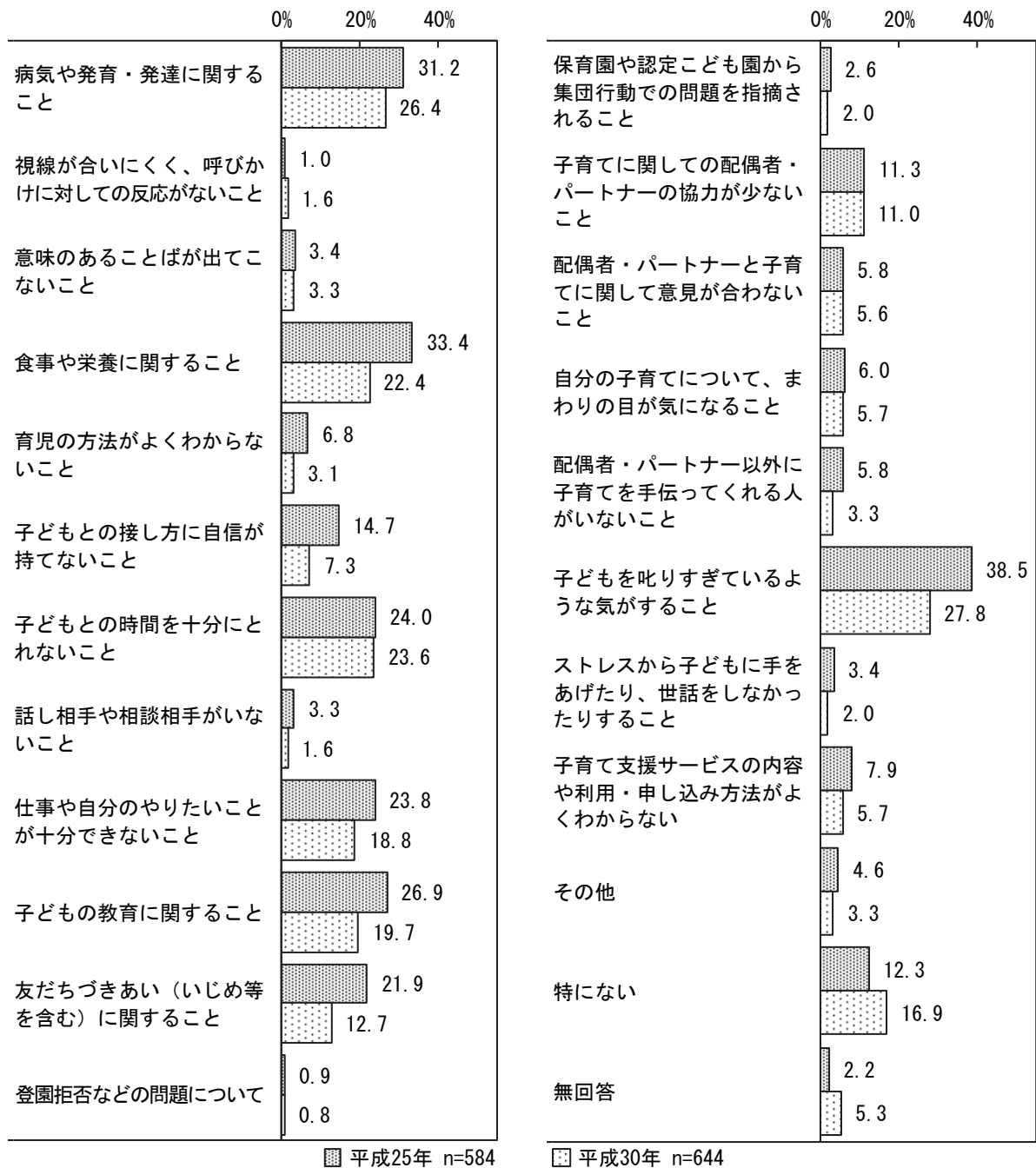
図表1-83 子育てに関する不安感や負担感



2 子育てに関して悩んでいること

子育てや子どもの成長に関して、日常悩んでいること、または気になることをたずねたところ、「子どもを叱りすぎているような気がする」とが27.8%と最も高く、次いで「病気や発育・発達に関する」とが26.4%、「子どもとの時間を十分にとれないこと」が23.6%などとなっています。平成25年と比べると、「視線が合いにくく、呼びかけに対しての反応がないこと」以外の項目は低下しており、「特にない」が4.6ポイント高くなっています。

図表 1-84 子育てに関して悩んでいること（複数回答）



子どもの成長に関して、日頃悩んでいることまたは気になることの「その他」として、図表1-85の内容が記載されていました。

図表1-85 子育てに関して悩んでいること（その他）

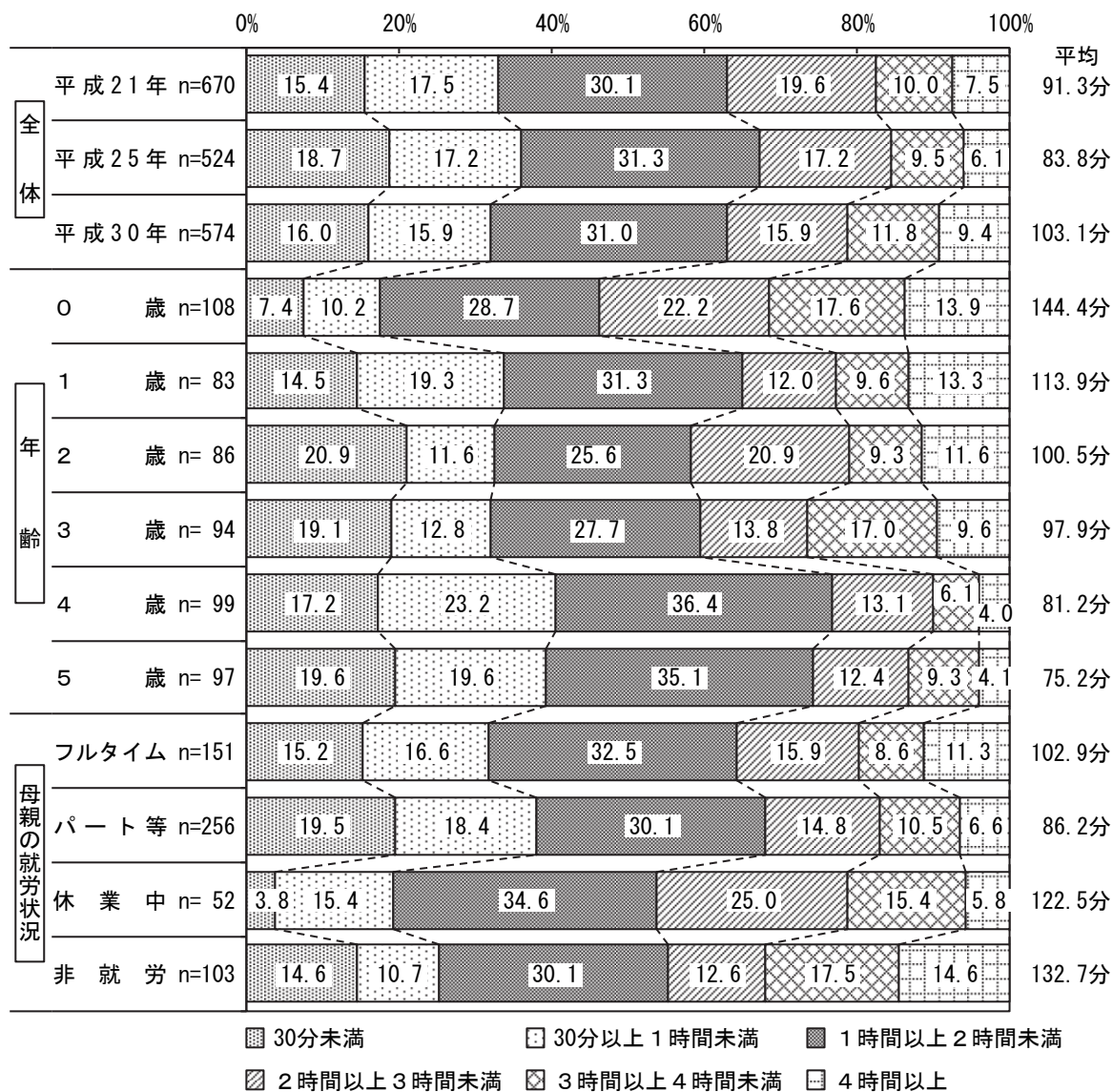
<ul style="list-style-type: none"> ・職場復帰した時の、子どものことについて（休日の預け先等） ・学校・子ども会等、役員の仕事が多く、負担に感じる ・子どもの数が減ってきているので、常に役員をやらなくてはいけない ・この先、学校や地区での親の役員が多いこと ・自分一人の収入で、子どもの教育にかかる費用を払っていけるか心配 ・母子家庭なので、経済的不安 ・十分に教育費をかけてあげられない ・子どもを育てていくために、お金がどれくらい必要なのか…。行く学校にもよるし…。心配です ・3人育児で、子どもたちをそれぞれ満足するように、遊ばせてあげられないので、保育園を考えたが、就労していないという理由で入れませんでした。就労している人だけが、保育園を希望している訳ではありません。空きがあると教えてもらったが、結局、入れないので納得がいきません。働こうと思っても3か月の子がいては何もできません 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援サービスがあることは、分かっていても、そこに出向く勇気が必要で、踏み込みづらいついてしまうこと ・地域の子育ての仕方と、自分の考えの不一致を感じる ・3人目が産まれたばかりのこともあり、年子の2人目の子とゆっくり遊んであげられない。自分に余裕がない。1人目の子も、今年から小学生で、色々、心配です ・遊ぶところがない。公園が近くにほしい ・通学路の標識が台風で倒れたままになっている ・アレルギー ・子ども4人の医療費が多いので、医療費無料を高校生まで引き上げてほしい ・情報が得づらく、取り残されているような不安がある ・配偶者以外の人と、子育てに関して意見が合わないこと ・町からの情報が、後手後手になること ・タブレットで、ゲームやユーチューブを見すぎているのではないかと思う
--	--

3 父親の1日の子育てや家事の時間

父親は子育てや家事を1日どれくらい分担しているかたずねたところ、「1時間以上2時間未満」が31.0%と最も高く、平均時間は103.1分です。平均時間は、平成21年と比べて11.8分、平成25年と比べて19.3分長くなっています。

平均時間が長いのは、子どもの年齢別では0歳、母親の就労状況別では非就労です。

図表1-86 父親の1日の子育てや家事の時間



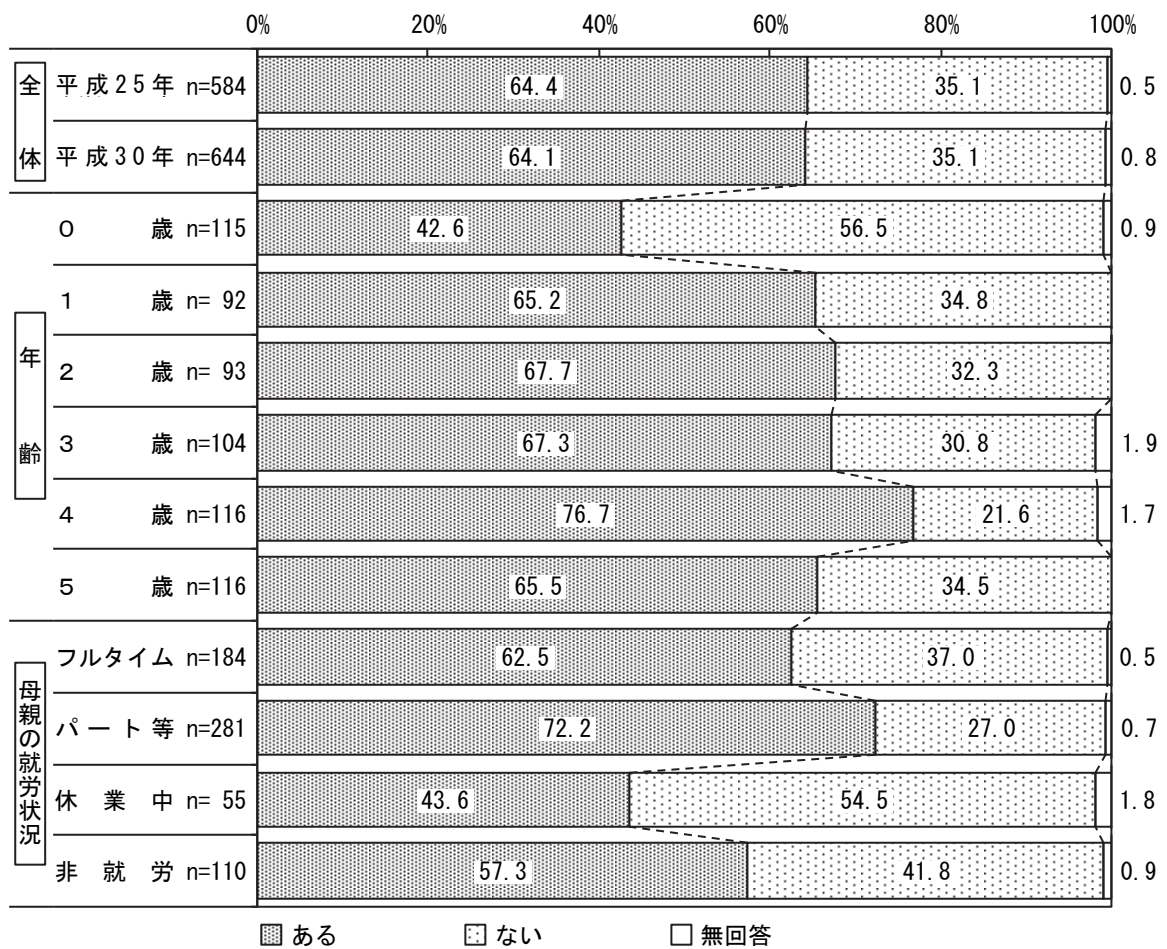
4 子どもへの暴力

(1) 子どもに暴力をふるったことがあるか

子育てをしている中で、ストレスを感じ、感情的にたたいたり、怒鳴ったりしたことがあるかを聞いたところ、「ある」が64.1%、「ない」が35.1%となっています。平成25年と大きな変化はありません。

子どもの年齢別の4歳、母親の就労状況別のパート・アルバイト等の「ある」が高くなっています。

図表1-87 子どもに手をあげてしまう、あるいは手をあげそうになったこと

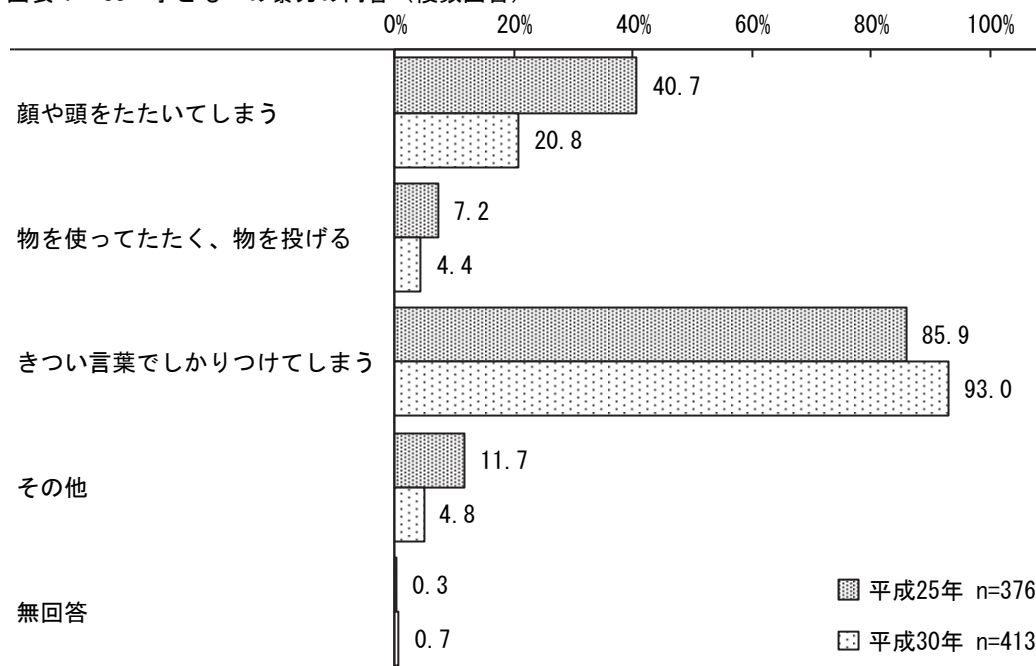


(2) 子どもへの暴力の内容

図表1-88は、図表1-87で「ある」と答えた人に、具体的な暴力の内容をたずねた結果です。「きつい言葉でしかりつけてしまう」を93.0%の人があげており、次いで「顔や頭をたたいてしまう」が20.8%となっています。平成25年と比べると、「きつい言葉でしかりつけてしまう」が7.1%高くなり、「顔や頭をたたいてしまう」「物を使ってたたく、物を投げる」は低下しています。

「その他」として、図表1-89の内容が記載されていました。

図表1-88 子どもへの暴力の内容（複数回答）



図表1-89 子どもへの暴力の内容（その他）

<ul style="list-style-type: none"> ・少し大きな声を出す（2件） ・大きな声を出す ・大きい声で叱る ・怒鳴る ・自分のペースに合わせてほしくて「早く」とつい言うってしまう。心に余裕がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・おしりを叩く（3件） ・顔や頭は叩かないが、体を叩いてしまう ・手を叩いてしまう ・痛いくらいストレッチする ・黙る。一人になる ・子どもの前で、夫婦喧嘩
--	---

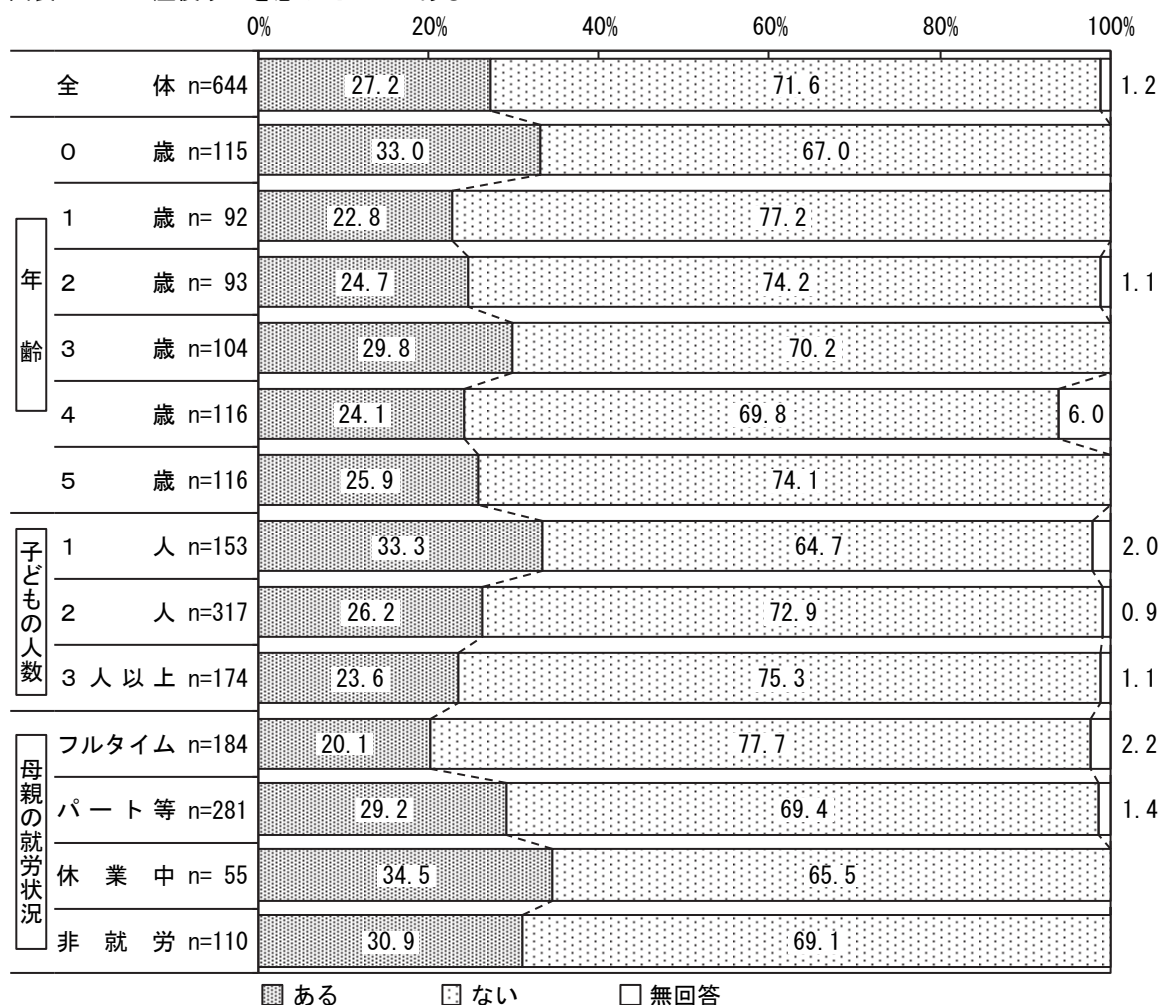
5 産後うつ

(1) 産後うつを感じたことがあるか

産後うつを感じたことが「ある」と回答した人は27.2%となっています。

産後うつを感じたことが「ある」と回答した人について、子どもの年齢別にみると、0歳が33.0%と最も高く、次いで3歳が29.8%などとなっています。子どもの人数別にみると、1人が33.3%と高く、人数が多くなるほど低くなる傾向となっています。母親の就労状況別では休業中が高くなっています。

図表 1-90 産後うつを感じたことがあるか

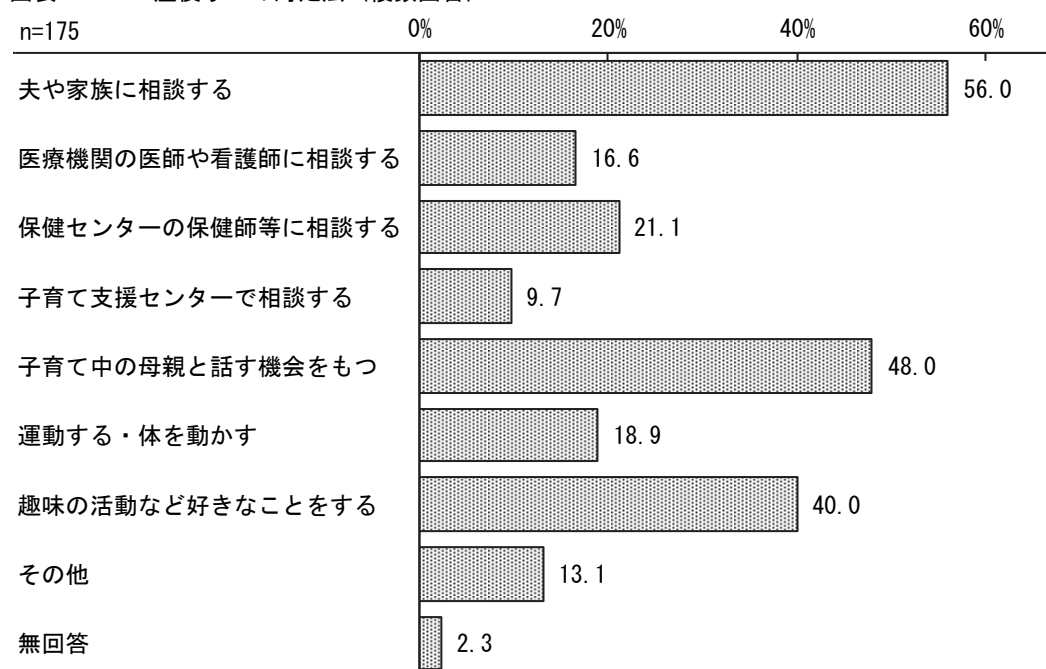


(2) 産後うつの対処法

図表 1-90で産後うつを感じたことが「ある」と回答した人に、どのような対処法がよいか、または利用したサービス、あるとよいと思ったサービスなどについてたずねたところ、「夫や家族に相談する」が56.0%と最も高く、次いで「子育て中の母親と話す機会をもつ」が48.0%、「趣味の活動など好きなことをする」が40.0%などの順となっています。

「その他」として、図表 1-92の内容が記載されていました。

図表 1-91 産後うつの対処法（複数回答）



図表 1-92 産後うつの対処法（その他）

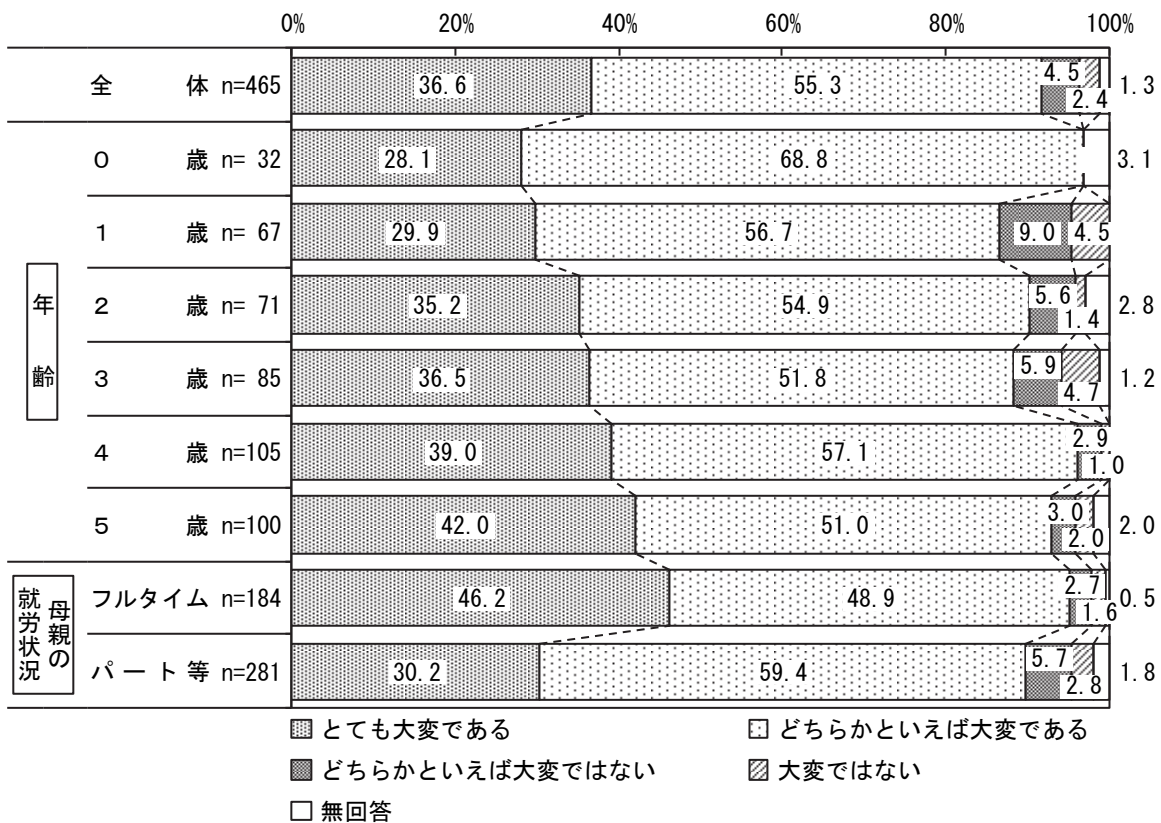
<ul style="list-style-type: none"> ・時間が解決する（4件） ・子どもが成長すれば楽になるので、時間が過ぎるのを待つ ・産後ケア施設でのサポート ・産後1、2か月頃は、周囲が気に掛けてサポートとできるようなきっかけづくりをしてほしい ・寝る ・休む ・耐える ・友人に話しを聞いてもらった 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えないようにした ・自分だけの時間をつくる ・子育てをしない時間をつくる ・短時間でいいので、子どもと離れる（3件） ・外に出る ・買い物 ・睡眠をとりたかったので、短時間子どもをみてくれる場所 ・ネットで同じ悩みを持つ人の対処法を探す ・よく分からない
---	---

6 仕事と子育ての両立

子育てをしながら就労している人に、仕事と子育ての両立が大変と感じているかたずねたところ、「どちらかといえば大変である」が55.3%と最も高く、次いで「とても大変である」が36.6%などとなっています。

「とても大変である」は、子どもの年齢別では、年齢が上がるほど高くなる傾向にあり、5歳では42.0%となっています。母親の就労状況別では、フルタイムがパート・アルバイト等より高くなっています。

図表 1-93 仕事と子育ての両立

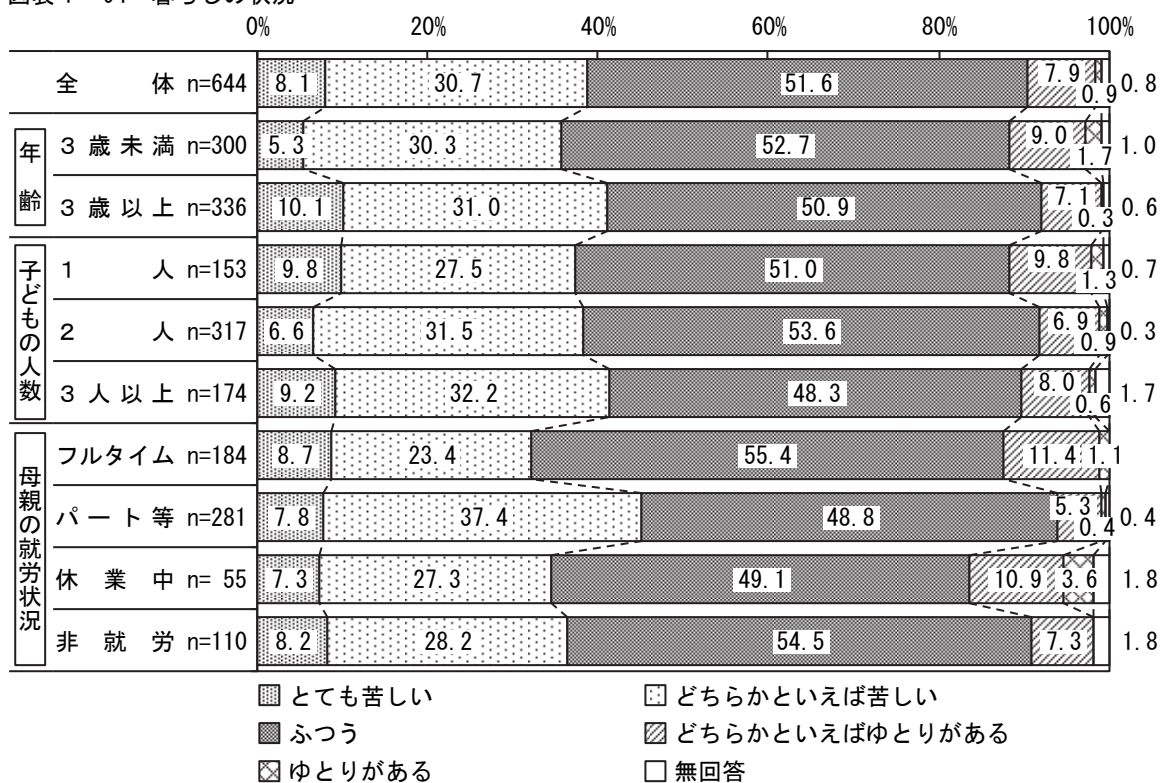


7 暮らしの状況

現在の暮らしは経済的にどのように感じているかたずねたところ、「とても苦しい」(8.1%)と「どちらかといえば苦しい」(30.7%)を合計した<苦しい>は38.8%となっています。「どちらかといえばゆとりがある」(7.9%)と「ゆとりがある」(0.9%)を合計した<ゆとりがある>は8.8%です。

<苦しい>について、子どもの年齢別にみると3歳以上が高くなっています。子どもの人数別にみると、子どもの人数が多くなるほど<苦しい>が高くなる傾向にあります。母親の就労状況別にみると、パート・アルバイト等が高くなっています。

図表1-94 暮らしの状況



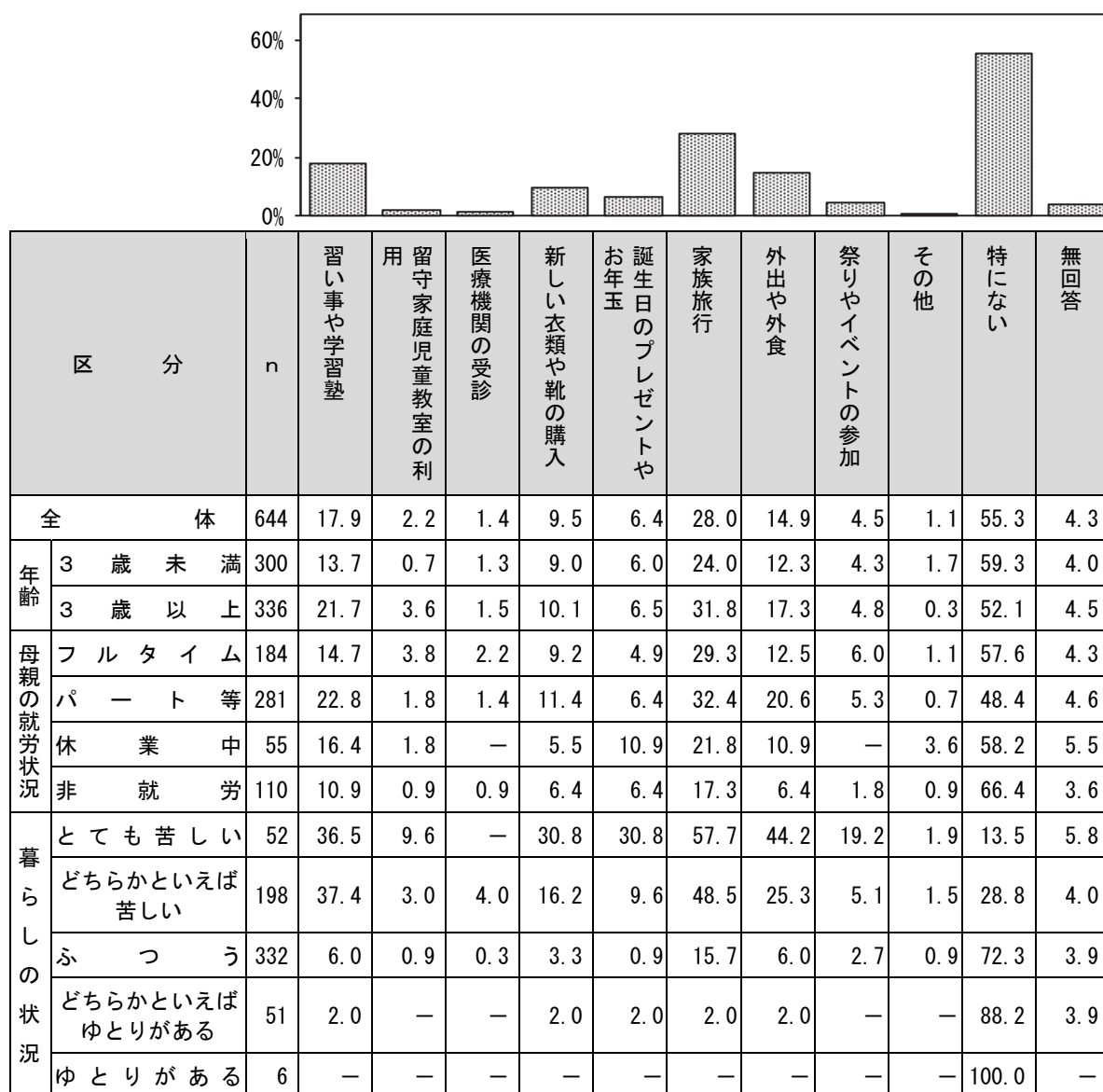
8 経済的な理由で断念したこと等があるか

この1年間に、経済的な理由で断念したり、子どもに我慢させたりしたことがあるかたずねたところ、「特にない」が55.3%と最も高くなっています。経済的な理由で断念したこと等の具体的な内容としては、「家族旅行」が28.0%と最も高く、次いで「習い事や学習塾」が17.9%、「外出や外食」が14.9%などの順となっています。

図表1-94でとても苦しいと回答した人は、「特にない」が13.5%にとどまっており、5項目が30%以上となっています。特に「家族旅行」は57.7%と半数以上の人が選択しています。

「その他」として、「親子で遊ぶ時間がとれないこと」「家電の買い替え」「自分自身の楽しみ」という記載がありました。

図表1-95 経済的な理由で断念したこと等があるか（複数回答）



第11 育児休業制度等

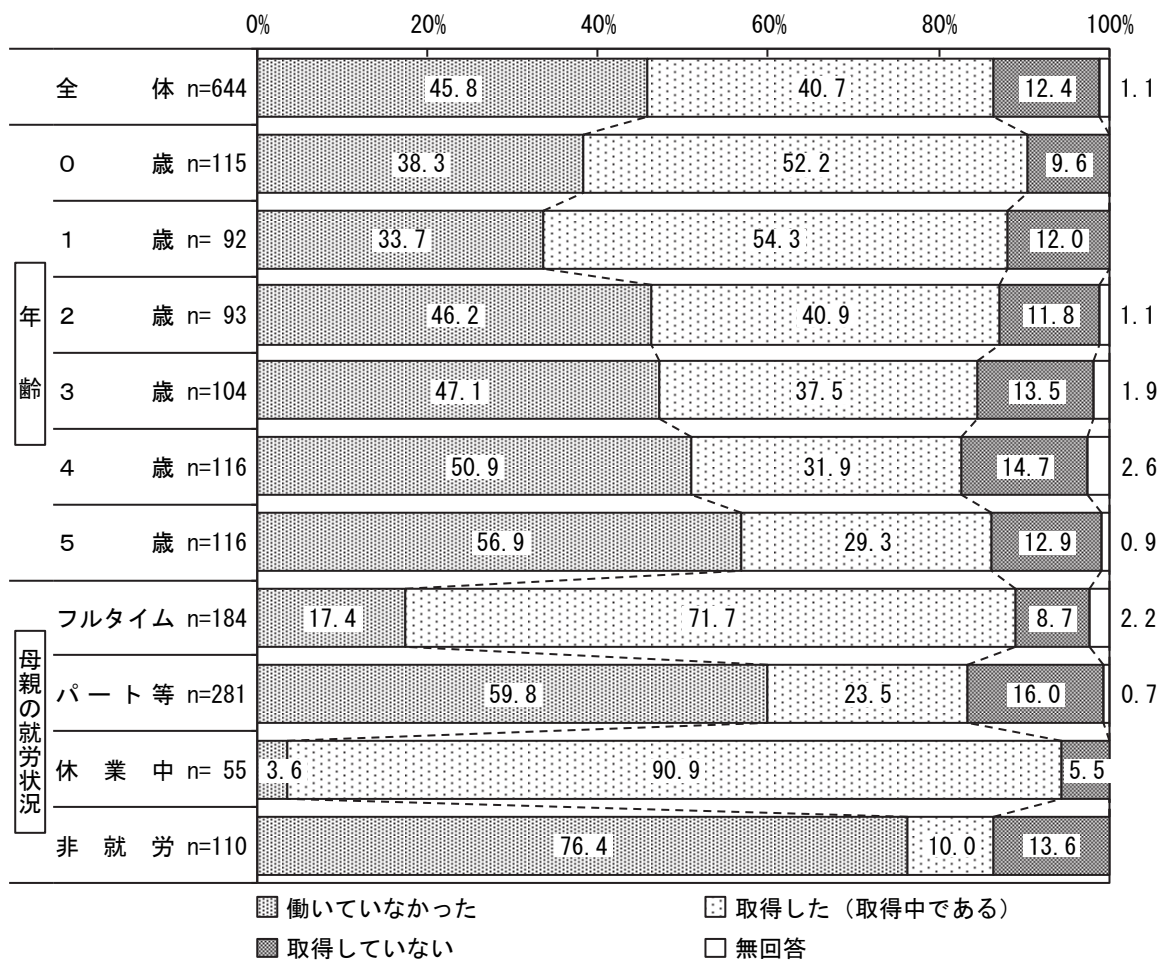
1 育児休業の取得

育児休業を「取得した（取得中である）」母親は40.7%ですが、子どもの出生時に「働いていなかった」母親が45.8%います。

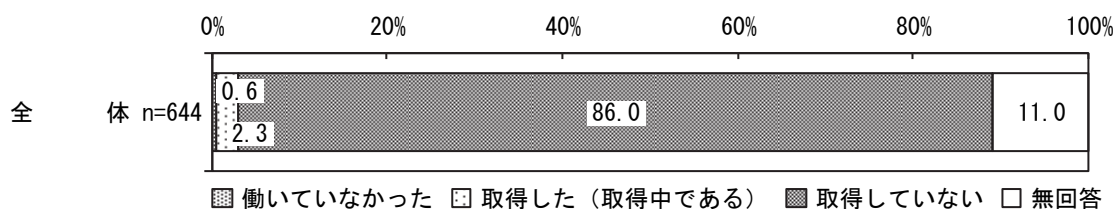
子どもの年齢別にみると、子どもの年齢が低いほど「取得した（取得中である）」が高くなる傾向がみられます。また、母親の就労状況別にみると、フルタイムでは「取得した（取得中である）」は71.7%を占めています（図表1-96）。

育児休業を「取得した（取得中である）」と答えた父親は、2.3%（15人）です（図表1-97）。

図表1-96 母親の育児休業の取得



図表1-97 父親の育児休業の取得

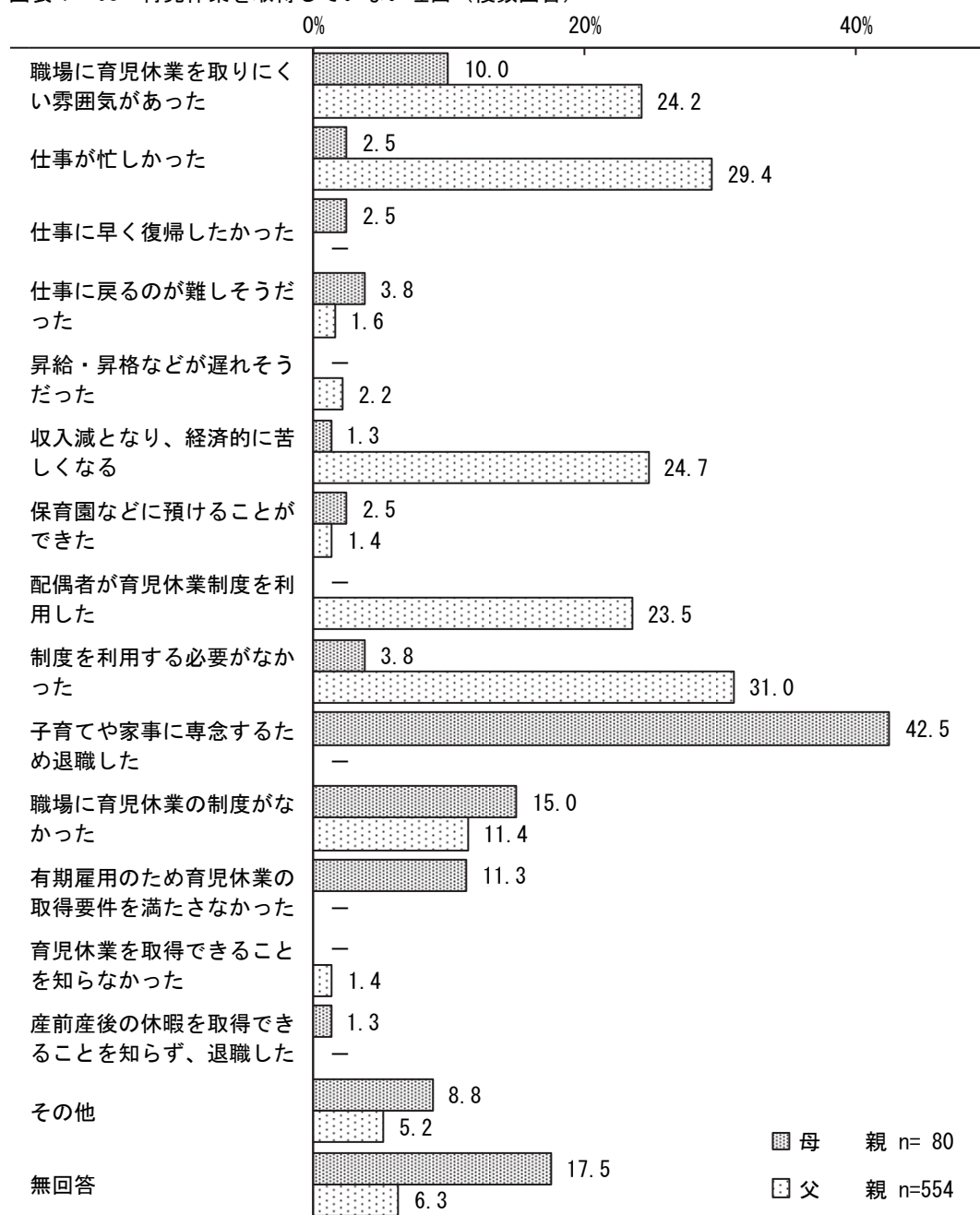


2 育児休業を取得していない理由

図表1-96、図表1-97で「取得していない」と答えた人の育児休業を取得しない理由については、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」(42.5%)が突出して高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった」(15.0%)などとなっています。父親は「制度を利用する必要がなかった」(30.1%)が最も高く、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(24.2%)、「仕事が忙しかった」(29.4%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(24.7%)、「配偶者が育児休業制度を利用した」(23.5%)が20%台となっています(図表1-98)。

「その他」として、図表1-99の内容が記載されていました。

図表1-98 育児休業を取得していない理由(複数回答)



図表 1-99 育児休業を取得していない理由（その他）

【母 親】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自営業のため ・ 自営で融通が利くので、在宅で事務処理をしていた ・ 自営で、収入も減るし、お客様にも悪いので、量は減らしたが、休めずに続けた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2人目までは、育休を取得できたが、3人目の妊娠を伝えると、退職せざるを得ない感じに言われ、仕方なく退職した ・ パートのため、退職した ・ 自分の好きなタイミングで、仕事復帰できる環境だったから
---	---

【父 親】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自営業（10件） ・ 自営なので、自由が利いた ・ 自営なので、取得しなくても、問題なく子育てに参加できた ・ 他に手伝ってくれる人がいた ・ 父親は、育児休業を利用する必要性がないと考えている ・ 取得しなくても、男は外で働けばいいと母親と話し合った 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父親は働くのが当たり前だと思っているため ・ 両親共、育休を取得する考えがなかった ・ そもそも取得する気がない（4件） ・ 職場が取得できることを、知らない ・ 過去に育児休業を取得している人がいない ・ 連休をはさんだため、産前は早めに帰宅できるよう、都合をつけてくれた ・ 育児休暇としては取得していないが、産後1週間、育児のために休暇をとりました
---	---

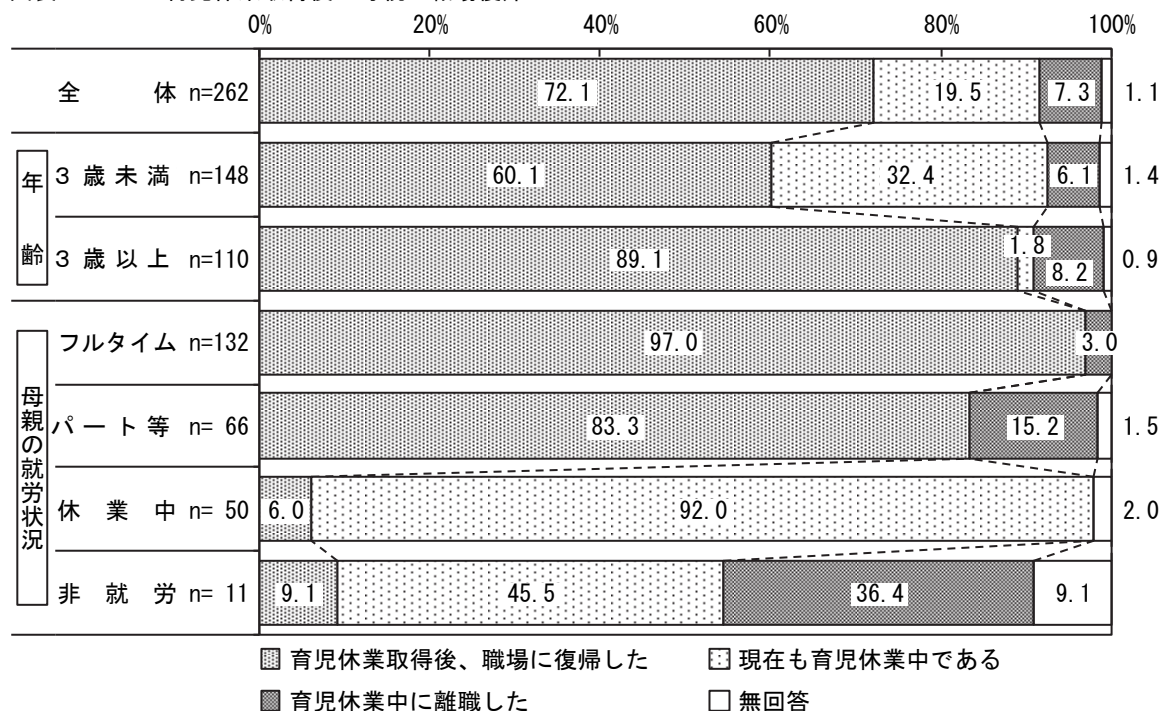
3 育児休業取得後の母親の職場復帰

(1) 育児休業取得後の母親の職場復帰

図表1-96で育児休業を「取得した（取得中である）」と答えた母親のうち、72.1%が「育児休業取得後、職場に復帰した」、19.5%が「現在も育児休業中である」、7.3%が「育児休業中に離職した」と答えています。

「育児休業取得後、職場に復帰した」は、子どもの年齢別では3歳以上が89.1%と高く、母親の就労状況別ではフルタイムの97.0%と高くなっています。

図表1-100 育児休業取得後の母親の職場復帰

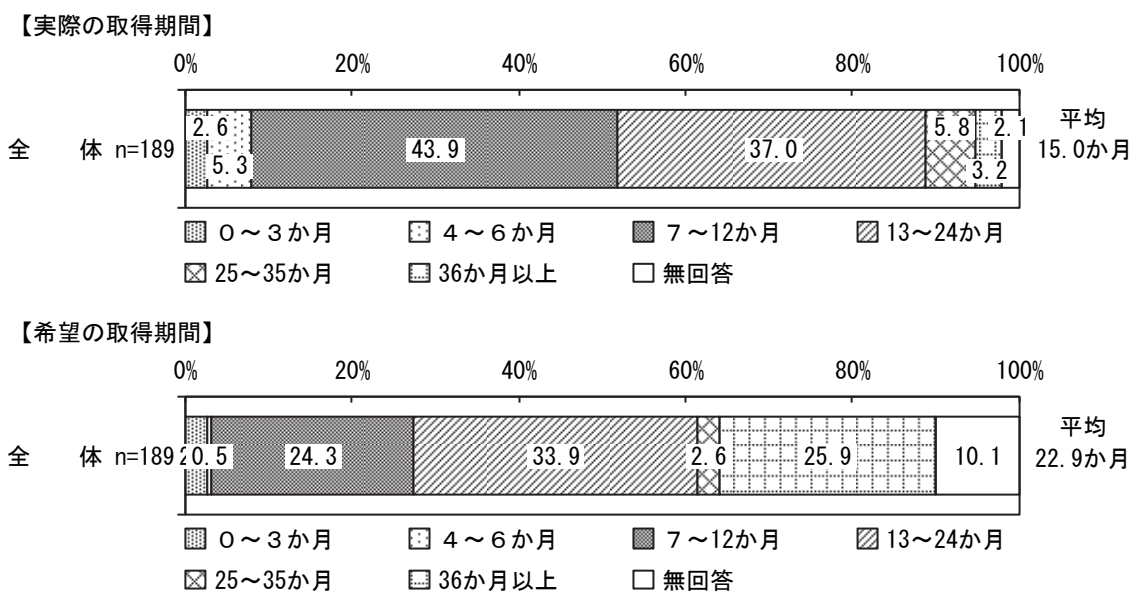


(2) 母親の育児休業取得期間と取得希望期間

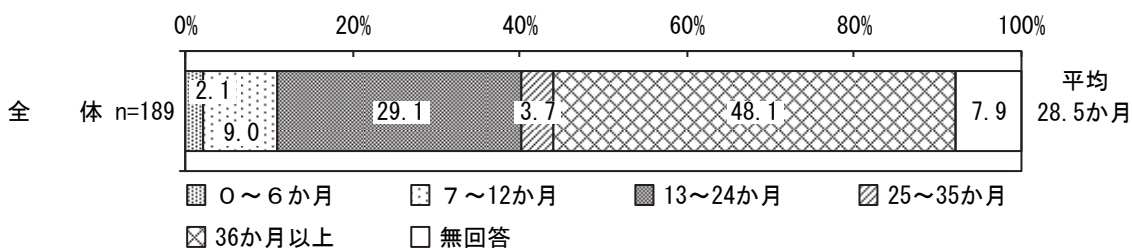
図表1-101は、図表1-100で「育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた母親に、子どもが何歳何か月のときに職場復帰したか、また、何歳何か月のときまで育児休業をとりたかったのかをたずねた結果です。母親の実際の取得期間は「7～12か月」が43.9%、「13～24か月」が37.0%などとなっており、平均は15.0か月です。これに対して、取得希望期間は「13～24か月」が33.9%と最も高く、次いで「36か月以上」が25.9%などとなっており、平均は22.9か月となっています。このことから、子どもが1歳3か月頃に職場復帰をしているが、子どもが2歳になる頃までは仕事を休んで子育てをしたいという母親が多いことが読み取れます。

図表1-102は、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度が勤め先にあれば、子どもが何歳何か月までとりたかったかをたずねた結果です。「36か月以上」が48.1%を占めており、平均は28.5か月となっています。

図表1-101 母親の育児休業取得期間と取得希望期間



図表1-102 3歳まで休暇を取得できる制度があったら子どもが何か月までとるか（母親）



(3) 母親が希望の時期に職場復帰しなかった理由

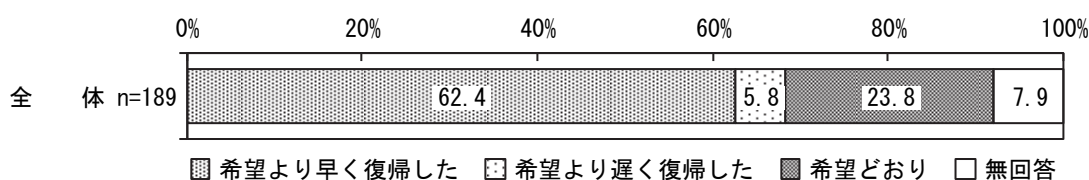
図表 1-103は、育児休業取得期間と取得希望期間の差異を表しています。「希望より早く復帰した」が62.4%、「希望どおり」が23.8%、「希望より遅く復帰した」が5.8%となっています。

「希望より早く復帰した」理由は、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が37.3%と最も高く、次いで「希望する保育園・こども園に入るため」(28.8%)、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(23.7%) などとなっています(図表 1-104)。

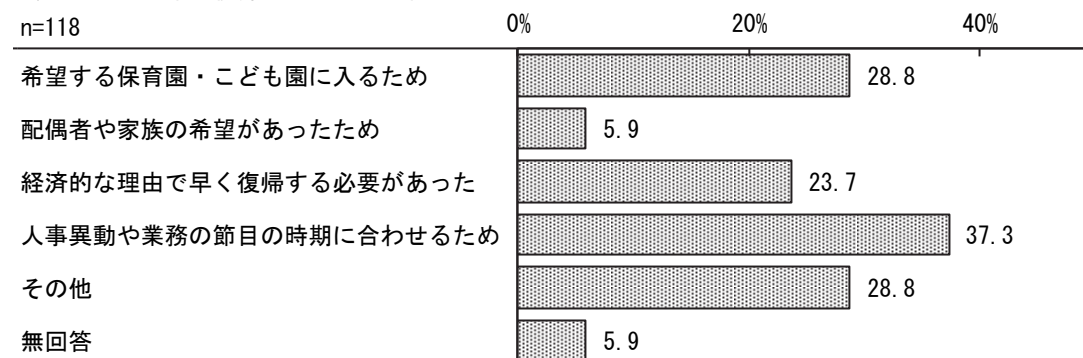
「その他」として、図表 1-105の内容が記載されていました。

「希望より遅く復帰した」3人の遅く復帰した理由は、図表 1-106のとおりです。

図表 1-103 育児休業取得期間と取得希望期間の差異 (母親)



図表 1-104 早く復帰した理由 (母親)



図表 1-105 早く復帰した理由 (その他)

<ul style="list-style-type: none"> ・離婚したため (2件) ・育休は1年しかとれなかったため (3件) ・2年しかとれないから ・職場の制度では、1歳まで。それ以降の延長は無収入になるため ・会社が、1年制度のため (3件) ・1歳6か月までしか、育休がとれない ・会社の規定 ・育児休業に制限があったから ・職場の決まりで、1歳の誕生日に復帰 	<ul style="list-style-type: none"> ・義母に面倒を見てもらえた ・仕事が忙しく、職場から要望があった (3件) ・仕事の都合 ・長期間休むと、復帰した後のことが、心配だったため ・職場の雰囲気 ・申請期間を間違えた ・自身の希望 ・上の子を年少のタイミングで、こども園に入園させるため
---	---

図表 1-106 遅く復帰した理由 (母親)

単位：人

区分	希望する保育園・こども園に入れなかったため	子どもをみてくれる人がいなかったため	その他	無回答
全体 (n=11)	9	1	1	1

第 2 部

小学生保護者調査

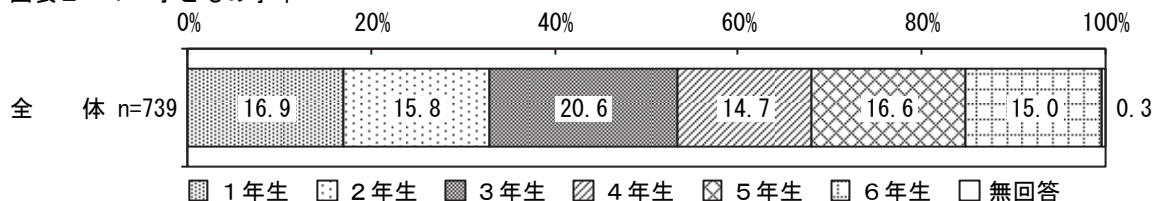
第1 子どもと家族の状況

1 子どもの学年と子どもの人数

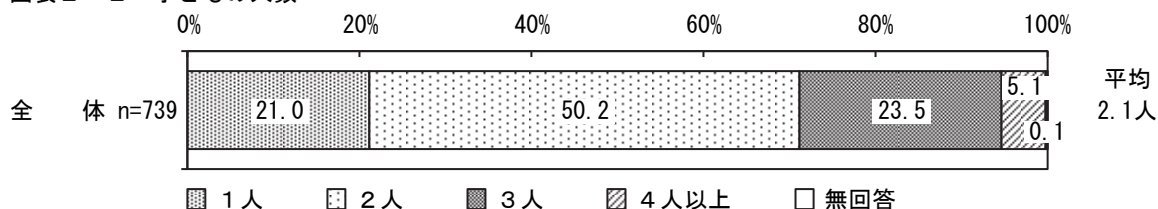
対象となった子どもの学年は、図表2-1のとおりです。

子どもの人数は、「2人」が50.2%を占めており、平均は2.1人です（図表2-2）。

図表2-1 子どもの学年



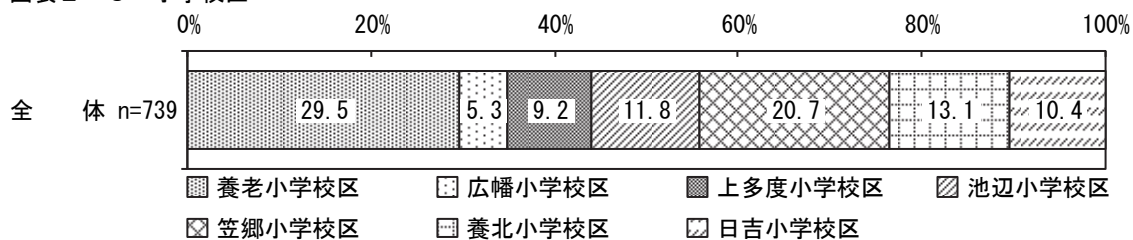
図表2-2 子どもの人数



2 小学校区

小学校区は、「養老小学校区」(29.5%) および「笠郷小学校区」(20.7%) が多く、「広幡小学校区」(5.3%) が少なくなっています。

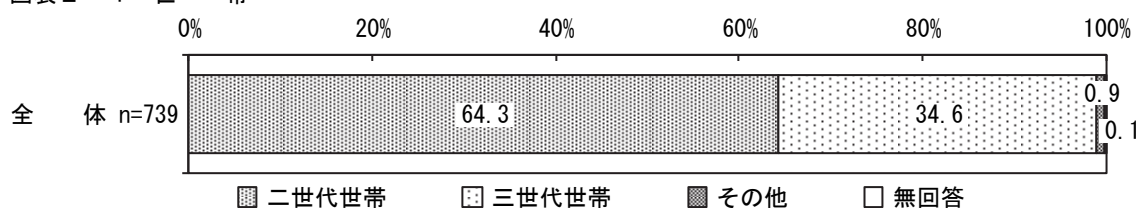
図表2-3 小学校区



3 世帯の状況

世帯の状況を見ると、「二世帯世帯」が64.3%を占めています。

図表2-4 世帯

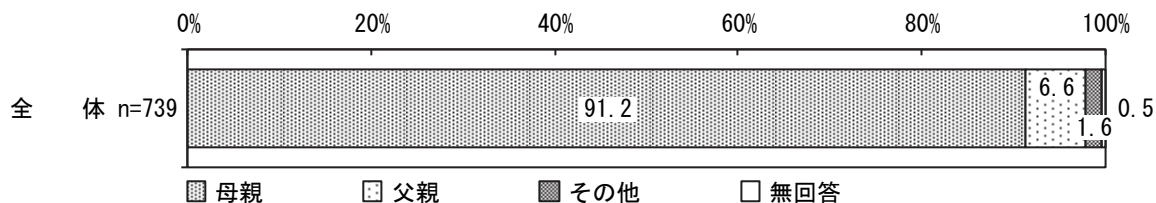


4 調査票の回答者

調査票の回答者は、「母親」が91.2%を占めています。

「その他」として「祖母（8件）」「祖父」「養母」という記載がありました。

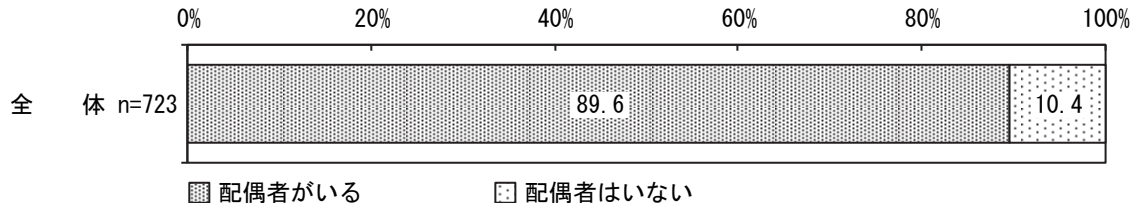
図表2-5 回答者



5 配偶者の有無

調査票の回答者は、配偶者のいる人が89.6%、配偶者のいない人が10.4%です。

図表2-6 配偶関係

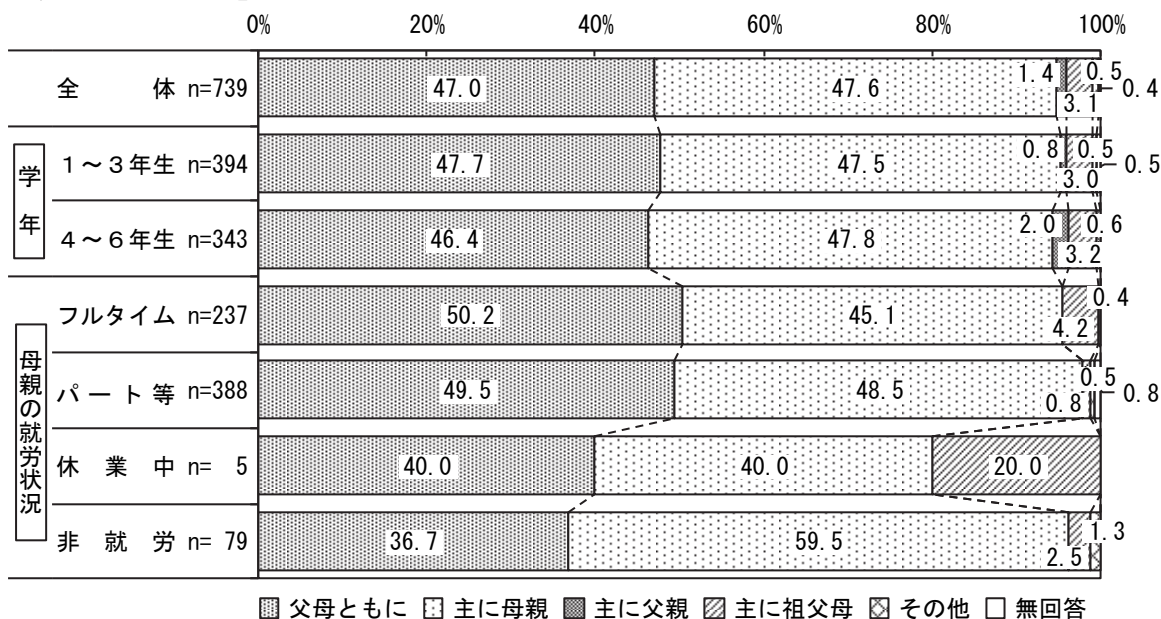


6 子育てを主に行っている人

子育て（教育を含む）を主に行っているのは、「父母ともに」（47.0%）と「主に母親」（47.6%）で94.6%を占めています。母親の就労状況別にみると、フルタイムおよびパート・アルバイト等は「父母ともに」が「主に母親」を上回っています。

「その他」として、「みんな（2人）」「養母」という記載がありました。

図表2-7 子育てを主に行っている人



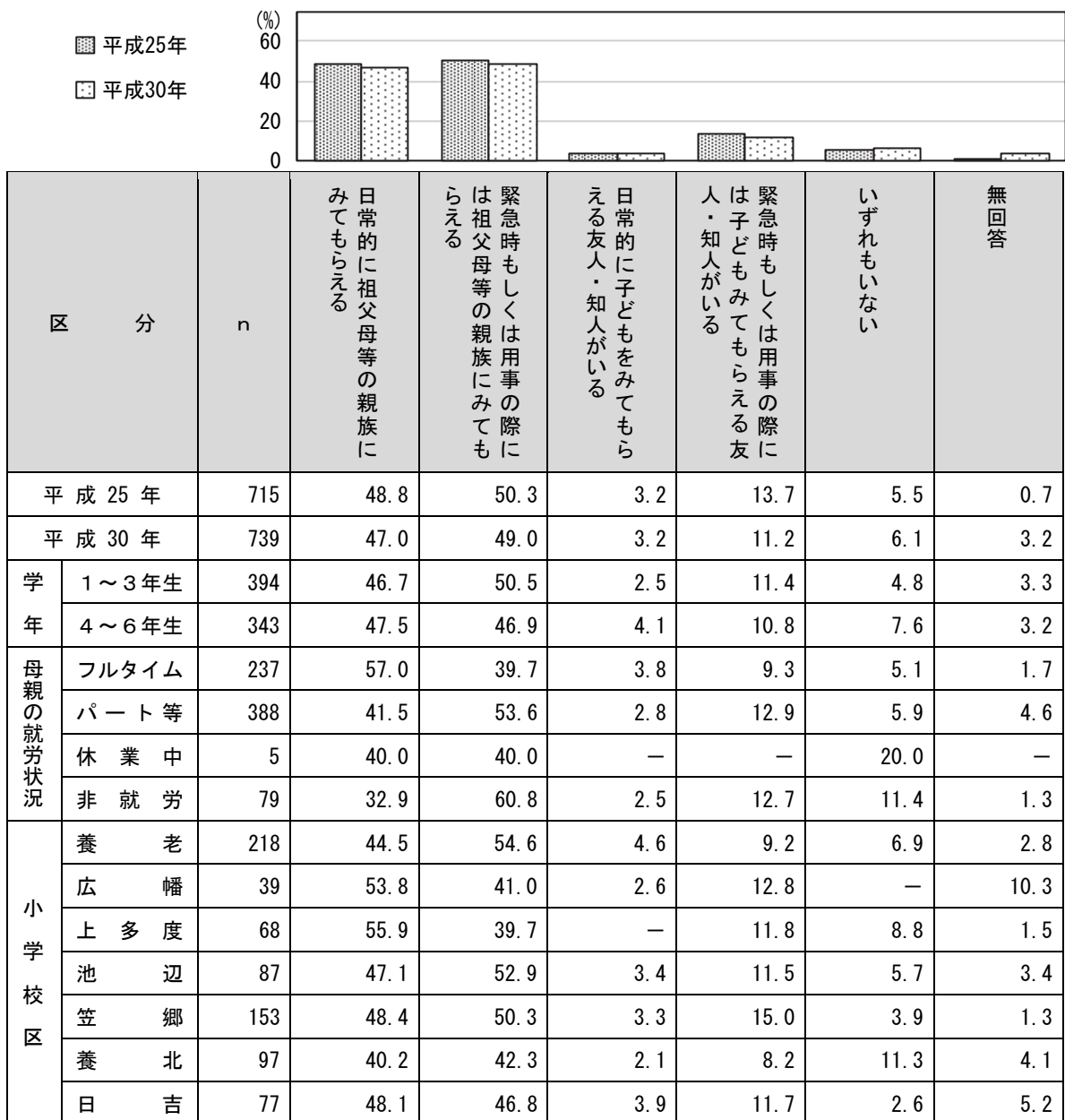
第2 子どもの育ちをめぐる環境

1 子どもをみてくれる人はいるか

日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人がいるかたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が49.0%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が47.0%などとなっています。「いずれもない」は6.1%（45人）です。平成25年と比べると、「いずれもない」が0.6ポイント高くなり、その他の選択肢は同様か低下しています。

図表2-8 子どもをみてくれる人はいるか（複数回答）

単位：nは人、他は%



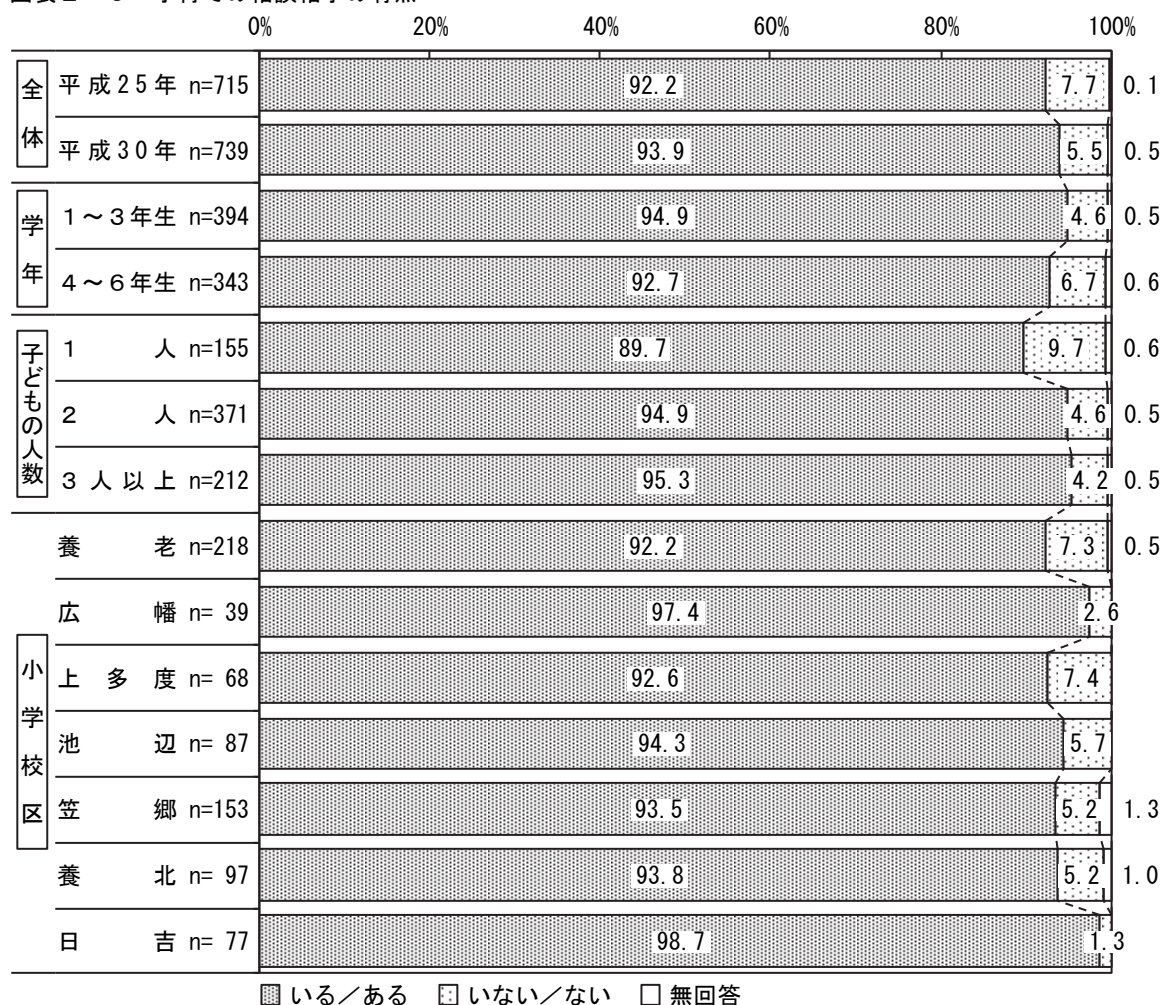
2 相談相手

(1) 子育ての相談相手はいるか

子育ての相談を気軽にできる相手がいるかたずねたところ、「いる／ある」が93.9%を占め、「いない／ない」が5.5%（41人）となっています。平成25年と比べて「いない／ない」が2.2ポイント低下しています。

「いない／ない」が比較的高いのは、学年別では4～6年生、子どもの人数別では1人、小学校区別では養老、上多度です。

図表2-9 子育ての相談相手の有無

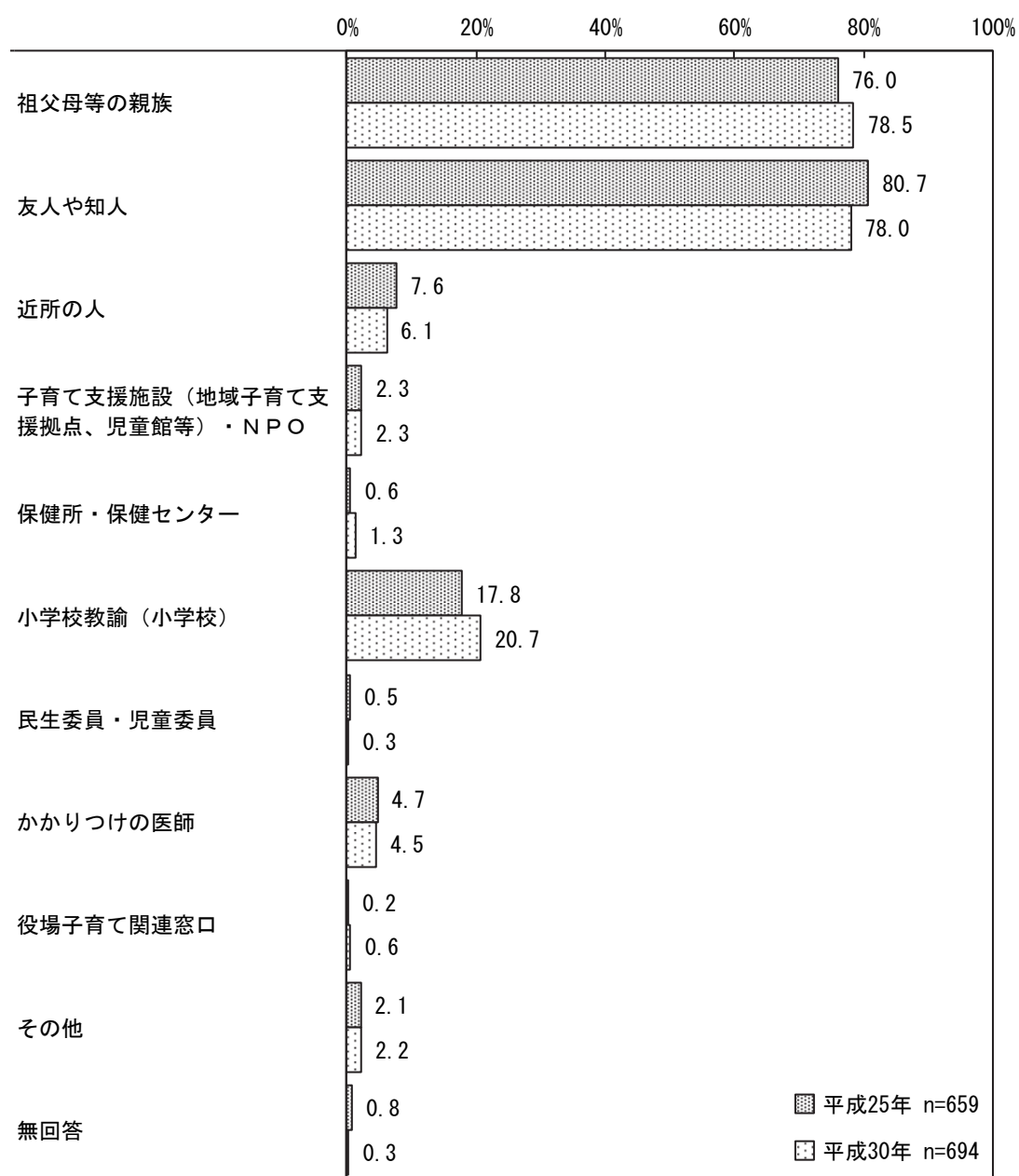


(2) 相談相手

前問で子育てに関する相談相手が「いる／ある」と答えた人の相談相手は、「祖父母等の親族」が78.5%、「友人や知人」が78.0%と、この2項目が高くなっています。平成25年と比べると、「友人や知人」「近所の人」「子育て支援施設（地域子育て支援拠点、児童館等）・NPO」「民生委員・児童委員」「かかりつけの医師」が低下しています。

「その他」として、「職場の同僚」（5件）、「カウンセラーの先生」「町内の放課後デイ」という記載がありました。

図表2-10 子育てに関する相談相手（複数回答）



第3 保護者の就労状況等

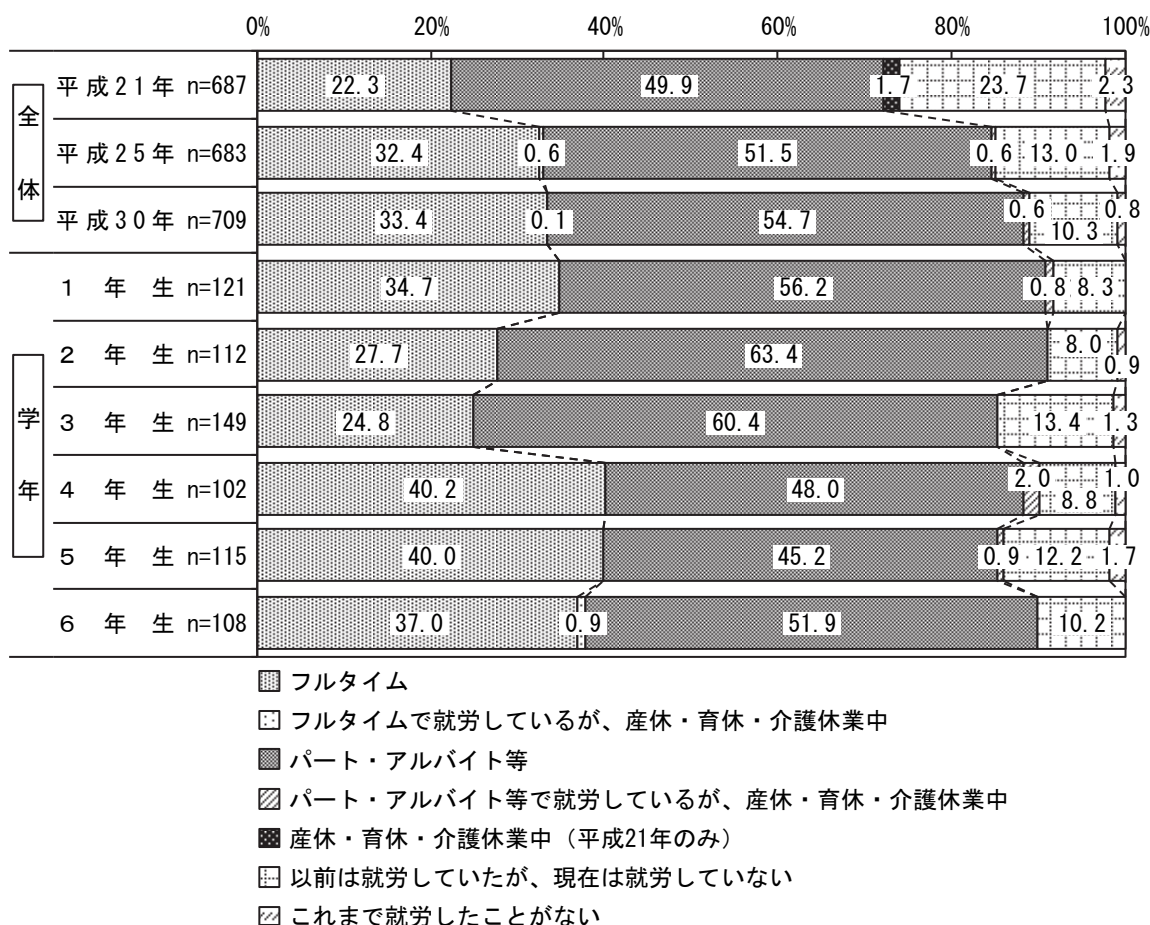
1 母親の就労状況

(1) 母親の就労状況・形態

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が54.7%と最も高く、次いで「フルタイム」が33.4%などとなっています。産休・育休・介護休業中は、フルタイムとパート・アルバイト等を合わせると0.7%になります。平成21年および平成25年と比べると、「フルタイム」「パート・アルバイト等」はともに高くなり、働いている母親の割合が高くなってきています。

子どもの学年別にみると、1年生から3年生の間では、学年が上がるほど「フルタイム」は低下していますが、4年生から40%前後に上昇しています。

図表2-11 母親の就労状況・形態

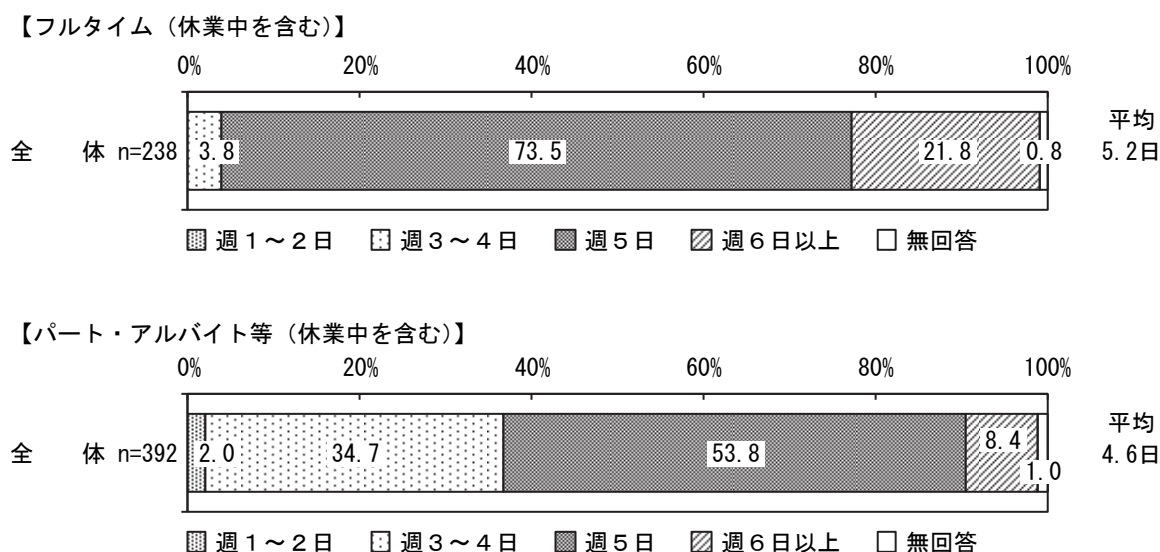


(2) 母親の就労日数と就労時間数

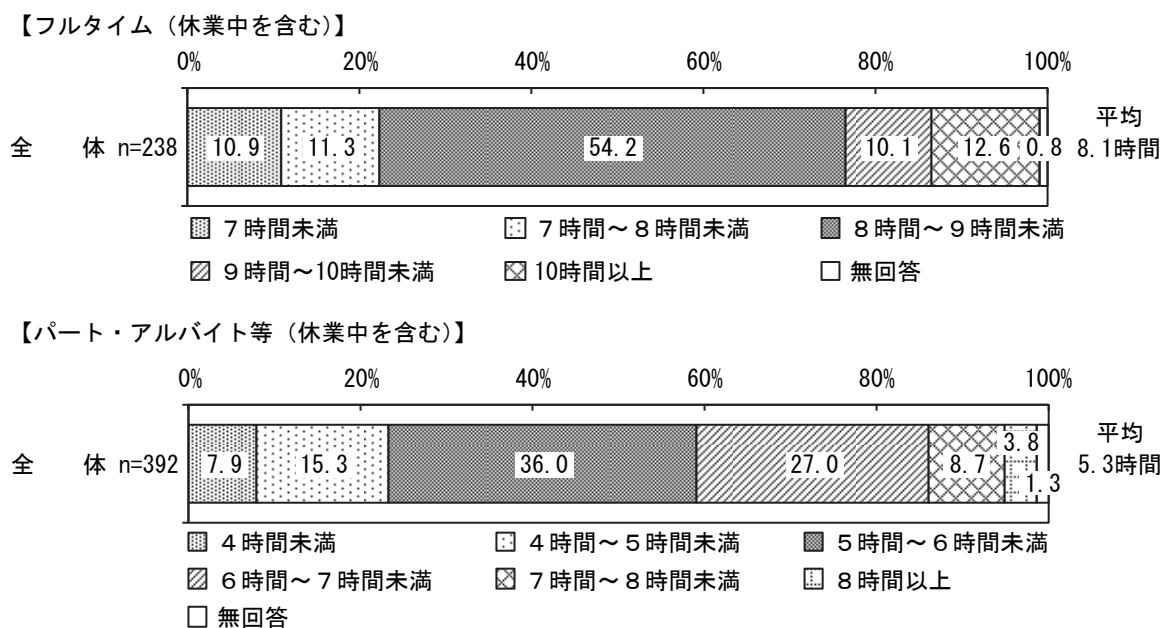
図表2-12および図表2-13は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、1週当たりの平均就労日数が5.2日、1日当たりの平均就労時間数が8.1時間です。

パート・アルバイト等は、1週当たりの平均就労日数が4.6日、1日当たりの平均就労時間数が5.3時間となっています。

図表2-12 母親の就労日数



図表2-13 母親の就労時間数

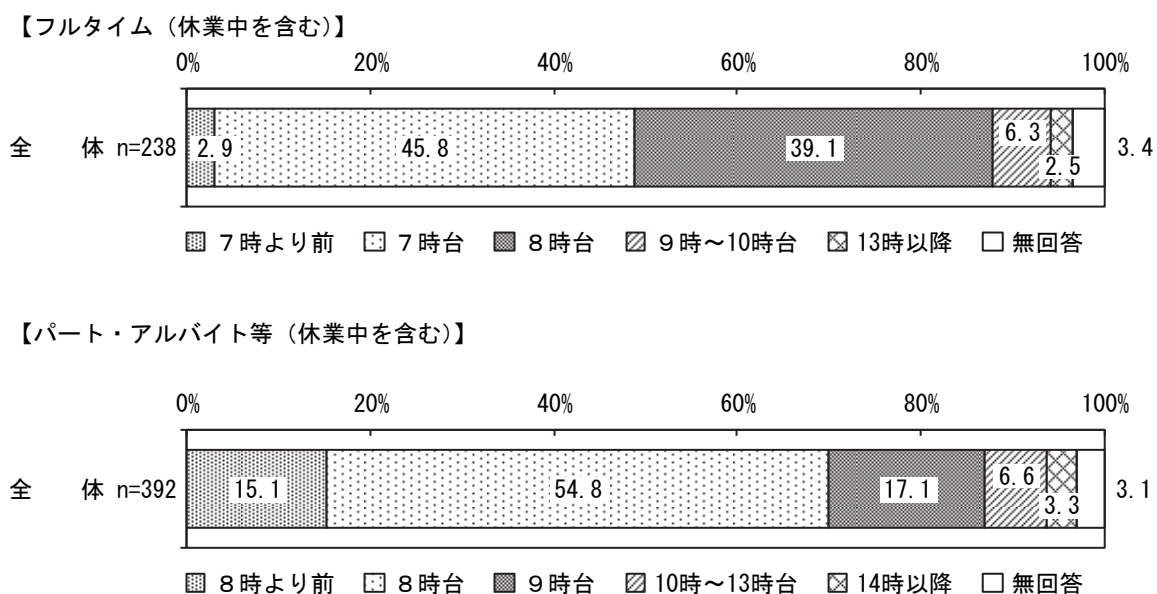


(3) 母親の家を出る時刻と帰宅時刻

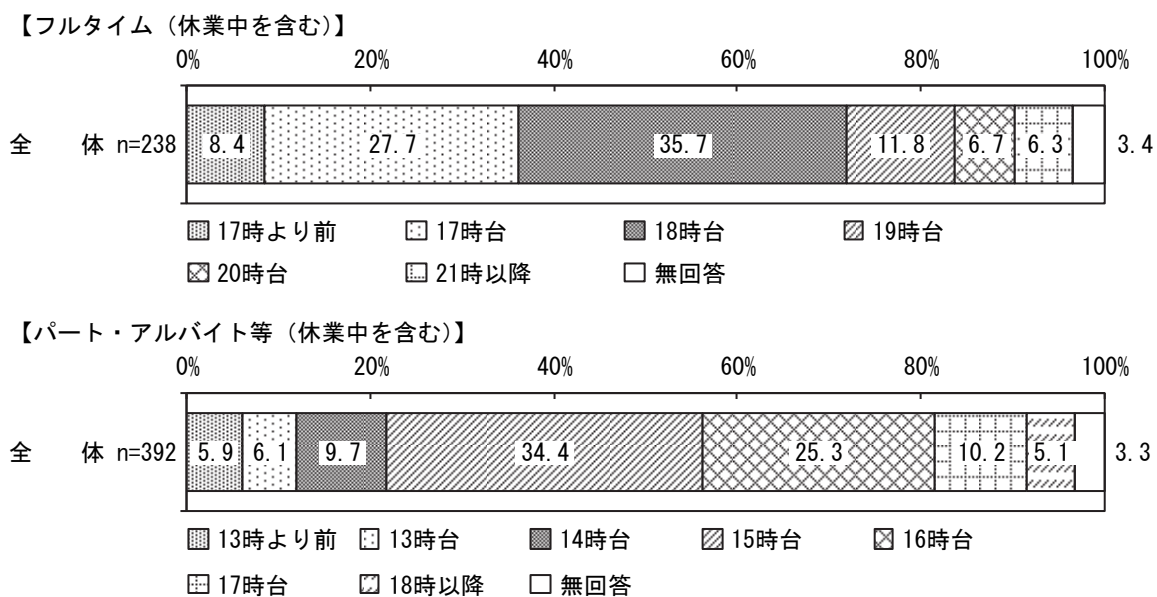
図表2-14、図表2-15は、図表2-11で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻（産休・育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムについて、家を出る時刻は「7時台」（45.8%）と「8時台」（39.1%）で84.9%を占めており、帰宅時刻は「18時台」（35.7%）が最も高く、18時以降は60.5%を占めます。

パート・アルバイト等について、家を出る時刻は「8時台」が54.8%を占め、帰宅時刻が「15時台」（34.4%）と「16時台」（25.3%）で59.7%を占めます。

図表2-14 母親の家を出る時刻



図表2-15 母親の帰宅時刻

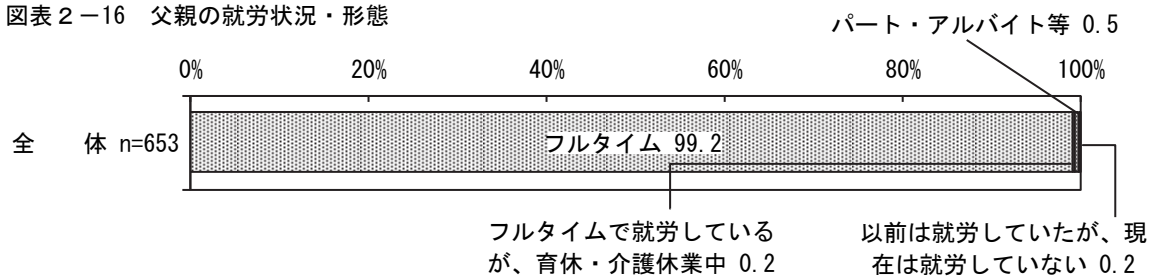


2 父親の就労状況

(1) 父親の就労状況・形態

父親は、「フルタイム」が99.2%を占め、「パート・アルバイト等」が0.5%（3人）、「フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中」「以前は就労していたが、現在は就労していない」がそれぞれ0.2%（1人）となっています。

図表 2-16 父親の就労状況・形態



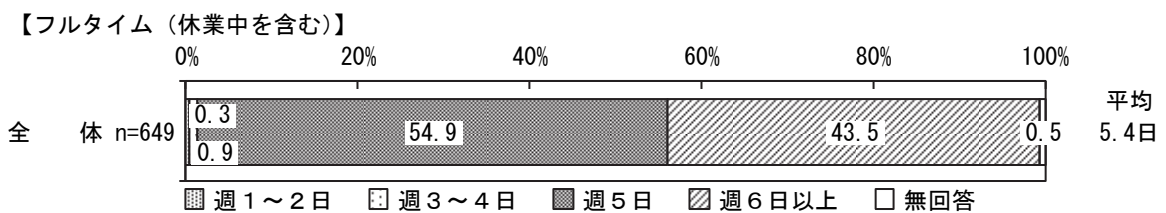
(注)「パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中」「これまで就労したことがない」という選択肢には該当がなかった。

(2) 父親の就労日数と就労時間数

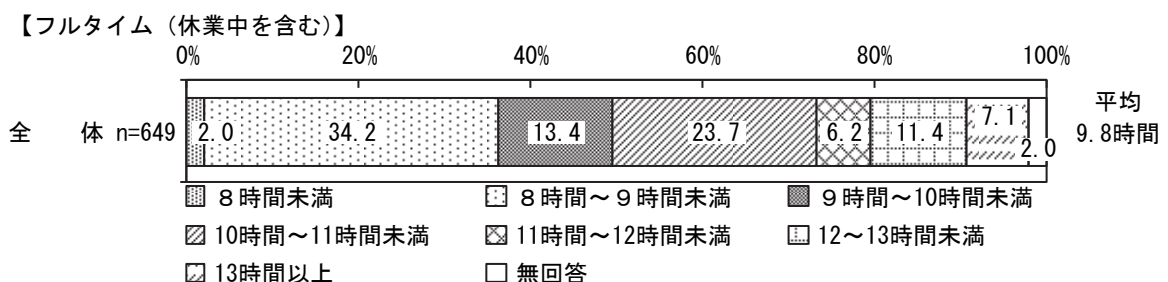
図表 2-17、図表 2-18は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数をたずねた結果です。フルタイムで働いている父親の1週当たりの平均就労日数は5.4日、1日当たりの平均就労時間数は9.8時間です。

パート、アルバイト等で働いている父親（3人）の就労日数は、全ての人が「週5日」（3人）、就労時間数は、「4時間」「4時間半」「6時間」がそれぞれ1人、1日当たりの平均就労時間数は4.8時間です。

図表 2-17 父親の就労日数



図表 2-18 父親の就労時間数

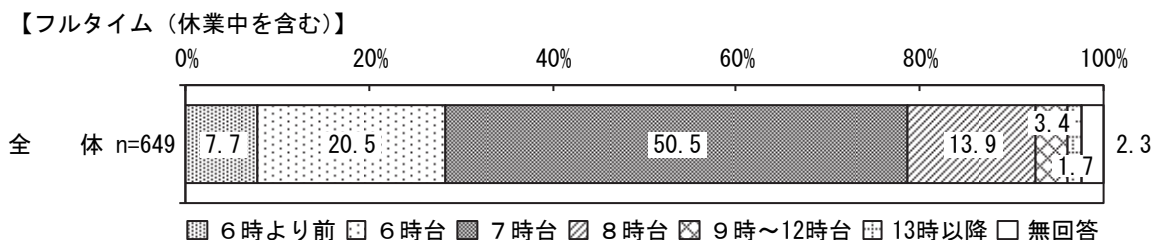


(3) 父親の家を出る時刻と帰宅時刻

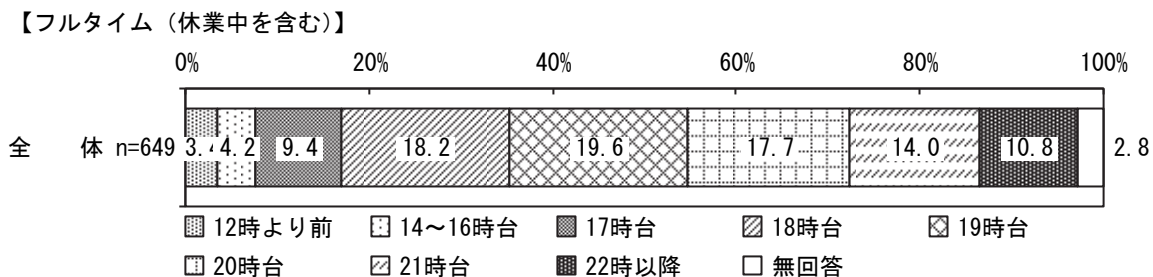
図表2-19、図表2-20は、図表2-16で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻をたずねた結果です。フルタイムで働いている父親の家を出る時刻は、「7時台」(50.5%)が最も高く、8時より前に家を出るのが78.7%となっています。帰宅時刻は「19時台」(19.6%)が最も高く、19時以降に帰宅するのが62.1%となっています。

パート・アルバイト等で働いている父親(3人)の家を出る時刻は、「6時台」「7時台」「16時台」がそれぞれ1人となっています。帰宅時刻は「11時台」「15時台」「21時台」がそれぞれ1人となっています。

図表2-19 父親の家を出る時刻



図表2-20 父親の帰宅時刻



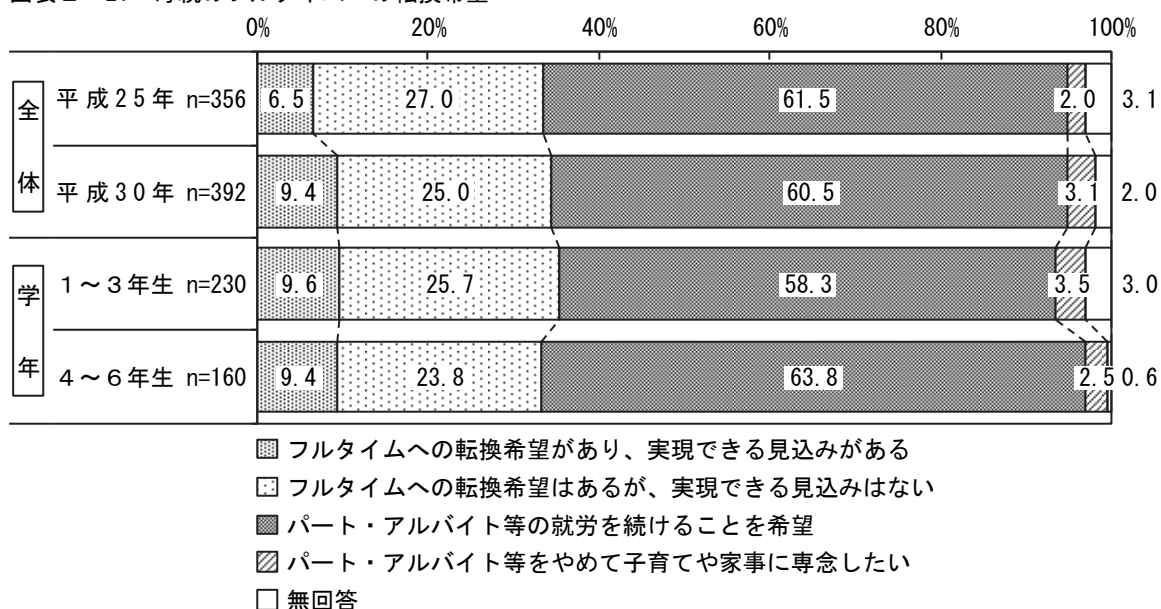
3 フルタイムへの転換希望

(1) 母親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と答えた母親のフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「希望がある」は34.4%ですが、そのうちの25.0%は「実現できる見込みはない」としています。平成25年と比べると、「希望がある」は0.9ポイント高く、「実現できる見込みがある」は2.9ポイント高くなっています。

子どもの学年別にみると、4～6年生は1～3年生に比べて、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が5.5ポイント高くなっています。

図表2-21 母親のフルタイムへの転換希望



(2) 父親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と答えた父親のフルタイムへの転換希望をたずねたところ、3人のうち2人が「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」、1人が無回答となっています。

4 働いていない保護者の就労意向

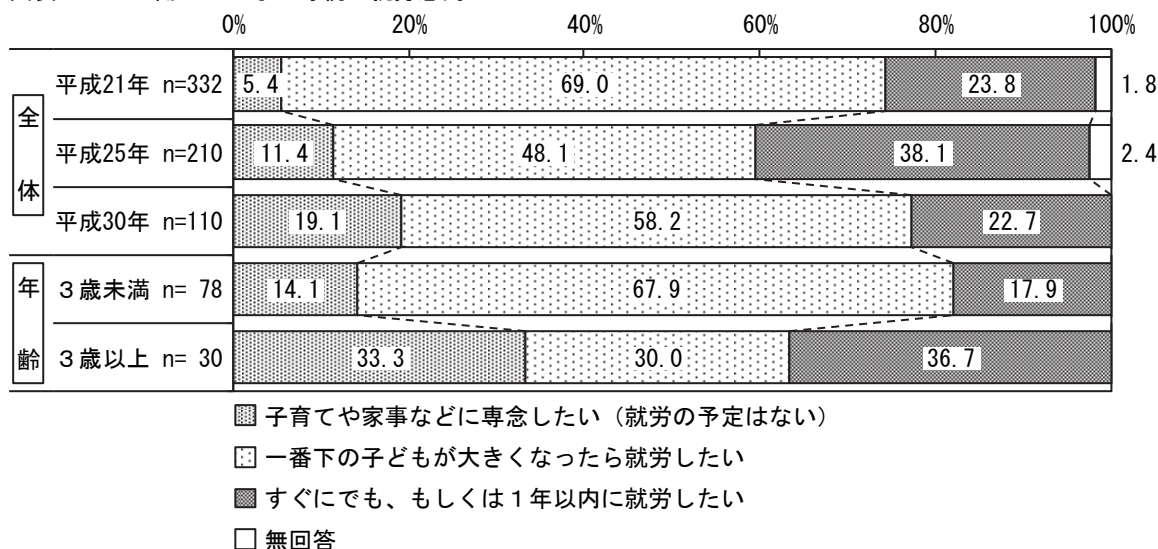
(1) 働いていない保護者の就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が58.2%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が22.7%となっています。平成21年および平成25年と比べると、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が高くなってきていますが、これは、すでに働いている母親が多くなってきていることによると推察されます。

子どもの年齢別にみると、3歳以上は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が36.7%と高くなっています（図表2-22）。

また、働いていない父親（1人）は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答しています。

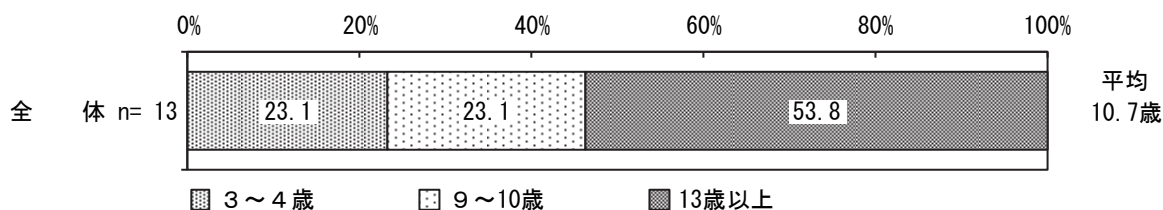
図表2-22 働いていない母親の就労意向



(2) 子どもが何歳になったら就労したいか（母親）

図表2-22で「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と答えた母親に、子どもが何歳になったら就労したいかたずねたところ、「13歳」が53.8%（7人）と最も高く、平均年齢は10.7歳となっています。

図表2-23 子どもが何歳になったら就労したいか（母親）

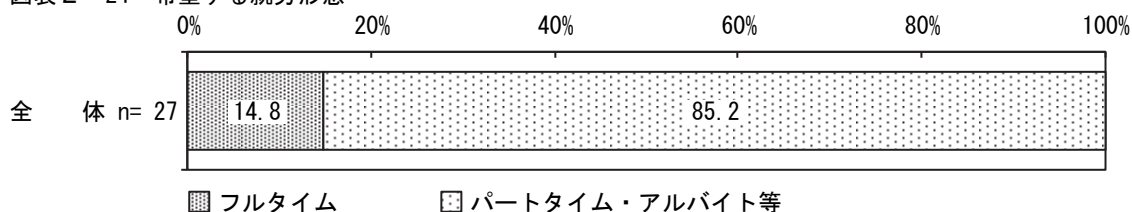


(3) 希望する就労形態・日数・時間

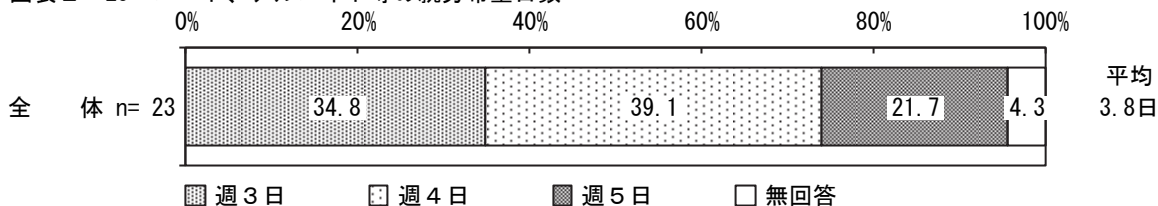
図表2-22で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた母親の希望する就労形態は、85.2%が「パート・アルバイト等」です（図表2-24）。また、パート・アルバイト等と答えた人の1週当たりの就労希望日数は、「週4日」が39.1%と最も高く、1週当たりの平均就労希望日数は3.8日です（図表2-25）。1日当たりの就労希望時間は、「5時間」が52.2%と最も高く、1日当たりの平均就労希望時間は5.0時間です（図表2-26）。

また、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた父親（1人）の希望する就労形態は、フルタイムです。

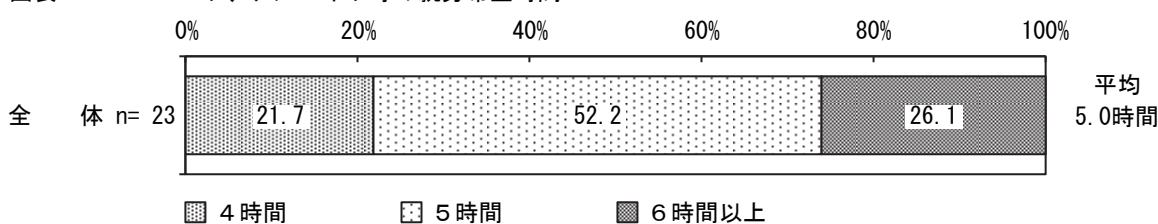
図表2-24 希望する就労形態



図表2-25 パート、アルバイト等の就労希望日数



図表2-26 パート、アルバイト等の就労希望時間



第4 放課後等の子どもの居場所

1 平日の放課後の過ごし方

(1) 1年生から3年生

平日の放課後の過ごし方をみると、14～16時は各学年とも「学校にいた」が、16時以降は「保護者や祖父母等」が高くなっています。「留守家庭児童教室」は、1年生の利用が比較的高くなっています。

図表2-27 平日の放課後の過ごし方（1～3年生）

単位：nは人、他は%

学年	時間帯	学校にいた	留守家庭児童教室で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	家で過ごす	家でひとりで過ごした	友だちの家に行った	公園などで友だちと遊んでいた	児童館などの公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていた	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
1年生 (n=125)	14～16時	36.0	26.4	32.8	—	0.8	—	1.6	—	—	0.8	—	1.6
	16～18時	—	27.2	57.6	1.6	—	—	2.4	0.8	—	8.0	0.8	1.6
	18～20時	—	0.8	95.2	—	—	—	—	—	—	2.4	—	1.6
	20時以降	—	—	97.6	—	—	—	—	—	—	0.8	—	1.6
2年生 (n=117)	14～16時	44.4	14.5	31.6	3.4	0.9	0.9	—	—	—	—	—	4.3
	16～18時	—	16.2	54.7	2.6	—	4.3	3.4	0.9	—	13.7	—	4.3
	18～20時	—	0.9	85.5	0.9	0.9	—	—	—	—	7.7	—	4.3
	20時以降	—	—	94.0	—	—	—	—	—	—	1.7	—	4.3
3年生 (n=152)	14～16時	64.5	11.2	17.1	3.9	—	—	1.3	—	—	—	0.7	1.3
	16～18時	—	23.0	53.3	6.6	0.7	3.3	2.6	—	—	9.9	—	0.7
	18～20時	—	—	91.4	2.0	—	—	—	—	0.7	3.9	—	2.0
	20時以降	—	—	98.0	0.7	—	—	—	—	—	—	—	1.3

(2) 4年生から6年生

4年生から6年生の放課後の過ごし方をみると、14～16時は「学校にいた」、16時以降は「保護者や祖父母等」が最も高くなっています。「家でひとりで過ごした」は5、6年生は20時以降まで回答がありました。6年生の18～20時は「学習塾や習いごとに行っていた」が10%を上回っています。

図表2-28 平日の放課後の過ごし方（4～6年生）

単位：nは人、他は%

学年	時間帯	学校にいた	留守家庭児童教室で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	家でようだいなど子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家にいた	公園などで友だちと遊んでいた	児童館などの公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていた	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
4年生 (n=109)	14～16時	73.4	3.7	8.3	4.6	4.6	1.8	0.9	—	—	—	—	2.8
	16～18時	—	6.4	62.4	12.8	0.9	3.7	3.7	—	0.9	8.3	—	0.9
	18～20時	—	—	91.7	0.9	—	—	—	—	0.9	4.6	—	1.8
	20時以降	—	—	95.4	—	—	—	—	—	0.9	1.8	—	1.8
5年生 (n=123)	14～16時	84.6	0.8	4.9	2.4	2.4	1.6	1.6	—	—	—	0.8	0.8
	16～18時	—	0.8	64.2	12.2	8.9	4.9	2.4	—	—	4.1	0.8	1.6
	18～20時	—	0.8	85.4	1.6	1.6	—	—	—	1.6	7.3	—	1.6
	20時以降	—	0.8	91.1	—	1.6	—	—	—	0.8	3.3	0.8	1.6
6年生 (n=111)	14～16時	86.5	—	3.6	3.6	2.7	1.8	0.9	—	—	—	—	0.9
	16～18時	—	0.9	64.9	14.4	9.0	—	3.6	—	—	5.4	—	1.8
	18～20時	—	0.9	79.3	1.8	2.7	—	—	—	2.7	10.8	—	1.8
	20時以降	—	0.9	87.4	2.7	1.8	—	—	—	1.8	2.7	—	2.7

2 土曜・休日の過ごし方

(1) 1年生から3年生

土曜・休日は、午前・午後・夕方以降を通して、「保護者や祖父母等」が最も高くなっていますが、学年が上がるにつれて低下する傾向がみられます。「クラブ活動や地域活動」は午前中が高く、学年が上がるにつれて高くなる傾向がみられます。

図表2-29 土曜・休日の過ごし方（1～3年生）

単位：nは人、他は%

学 年	時間帯	学校にいた	留守家庭児童教室で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	家でようだいなど子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家にいた	公園などで友だちと遊んでいた	児童館などの公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていた	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
1年生 (n=125)	午前	—	—	76.8	1.6	—	—	1.6	1.6	8.8	7.2	—	2.4
	午後	—	0.8	75.2	0.8	—	0.8	4.0	—	4.8	11.2	—	2.4
	夕方以降	—	1.6	95.2	—	—	—	—	—	—	0.8	—	2.4
2年生 (n=117)	午前	—	0.9	70.1	0.9	—	—	—	—	18.8	4.3	0.9	4.3
	午後	—	0.9	74.4	0.9	—	—	—	—	10.3	9.4	—	4.3
	夕方以降	—	—	94.9	—	—	—	—	—	—	0.9	—	4.3
3年生 (n=152)	午前	—	1.3	66.4	1.3	—	—	—	—	25.0	5.3	—	0.7
	午後	—	1.3	69.1	2.0	—	2.0	—	0.7	14.5	9.2	—	1.3
	夕方以降	—	0.7	94.7	1.3	—	—	—	—	—	2.0	—	1.3

(2) 4年生から6年生

4年生から6年生の午前は「保護者や祖父母等」と「クラブ活動や地域活動」が高く、午後は「クラブ活動や地域活動」が低下し他の選択肢に分散しています。夕方以降は「保護者や祖父母等」が高くなっています。

図表2-30 土曜・休日の過ごし方（4年生～6年生）

単位：nは人、他は%

学年	時間帯	学校にいた	留守家庭児童教室で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	家で過ごすだけ	家で過ごすだけなど子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家にいた	公園などで友だちと遊んでいた	児童館などの公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていた	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
4年生 (n=109)	午前	—	—	64.2	2.8	0.9	—	—	0.9	29.4	—	—	—	1.8
	午後	—	—	67.0	0.9	0.9	0.9	3.7	—	18.3	6.4	—	—	1.8
	夕方以降	—	—	94.5	—	—	—	—	—	—	—	3.7	—	1.8
5年生 (n=123)	午前	—	—	66.7	5.7	3.3	—	0.8	—	15.4	4.1	—	—	4.1
	午後	—	0.8	72.4	2.4	3.3	6.5	0.8	—	7.3	4.1	0.8	—	1.6
	夕方以降	—	0.8	87.8	0.8	0.8	—	—	—	3.3	1.6	0.8	—	4.1
6年生 (n=111)	午前	—	0.9	59.5	2.7	2.7	—	—	—	26.1	7.2	—	—	0.9
	午後	—	0.9	62.2	1.8	0.9	2.7	1.8	0.9	18.9	8.1	0.9	—	0.9
	夕方以降	—	0.9	89.2	2.7	1.8	—	—	—	0.9	3.6	—	—	0.9

第5 留守家庭児童教室・放課後子ども教室

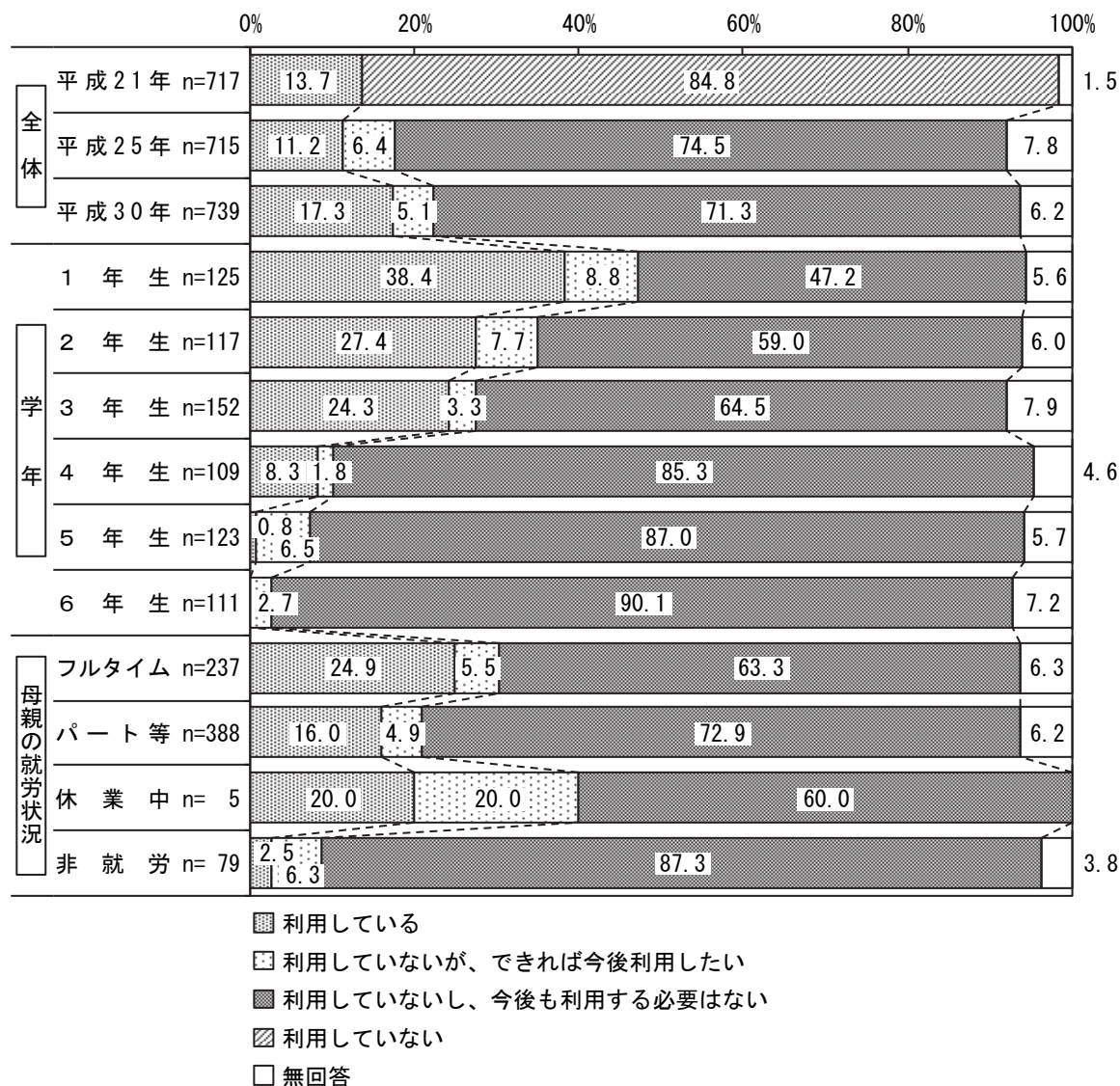
1 留守家庭児童教室の利用状況

(1) 留守家庭児童教室の利用の有無

留守家庭児童教室の利用率は17.3%と、平成21年および平成25年と比べて高くなっています。子どもの学年別にみると低学年ほど高く、1年生では38.4%が利用しています。母親の就労状況別ではフルタイムが高くなっています。

「利用していないが、できれば今後利用したい」は1・2年生が高く、利用対象外である5年生も6.5%あります。

図表2-31 留守家庭児童教室の利用の有無

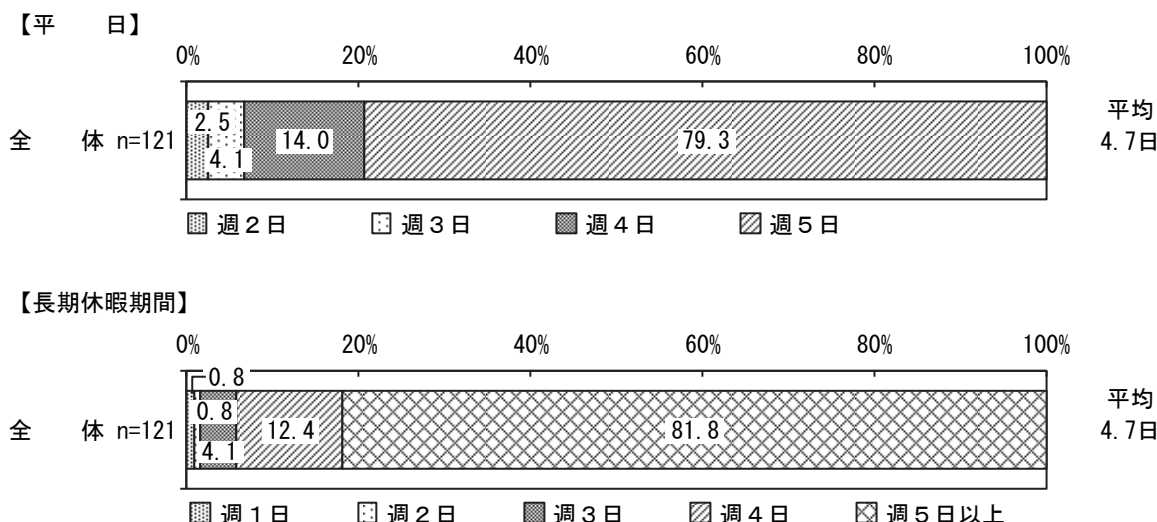


(注) 平成21年は「利用していないが、できれば今後利用したい」「利用していないし、今後も利用する必要はない」という選択肢はなく、平成25年および平成30年は「利用していない」という選択肢はなかった。

(2) 留守家庭児童教室の利用日数

留守家庭児童教室を「利用している」と回答した人の平日の利用日数は、「週5日」が79.3%を占め、次いで「週4日」が14.0%などとなっており、1週間当たりの平均利用日数は4.7日です。夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中は、「週5日以上」が81.8%と高くなっています。長期休暇期間中の1週間当たりの平均利用日数は4.7日です。

図表2-32 留守家庭児童教室の利用日数

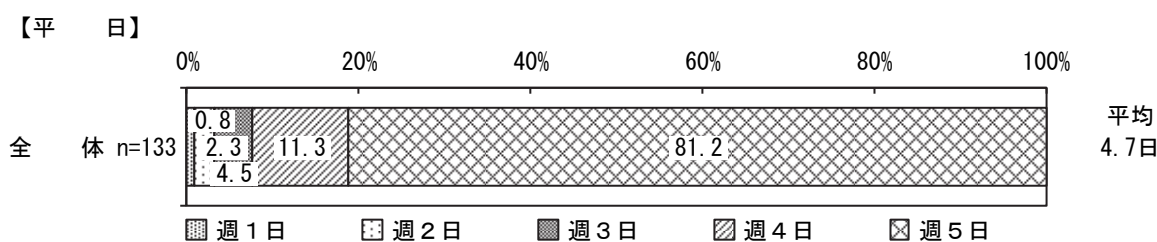


2 留守家庭児童教室の利用希望日数・時間等

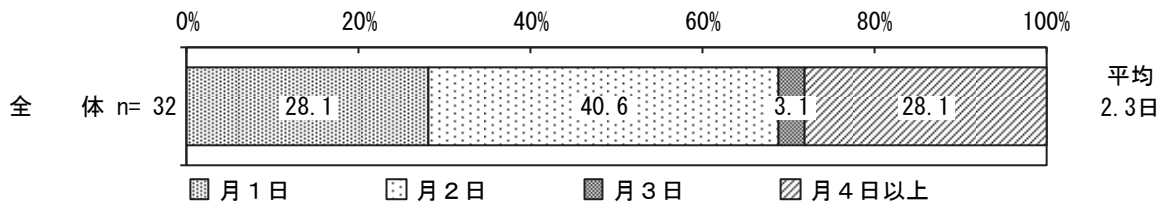
(1) 留守家庭児童教室の利用希望日数

図表2-31で「利用している」または「利用していないが、できれば今後利用したい」と答えた人の利用希望日数は、図表2-33のとおりです。平日は「週5日」が81.2%を占め、1週間当たりの利用希望日数は4.7日です。土曜日は「月2日」が40.6%（13人）と最も高く、平均利用希望日数が1か月当たり2.3日となっています。日曜・祝日も「月2日」が55.0%（11人）と最も高く、平均利用希望日数は1か月当たり2.0日となっています。長期休暇期間中は「週5日以上」が87.3%を占め、平均利用希望日数は週5.0日となっています。

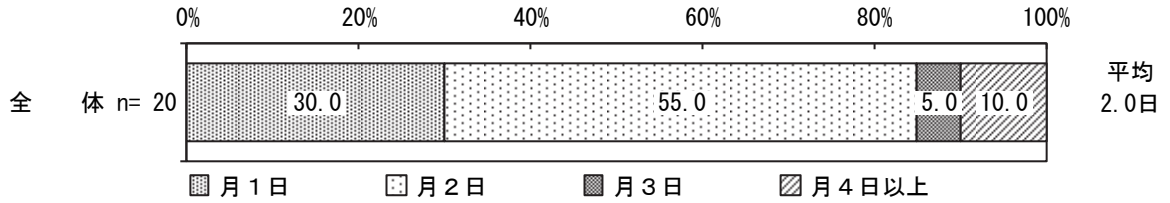
図表2-33 留守家庭児童教室の利用希望日数



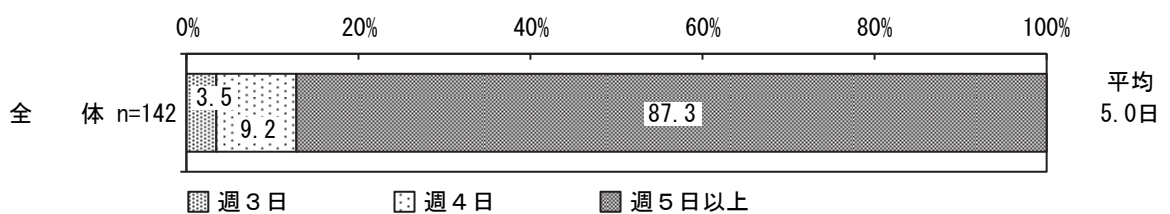
【土曜日】



【日曜・祝日】



【長期休暇期間】

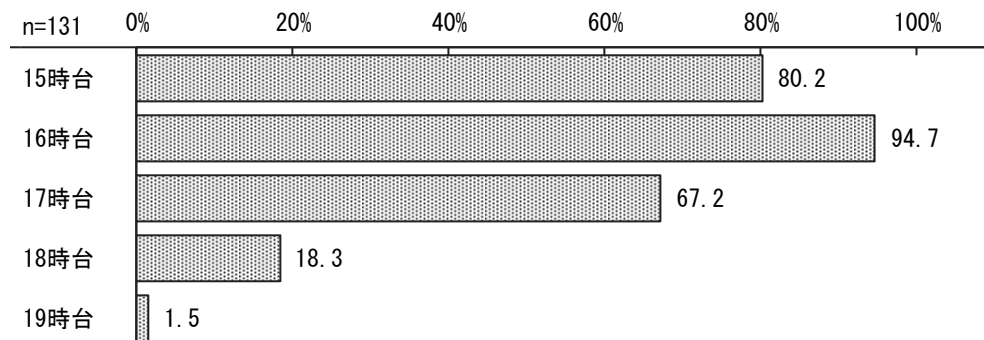


(2) 留守家庭児童教室の利用希望時間帯

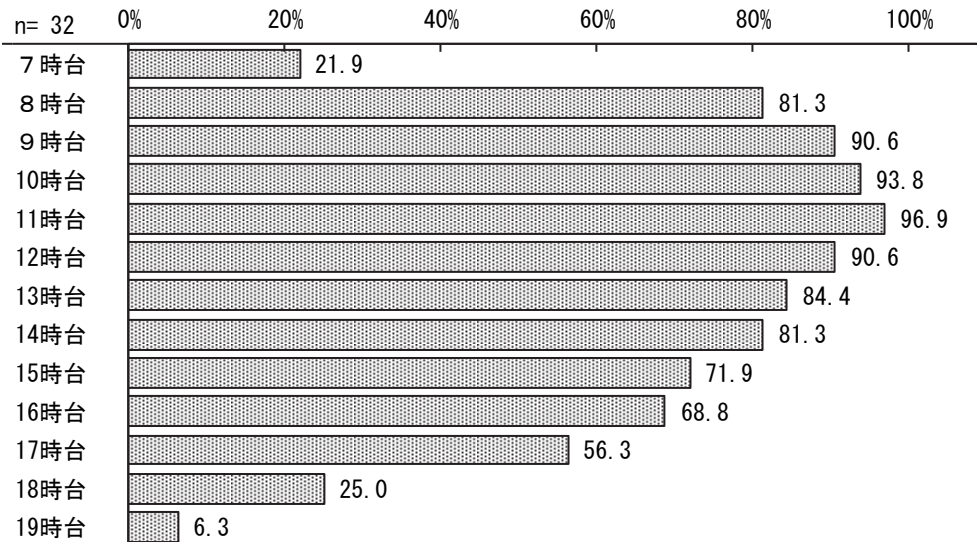
留守家庭児童教室の利用希望時間帯についてみると、平日は16時台が94.7%と最も高く、そこから時間ともに低下し、20時以降の希望はありません。土曜日は、8時台から高くなり、11時台をピークに徐々に低下していきませんが、17時台でも50%を上回っています。日曜・祝日および休暇期間中は、8時台から16時台まで80%を上回っています。

図表 2-34 留守家庭児童教室の利用希望時間帯

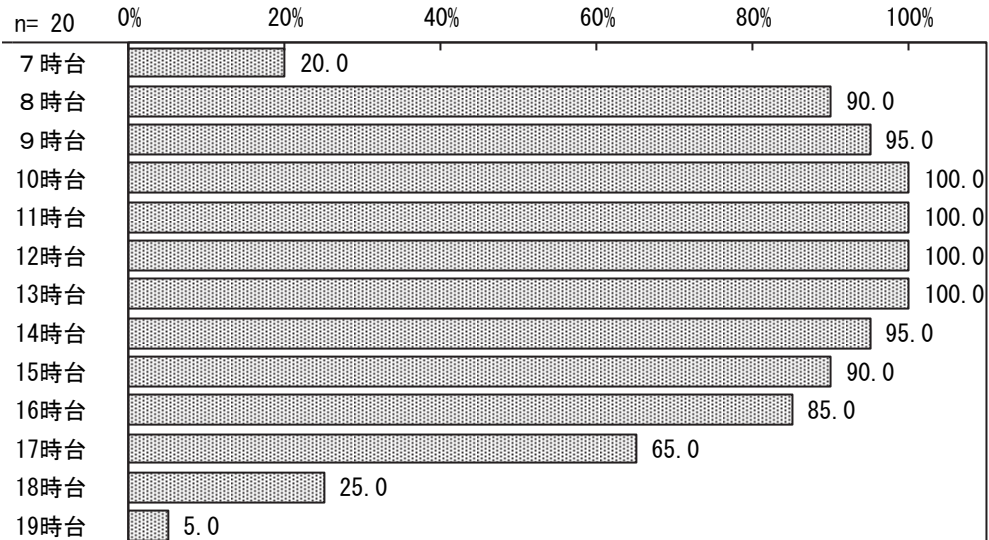
【平日】



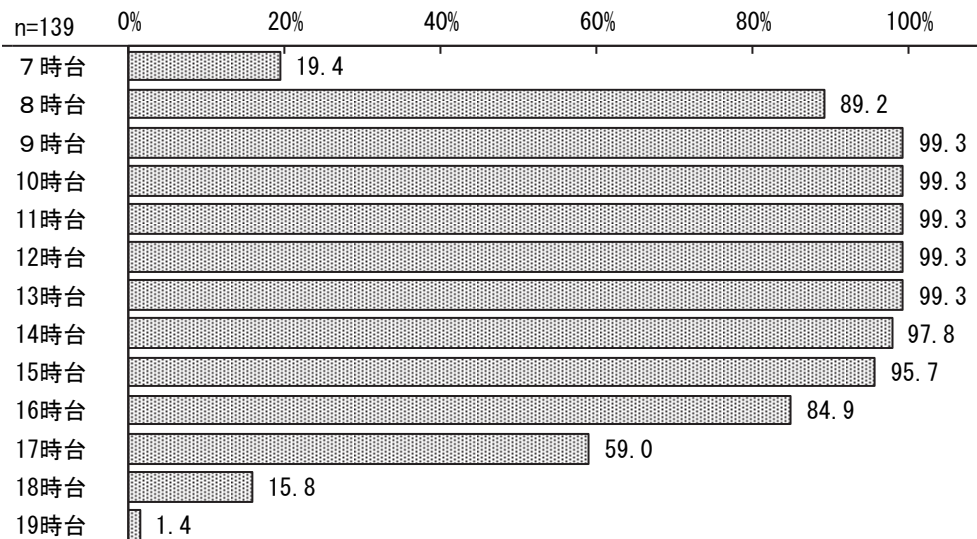
【土曜日】



【日曜・祝日】



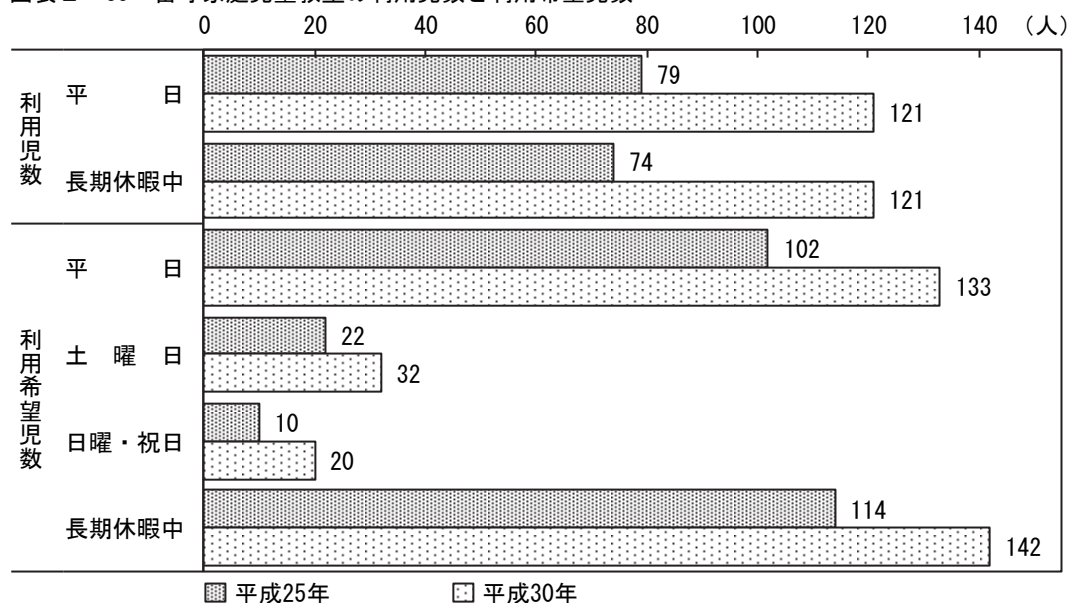
【長期休暇期間】



(3) 留守家庭児童教室の利用児数と利用希望児数

留守家庭児童教室の利用児数と利用希望児数をみると、平日、長期休暇中ともに利用希望児数が実際の利用児数を上回っており、長期休暇中の利用希望が142人と最も多くなっています。平成25年と比べると、利用対象年齢の引き上げもあり、利用児数、利用希望児数ともに増加しています。

図表 2-35 留守家庭児童教室の利用児数と利用希望児数



(4) 留守家庭児童教室の利用希望学年

留守家庭児童教室の利用は現在4年生までとなっていますが、「利用している」あるいは「利用していないが、できれば今後利用したい」と答えた人の利用希望学年は、「6年生」が50.6%と最も高く、次いで「4年生」が27.1%などとなっています。

図表 2-36 留守家庭児童教室の利用希望学年

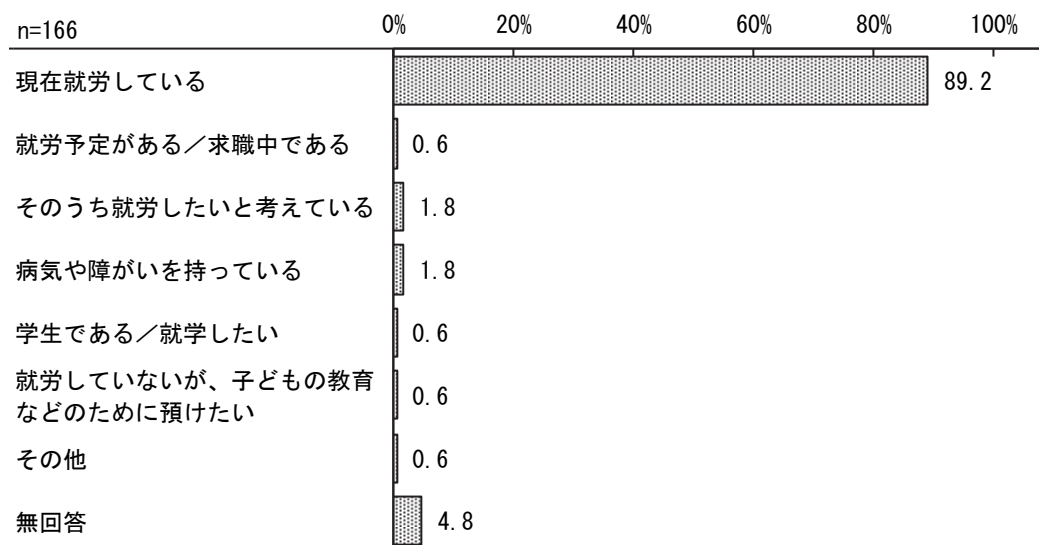
単位：nは人、他は%

区分	n	3年生まで	4年生まで	5年生まで	6年生まで	無回答
全体	166	3.6	27.1	9.6	50.6	9.0
1年生	59	3.4	32.2	8.5	44.1	11.9
2年生	41	4.9	29.3	7.3	53.7	4.9
3年生	42	4.8	21.4	16.7	54.8	2.4
4年生	11	-	36.4	9.1	54.5	-
5年生	9	-	-	-	66.7	33.3
6年生	3	-	-	-	33.3	66.7

(5) 留守家庭児童教室の利用理由

留守家庭児童教室を利用している、または今後利用したい主な理由としては、「現在就労している」が89.2%を占めています。

図表 2-37 留守家庭児童教室の利用理由



(注)「家族・親族などを介護しなければならない」という選択肢に該当がなかった。

3 放課後子ども教室

(1) 放課後子ども教室の利用意向

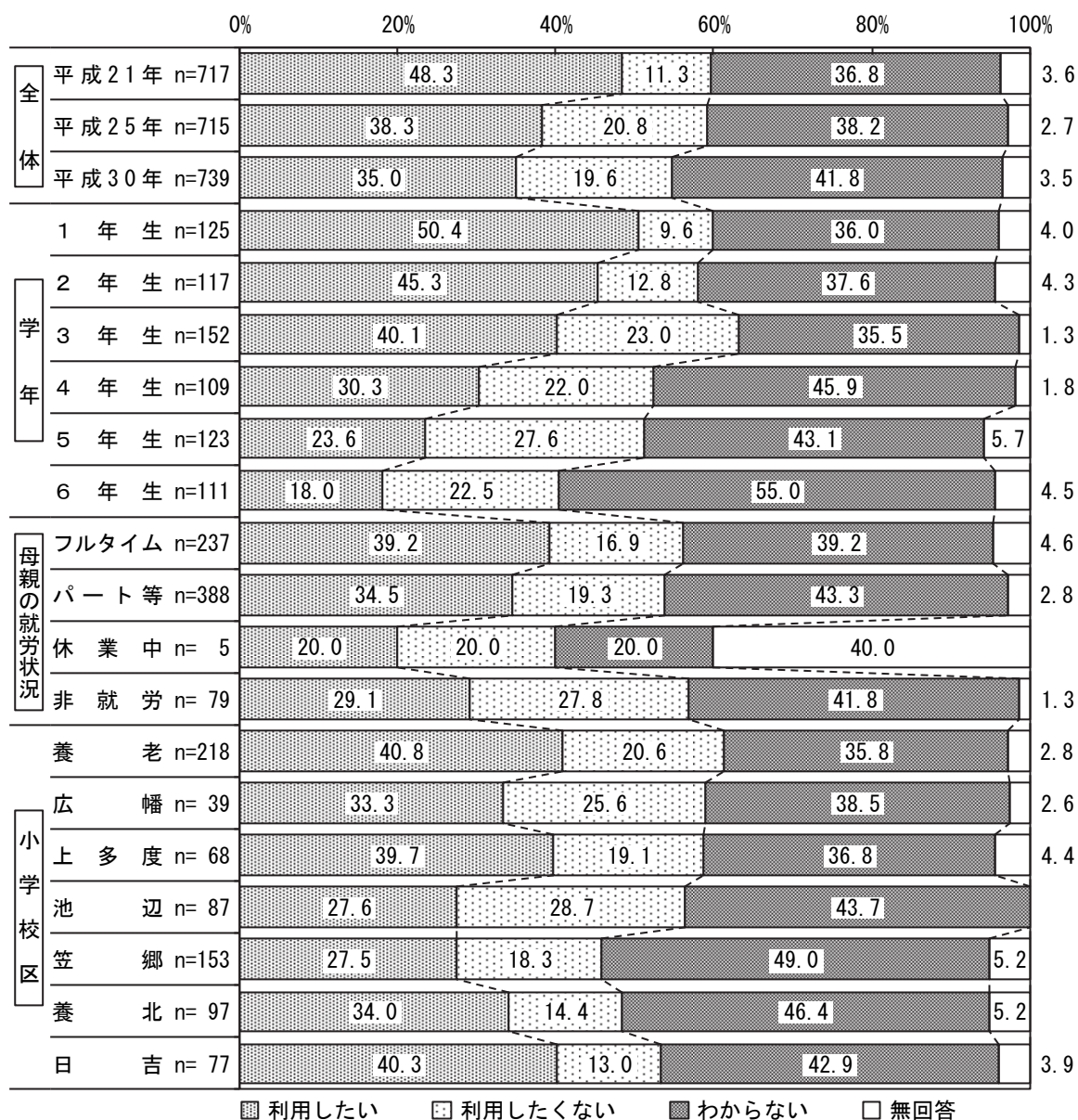
放課後子ども教室は、すべての子どもを対象として、安心・安全な子どもの居場所を提供し、地域住民の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化芸術活動、交流活動等の取組をするものです。現在、養老町では実施していません。

放課後子ども教室を「利用したい」は35.0%、「利用したくない」は19.6%であり、「わからない」が41.8%となっています。平成21年および平成25年と比べると、「利用したい」は低下が続いています。

「利用したい」は、子どもの学年別では低学年ほど高く、母親の就労状況別ではフルタイムが最も高くなっています。

小学校区別にみると、「利用したい」は養老、上多度、日吉が40%前後と高く、池辺、笠郷が低くなっています。

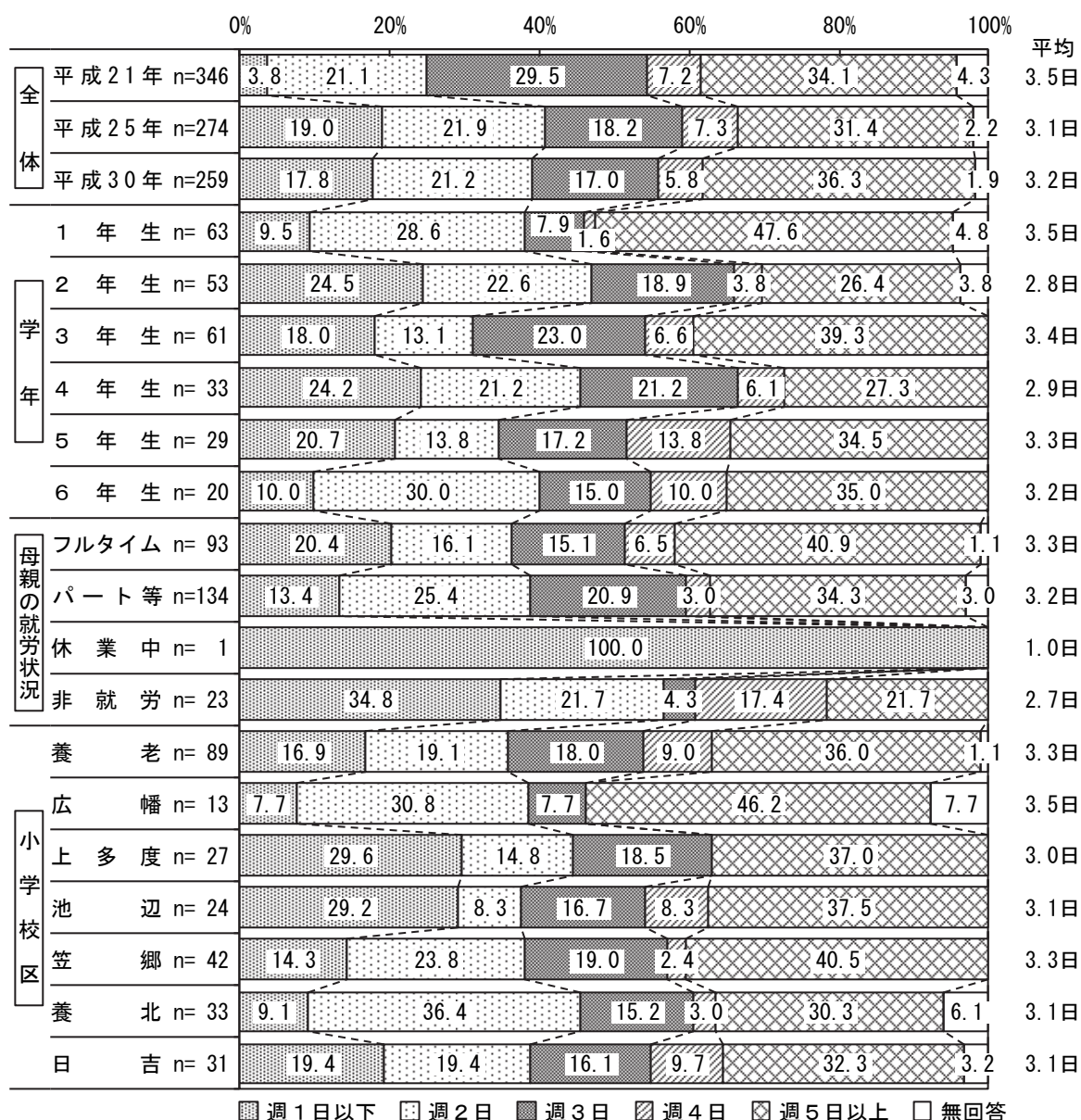
図表 2-38 放課後子ども教室の利用意向



(2) 放課後子ども教室の利用希望日数

放課後子ども教室を「利用したい」と答えた人の利用希望日数は、「週5日以上」が36.3%と最も高く、次いで「週2日」が21.2%、「週1日以下」が17.8%などとなっています。1週当たりの平均利用希望日数は3.2日です。

図表2-39 放課後子ども教室の利用希望日数

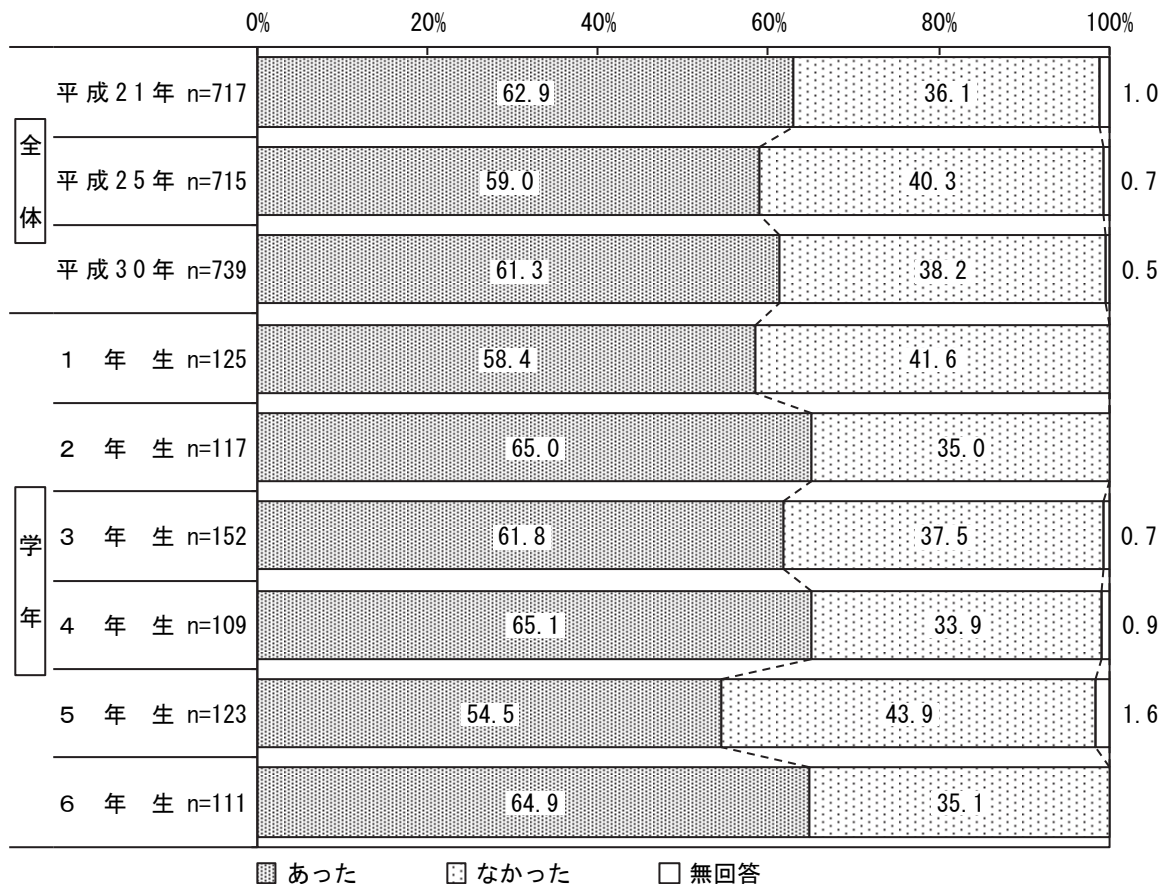


第6 子どもが病気の時の対応

1 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無

この1年間に、子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無については、「あった」が61.3%、「なかった」が38.2%です。平成21年および平成25年と比べると、いずれも「あった」は60%前後となっています。

図表2-40 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無



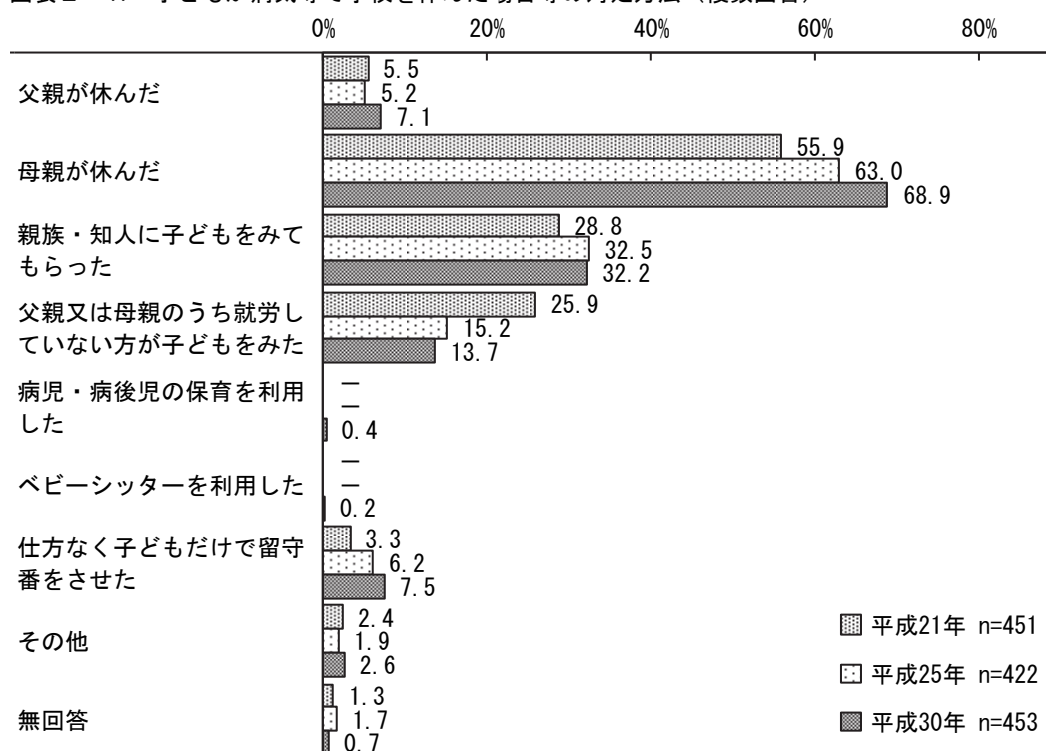
2 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の対処方法

子どもが病気等で学校を休んだ場合の対処方法については、「母親が休んだ」が68.9%と最も高く、次いで「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」が32.2%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が13.7%などとなっています。平成21年および平成25年と比べると、「母親が休んだ」「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」は高くなり、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」は低くなっています(図表2-41)。

対処が必要だった年間の日数の平均を対処方法別にみると、「母親が休んだ」日数が3.4日と最も多くなっています(図表2-42)。

「その他」として、図表2-43の内容が記載されていました。

図表2-41 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の対処方法(複数回答)



(注)「ファミリー・サポート・センターを利用した」という選択肢には該当がなかった。

図表2-42 対処が必要だった年間の日数の平均

単位：日/年

区分	父親が休んだ	母親が休んだ	親族・知人に子どもをみてもらった	父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	病児・病後児の保育を利用した	ベビーシッターを利用した	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	その他
平成25年	1.7	3.2	2.8	3.3	—	—	2.4	2.8
平成30年	3.2	3.4	3.0	3.3	2.5	—	2.3	2.1

図表 2-43 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の対処方法（その他）

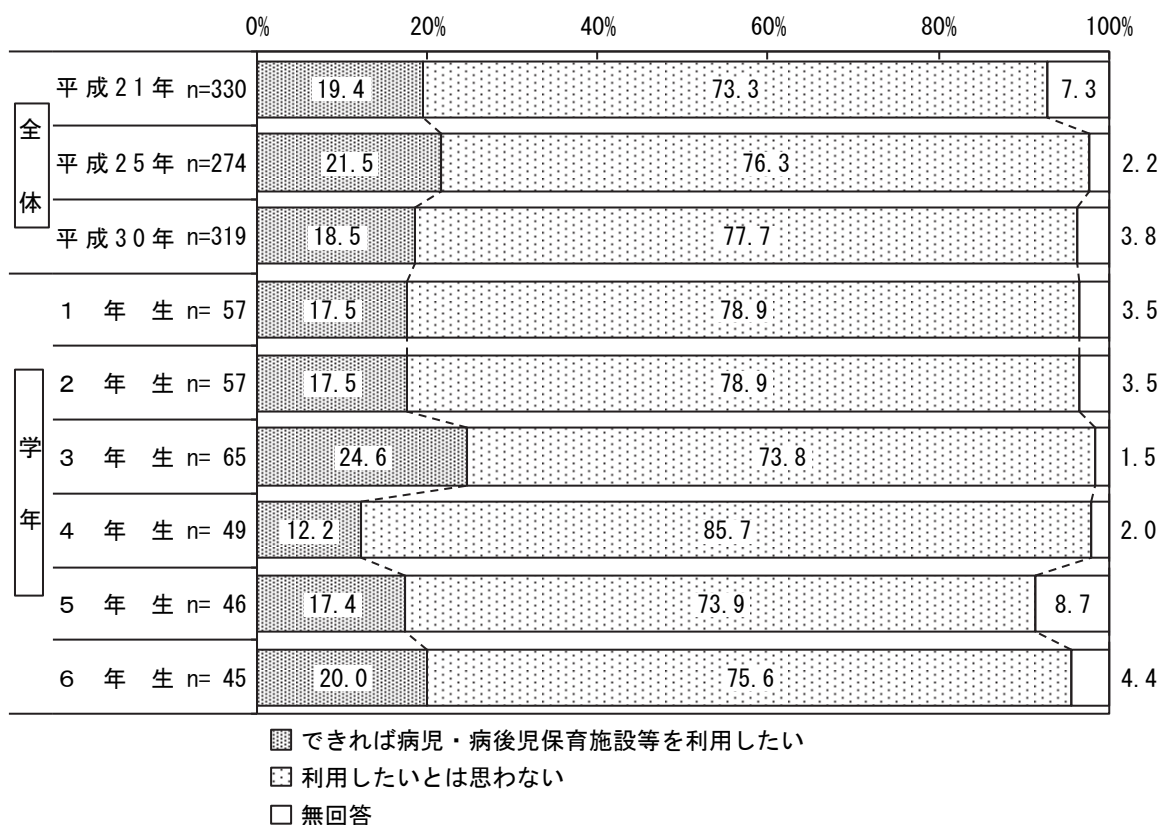
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを職場へ連れて行った ・母親の職場へ連れて行った。 ・自宅の近くで仕事をしているので、電話で必要なら呼ぶ。昼、夕食時は必ず帰る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自営のため、家で仕事をしながら見た ・自宅での仕事のため、休む必要なし ・母親が内職のため、休む必要はなかった
--	--

3 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の施設の利用意向

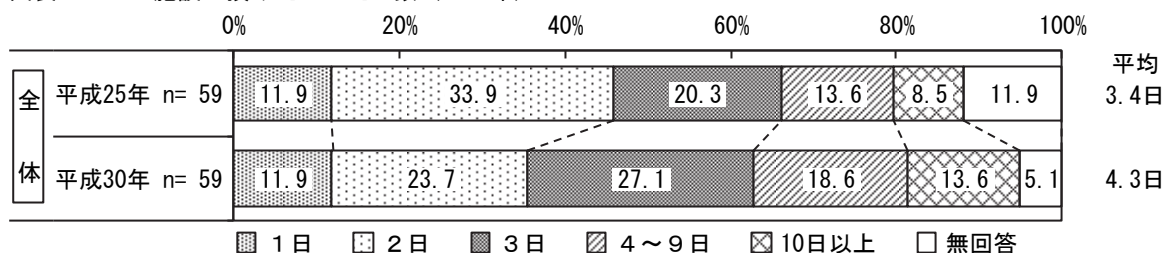
子どもが病気等で学校を休んだ時の対処方法として、親が仕事を休んで対処した人の施設の利用意向は18.5%です。平成21年および平成25年と比べると、利用意向は20%前後と大きな変化はありません。学年別にみると、3年生の利用意向が最も高くなっています（図表2-44）。

1年間に施設に預けたかった日数は「3日」が27.1%と最も高く、1年当たりの平均日数は4.3日です。平成25年と比べると、平均日数は0.9日多くなっています（図表2-45）。

図表 2-44 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の施設の利用意向



図表 2-45 施設に預けたかった日数（日／年）

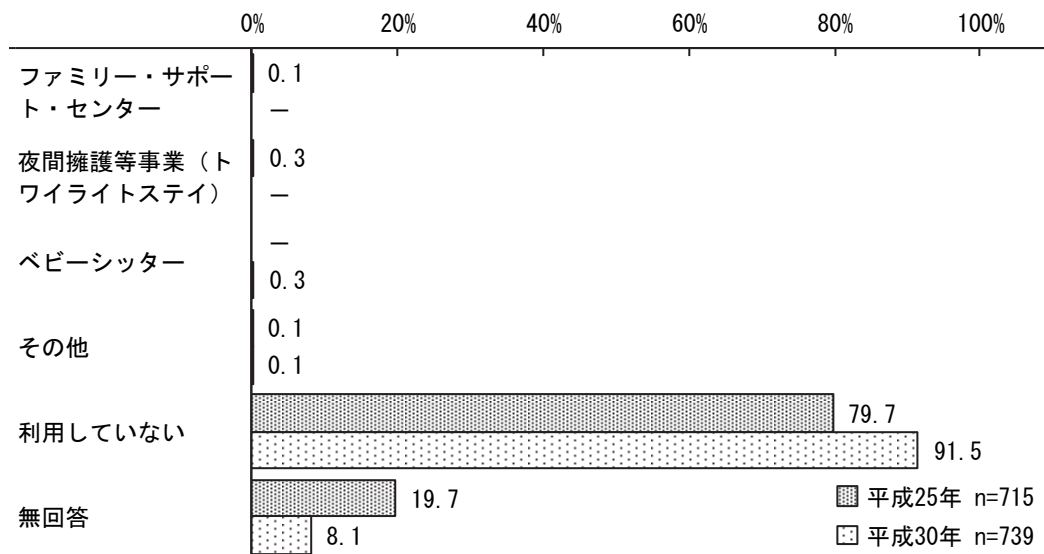


第7 不特定の事業や宿泊を伴う一時預かり

1 不定期的に利用している事業

私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、不定期的に利用している事業としては、「ベビーシッター」が0.3%（2人）、「その他」が0.1%（1人）となっており、91.5%が「利用していない」と回答しています。

図表2-46 不定期的に利用している事業（複数回答）



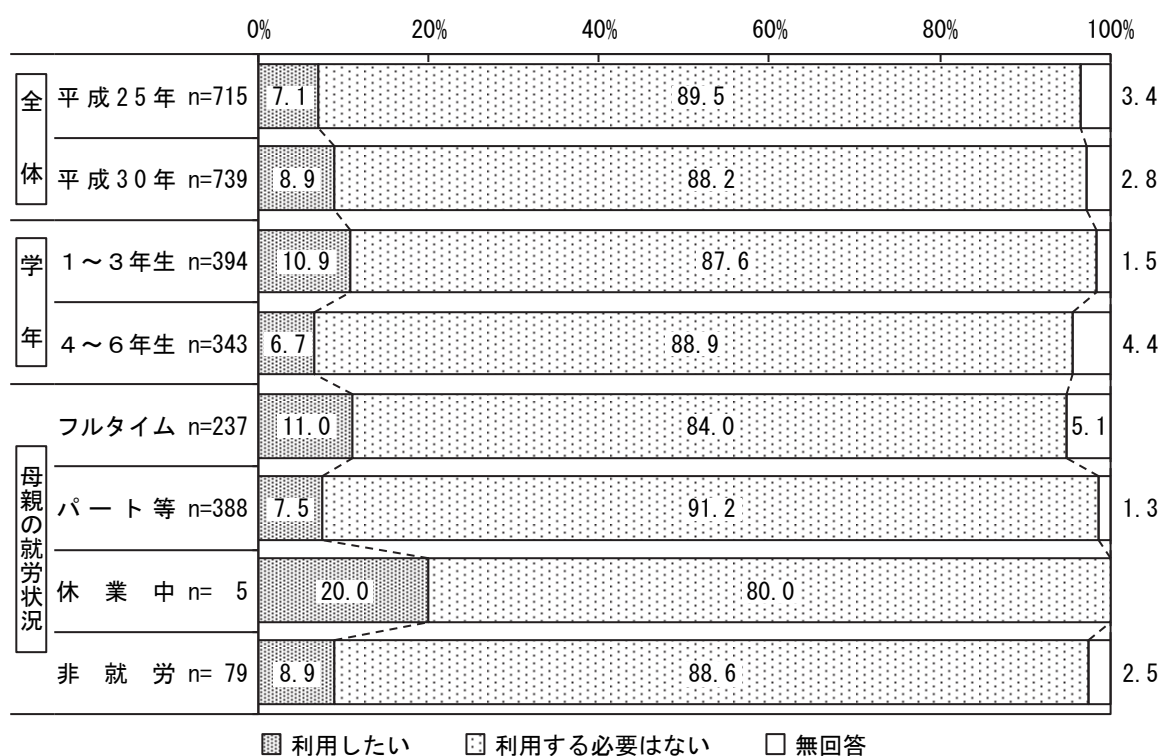
2 不定期の預かり等の事業の利用意向

(1) 不定期の預かり等の事業の利用意向

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、子どもを預かってくれる事業を「利用したい」と答えているのは8.9%となっています。平成25年と比べると、1.8ポイント高くなっています。

「利用したい」は、子どもの学年別にみると1～3年生が高く、母親の就労状況別にみるとフルタイムおよび休業中が高くなっています。

図表 2-47 不定期の預かり等の事業の利用意向



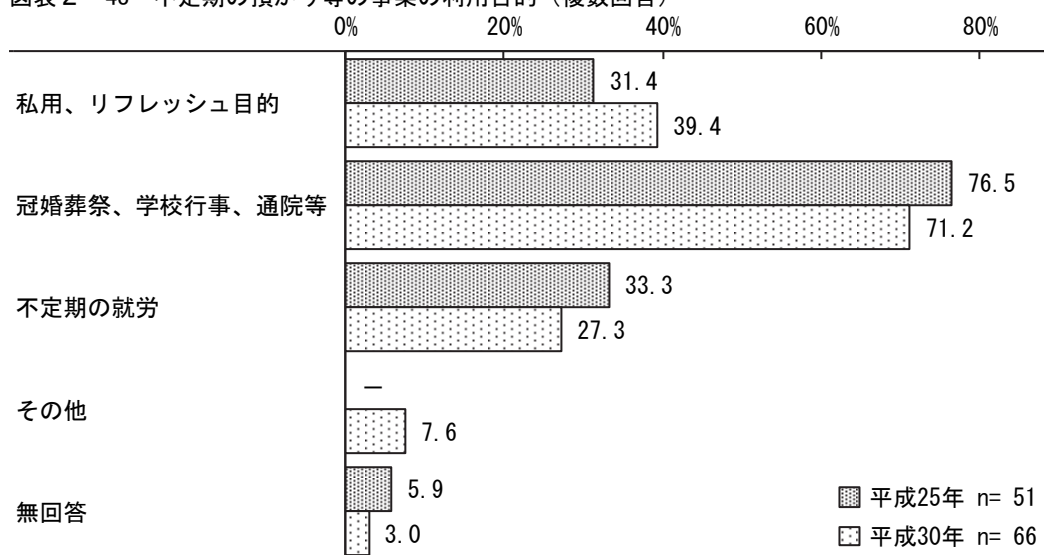
(2) 不定期の預かり等の事業の利用目的

前問で「利用したい」と回答した人の利用目的をたずねたところ、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が71.2%と最も高く、次いで「私用、リフレッシュ」が39.4%、「不定期の就労」が27.3%となっています（図表2-48）。

各目的別の1年間の利用希望日数をみると、「不定期の就労」の24.9日が最も多く、なっています。平成25年と比べると、いずれの選択肢も利用希望日数は増加しています（図表2-49）。

「その他」として、図表2-50の内容が記載されていました。

図表2-48 不定期の預かり等の事業の利用目的（複数回答）



図表2-49 不定期の預かり等の事業の利用希望日数

単位：日／年

区分	私用、リフレッシュ目的	冠婚葬祭、学校行事、通院等	不定期の就労	その他
平成25年	5.5	6.1	8.3	—
平成30年	16.4	9.3	24.9	17.8

図表2-50 不定期の預かり等の事業の利用目的（その他）

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の病気 ・病気 ・夜間仕事をしているため、子ども達だけになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがある長女のケア ・今まではなかったけれど、兄弟間での入院などになると、預け先が必要となる可能性があります
---	--

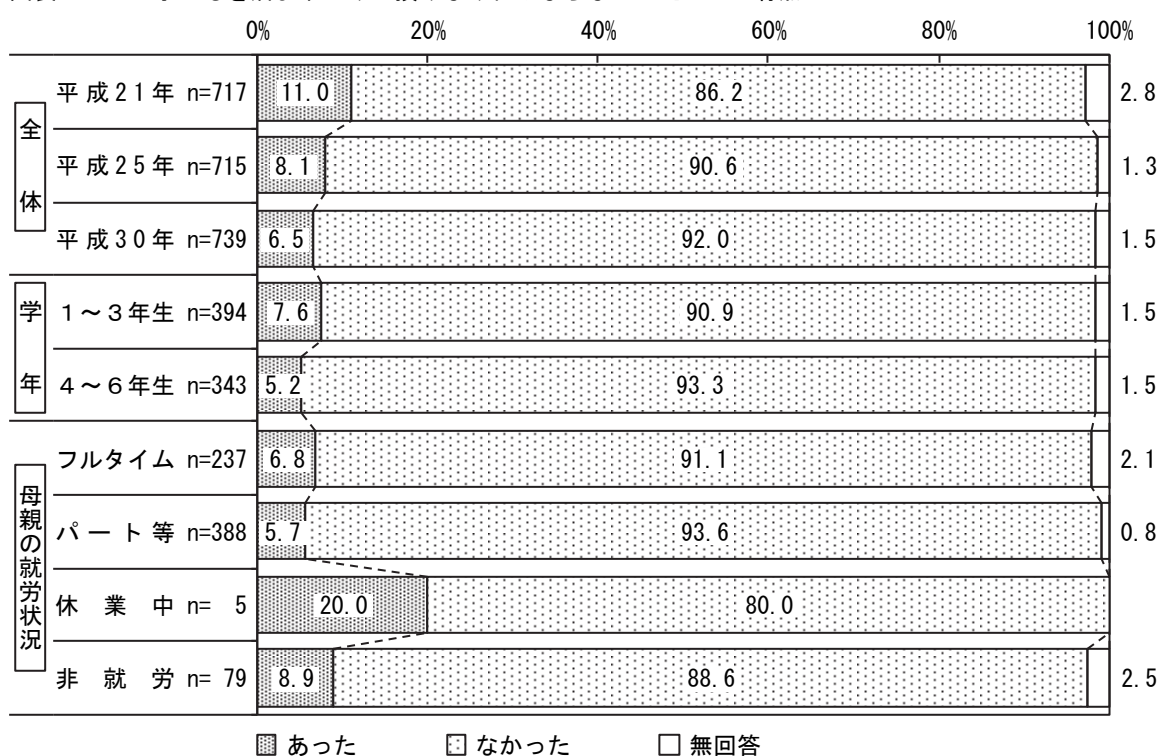
3 宿泊を伴う一時預かり

(1) 子どもを泊まりがけで預けなければならなかったことの有無

この1年間に、子どもを泊まりがけで家族以外の人に預けなければならなかったこと（預け先がみつからなかった場合を含む）の有無は、「あった」が6.5%です。平成21年および平成25年と比べると、低くなってきています。

「あった」は、子どもの学年別では1～3年生が高く、母親の就労状況別では基数の少ない休業中を除くと非就労が高くなっています。

図表2-51 子どもを泊まりがけで預けなければならなかったことの有無

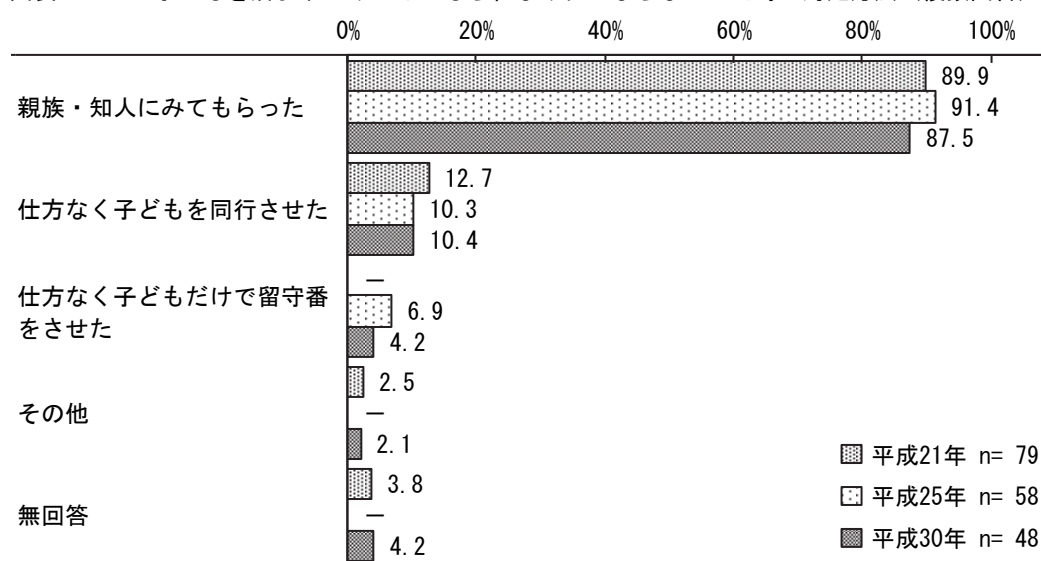


(2) 子どもを泊まりがけでみてもらわなければならなかった時の対処方法

保護者の用事などにより、子どもを泊まりがけでみてもらわなければならなかった時の対処方法については、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が87.5%と最も高くなっています。平成21年および平成25年と比べると、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」は低くなっています(図表2-52)。

1年間で子どもを泊まりがけで預けなければならなかった時の平均泊数は、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が5.8泊と最も多くなっています。

図表2-52 子どもを泊まりがけでみてもらわなければならなかった時の対処方法(複数回答)



(注) 平成21年は「ショートステイを利用した」「ショートステイ以外の保育事業を利用した」という選択肢がなく、「保育サービス(ショートステイ事業を実施している施設、認可外保育施設、ベビーシッターなど)を利用した」という選択肢があったが該当はなかった。平成25年、平成30年は「ショートステイを利用した」「ショートステイ以外の保育事業を利用した」という選択肢には該当がなかった。

図表2-53 子どもを泊まりがけで預けなければならなかった時の泊数

単位：泊/年

区分	親族・知人にみてもらった	仕方なく子どもを同行させた	仕方なく子どもだけで留守番	その他
平成21年	7.6	1.6	—	11.0
平成25年	8.0	3.6	1.5	—
平成30年	5.8	2.2	1.5	4.0

第8 子育て支援事業の評価等

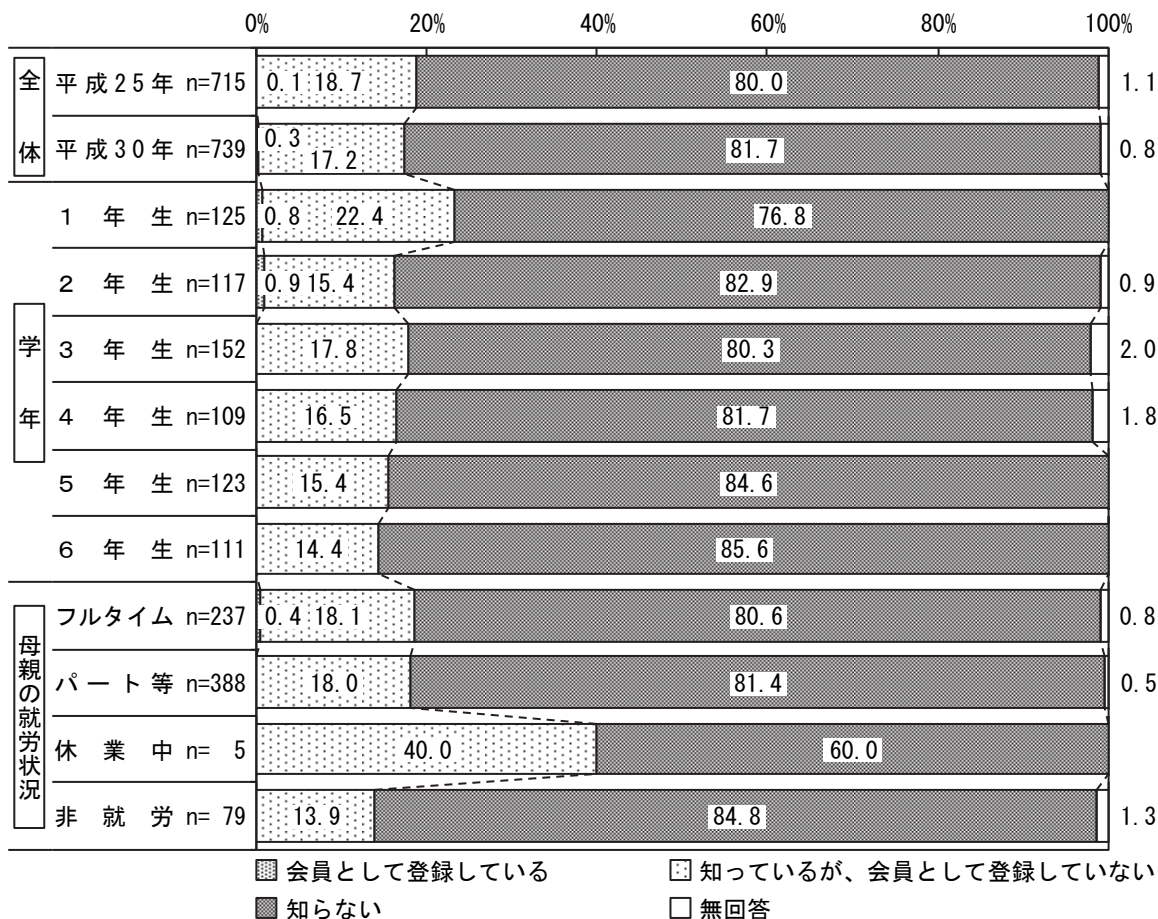
1 ファミリー・サポート・センターの認知度と利用意向

(1) ファミリー・サポート・センターの認知度

ファミリー・サポート・センターについては、「会員として登録している」(0.3%)と「知っているが、会員として登録していない」(17.2%)とを合計した17.5%が<知っている>こととなります。平成25年と比べると、<知っている>は1.3ポイント低下しています。

子どもの学年別にみると、<知っている>は1年生が23.2%と最も高く、学年が上がるほど低下する傾向にあります。

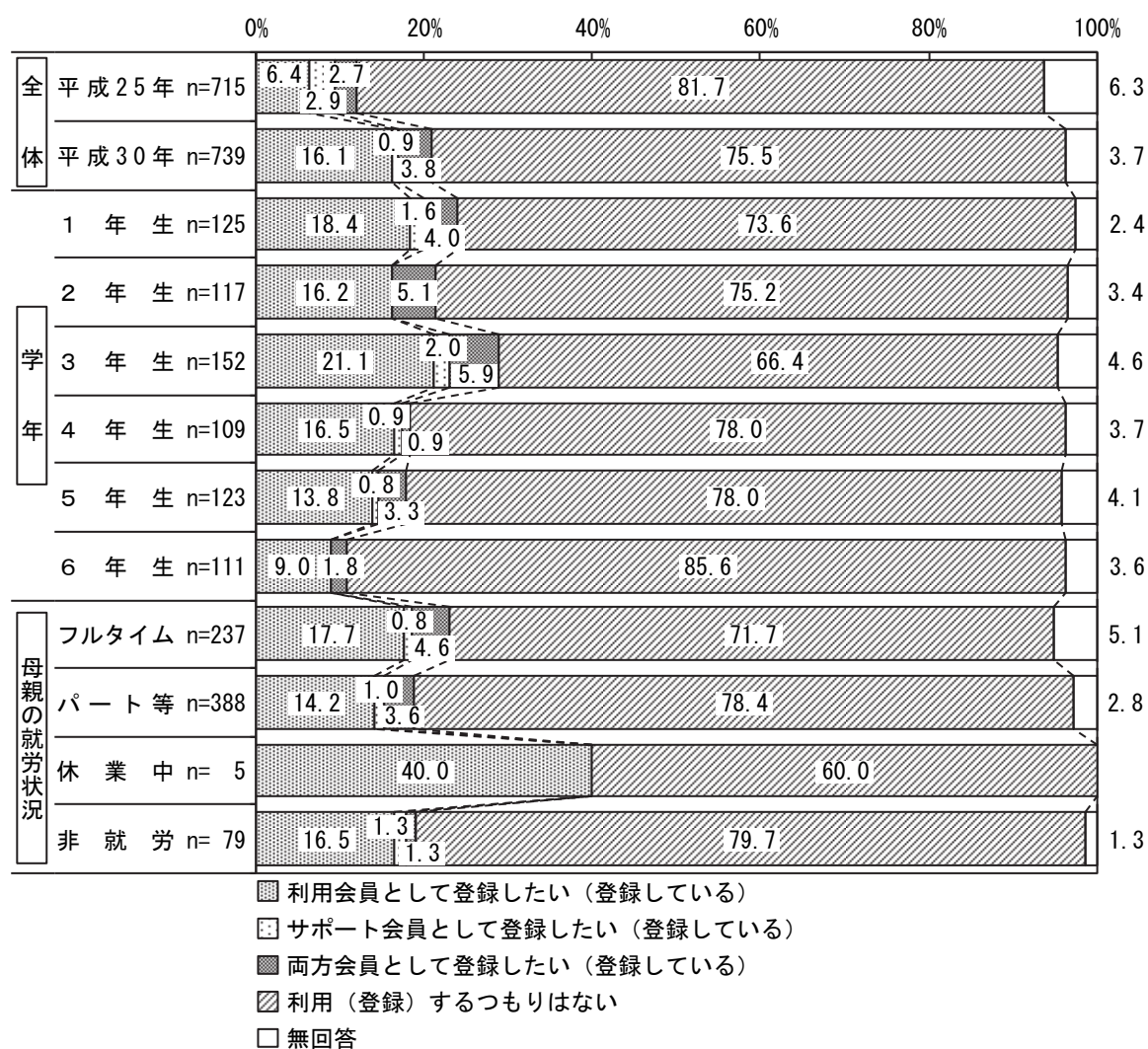
図表2-54 ファミリー・サポート・センターの認知度



(2) ファミリー・サポート・センターの利用意向

ファミリー・サポート・センターを利用したいかという設問に対しては、「利用会員として登録したい（登録している）」が16.1%、「サポート会員として登録したい（登録している）」が0.9%、「両方会員として登録したい（登録している）」が3.8%となっています。平成25年と比べると、「利用会員として登録したい（登録している）」「両方会員として登録したい（登録している）」が高くなっています。

図表 2-55 ファミリー・サポート・センターの利用意向



2 改善してほしいこと・利用してよかったこと

(1) 改善してほしいこと・利用してよかったこと

図表2-56は、「現在通学している学校や、利用している子育て支援事業等について、改善してほしいことや、よかった点があればご記入ください」という設問に記述されていたことをまとめたものです。

図表2-56 改善してほしいこと・利用してよかったこと

【学 校】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・登校距離、時間が長いこと ・通学距離が長すぎる ・登校時間が早すぎる。(現在7:15に家を出て、7:40頃学校に着いている) ・難しいことだとは思っていますが、2クラスなら2人先生がほしい ・授業の内容があまりわかっていないのに、先へ進まないでほしい ・1年生について、入学してから11月までの間の4時間授業を5時間授業にしてほしい ・1年生の授業時間数が少ない ・支援学級の児童への支援の充実 ・授業中ずっと着席してられない子のクラスがほしい、頑張っている子の妨げになっていると思う ・授業参観など平日はやめてほしい。振替休日はいらない ・土曜授業はなくしてほしい。役員の仕事を減らしてほしい ・土曜日の授業で、養老町の歴史をやり出したが、そんなことより英語の授業や他の教科の応用など、学力向上に力を入れてほしい。他の町や市より劣っているように感じる ・土曜日の授業をやめる ・土曜授業や始業式や終業式の日など、給食を食べさせてほしい ・始業式や終業式の日も、給食ありにしてほしい ・PTAをなくしてもよいのではないか ・PTA活動、不必要なものは減らしてほしい。働きづらいです ・二世帯世帯の人がPTA本部に参加できないことを理解してほしい。子どもを預けられないので ・少子化で、PTA役員が必ず回ってきます。私は療養中ですので、負担がかかります。いろいろ役目を少なくしてほしいです ・PTA役員活動を、1人の子に対して1回強制される。6年間で2回役員は多すぎる ・PTA役員について、子ども2人なら、平役が1回ずつ、最終子どもの6年生時に重役1回で、計3回やることになる。多くてとても負担。内容も今の時代に合わないような手間がかかったり、夜の集まりがあったりと、祖父母に協力してもらえない家はとてもしんどいです 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談したことに対して、先生たちがすぐに対応してくださるので、ありがたいです ・子ども目線で、常々色々と考えて頂けること ・小さなことでも連絡してくれる先生もいるので安心します ・良い先生がいた ・先生方が親身になって関わっていただけました ・先生が、子どもたちのことを一番に考えてくれて いる ・一時期学校に行きたがらなかったときに、子どもに話を聞いてくれた後、一人ひとりにちゃんと対応してくれた ・とても親身になって、相談にのってくださる先生もいる ・担任の先生がよかった ・子どもが少ない分、先生の目が行き届いている ・いつも温かく子どもを見守ってもらえる ・子どもたちをよく見てくれている ・細かいところまで気を遣ってくださいます ・どの先生も、すごく丁寧で助かります ・1人1人、しっかり指導してくれている ・いじめや差別をなくすことを重点にしている ・スクールカウンセラーが来校してくれるので、子どもも親も相談できる ・子どもの特性に対し、合理的配慮をしてくださっています ・通級クラスができた ・授業についていけない子のためのクラスがあるから、助かっている ・子ども一人ひとりに対して、合った対応をしてもらえる ・低学年の下校で人数が少ない時、家の近くまで先生がついてきてくれている ・校長先生が、朝通学路に立ってくださるので、とてもありがたい。見守りも含め、距離が近いと思う ・見守りの人が多い ・子どもたちが登校するときから、先生たちがいろいろなところに立っていただいております、安心して学校に行かせることができる ・土曜日の午前中授業 ・なかよし班活動

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 廃止 ・他の学年では聞いたことはないが、この学年のみ、親が束になり、無視などのいじめがあるので、役で一緒になると困ります ・子どもが先生に相談しやすいようにしてほしいです。今は相談しにくいようです。相談しても、逆にしかられるように感じるようで、話したくないといえます ・子どものことをしっかり見てほしい。決めつけて見ないでほしい ・いじめを隠す ・特に低学年のうち、ささいなことでも物事が十分に理解できるまで説明してほしい。希望すれば、電話連絡もしてほしい ・学校のルールが細かすぎる。マスクは白じゃないとダメ。ニーハイソックスはダメ。小学校でそこまで決める必要があるのか。推奨していますと言っているのに叱られる ・叱るばかりでなく、いいところも見て、男女差別はやめてほしい ・子どもがやる気をなくすようなことを言わないでほしい ・先生の中で、忠実に言ったことに対して責任を持って頂きたいと思います。その場しのぎの声掛けは、その子を傷つけます ・運動会と町民運動会を一緒にしてほしい。行事が多い。先生が子どもの様子をしっかり見ていない ・作文（愛の詩、お金で買えないもの）などの親の宿題的なものをやめてほしい ・町民運動会も仕事で行けない場合があるのでやめてほしい ・子どもの情報について、留守家庭児童教室と連携してほしい ・授業参観後の懇談会時の児童の預かりを、6年生までにしてほしい ・授業参観後の懇談会があるが、1年生から6年生まで、図書館預かりにしてほしい ・上の子の行事で下校に間に合わないとき、学校で待機させてほしい。今は頼みづらい ・学級閉鎖のときや台風のときなど、急に職場から帰れない場合は、留守家庭児童教室などで預かってほしい ・1年入学時に安全マップを配るが、児童のフルネームと家の場所まで記入されていて、今すぐやめるべきだと思う。今の時代危険すぎる ・下校の見守り ・登下校の対応が悪くなった ・通学中のあいさつが小声 ・1人下校となる場合は、一時的に学校で預かってほしい ・旗当番・見守りのシルバーさんがいないので困っている ・登校班の見守り活動を、積極的に行ってほしい ・現在いる校長先生や教頭先生はとてもすばらしい人ですが、先生たち一人ひとりが何かをして直すとかではない 	<ul style="list-style-type: none"> ・急なお迎えができなくても、待っていてもらえるのでありがたいです ・行事などで、親のみが学校に残り、子どもは下校となっても、6年生まで学校で預かってもらえるようになったこと ・懇談会のときなど、図書館で預かってくれる ・子どもの行う行事が多い ・集団の中で、いろいろなことを学び、成長していく姿がとてもうれしく感謝している ・メリハリがしっかりついていて、家でもきちんとした生活ができています ・メール等で連絡があること ・エアコンがついた ・エアコンをつけてもらえた ・エアコンも付き、防犯カメラも付いて、よくみてくださいます ・暑い夏で、プールの中止やエアコンの設置をしてもらえたこと ・今後クーラーをつけてくれる予定 ・自然がいっぱい

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 km未満でも、通学バスを検討してほしい ・ 遠い場所は、バスなどを利用させてほしい ・ 養老小学校のスクールバスの協力費の見直し ・ 登下校時の黄色いヘルメット、夏場は暑い。安全のためとは言え暑すぎる ・ 記載通りの下校時刻を守って下校させてほしい ・ 放課後に校庭を開放してほしい ・ 放課後に勉強をみてくれるとうれしい ・ 宿題が少なすぎる ・ 帰宅後、遊び場がないので、校庭を自由開放してほしい ・ 昼食後に歯みがきをしてほしい ・ 給食中の私語禁止は少し厳しすぎるので、楽しい学校にしてほしい ・ 給食のとき、全員前を向いて話をしてはいけない状況で食べているようだが、食育とっておきながら、矛盾している気がする。時間内に食べることも大切だとは思いますが、みんな前を向いて黙々と食べるというのも異様な感じがするので改善してほしい ・ 私服可 ・ 卒業式の児童の服装を、体操服はやめてほしい。ジャージではふさわしくない ・ ランドセルの中身が重く、肩が痛いというので、置き勉をしてもいいと思う ・ 早くエアコンをつけてほしい（2件） ・ 今夏エアコンがつくと決定したのでよいのですが、もっと早く対策してもらいたかった ・ 養老小に早くエアコンを設置 ・ エアコンをつけた方がいい ・ 早くエアコンの設置をしてほしい、現在どのような状況かを教えてほしい ・ 学校の環境とか、教育に使うお金など、もう少し充実させてほしい。 ・ エアコンや備品 ・ エアコンの設置 ・ クーラーの設置をお願いします。 ・ クーラーの設置 ・ 暑い時や寒い時、早く対処して下さい。何かあってからでは遅いです ・ 車イスが入れる身体障がい者用のトイレがほしい。ケガ（手術）をしたときにトイレに入れないから休むことになった ・ 学校の校舎が古すぎる。体育館も古く、水漏れとかやめてほしい。きれいな体育館がいい ・ トイレをきれいに明るくしてほしい ・ 洋式トイレを増やしてほしい ・ 外トイレやプールが古いし汚い ・ 遊具の安全、老朽化 ・ 給食など、子どもの成長を考えてほしい ・ 夏も冬も、子どもがきれいな水が飲めるようにしてほしいです。毎日登校に歩いて25分かかります。冬でも、水筒を持って行きます。きれいな水が、学校で飲めればいいと思います ・ 雑巾をきれいにしてほしい。掃除用具をそろえてほしい 	

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや電子黒板などの導入。老朽化した机や設備を新しく ・そうじを週2～3回しかないことが、おかしい。学校がほこりっぽい。上靴は、1週間でドロドロになります ・駐車場の舗装をしてほしい ・資源回収のお金の使い先を知りたい ・養老小の運動会で、赤団と白団にしてほしい 	

【留守家庭児童教室】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・6年生まで利用できるようにしてほしい（7件） ・4年生までを6年生までにしてほしい（7件） ・4年生までしか預かっていただけなかったため、6年生まで預かってほしかった ・5・6年生も参加できるようにしてほしい。高学年になると、なぜ必要なとされるのかわからない ・小6まで預かってもらえたなら、上のきょうだいから利用して、もっと早く働きに出ていた ・6年生まで預けられたら、仕事ができる ・通学や下校の人数が少なすぎて危ないので、6年生までみてもらえると安心 ・対象を6年生までにして、クラスを低学年と高学年に分ける ・高学年も預かってほしい ・上級生が、元気がよすぎる ・一定時間以上の就労者のみしか利用できない ・土曜日は、1回単位で利用できるといい ・終了時間をもう少し延長してもらえるとありがたい ・朝、鍵をかけて8：00まで開けてくれず無視された。前年度は7：45から預けていたので入室させたが、当日になり今年は無理と言われた。前もって言われていたら入室させなかった。毎日遅刻ギリギリでした。どこに勤めている人対象ですか。大垣市内に20分で車に乗っていくのは無理です。 ・利用時間が短い ・預かり時間帯が短い ・もう少し時間を延長してほしい ・遅くまで働きたい人にとっては預かり時間が短い ・預かり時間帯が短いため、長期休み休暇中も預ける所がなく教室をやめてしまった。19:00までだと利用し続けることができました ・時間を現在の18時半から19時に延長してもらえるとありがたい ・19時ぐらいまでみてほしい ・19時半で教室が終わってしまうから20時まで残業ができなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・預けられる対象年齢が、3年生から4年生になった（2件） ・対象年齢が、夏休みは6年生まで預けられるようになった ・夏休みのみ利用していました。とても楽しかったです ・夏休みだけ利用していて、とても助かりました ・夏休みに預かってもらえた ・長期休暇に預けられて助かりました ・学校の振り替え休みの日も預かってくれるので、助かります ・1年生のとき、10月から利用したことがあり、途中から入れてもらえた ・18：30までみてもらえる ・先生がとても優しくサポートしてくれるのでよかった ・先生がとても親切だった ・先生たちがとても親切 ・気持ちよく受け入れてくれる ・子どもに寄り添ってくれる先生がいる ・児童教室の先生にとってもよくしてもらえた。いろいろな経験をさせてもらった ・とても親切に対応してくださり、安心して預けられています。6年生まで預けたいのが本音です ・悪いことをすると、ちゃんとしかってくれる。できごとをお迎えのときに話してくれる ・支援員の先生に恵まれている ・指導員の先生が、子どもの個性に合わせて温かく見守っていただけた ・子どもの実態をよく理解し、支援していただいている ・子どもをよく理解してくれているので、安心していられる ・細かいところまでみてもらえ、アドバイスしてくださるので、安心して預けておける ・子どものことをよく見ていて、良いこと、生活面、先生の方から報告がある

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・親が連絡できない時間帯での休みの連絡に困った ・土曜の学童、ハードルを下げしてほしい。今、笠小で1人だけなのであまりにも少ない ・民間でよいから、大垣市のようにしてほしい ・休み中の開室時間を8時前にしてほしい ・休日は7:30から受け入れてほしい ・長期の休みの間は、7:15から預かっていただけると助かります。仕事の都合で早い時間に家を出ないと、会社に間に合いません ・夏休みや冬休みの開始時刻が、8:30のままだと、仕事に間に合わない。7:30からだとも助かります ・仕事が8:00からなので、夏休みなどの休みの日の利用時間を、7:30からにしてほしい ・夏休みのお昼寝はいらない。 ・子ども1人だけを家に残してでは、心配で仕事の手につかない ・夏休み、冬休み、春休みなど長期の休みについて、きょうだい関係もあって、6年生まで利用できるようにしてもらいたい ・夏休みなどの長期休暇中だけでもいいので、6年生まで利用できるようにしてほしい ・長期休暇中は、ほぼ利用したい。5年生までみてほしい ・5・6年生も夏休みなど長い休みはみてほしい。年度末などもあるとうれしい ・長期休暇だけでも、6年生までみてほしい(4件) ・夏休みは6年生まで利用できるようにしてほしい ・夏休みは6年生まで預けたい ・夏休みだけでなく、冬休みや春休みもしてほしい(3件) ・夏休み、冬休み、春休みなどの長期の休みだけでも、預けられるようにしてほしい ・夏休みのみ利用したが、冬休みや春休みの短期休みも利用したかった ・夏休みだけでなく、春休みもスポットで実施してほしい ・春休みも預かってほしい ・夏休みだけでなく、どの長い休みも利用できるようにして下さい ・長期休業の時だけでも6年生までみてほしい ・入室できる児童を6年生までにして下さい ・夏休みとき、留守家庭の開始時間が8:00からのため、仕事に間に合わなかった ・夏休みなど、9時から開放では仕事に間に合わない。普段送り出す時間から預かってもらえないと困る。仕事に支障をきたした ・夏休みなどの長期の時、朝早くから預かってほしい。留守家庭の先生たちの態度が悪い ・先生によってさまざま。夏休みの開始時間を全校統一してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の様子を連絡帳で詳しく教えていただける ・中には面倒見が良いスタッフの方がみえ、どんなことも子どもの様子を詳しく教えてくれた ・集団生活の過ごし方や学習面がしっかりしている ・楽しく過ごせるよう遊び、勉強を充実させてくれています ・一人っ子なので、他学年と交流できたり、家ではしない制作活動、遊び、季節を感じられる取組などをしていたり、入級させていただけでよかったです ・家ではしない遊びなどをしてくれる。うれしいです ・宿題を見てもらえて、大変助かっています ・遊びやルールなどを教わった ・少人数なので、手厚くみてもらえる ・安心して預けられる ・一緒になってお世話してくれます ・宿題や外遊びなど、いろいろお世話になっており、感謝しています ・学年関係なくみんなで遊べる ・1人でいることがなく楽しそう ・子どもたちの安心と安全 ・勉強の時間がある ・宿題をやらせてくれる(3件) ・宿題を毎日みてくれる(2件) ・宿題の習慣をつけてもらえる ・宿題を終えてくる ・宿題を教室でやってくる ・宿題をやって帰ってくる ・いつも宿題をちゃんとみてくれるので、とてもありがたい ・他学年との交流がある ・普段しない外遊びをさせてもらえる ・体を動かして遊ぶ時間がある ・放課後にたくさん体を動かすことができ、宿題もしてきてくれるので助かります ・遊び道具がたくさんある ・子どもが、友だちだけではなく、温かい大人の側で過ごせて幸せそう ・子どもはモノ作りがとても大好きで、のぞみ教室でいろいろなものを作ったり、作り方を教えてもらったりして、とても楽しんでいる。考えて遊ぶことが身につけてきているように思う ・折り紙などや工作をしたり、体を使って遊んだりしてくださり、とても感謝しています ・自分は夕食の用意や家事で相手をしてあげられないが、折り紙やトランプなどたくさんしてもらった ・喜んで行ってくれている

改善してほしいこと	利用してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの昼寝はoirない ・利用料金が高い（4件） ・利用料金の値下げ ・利用したくても、お金がかかる ・利用料金がかかる ・夏休みは利用料金が特に高い ・金額が世帯年収で決められるのは納得いきません。お金が必要で働いているのに、高くなったら働く意味がない。低所得者優遇は分かるが、税金や手当等で優遇されているはず。きちんと見直してほしいです。利用をやめた理由はそれです ・指導員の態度が悪い ・お迎えに行くと指導者が大きな声で雑談している ・指導員の質の向上、人格を否定する言動をする人がいた ・指導員が不足していて、目が行き届いていない ・もっとしっかり子どもを見てほしい。子どもがうるさいからと言って、先生が感情的になり、子どもを怒るのはどうかと思う ・子どもが心穏やかに過ごせる雰囲気でない。先生の指導が厳しい ・子どもへの対応が、人によってそれぞれ違う ・指導員への教育、ことばづかいなどを含む ・宿題が終わるまで遊ばせないでほしい ・勉強時間を増やしてほしい ・おやつは、着色料など体に害があるものは使わないでほしい ・腹持ちのよいおやつを出してほしい ・子どもが喜ぶおやつを ・おやつが少ない ・始業式や終業式など、給食のない日には弁当が出るという ・カーペットが汚れているので替えてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・喜んで通っている ・楽しそうに生活している ・よいことの方が多いので、改善してほしいことはありません ・のぞみがあったので働けました。本当に助かりました ・子どもが低学年の頃は利用して助かった

【その他】

サービス名	改善してほしいこと	利用してよかったこと
児童館	・児童館を休日利用できるようにしてほしい	
放課後子ども教室	・放課後クラブ・子ども教室をつくって、習い事をさせてほしい	
習い事	・将棋や体操など、専門的な習い事があるという	<ul style="list-style-type: none"> ・室原の寺子屋で、夏休み中の子どもの勉強をみてもらえる ・夏休みの寺子屋
下笠保育園子育て支援		<ul style="list-style-type: none"> ・現在6年生の子が8か月から利用し、そこで出会った母と、通う学校が違っても、今も親・子ども仲良くしている

病児保育	・ 養老町でも実施してほしい	
幼稚園	・ もう少し早い時間から預かってもらえる と助かった	
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉医療受給を18歳までにしてほしい。 ・ 高校生まで医療費の助成をしてもらいたい。中学を卒業すると児童手当ではなくなるうえ、学費の免除があっても毎月の支払いは高額である ・ 私見ですが、「親と子のふれあい広場」や「なわとび大会」等、参加したいという人はいません。地区で何人と決められていて、毎回出席者を出すのが困ります。参加したい人だけでやってください。強制しないでほしいです 	

(2) 改善してほしいこと・利用してよかったことの見解の件数

図表2-57は、子育て支援サービスについて、改善してほしいこと、利用してよかったことについて記述していただいた件数をまとめたものです。学校に関する意見より留守家庭児童教室に関する意見が多くあります。

図表2-57 意見の件数

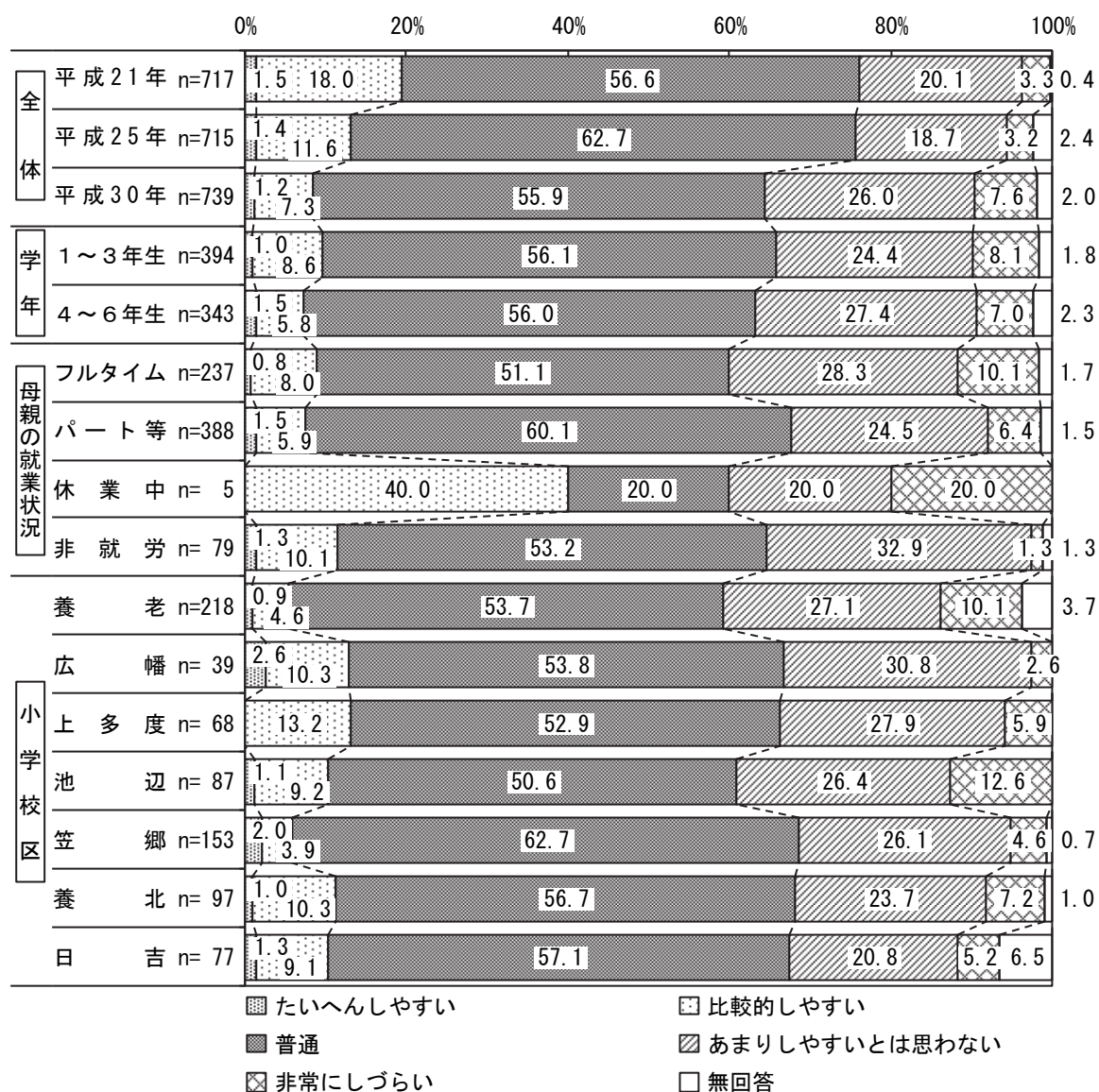
単位：件

サービス名	改善してほしいこと	利用してよかったこと
学 校	88	40
留守家庭児童教室	94	92
そ の 他	8	3

3 養老町は子育てのしやすいまちか

「養老町は子育てのしやすいまちだと思いますか」という設問に対しては、「普通」が55.9%を占めています。「たいへんしやすい」(1.2%)と「比較的しやすい」(7.3%)を合計したくしやすい>が8.5%、「あまりしやすいとは思わない」(26.0%)と「非常にしづらい」(7.6%)のくしづらい>が33.6%となっており、くしづらい>がくしやすい>を25.1ポイント上回っています。平成21年および平成25年と比べると、くしやすい>は低下が続いています(図表2-58)。

図表2-58 養老町は子育てのしやすいまちか



図表2-59は、くしやすい>と答えた人の「子育てしやすい理由」、くしづらい>と答えた人の「子育てしづらい理由」の記述をまとめたものです。

図表 2-59 子育てしやすい理由と子育てしづらい理由

【子育てしやすい理由 (38件)】

<p>【サービスや支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの支援がいろいろある ・未就園児の支援センターがある ・子育て支援のサークルや活動が充実 ・そよかぜなどの協力が充実している ・子どもが1～2歳のとき、下笠保育園で遊ばせてもらって、園の雰囲気があった。行事にも参加させてもらえて楽しかった (3件) ・待機児童がいない。先生が親切 ・留守家庭で以前お世話になってありがたかった ・保育園の待機児童の心配がない ・保育園のとき、無料でクレパスやカラー帽子等を支給された ・先生たちが熱心 ・医療費が中学生までは無料 (3件) ・医療費の助成がある ・医療費が中学生まで無料のため、迷わず受診できる ・必要な施設が身近にある ・病院や公園などが近くにある <p>【地域の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の人に、毎日見守ってもらえていると思うので、登下校や学校生活について、安心して家から送り出せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人のサポートが手厚い ・登下校の見守りなど、とてもありがたいです <p>【豊かな自然・子育て環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か (2件) ・自然がいっぱいある ・自然が多い ・自然がたくさんあり、のびのびと子育てできる ・周りの環境 (自然、人) がよい ・穏やかに過ごせるところ ・のどか ・規模がいい。みんな落ち着いている ・子どもの数が少ないこともあり、一人ひとりしっかりと見守っていただける点 ・人数が少ないので、みんなと仲が良くなる。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年をこえて仲良し ・外で遊ばせやすい ・子育てしていて、困ることがあまりない ・特に困ったことがない ・福祉が充実している
---	--

【子育てしづらい理由 (255件)】

<p>【支援全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援が充実していない (5件) ・福祉関係が遅い ・改善されるのが遅すぎる ・養老町は、何に関しても決行されることが遅すぎる。少子化なのを知らないのかと声を大にして言いたい ・子育てに必要な費用ばかりが、町の会計から削られる ・保育園さえ建てられない町に期待できない ・ファミリー・サポート・センターについて、今頃ですか。3年前に役場へ聞きに行ったときは、役場の人に「ファミリー・サポート・センターって何ですか」と、逆に聞かれてしまうぐらいでした。はじめると決めたら、さっさとやってください。遅い ・福祉に関する手続等の役場窓口時間が、8:30～17:15はおかしい。休日もしくは時間外も設けるべきだ ・あちこち回される ・以前よりはしやすくなったと思うが、高齢者向けの対策はたくさんアナウンスしているが、子育て関連はわかりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対してお金がすごくかかる (インフルエンザ予防接種代など少し補助してほしい、中学校のヘルメット代など) ・3人以上子どもがいることに対しての特典、補助もない ・年齢があがるにつれて、お金がかかりすぎる ・金銭的に支援が少ない ・母子家庭で収入が少ないが、税金が高く感じる ・母子家庭の人は、免除やサービスが多いのに、その他の子育てしている家庭には、特に良いと感じることがない ・子育て手当で以上に、税金に取られているイメージが強いため、還元が少ない ・子どもへの施策があまりない ・子どもに対するサポートが少ない。子どもより老人が多い ・子育てに対する予算が少ない。ほほないのでは ・子育て予算が少ない。これからの子どもたちに、もっと町予算をつけていただきたい ・子育てよりもお年寄りに力を注いでいる。充分なお金が町にないのだと思う
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての情報が少なく、老人ばかり優先されていて、働く人や子どもが後にまわされている。住むんじやなかったと思う。人口ピラミッドの形を考えてほしい ・老人への手当てが多い気がします ・老人が多すぎる ・お年寄りメインで、子育て世代を考えてくれた政策は何があるのかと聞きたい ・お年寄りばかりでなく、いろいろな助成金があってもいいと思う ・少子化の割に留守家庭の利用料が高く、6年生まで利用できない ・留守家庭教室の利用料が他の市町村より高いと思う。通級の発達支援の教室不足、支援不足。保育園、幼稚園が減ってしまったこと ・近隣市町より後手後手の子育て支援に感じる ・他の市町に比べると、実施するのが遅い ・他の市町村より遅れているところが多い ・全体的に大垣市と比べて遅れている ・子育て支援が海津に比べ、劣っている ・デイサービスやファミサポなど、大垣市にぶら下がっているだけ。何かあったとき遠いのが不便 ・子育て支援が、他市町と比較して手厚くない ・他の市町にあるようなサービスがほとんどない ・他市町村に比べて、子育て支援体制（ファミリーサポート、病児・病後児保育）が遅れている ・学童費が近隣の市町に比べ高い。すべてが遅れている ・近隣の市町村に比べ、子育てに力を入れているとは思えない ・隣の市町（大垣）の方が設備面などにおいても子育てに協力的に思える ・大垣市の方が優遇されている ・サポートが他と比べ、ないと思う ・3人目でも保育料がかかる ・大垣市のように、3人目の保育料を無償化にしてほしい ・サービスが少ない ・預けるところが少ない ・サポートしてくれるところがない ・地域社会において、協力が得られるサービスがなく不満に思う ・子どもをもつ親への制度が悪い ・子どもを預かってもらえるところがない ・短時間の預かり支援サービスなどがない ・学童の費用が高い ・子どもを預ける所が少ないから、働けない ・フルタイムだと残業もともなうが、夜間に預けられるサービスがない ・フルタイムで働いているので、子どもを預ける場所がほしい。あっても、高学年は対象外なので、対象にしてほしい ・働く時間が短いと、学童の受け入れを断られた。そのため、仕事をやめることになった ・留守家庭児童教室の子どもを預かってくれる時間が短い 	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き家庭において、子育て支援サービスが充実していない。留守家庭児童教室が小4までしか整備されていない ・留守家庭児童教室に預けられる学年が短すぎる ・放課後みてもらえない ・夕方の留守家庭の利用時間が短い ・留守家庭児童教室に関して、大垣は19:00まで見てくれるのに、養老はどうして18:30までなのか？子ども会などの行事が多すぎ、仕事に支障をきたしている。母子家庭には住みにくい。子ども会はいらない。夏休みに花壇をする意味がわからない。考えが古すぎて疲れる。若い世代が寄り付かない理由がわかる。時代と共に変えていかなければ養老は置いていかれる。若者が離れていく。昔のやり方を子どもに押し付ける気はない。お宮掃除など、宗教が自由の今の時代に強制するのはどうかと思う ・祖父母が学区内の近所に住んでいるために、留守家庭児童教室には入ることができないと問い合わせ時に言われ、岐阜市や大垣市に比べて遅れていると感じた ・公的支援が少ない ・使えるサービスがない ・こども園にて、発達相談巡回がない ・のぞみ教室の時間が短い ・病児保育がない ・病児保育がない。子育てサポートがなさすぎ。税金も収入が少ないし、しょうがないのかと思います。本当に魅力がなさすぎる ・病後保育がなかった ・子どもがいることで、働きにくくなる環境 <p>【行 事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事が多すぎる（2件） ・行事が多すぎる、親の役が多い ・子ども会や地域行事の強制が多い ・子ども会行事が多すぎてイヤだ ・子ども会などの行事が多すぎて、ストレス ・子ども会の役員で休日をとられている ・学校行事以外に子ども会などの行事が多く、仕事に行けない ・子ども会の行事が多すぎる、花壇や壁新聞など、やめてほしい。働きながら子育てできない町 ・子どもの数が少ないため、自治体も含め役員の負担が多い ・地域行事が多すぎる。人が少ないのを、子どもでまかなおうとしている ・地域の行事、子ども会行事等が多すぎる。参加せざるを得ないような空気 ・子ども会も、こんな状態なら、なくした方がいい ・敬老会など、子どもが参加しなければいけない行事が多すぎる ・共働き家庭が増えているのに、地域が昔のままで暮らづらい ・町内のイベントへの子どもの参加依頼が多く、親の負担になって、就労しづらい原因となっている
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会や町内行事への参加が多く、土日がこのような行事でつぶれ、家族で過ごしたいのに時間をとられる ・行事や役員が多すぎて、夜家をあけることになるので、子どもだけで留守番をしないといけない。同居が多い土地柄のため、二世帯世帯のことをわかっていない。特に小さい子どもがいるときは、本当に困ることを知ってください ・子どもがいて大変なのに、婦人防火クラブまで集まりがあり、子どもを「放りっぱなしで」地域に出かけていかなければいけない。養老町は、年寄りを大切にし、子どもたちには何もしない町。子どもを育てるのが負担なのではなく、子どもを育てる以外の地域の集まりが多すぎる ・1学年20名ほどで少ないので、メリットもあるが、デメリットもある。PTAなどの役員が頻りに当たってくる ・強制的に役員をしなければならないのが窮屈である ・子どもの人数が少ないので、役員ばかりがまわってくる <p>【環境や施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が遠い、通学問題 ・学校が遠い ・通学時間が長い ・進学先が遠い ・幼児教育の選択肢がない ・中学生まではいいけど、高校など交通の便が少ない ・教育関係の施設や設備が少ない ・安全に遊べる場所が少ない。(11件) ・遊べるところが少ない(3件) ・遊べるところがない(2件) ・遊ばせる場所が少ない ・雨の日に遊べるところがない ・子どものためのものが、そろっていない。公園や室内施設は、小さい子どもしか遊べないので、小学生以上は、どうしてもゲームになる ・子どもが放課後遊べる場所がない ・外で遊べるところがない ・公園が少ない(13件) ・公園がない(8件) ・公園が近くにない(5件) ・公園が少ない、あってもボール遊びがダメ ・公園がなく、遊ぶ場所がない ・公園など、子どもの遊ぶ場所がない ・子どもたちが遊べる公園がない ・子どもだけで行ける公園が少ない・遊具のある公園が少ない ・子どもたちが集まって遊べる公園が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園が少ないので、子どもが外で安全に遊べる環境がない。道路で遊んでいて危険 ・子どもたちだけで、安心して外で遊べる公園等の場所が少ない ・公園とか、子どもが遊べる場所をもっとつくってほしい ・子どもが外で遊べるような広い場所がない。サッカーやバスケ、ボール遊びなど ・子どもが遊ぶための公園が充実していない ・公園等、子どもたちが集まって遊べる場所がない ・気軽に行ける公園などが無い ・近くの公園が整備されていない ・整地されていない場所、荒地地や空き家が目につく。安全面で気になる。公園も少ないので整地して公園になればいいと思う ・遊具が古い ・図書館や公園などが利用しづらい。設備が整っていない。 ・公民館は大人ばかりで子どもが入りにくい。公民館をもっと子どもたちに開放してほしい ・プールまでとても遠い ・お手洗いや駐車場など、各施設は赤ちゃんや小さな子をもつ親目線ではない。老人向けだと思う ・塾が少ない ・習い事をさせるなどを考えると、施設・項目が少ない ・習い事も選べない ・習い事をすると場所が少ない ・習い事ができる場所が少ない、近くになくて送迎が大変 ・習い事が近くになく遠方まで行かなくてははいけない ・子どもが徒歩で移動できる範囲に、学習塾や習い事ができる場所がない ・最寄りの駅が遠い。毎日送迎しなくてははいけない ・バスがない ・公共交通機関が少ない ・公共交通機関の不便さ ・交通が不便 ・店が少ない ・店が遠く、お使いが頼めない ・道が狭い ・歩道がない ・歩道がなく危ない ・歩道がないため、車の事故等が心配で、自転車に乗って1人で遊びに行きづらい ・歩道のない道が多い、美濃高田駅付近 ・ベビーカーを利用している頃は、アスファルトがガタガタで出かけにくかった ・どこへ行くにも車が必要
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だち同士の家が遠い ・ 同じ年の子どもが周りにいない ・ 子どもが少ない ・ 人数が減少している ・ 学区の境界があいまい ・ 働く場所が少ない ・ 何かにつけて不便である ・ 若年者が少ない ・ 父母のどちらかがずっと養老町に住んでいたわけではないので、周りの人と合わない ・ 田舎なのに父方両親、子どもをみてくれない <p>【医療費等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療費助成が中学校卒業で終わってしまう（6件） ・ 高校生の医療費助成がない（6件） ・ 高校生になると、医療費がかかる（2件） ・ 医療費等の助成が少ない（2件） ・ 医療費助成制度の有効期間が短い ・ 子ども手当や医療手当が中学生で終了するから。大垣や揖斐などは手厚いと思います ・ 子どもの医療費の無料期間が短い ・ 高校生まで医療費を無料にしていただけるとありがたい ・ 乳児医療も中学生まででなく、高校生までにしてほしい ・ 医療費受給が中学生卒業までしかない ・ 他の地域と比べて、医療費が高校生からかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療費無料を18歳までにしてほしい ・ 大垣市のように、18歳まで医療費を無料にしてほしい ・ 医療費を、大垣市みたいに高校3年生まで無料になるといい ・ 大垣市などでは、高校生18歳まで、医療費を負担していただけるのに、養老町は中学生まで ・ 大垣市や垂井町など、周辺は医療費が高校卒業まで無料なのに、養老町だけ中学生までではありません。せめて、所得ごとにでも早急に見直してほしい ・ インフルエンザ予防接種補助などの助成が少ない（2件） ・ 予防接種などの補助もしてほしい ・ 補助金が、他の地域に比べて少ない ・ 補助が少ない ・ 金銭面で援助が少ない ・ 病院がない。（2件） ・ 病院が少ない（2件） ・ 耳鼻科がない。（4件） ・ 小児科が少ない。（2件） ・ 皮膚科の病院がない ・ 子どもの急な病気のと看、対応している病院が近場がない ・ 医療面が不十分。夜間外来などがない ・ 病院が遠い ・ 地域に密着した病院が少ない ・ いいと思える病院があまりない
--	---

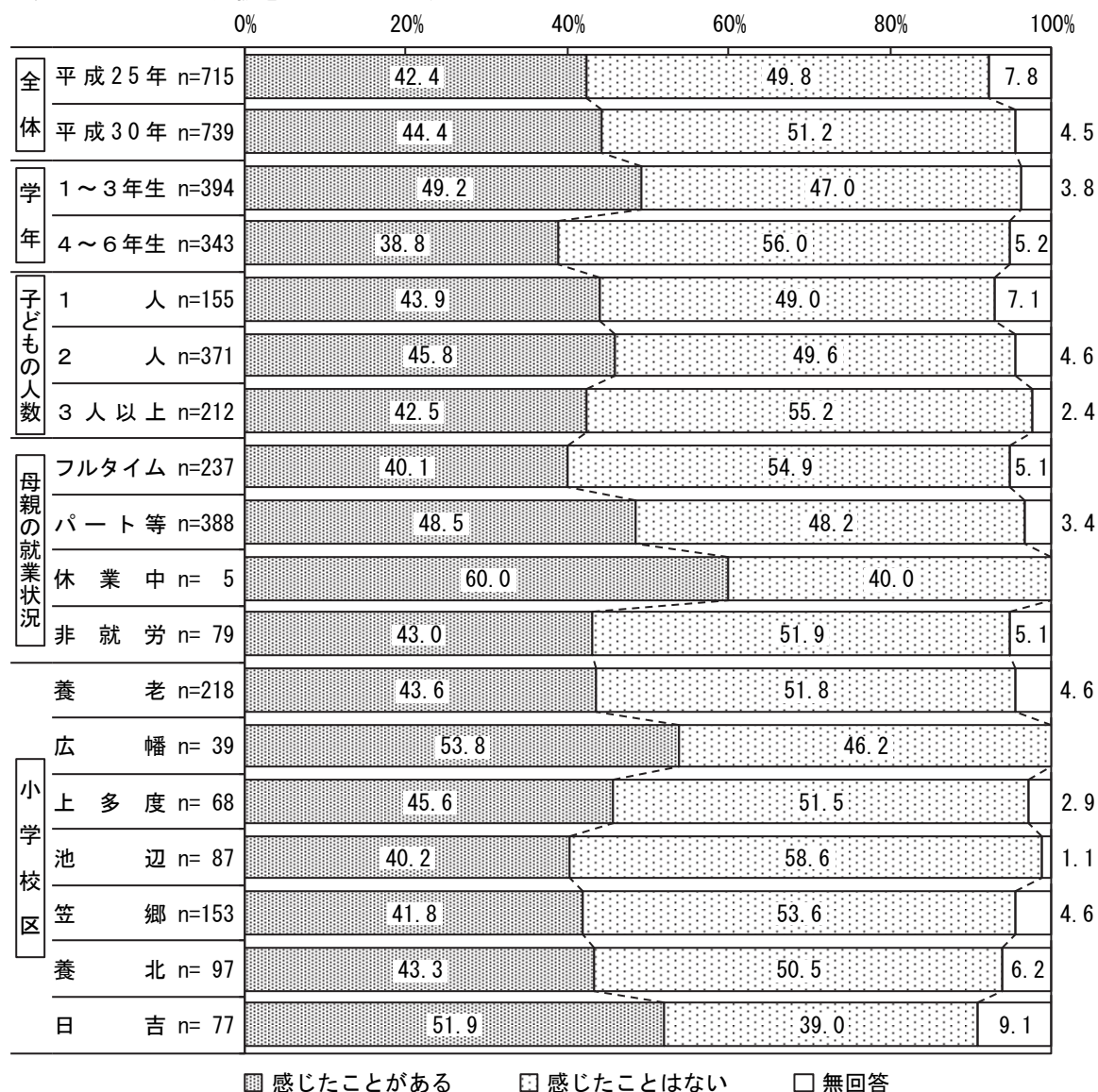
4 子育て支援を感じたことがあるか

図表2-60は、地域、園、学校、職場、行政の関係施設などにおいて、子育て支援をしてもらえていると感じたことがあるかたずねた結果です。「感じたことがある」と答えているのは44.4%です。平成25年と比べると、「感じたことがある」は2.0ポイント高くなっています。

「感じたことがある」が高いのは、子どもの学年別では1～3年生、子どもの人数別では2人、母親の就労状況別では基数の少ない休業中を除くとパート・アルバイト等、小学校区別では広幡、日吉です（図表2-60）。

「支援してもらっていると感じたこと」の内容は、図表2-61のとおりです。

図表2-60 子育て支援を感じたことがあるか



図表2-61 支援してもらっていると感じたことの内容

<p>【子育て支援や相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターがある（8件） ・保健センターで、子育ての相談にのってもらえた ・保健センターや支援センターで相談にのってもらったり、卒乳の手伝いをしてもらったりした ・支援センターに行くと、先生に話を聞いてもらえて楽しかった ・小さい頃、子育て支援センターに遊びに行っていた ・健診など ・保健センターでの健診 ・下笠での就学前の子育て支援 ・下笠保育園での支援センターに、小さい頃行けて助かった ・未就学児対象の子育て支援に参加した ・懇談会などで、子どもの発育の相談にものってもらえてありがたい ・ことばの教室 ・上の子のときに、ことばの教室等お世話になりました ・療育にかかわる支援やアドバイスについて、あらゆる分野から切れ目なくつないでもらえた ・子どもの相談にのってもらえる ・子どものことで、相談にのってもらったことがある ・相談しやすい ・話を聞いてもらえた ・子どもの困りごとに対し、一緒に考えてくださる ・気軽に相談できる ・相談にのってもらえる ・ひよこハウスで、子どもとの時間を楽しく過ごせた ・図書館での絵本の読み聞かせ ・生活の必要範囲内に、関係施設が整っている ・医療費の免除（7件） ・医療費の無料化、本当にありがたいです（2件） ・医療費がタダ（2件） ・医療費が無料、大垣市と同様に、高校生まで無料化になるとありがたい ・児童手当（6件） ・子ども手当は助かります（2件） ・児童手当や医療費の助成は助かります ・町から児童手当を支給してもらっている ・母子家庭等・父子家庭医療費助成（3件） ・母子・ひとり親への援助はありがたい ・母子家庭の社会福祉 ・金銭的なこと ・ぎふっこカードが使える（2件） ・チャイルドシート補助など ・3人目の保育料が無料 	<p>【交流・イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関は、もっと親身になってほしいと思います。個々の先生は、よくしてくださる先生は本当によくしていただけるのでありがたいです ・下の子が幼児のとき、同年代の子と交流がもてる機会があり、母子ともに楽しく過ごせたことがあった ・子育てサークルのクリスマス会や行事がよかった ・同じ地区のママを紹介してもらい、友だちができた ・子育て支援センターやひよこハウスを利用して、交流できた ・保育園に入る前にも、いろいろなイベントに参加できた ・サークルなど ・イベントでの子どもへの優待、フリー切符など <p>【留守家庭児童教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留守家庭児童教室がある（10件） ・留守家庭児童教室があり、ありがたい（5件） ・留守家庭児童教室は、本当に助かりました（4件） ・留守家庭でお世話になった（2件） ・学童教室を利用できたこと（4件） ・学童に入れた ・留守家庭児童教室で、細かなところをみていただいている ・放課後児童クラブ ・放課後学童保育で先輩お母さんたちに見てもらえ、とても安心でした。相談もできて心強かったです ・小学校ののぞみ教室は、夏休み中、預かっていただけて、とてもありがたかったです。 ・仕事が終わるまで留守家庭児童教室に預けられる ・夏休みの留守家庭児童教室は助かった ・小さい頃、夏休みに留守家庭児童教室でみてもらって助かった ・低学年のときに留守家庭児童教室でお世話になって、大変助かりました ・児童館などがある ・小学校3年生まで放課後学童保育を利用していました。工作中や突然仕事が遅くなったときには、柔軟に対応してくださり助かりました ・お迎えが間に合わないとき、預かってもらった ・急な子どもの体調不良やケアを、とてもよくしてもらった ・夏休みだけでも利用できる ・養老小のわかば教室にて、相談や支援などしてもらっている ・ひだまり教室 ・のぞみ教室（2件） ・のぞみ教室で過ごせているので助かる ・放課後ののぞみ教室は助かる
--	--

<p>【職 場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場は、子どもの状況を理解してくれており、とても働きやすい ・会社の子育てに対する理解が深まってきている ・職場で、勤務編成の融通をきかせてもらっている ・職場に子どもを連れて行けること。(2件) ・子どもが病気の時など、休みがもらえる。(8件) ・子どもの学校行事など、休みをもらえる。(3件) ・子どものこと等で、有休を取りやすい職場である ・職場で子どものために休みを取りやすい ・休暇が取得しやすい ・有給がとりやすい ・職場の上司が理解ある人で、休みがとりやすかった ・職場で休みがとりやすい ・子どもの行事や体調不良等で、休ませてもらったり、仕事を助けてもらえた ・子どもの行事や、急な休みでも対応してくれる ・子どもの風邪や行事で、休みを取らせてもらやすい ・子どもの体調が悪いときには、休みがとれる、休みがとりやすい会社 ・学校行事等のとき、職場で早退させてもらえた ・急な休みへの対応や、長期休暇中の託児施設 ・子どもの通院などに、配慮してもらえる ・子どもの体調不良のとき、早退させてもらっている ・子どもの行事や病気のときに、職場で休みを取りやすい ・子どもの急病に対応してもらえる ・子どもの急な体調不良のとき、すぐに帰れる。休める ・急に迎え要請がきても、対応してもらえた ・仕事の時間配りをしてくれる ・育児短勤務を取らせていただいている ・育休制度(2件) ・産休や育休等の活用ができた <p>【園・学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育 ・学校での教育すべてが支援だと感じて感謝している ・学校でいろいろなことを学んでいる ・毎朝、校長先生が登校を見守ってくださる ・小学校の規模が小さいことありますが、担任の先生だけではなく、学校全体で子どもをみてもらっていると感じます ・学校の規模が小さいので、先生たちが、担任以外の子どものこともよく把握してくれており、安心感がある ・人数も少ないし、先生が親身 ・幼稚園からの引継ぎを、きちんとしてもらえた ・先生たちが熱心 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生が子どもをよく見てくださる ・学校生活での配慮 ・複数の先生が子を気に掛けてくれた ・小学校は、子どものことを考えて行動してくださる ・学校の先生たちには、よくしていただいている ・学校の先生たちが、手厚く対応してくださって助かっている ・担任の先生がとても熱心 ・学校の担任の先生に理解があり、信頼できる ・学校の先生に、困っていることを話せる ・保育園・学校で、悩みの相談に乗ってもらえた(5件) ・園や学校で、子育てする上でのアドバイスなどをもらえた ・学校などでは、相談にしっかりとってもらえる ・仕事の都合でいろいろなことができないけれど、学校の先生たちが、相談にのってくださる ・先生たちが相談にのってくださる ・園や小学校の先生に対して、身近に相談ができた ・子ども園も小学校も、子どもだけではなく、親にも温かく、親身になってくださる ・スクールカウンセラーがいる(2件) ・学校でスクールカウンセリングが受けられる。 ・先生が、子育てについて相談にのってくださり助かりました ・困ったことなど、伝えるとすぐに対応してくれる ・子どものために、良さを伸ばそうと取り組んでもらっている ・家では気付かなかった子どものことを教えてもらえた。 ・指導者に子どもを見守っていてくださっているなど思います。「地域が育てる」という言葉も今は他人様の子を叱ったりしようものなら大変なことになると皆思っていて、ドライなものです。 ・盆踊りや先生方、子どもの成長にとっても大きな良い影響を与えてくれている。 ・子どもの様子をしっかりと見てもらえている ・子どもが精神的に不安定だったとき、子どもの気持ちを最優先に対応してもらえた ・細かい行事を、きちんと見てもらえている ・一人ひとりに合わせた学習支援をしていただいている ・ことばの教室や西美濃厚生りハビリ、通級クラスと連携して発達障がいの子もたちも手厚くみてくださる ・子どもが授業についていけず、「えがおクラス」を薦めてくれた ・学校で支援員の人についてもらえる ・スマイルげんちゃん学習会 ・体験教室がある、地域の人が学校で体験の手伝いをしてくださる
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・学校で、勉強以外の体験ができています ・急な発熱の際の付き添い ・バス通学 ・園を選択できる ・保育園では、小さい頃から預かっていただき、助けていただきました ・園や学校では、就労している保護者への理解がある ・学校からのメールに気づかずにいたら、預かりをしてくれていた ・仕事が時間に終わらず、子どもの帰宅に間に合いそうになかったとき、学校にTELしたら、学校で待たせてもらえた ・学校の整備など、親がやらなければいけない仕事をやっていただけで、働く親としてはありがたいです ・保育園がありがたい ・CSサポーターの人に、学校の環境整備やパトロールなどで、保護者だけではできないことを、子どもたちのために助けていただいている <p>【地 域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー警備隊の方たちに、登下校を見守ってもらっていること（9件） ・登下校の見守り（4件） ・登下校のとき、地域の人に見守りをしてもらっている（3件） ・登下校のときの見守りなど、親がやらなければいけない仕事をやっていただけで、働く親としてはありがたいです 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が集合場所で見守り等をしてもらえること ・園や学校で地域の人たちが、指導や見守り等をしていただけている ・地域で登下校を見守ってくださる人々の姿 ・地域の人が、子どもの登下校の見守りをしてもらっている ・朝の登校時のボランティアの人たち ・朝の登校時の見送り ・登校時など通学時に、地域の人々のサポート ・登校時のボランティアの付き添い ・登校時の見守りサポーター ・地域を人の登下校の見守り ・見守りパトロール ・朝と帰りの見守りボランティアの人たち ・田舎やから環境がよい ・職員が全校生徒へ年賀状を寄付してくれたこと ・スポーツ少年団 ・子ども会 ・子ども会の活動 <p>【そ の 他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が気づかないようなサポート ・融通がきく ・祖父母の協力 ・こういったアンケート調査がある ・育てにくいと思ったこともなく、集団の中で過ごさせてもらっています ・逆に何を支援しているのか教えてほしい
--	--

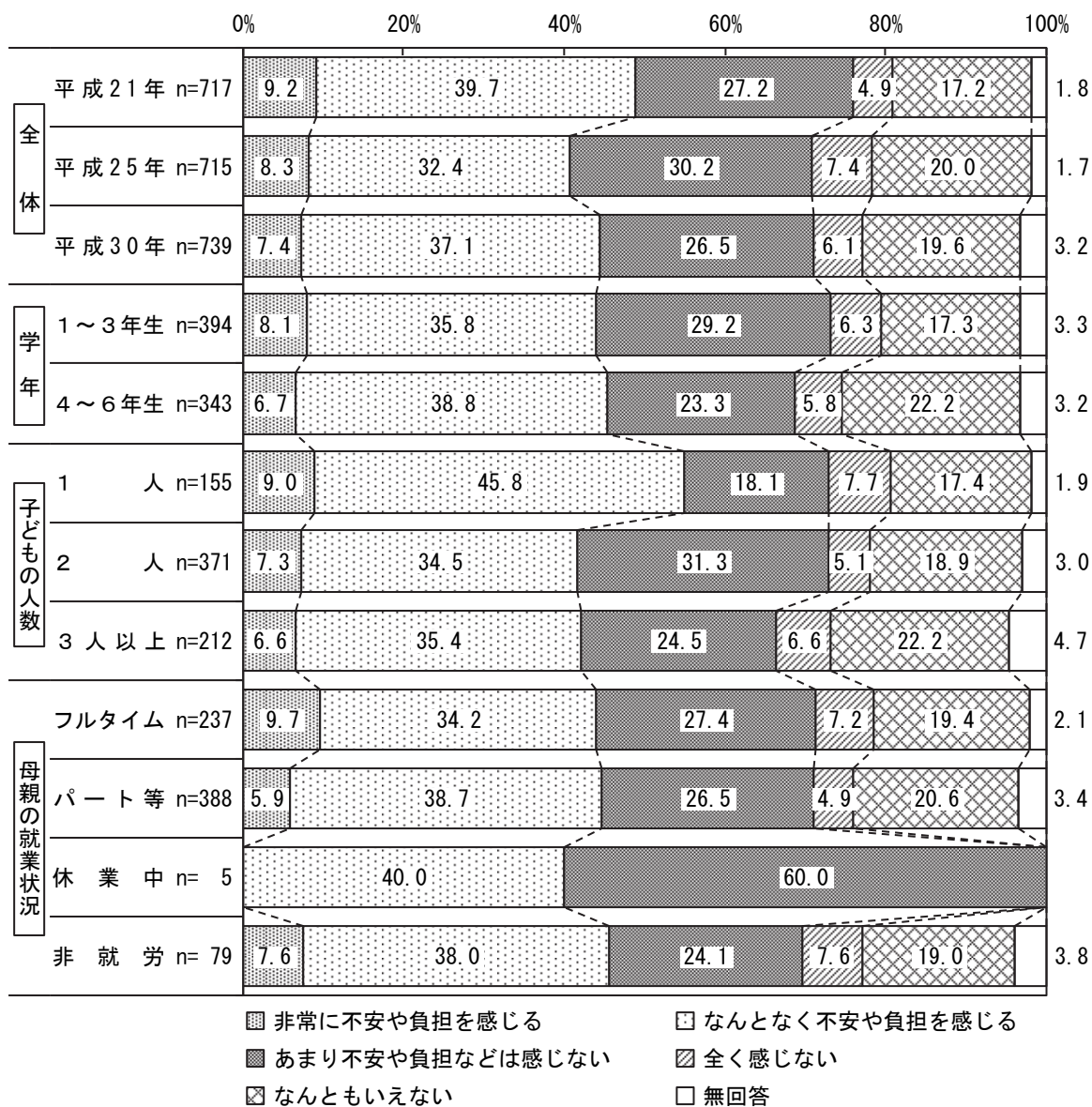
第9 子育ての状況

1 子育てに関する不安感や負担感

子育てに関する不安感や負担感については、「非常に不安や負担を感じる」(7.4%)と「なんとなく不安や負担を感じる」(37.1%)を合計した<不安や負担を感じる>は44.5%、「あまり不安や負担を感じない」(26.5%)と「全く感じない」(6.1%)を合計した<不安や負担を感じない>は32.6%となっています。<不安や負担を感じる>は、平成21年より低く、平成25年より高くなっています。「非常に不安や負担を感じる」は低下してきています。

子どもの人数別にみると、子どもの人数が1人の母親の<不安や負担を感じる>が54.8%と過半数を占めています。

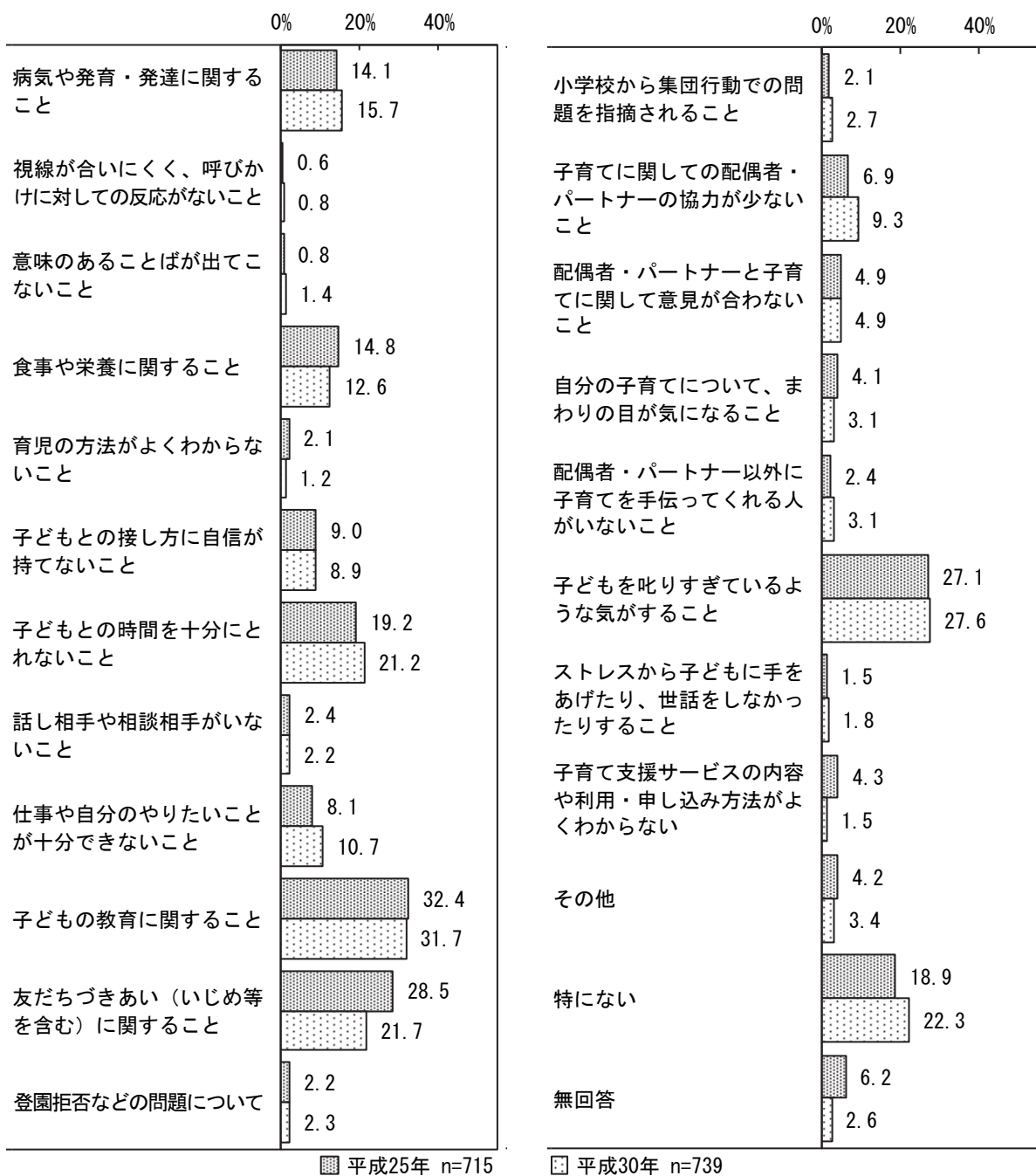
図表2-62 子育てに関する不安感や負担感



2 子育てに関して悩んでいること

子育てや子どもの成長に関して、日常悩んでいること、または気になることをたずねたところ、具体的な内容として、「子どもの教育に関すること」が31.7%と最も高く、「子どもを叱りすぎているような気がする」「友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること」「子どもとの時間を十分にとれないこと」も20%以上となっています。平成25年と比べると、「友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること」が6.8ポイント低下しています。また「特にない」は3.4ポイント高くなっています（図表2-63）。

図表2-63 子育てに関して悩んでいること（複数回答）



子どもの成長に関して、日頃悩んでいること、または気になることの「その他」として、図表2-64の内容が記載されていました。

図表2-64 子育てに関して悩んでいること（その他）

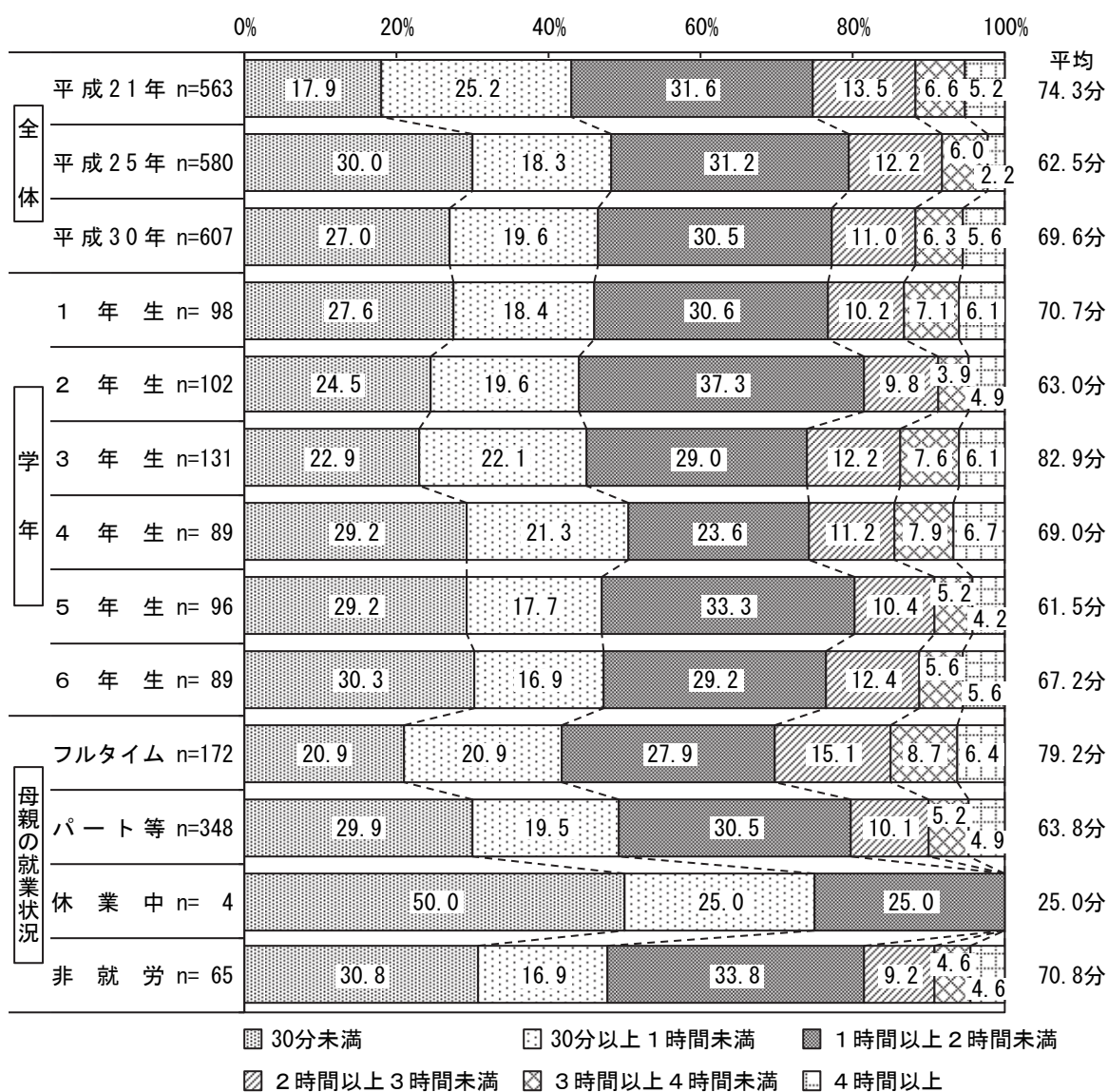
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育にお金がかかる（3人） ・教育にお金がかかりすぎる ・学校の質 ・養老町内において、共働きの自分の家庭環境に合い、受けることのできる子育て支援サービスがない ・子ども会やPTA役員などの仕事の内容が多すぎるので、仕事ができない ・子ども関係の役員になることが多すぎて、本当に悩む。子どものこととはいえ、PTAや子ども会、子どもが2人いるだけなのに、すでに6回。もういいかげんにしてほしい ・子ども会の役員や町内の集まりなど、子育て世帯への負担が大きい ・決めたことを守らない、班の旗当番に来ないなど、地区の親でいいかげんな人が多い ・地域がひどい 	<ul style="list-style-type: none"> ・父親の消防団の活動を減らしてほしい。出席できないと、上の人から苦言があるのは、おかしい ・5年生の子どもが、忘れた頃におねしょをしてしまう。心が不安定だからか。 ・ことばづかい ・子どもの反抗期 ・自分が姉妹だったので、男の子の育て方がわからない ・動画サイトやゲームなど、子どもがタブレットを見すぎ ・子どもを外で遊ばせたいけれど、安全面での不安や場所がない ・何に対しても面倒くさいと言葉が出る ・父親が子どもと関わらないこと ・習い事 ・祖母に頼ることが多く、負担が気になる
--	---

3 父親の1日の子育てや家事の時間

「父親は子育てや家事を1日どれくらい分担していますか」という設問に対しては、「1時間以上2時間未満」が30.5%と最も高く、次いで「30分未満」が27.0%などとなっており、1日当たりの平均時間は69.6分です。平成21年および平成25年と比べると、1日当たりの平均時間は平成21年より短く、平成25年より長くなっています。

平均時間が多いのは、子どもの学年別では3年生、母親の就労状況別ではフルタイムです。

図表2-65 父親の1日の子育てや家事の時間



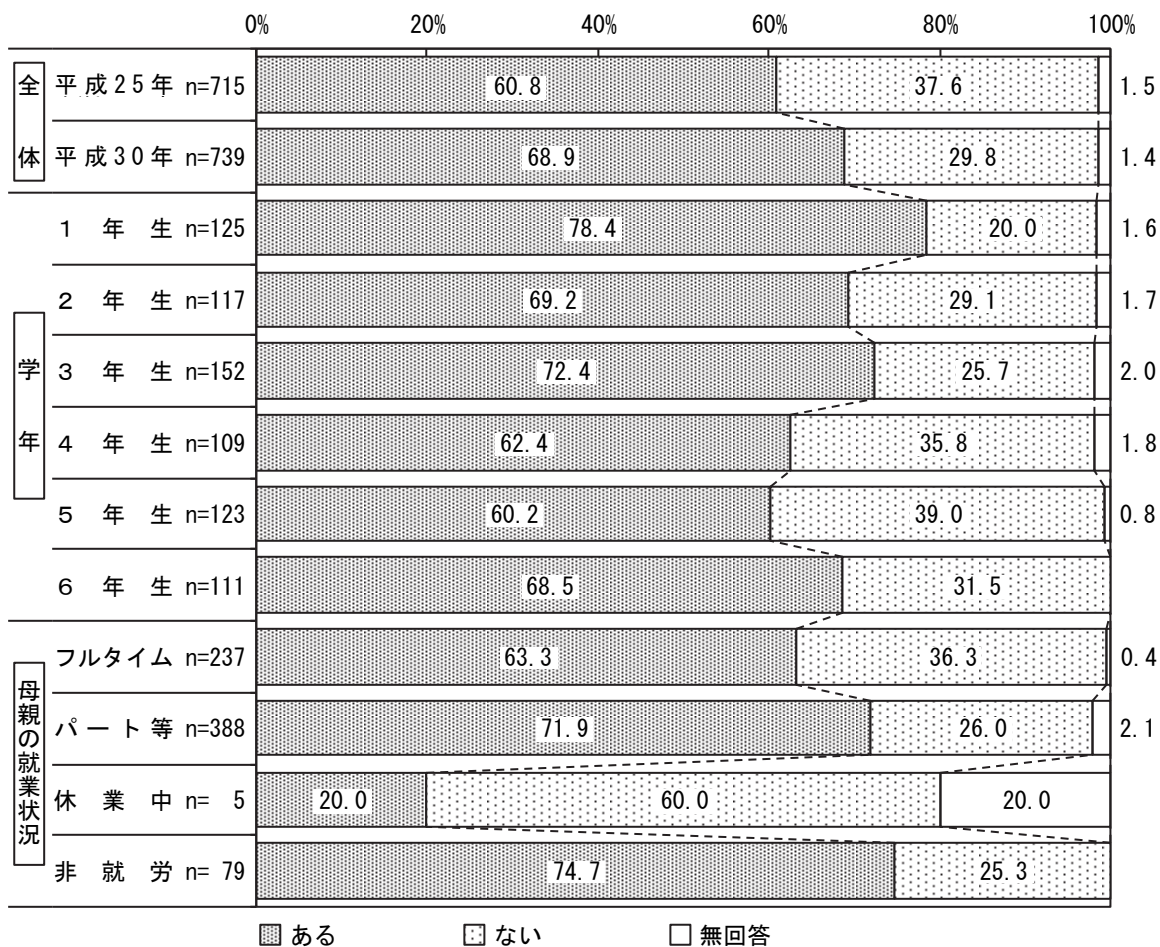
4 子どもへの暴力

(1) 子どもに暴力をふるったことがあるか

子育てをしている中で、ストレスを感じ、感情的にたたいたり、怒鳴ったりしたことがあるかを聞いたところ、「ある」が68.9%、「ない」が29.8%です。平成25年と比べると、「ある」は8.1ポイント高くなっています。

子どもの学年別の1年生、母親の就労状況別の非就労の「ある」が高くなっています。

図表2-66 子どもに手をあげてしまう、あるいは手をあげそうになったこと

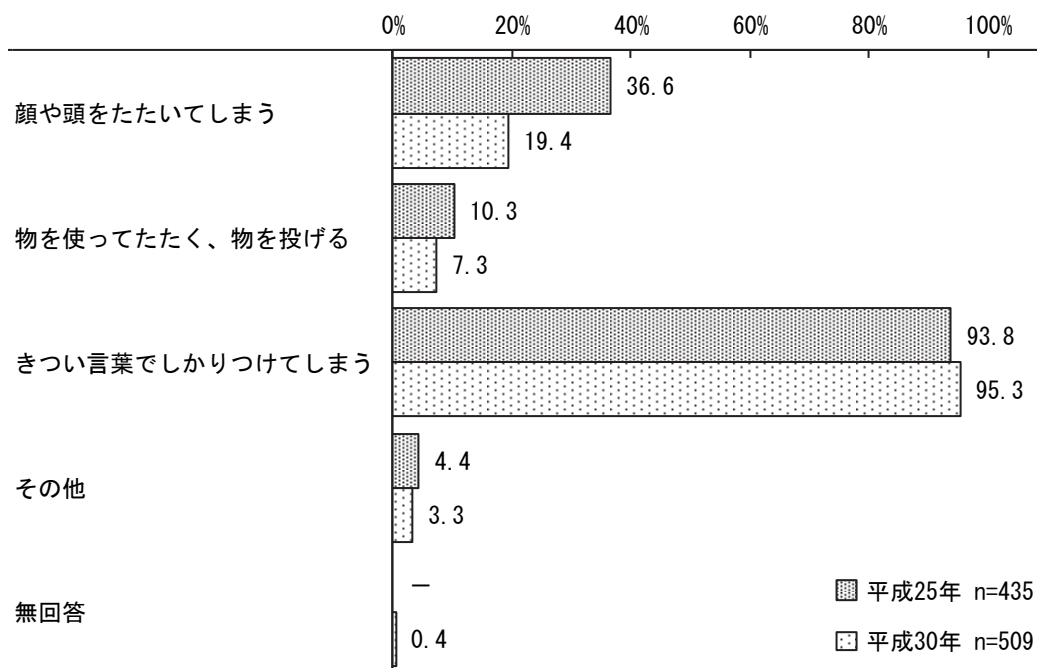


(2) 子どもへの暴力の内容

図表2-67は、図表2-66で「ある」と答えた人に、具体的な暴力の内容をたずねた結果です。「きつい言葉でしかりつけてしまう」を95.3%の人があげており、次いで「顔や頭をたたいてしまう」が19.4%、「物を使ってたたく、物を投げる」が7.3%です。平成25年と比べると、「顔や頭をたたいてしまう」が17.2ポイント低くなっています（図表2-67）。

「その他」として、図表2-68の内容が記載されていました。

図表2-67 子どもへの暴力の内容（複数回答）



図表2-68 子どもへの暴力の内容（その他）

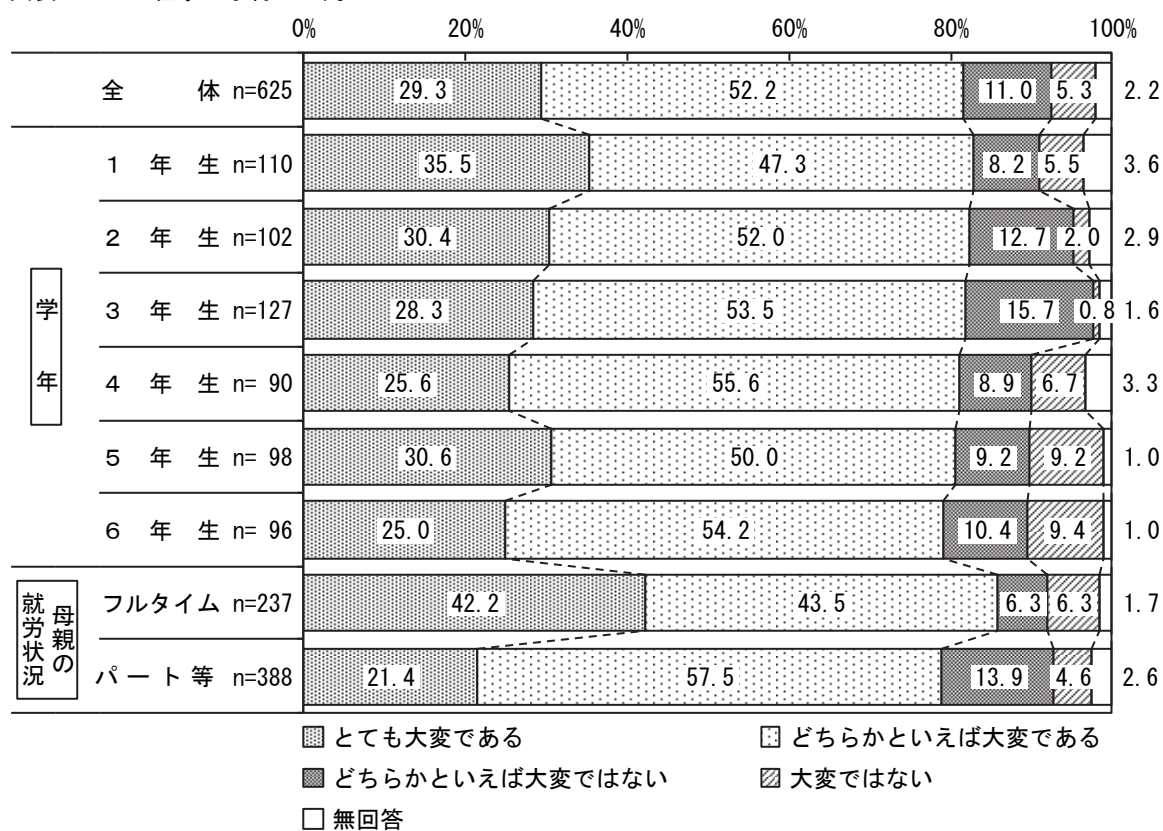
<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声でおこる（2件） ・調査の選択肢よりはひどくないが、おこる ・怒鳴る ・お説教が長くなってしまふ ・お尻をたたく ・おしり 	<ul style="list-style-type: none"> ・親が泣いてしまふ ・けりを入れる ・その場を離れる ・外に出す ・父親にぐちってストレス発散
---	---

5 仕事と子育ての両立

子育てをしながら就労している人に、仕事と子育ての両立が大変だと感じているかたずねたところ、「どちらかといえば大変である」が52.2%を占めています。次いで「とても大変である」が29.3%となっています。

「とても大変である」は、子どもの学年別では、学年が上がるほど低くなる傾向にあり、6年生では25.0%となっています。母親の就労状況別では、パート・アルバイト等に比べてフルタイムが高くなっています。

図表2-69 仕事と子育ての両立

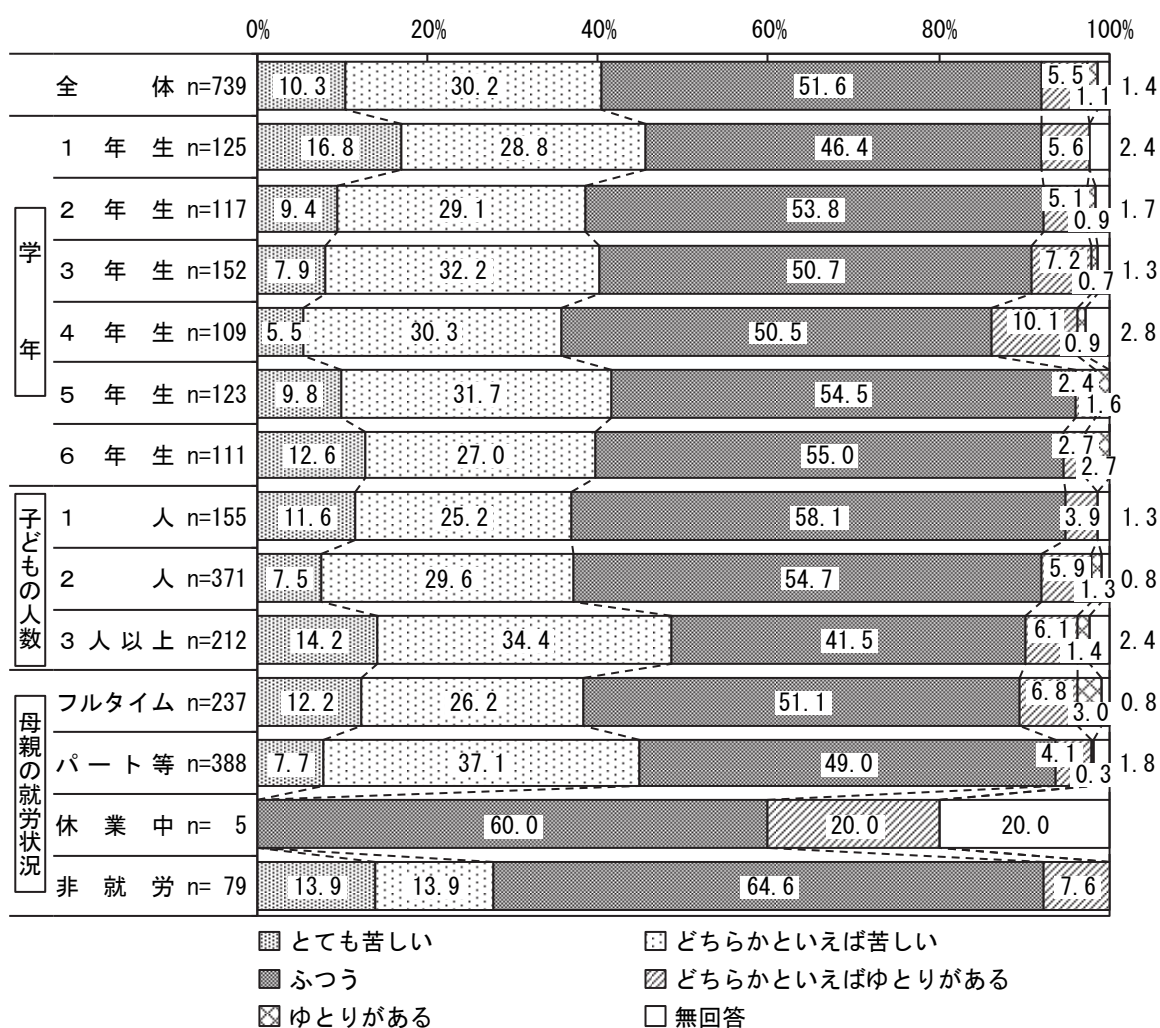


6 暮らしの状況

現在の暮らしは経済的にどのように感じているかたずねたところ、「とても苦しい」(10.3%)と「どちらかといえば苦しい」(30.2%)を合計した<苦しい>は40.5%となっています。「どちらかといえばゆとりがある」(5.5%)と「ゆとりがある」(1.1%)を合計した<ゆとりがある>は6.6%です。

<苦しい>は、子どもの学年別にみると1年生が最も高く、子どもの人数別では3人以上が高くなっています。母親の就労状況別にみると、パート・アルバイト等が高くなっています。

図表2-70 暮らしの状況



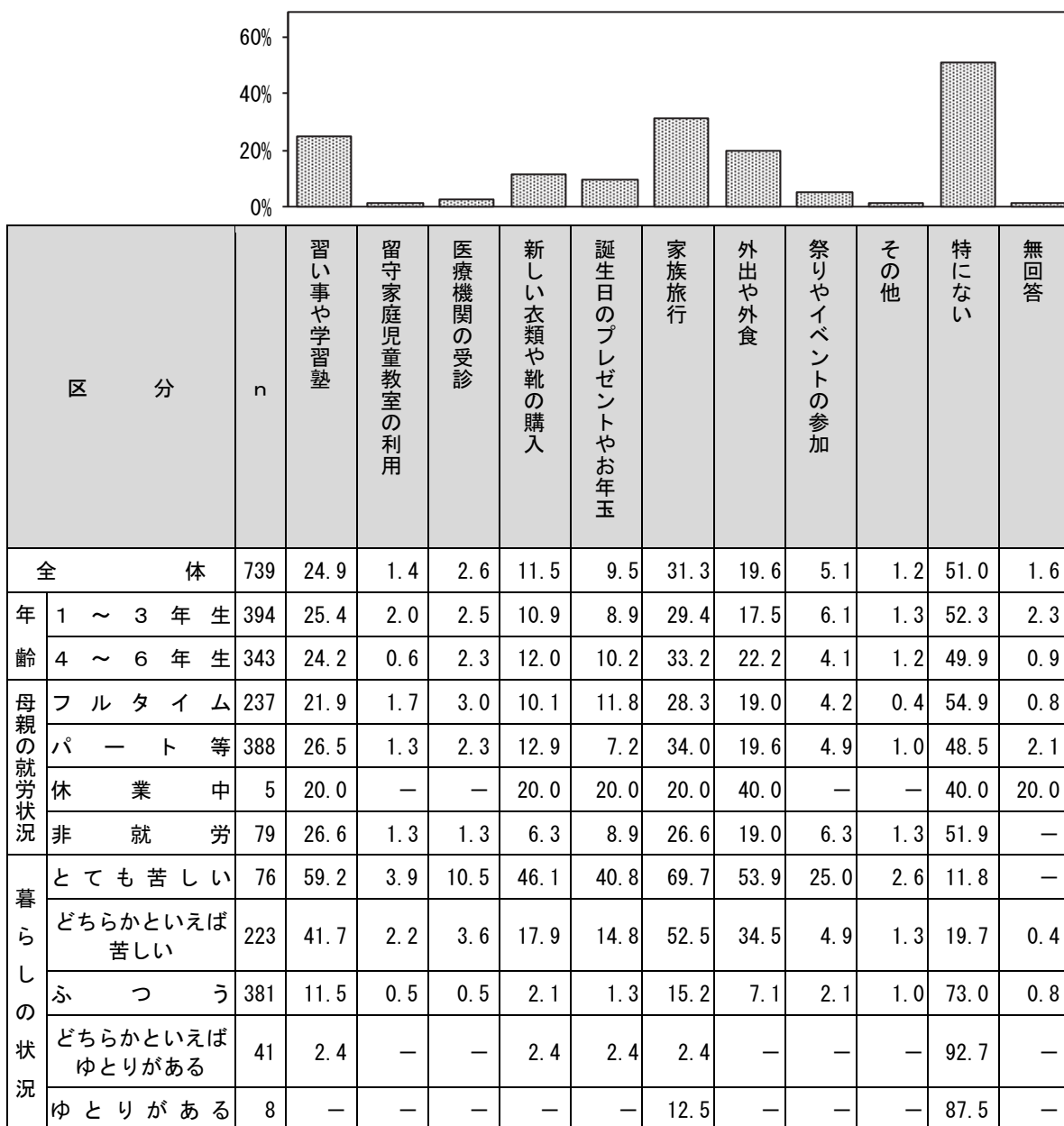
7 経済的な理由で断念したこと等があるか

図表2-71は、この1年間に、経済的な理由で断念したり、子どもに我慢させたりしたことがあるかたずねた結果です。51.0%が「特にない」と回答しています。経済的な理由で断念したこと等の具体的な内容としては、「家族旅行」が31.3%と最も高く、次いで「習い事や学習塾」が24.9%、「外出や外食」が19.6%などの順となっています。

図表2-70で「とても苦しい」と回答した人は、「特にない」が11.8%にとどまっており、5項目が40%以上となっています。特に「家族旅行」は69.7%、「習い事や学習塾」は59.2%、「外出や外食」は53.9%と半数以上の人が選択しています。

「その他」として、図表2-72の内容が記載されていました。

図表2-71 経済的な理由で断念したこと等があるか（複数回答）



図表 2-72 経済的な理由で断念したこと等があるか（その他）

<ul style="list-style-type: none">・学校の授業で使用するものや体操服・おやつやジュース・絵本・おもちゃを買うこと	<ul style="list-style-type: none">・スマホがほしいと言うが買えない・ゲームなど高いもの・子どもに我慢させないように、嫌な思いをしないようにしている
--	--

第 3 部

意見・要望

第1 就学前児童保護者調査

1 子育て全般

- 他の市町村と比べて、未就園児の子育てをしている親へのサポートが少ないと思います。以前住んでいたところは、歩いて行ける距離に遊べる施設（屋内公園）がたくさんあり、毎日、子育てするのにとても良かったです。（2歳 広幡）
- 申し訳ないが、周辺の市町村と比べて余りにも子育てについて理解がない気がします。（日吉 1歳）
- もっと、支援センターや小規模でいいので公園をつくってほしい。在宅で子どもを見ているが、家庭へのサービスが薄い。大垣市のように、子どもが出かけやすい制度（市バス無料等）が、ほしい。（養老 1歳）
- 子どもの人数が年々減ってきていて、小学校の登校班、こども園や学校での役員、地域の役員、行事等で、子どもとの時間が削られています。役員・地域の行事も大切ですが、昔と違い親だけで続けていくのは無理（放課後、土・日曜日に、子どもをみてもらわないといけない等）があります。周りのサポートも必要かと思います。親は子育てや自分たちの老後のためにも働かざるを得ません。子どもとの時間も大切です。自分の時間もないとストレスにもなります。子育て世代が忙しく、子どもを犠牲にしまったり、子どもが産みたくても産めない理由の大きな点だと思います。まずは、子育てをする母親の目線でいろんな町づくり、地域づくりをしてほしいです。（日吉 4歳）
- 町民憲章で「おとしよりが…」の内容で、これは間違っていると思います。子どもに面倒をみてもらわないと生きていけない。世話をしてもらえない。独居老人になってしまう。だから今の時代はお年寄りでなく、子どもをもっと大事にして、子育てのしやすい町づくりをしていかなければならないと思います。もっと子どもの数が増えるように、医療の無償化（高校生まで）インフルエンザワクチン接種の無償化。なぜ、年寄り（65歳以上）は、安くなるのか？ 子どもの料金を安くすべき。子育て中の親として、納得できない部分を書かせていただきました。これから子育ての環境が良くなるよう願っています。今のままでは子どもの数は増えません。（養北 4歳）
- 町民憲章を、小学生の子どもに言わせているのにびっくりしました。内容を見て、もっとびっくりしました。この内容では、町にいたくないと思うのは当たり前です。変えることも必要です。町内の皆で子どもを守って育てましょう。子どもも自信を持ってまっすぐ育ってくれと思います。（日吉 0歳）

-
- 養老町は子育てするのに住みにくいです。お年寄りに優しい町を目指すなら、それを支える子どもや子どもたちの親に優しい町を実現してください。(養老 1歳)
- 年の近い子どもを3人育てる環境についても理解してほしい。(養北 0歳)
- 税金、税金で何のために、働いているのかわかりません。お国のために働いているのではなく、生活のために働いています。国にお金を支払い、子どもに我慢させるというのはどうなのか？給料は上がらず、上がったとしても、税金も上がります。悪循環にも程がある。貧乏人からお金をとって、何がしたいのか謎すぎます。国に税金を納めて、生活苦になっては、元も子もないのでは？(広幡 3歳)
- 発熱時や子どもの急な用件の時、仕事を休まざるを得ないことが多くあります。子育てに費用がかかるため共働きをしていますが、そういった時の対応がとても大変です。安心して仕事と家庭が両立できるようなサポート体制を整備していただきたいです。(池辺 2歳)
- 子育て中の家庭が過ごしやすい環境にして、養老町の子育て世帯がどんどん増えていく様に頑張ってください。(広幡 3歳)
- せっかく子育て支援の施設があっても、知らなかったり、利用しづらい雰囲気があります(初めての利用で躊躇します)。町外との教育の差を感じ、危機感さえ覚えます。(笠郷 3歳)
- 問42の子育て支援の事業は、平日、車がないので、利用したくても利用できない項目ばかりです。有料サービスは経済的に無理なので、登録・利用は今後もしないでしょう。(笠郷 1歳)
- 他地区の保育園に通園させると、どうして親たちが変な目で見るとのかわかりません。子どもたちもそうですが、親たちも頭を柔軟にして考えてほしいです。この地域だから、ここしかないというような昔ながらの考え方は、本当にどうかと思います。(養老 4歳)
- いろいろありますが、結局は自分次第のような気がします。お母さんの気持ちに余裕があれば、子どもに対しても温かく接することができます。お母さんたちの気持ちに余裕ができるような、そんな町づくりをお願いしたいです。(笠郷 4歳)
- 現在、学生でパート、家事、育児をしていて、時間がなく大変です。でも学生に対する認識やサポートがありません。これからの時代、再就職するため学校に通う方も増えてくると思います。「毎日が単位にかかわってきて、休めない。」自分の勝手な思いだけで学生をやっている訳ではありません。将来を見据えて、今、勉強して資格を取得し就職・納税へと繋げる……。長い目で見たサポートを考えていただきたいです。就労していないから、土曜日、園に預けられないのは疑問を感じます。(一 4歳)

-
- 子育て世代からすると、特に養老町で子育てするメリットを感じません。もし、養老町にこだわりがなければ、若い人は大垣等に移住して行くと思います。他の市町村より、子育てしやすく住みやすい町にしてほしいと思う。(養老 0歳)
- 男性も子育てをするのが普通という感覚を周りの雰囲気から変えていく必要があると思います。せめて息子が大人になる頃には変わってほしいです。主人も義父母も子どもを育てるのは母親という意識が強く、家事も育児もで負担が大きいです。熟年離婚が常に頭をよぎります。(広幡 1歳)
- 企業の誘致等で町が潤い、色々な補助、手当があると子育て世代が住みやすくなるかと思えます。若い人たちが集まりやすい、おしゃれな店が増えるといいです。子どもが増えて、活気のある町になることを期待しています。(広幡 2歳)
- 子育てをしながら働くというのが、男性も女性も当たり前の時代になってきました。子どもは必ず病気やケガをします。その度に仕事を切り上げて、「すみません。」と謝りながら帰るのは女性です。社会全体が働く母親にもっと優しく子どもに温かくなってくれたらと願っています。(養老 1歳)
- 土・日曜日に働く母親にもっと優しい環境であってほしい。(広幡 5歳)
- 子どもが少なすぎて、同学年の子の中で友だちができるか不安です。役場が子育て支援等、努力していることがわかりません。「いちご」や「ひよこハウス」によく参加していますが、そこにいる方々はとてもよくしていただいて、子どもにとっても、とてもよいことだと思います。役場はそういう方に丸投げしていると思います。(広幡 1歳)
- 仕事と子育ての両立には、いつも悩んでいます。上手にやっていきたいと思っています。(広幡 4歳)
- 近隣の市町村等の支援内容とできる限り合わせてほしい(医療費、保健センターでの健診内容)。職場で支援内容の違い等の話題が出たりすると、差があることにあまり良い思いがしない時が出てきてしまいます。支援センターや保健センターの講座等は平日が多く、仕事をしている人は参加できません。土・日曜日に開催される家族で参加できるイベントは比較的参加しやすい。(広幡 2歳)
- 医療費免除が中学生までというのは、他に比べて短すぎます。高校生までにしていただきたい。色々なアンケートに答えるなかで、何度も訴えていますが、何も変わらない。老人に優しい町もいいが、子育てしやすい町にならないと、人は減る一方だと思います。こういった声が町長や議員に届くのか疑問。届いていたとしても、何も変わらないのだろうと、期待す

らありません。(養老 3歳)

○養老町は大垣市と比べると、子育て関連は大きく遅れをとっています。経済的な余裕があれば、今すぐにでも大垣市に引っ越したいと考えています。町内にまともな働き場所がないのも大きな問題。(養老 5歳)

○町民憲章の3番目、子どもに言わせる必要がありますか？ 教育面等もっと子どもが成長できるように、他の自治体の良いところを学んで取り入れてほしいです。幼稚園のころと、やっている時間は同じなのに、認定こども園の料金が高すぎます。結局、14:30からはDVDとか、おやつとか、本の時間になっているので、もっと料金に合ったことをしてほしい。(養老 1歳)

○子どもが少ない分、親の負担が多いように思います(学校の役員や子ども会の世話等)。公園等整備されておらず、子育て世帯にとって魅力があるとは言えません。企業が少なく、就職先に期待できない。老人が豊かに暮らすために、若い世帯が住みやすい町に。(養老 5歳)

○養老町には、公園がない(大垣市だといくつも公園があります)。こども園の遊具が危ない(老朽化が気になります)。未満児の受け入れ場所が少ない。養老町に預けることができないので、送迎等、親に負担がかかります。(養老 4歳)

○毎日ではないが、繁忙期は会社で22:00まで働いています。園が最長18:30までのため、ギリギリまで仕事をしてダッシュで帰ります。時には、夕食を用意して再度出勤することもあります。働かなくてもいいのであれば働かず、子どもとの時間を大切にしたいが、少しでも余裕のある生活を望もうとすると、時間が許す限り(園で見てもらえる限り)働いてしまう。(養老 5歳)

○他所からの転入者を受け入れない風習があります。すごく子育てしづらい。(養老 4歳)

○大垣市から転入して来たのですが、やはり医療費を18歳までみてくれるという面や、1年分無料ゴミ処理シールをもらえるのは、子育てをしやすい環境でありがたかったです。養老には小さな公園すらないことに驚きました。子どもたちが気軽に遊べる場所がないのが、少し不便に感じます。通学路も街灯がなく、高齢の方の車の運転も多いので、もう少し安全面を強化してほしいです。昔とは夏の暑さも違うので、バス等を出してもいいと思います(他県にそういうところもあります)。もっと子育てにお金を使ってほしいです。できるなら、大垣市に戻りたいです。(笠郷 3歳)

○養老町も大垣市のように子育て支援を充実させてほしい。不妊治療の助成制度を見直してほしい。子どもを遊ばせる公園や施設をつくってほしい。廃園になった建物を放置しないで、

-
- 子どもたちが遊べる施設につくり直してほしい。(笠郷 3歳)
- 子どもが大きくなり、周りの子が習い事を始めだし、うちの子も「やりたい」と言いますが、その時間帯に送迎してあげられないので、我慢してもらっています。核家族で共働きなので、病気の時も困ります。やはり、母親は、家族の生活のために、仕事を変えていかないといけないのかなと悲しく思います。難しいです。(笠郷 3歳)
- 教育・保育を提供する側の人員が確保できていないように感じるので、そちらをしっかりと安定させたいと、子育て事業を進めていただきたいと思います。(日吉 3歳)
- 地域の方たちに声をかけてもらったりしているので、大分、気が楽になって良かったと思います。子どもがいるから、友だちができるんだと思っています。何かあれば、よろしく願います。(日吉 3歳)
- 養老町の財政の関係もあるかと思いますが、岐阜市のように子育ての環境がもう少し良い方向に向かえるように頑張してほしいです。(池辺)
- 高齢者人口が多く、高齢者寄りの政策・制度が多く感じられます。子どもの数を増やすために、子育て支援や助成金の制度を充実させて、周辺地域より養老で子どもを産み育てる環境づくりを推進させていただきたい。若者や子どもが少ない地域では、町全体に魅力がないと言われているに等しいと感じます。しかし、山や田畑がある自然環境で子どもを育てることは、都会での生活より心が豊かに育つと思います。(池辺 5歳)
- 子どもがお金の勉強にもなるように、駄菓子屋さん等、子どもが簡単に買い物ができるところがあると嬉しい。全体的に、コンビニ、スーパーが少ない。(養北 0歳)
- スポーツマックス養老のスイミングスクールを土・日曜日もやってほしい。(池辺 0歳)
- ファミリー・サポート制度の導入時期は決まっていますか。(笠郷 0歳)
- 役場内での、部課を越え、上の子の情報、下の子の情報を迅速にリンクさせ、必要な時に、必要な情報を的確に発信すべきです。同様の書類の提出を、部課が違うことで同時期に（または時期をずらして）別々に提出する必要があります。同じ内容のものならば同一にすべきで、利用する側に負担をかけるべきではありません。説明会等、情報を知らない人が確実に把握できて、利用できる環境でなければなりません。(養北 3歳)

2 保育園・幼稚園・こども園

- 上の子を保育園に入れたくても、育休中だと対象にならず、子ども園への入園になってしまう。その場合、仕事復帰するため、下の子を保育園に入れるとなると、上の子を転園させた

り、制服を買い直したりと負担が増えるため、自由に保育園を選べるようしていただきたい。

(0歳 笠郷)

○就労が前提でないと保育園に入れにくいのは困ります。例えば、育休中であっても、自営業の場合は、家の仕事を手伝わなければいけないこともあります。(笠郷 0歳)

○保育園やこども園は希望するところに入れやすいので、その点はありがたいと思います。(笠郷 0歳)

○こども園の定員が少ないため、小学校区内のこども園に入園できない場合があると聞きました。定員を増やして校区内のこども園に入園できるようにしてほしい。(養老 0歳)

○町のこども園の私立化を聞いたことがあるが、進んでいるのですか。(笠郷 0歳)

○池辺幼稚園の施設を支援センターのような親子で参加できる場として活用してほしい。(池辺 1歳)

○認定こども園になったことで、保育園とどのように変わったのか(保育時間、保育料等)をどこかに明記してほしいです。どの園が建て直すのか、民営化されるのか、噂話に聞くだけで、はっきりとした情報がわかりません。

○3歳まで自宅で面倒を見る予定ですが、その後、こども園等に入れた時に、子どもが馴染めるか不安です。今は、小さい頃から、保育園に行くのが普通になっているので、輪もできていそうだし、私自身もママ友の輪に馴染めるか不安です。(養老 1歳)

○第2子妊娠中で、上の子が保育園を利用していますが、保育園利用条件で出産を選んだ場合、産後8週までしか見てもらえないとありますが、パートだと育休制度もありません。産後8週間後には働かないといけないのでしょうか。そうしないと上の子は転園になったりするのでしょうか？フルタイムで働いている人は育休制度もあり、1年はとれると思います。パートにとってみれば不公平だと思うのですが……。産後2か月から仕事に復帰しなければならないのですか？こんな制度だと、子どもを産む気にもならないし、子育てもしづらいです。もう少し考え直してください。(笠郷 3歳)

○土曜日は保育園が半日なので、仕事を毎週、休みにしなければならない。のぞみ教室は、夏休み等、入室が8:00なので、8:30出勤に間に合わない。(笠郷 0歳)

○保育園の閉園時間。幼稚園より預けにくくなった。保育園の入園手続きがわかりにくい。保育園のサービス・システムの格差(土曜日。送迎。)。保育料が高い。(池辺 2歳)

○子どもを通わせている保育園は、先生方と保護者のコミュニケーションが取れている素晴らしい場所で大好きな園です。(広幡 4歳)

-
- こども園に関してですが、年長まで、一貫して同じ園に通えるようにしてほしいです。子どもが多い家庭では、送迎だけで朝も帰りもバタバタです。働く親に配慮が足りません。卒園を2年続けてやることも無駄です。(養老 1歳)
- 保育料を安くしてほしい。保育園を増やしてほしい。生後3か月から預かってくれて、朝7:15から預かってくれるところ。(養老 2歳)
- 仕事の場所が養老町にあるため、他地域に引っ越した場合でも、3歳未満の子の保育は了承してほしい。他地域でも、受け入れてもらえる園を探しているが、なかなか難しい。下の子が保育園に入れなくなった場合、休職せざるを得ない可能性があります。(養老 1歳)
- 現在、16:00を過ぎると30分ごとに100円延長料金がかかりますが、上の子の授業参観や懇談会等でどうしても16:00を過ぎてしまうことがあります。その時くらいは、延長料金をなくしてほしいです。(広幡 5歳)
- こども園の参観日と同じ日でもいいので、子育て相談やクラスのお母さんたちと先生を交えての交流会(悩みを打ち明け合ったり)する場がほしい。(養老 3歳)
- こども園のバス送迎をしてほしい。(養老 5歳)
- 幼稚園からこども園に変わり、就労している家庭へ協力してくださる対応、声かけを度々していただけて、とてもありがたく感じています。園側もシステムが変わって、まだ2年目で大変な時だとは思いますが、すごく考えていただけていると思います。柔軟な対応に感謝しきりです。(養老 5歳)
- 大垣市では、保育園やこども園に通うようになると、落ち着きのない子や、言葉のことで気になることがあると、先生から、ことばの教室や定期的に通院するようにとの話があると聞いています。自分の子どもの滑舌が悪いことは知っていましたが、病院に通わなければいけない程とは思ってなくて、卒園数か月前に言われても……という感じでした。就学前に何とかしたかったので、もっと前に言ってほしかったです。(養老 5歳)
- 育児休暇が終わるにあたり、入れる保育園が少ない。未満児に対する対応がよくない。役場では「その時にならないとわからない」「入れるかどうかは、返事できない」とか、不確定なことが多かった。「育休を延長すればいいではないですか」と言われるし、不満でした。あいまいな情報では会社にも報告できないし困ります。今の保育園が良心的に入園を考えてくれたので助かったけど、もう少し役場も考えてほしい。できることなら、0歳～卒園まで1つの所でみてほしい。他市町村の方がこども園としてのしくみができていると思います。家のローンがなかったら引っ越したい。(養老 1歳)

-
- 土・日保育してほしいです。土・日仕事だと預け先を考えたり大変です。また、春休み、お盆、正月も同様です。(養老 2歳)
- 保育園から小学校入学前の1年間は、こども園という形がよくわかりません。1度入園したら小学校入学まで居られるようにした方が良いと思います。ほとんどが、初め保育園、最後1年こども園(以前は幼稚園)であり、昔からそういう形をとっている町なのに、入園の際や、毎年就労証明書が必要というのが不思議です。(養老 4歳)
- こども園の遊具、施設が古く早急な改善を望みます。(養北 3歳)
- こども園を土曜日に1園のみ開ける方針は変わらないのでしょうか。養老町は広いので、預けに行く距離がとても遠くなる人もいます。せめて、中学校区に1つずつ園を土曜日開けて預けられるようにしてほしいです。(養老 2歳)
- 認定こども園の拡充:すべてのこども園で、未満児を受け入れてほしいです。自分の住んでいる地区にある園が利用できないのは、とても困ります。(養老 1歳)
- 小さい企業だと、育児休暇を1年以上とるのは難しいこと(雰囲気的に)もあるので、0歳児の受け入れを積極的に行ってもらえるとありがたいです。(養北 0歳)
- 地域住民に対して新しい園舎ができると言っておきながら、予算が下りずにできない等説明不足です。こども園に預けて働いているのに、環境が整っていないのは困ります。予算をしっかりと取り、子育てしやすい町にしてください。新しい園舎で遊べると思っていた親子にきちんと謝ってください。(養北 5歳)
- こども園での認定の手続きが複雑で何度も手続きをすることがあります。育休中でも2号認定のまま卒園まで通わせたい。就労→療養→出産→認定変更や、標準、短時間の切り替え等、煩雑なうえ、対応する職員によって説明内容が変わり、とまどうことも多くありました。子どもの発達や成長を優先に考えられる町にしてほしい。(広幡 3歳)
- 全体的に施設が古く、園のエアコンの故障等、放置されていました。現在は利用できるようにしていただいたが、対応が遅かった。(笠郷 5歳)
- こども園に移行するにしても、きちんとした計画や説明がなさすぎると思います。遊戯室と教室を一緒にして保育をしたため、あの1年間は本当にあり得ないという気持ちで一杯でした。先生方も子どもたちも、よく我慢して頑張ったと思います。やはり、ちゃんとした保育の場所がないと、子どもは落ち着きません。耐震がどうかという建前で、保護者を脅して、こども園とあわせることで、保育士の人数を削って財政を節約しようとしているのではないかと、町に対して不信感しかありませんでした。幼稚園は参加しなければならないことが多

-
- くて大変でしたが、子どもの人数に対して先生の数も充実していて、活動内容も素晴らしかったです。時代の流れだとは思いますが、こども園になっても、子どもたちが色々学べる場であってほしいです。(笠郷 2歳)
- こどもの入園と仕事復帰が同時になったので、子どもは新しい環境や生活に慣れず、精神的に不安定になり、入園当時は体調を崩しました。母親も職場に慣れなければならず、仕事と育児の両立とで余裕がなかったです。職場復帰の少し前に入園できると、こどもが園に慣れてから、仕事復帰できるのでありがたいです。1度、お願いしたのですが、仕事復帰が4月だったので、年度前だから無理だと言われました。(笠郷 2歳)
- 日頃から認定こども園の先生方にはお世話になっています。保育園の頃より先生方が疲れているように感じます。先生方のおかげで、私は仕事ができているので、とてもありがたく思っています。これからもよろしくお願いします。(笠郷 3歳)
- 保育園を通して提出する子ども課の書類が、年々ややこしくなっていると思います。来年度から新しくなるこども園に通わせますが、今まで通り幼稚園のままの方が就学前の子どもにとっては良いと思うのに、どうして養老町はそこまでこども園にしたいのかわかりません。(上多度 3歳)
- 保育園の入園手続きが、毎回、変わるのはなぜですか知りたいです。子育てだけでは、保育園に入園させてもらえないのはどうしてですか？ 子どもの行事もあつたりと子育ても大変です。(上多度 4歳)
- 公立と私立のこども園とでは差が出過ぎています。公立は元々の幼稚園の先生が入っているので羨ましい。実際、小学校の先生からも、足りていないと言われていています。(池辺 4歳)
- 未就園児を育てている人のなかで、保育園に預けたくても預けられない人がいます。保育施設にもう少し力を入れてもらいたいです。利用できるサービスも、もう少しあればいいと思います。(池辺)
- 幼稚園行事と保育園行事と両方ありますが、仕事も休めないため祖母に頼むので、子どもが可愛そうです。今年から、行事を見直していただきたいです。(池辺 5歳)
- 「園庭開放」はどこでやっていますか？ 全ての園でやってほしいです。地域の子ども、親同士の交流の場になると思います。子どもを通わせる園で遊ばせることができれば、先生と顔見知りになったり、環境に慣れることもできて、慣らし保育に繋がると思います。(池辺 0歳)
- 現在、育休中ですが、保育園が一杯で入れないということもあり、生活的に苦しいと感じる

ことが多々あります。育休手当の入らない月は特に。かと言って、他の保育園に預けるといっても、あと数か月待てば、希望している先に入れるので複雑な思いです。収入は減っても支払うものは一定で、削れるところを探してもなかなかありません。サポート事業を利用すれば費用も発生しますし、育休中は他で働くこともできないし、どうしていいのか悩みは尽きません。(池辺 0歳)

3 子育て支援センター

○いちご・ひよこの支援センターによく参加しています。保育園には、まだ入れていないので、助かります。池辺地区の保育園には、定期的に未就園児から行ける支援センターがあると聞き、養北方面にも保育園内にある施設がほしいと思います。近くにないので、今は大垣の南部やこどもの城（大垣ICの近く）を利用しています。(養北 0歳)

○支援センターが1つしかないのはどうかと…。それに狭すぎて人が多いとすぐ帰ってくるので、行く意味がない。土・日曜日だけパートナーにみてもらうにしても、上の子も一緒に遊ばせる場所がないので、町外に行くことが多く、養老町は不便だなといつも思う。いつそのこと引っ越そうかと思っています。大垣市と神戸町の支援センターは、町外の人も受け付けてくれるのでよく行くが、設備もきれいだし、色んなおもちゃや道具もあるので、何回行っても飽きない。1度視察に行っていていただいて、養老町にもつくっていただけるとありがたい。子育てイベントが月1回しかないのは残念。(養老 0歳)

○町内に、もう少し子育て支援センター等、未就園児が自由に遊べる場所がほしい。養老では場所が少なかったり、時間が短かったりするため、町外の施設を利用することが多い。園庭開放も通っていない立場からすると少し入りづらい。廃園になった幼稚園を是非開放してほしい。(池辺 0歳)

○子どもが遊べる支援センターを増やしてほしい。よく町外の支援センターを利用しており不便です。(養老 0歳)

○「いちご」や「ひよこハウス」のような事業・回数を増やしてほしい。(池辺 1歳)

○「いちご」のイベントが役場のイベント「肉まつり」のせいで場所を変更されたりしているので、とても不愉快です。(広幡 1歳)

○駅の裏が福祉で、子育て支援が下笠保育園内というのがわからない。子育て支援を軽く見ているのでは？ 大垣の支援センター、公園等を利用することの方が、養老町内を使うより多い。土・日曜日もやっているし、充実している。(養老 4歳)

○「ひよこハウス」や「いちご」等の子育て支援事業があることを知りませんでした。知らない方も多いと思います。特に、別の地域から嫁いできた方、引っ越して来た方等。もう少しPRがあると良い。(笠郷 5歳)

○こども園や保育園に入るまでの、子ども・母親に対する支援が少ない気がします。授乳期の悩みに対する相談等は、保健師以外に、助産師もいたらいいと思います。遊具、おもちゃがあって、いつでも利用できるスペース(おむつ換え、授乳OK)は養老には少ない。大垣まで出ることになってしまう。子育て人口も少ないので仕方ないのかもしれませんが。(養老 1歳)

4 病児・病後児保育

○町内にも病児保育を受けられる場所があると助かります。(池辺 0歳)

○病児保育の町への導入計画があるのか教えてほしい。近隣市の施設利用で足りているのですか。(笠郷 0歳)

○急に子どもが熱を出した時、母親が仕事を休まなければいけないので、近くに病児保育園があるといい。(養老 3歳)

○支援センターが東部中地区にしかなく、高田中地区からは行きづらいので、高田中地区にもあるといいと思った。(養北 1歳)

○病児保育が養老町内にもあればいいと思います。(養北 1歳)

○早く養老町内に病児・病後児保育施設をつくってほしい。(養北 3歳)

5 留守家庭児童教室

○小学校に入学し、時短勤務が終了したら、留守家庭児童教室の関係で仕事を続けられなくなる可能性があることが心配です。(家との距離、時間。)(笠郷 0歳)

○名古屋のトワイライトスクールのような子どもが、安心して集まれる場所がほしい。公民館開放等。(笠郷 5歳)

○不審者が多くなか、核家族も多いので、学童の利用を6年生までにしてほしい。何かあってからでは遅い。夏休みだけでも検討してほしい。(笠郷 5歳)

○今年度から、のぞみのシステムが変わったので困ります。宿題の時間が短いので、娘はやりきれません。何のための学童ですか?(笠郷 3歳)

○学童は現在、小学3、4生ですが、小学6年生までにしてもらえると安心して預けられます。

(養老 4歳)

- 留守家庭児童教室の利用料が高いです。(広幡 5歳)
- 兄が留守家庭児童教室を利用させていただいているのですが、夏・冬・春休みだけでも4年生以上の子どもも対象にしてほしいです。(養老 2歳)
- 同居していても、小学生に上がった後、「のぞみ」に入れられたらと思っています。義両親に頼むのも……という人もいます。「のぞみ」を利用できる制限をもう少し緩くしてほしいです。(笠郷 1歳)
- 共働きの親が増えていますが、園・小学校の留守家庭等が、カレンダー通りで本当に必要な時に利用できていません。祝日が増え、連休になっても、親が仕事を休めない時もあるので、その辺りに利用可能な支援がほしいと思います。(日吉 2歳)
- 留守家庭児童教室の期間を、春休み、冬休みという単位、もしくは1か月ごとに利用できるような体制にしてほしい。祝日の保育、または留守家庭児童教室等の支援があると助かります。(上多度 5歳)
- 下の子では特に困っていないが、上の子(小学生)を、6年生まで学童保育の援助をしていただきたい。現在、4年生までしかサービスを受けられないため。(日吉 1歳)
- 春・冬休みにも、夏休みのように小学校で学童を利用したい。(上多度 1歳)
- 留守家庭児童教室(夏季)の受け入れ時間を7:45くらいにしてほしいです。仕事の都合で、多少の融通が利くとありがたいです。(池辺 5歳)

6 預かりサービス

- 母親の体調が悪い時に、子どもを預かってくれたり、見てくれるサービスがあると心強いです。(養老 1歳)
- 養老町は、同居や敷地内に祖父母がいる世帯が多く、仕事をしていても家族に助けられる家庭が多いように思います。ただ、祖父母の予定や病気等で、突然見てもらえない時もあるので、そういう時にファミリーサポートや病児保育等、単発利用できるものがあると大変助かると思います。(広幡 4歳)
- 未就園、就学前の小さい子に関する支援は進んできていて、とてもありがたいです。小学校低学年は、まだ、1人で留守番させたりするには心配なのですが、預けられない状態なので、その部分の支援があると、子育てもしやすくなります。有料(1日単位)でいいので、少し預かってもらえる場がほしいです。留守家庭児童教室は、働いていないので入れませんが、

急用等で子どもの帰宅時間に家にいれない日もあります。困っている方もたくさんいると思います。一時保育のように、小学校でも1日だけとかで利用したいです。特に低学年は心配なので…。(笠郷 0歳)

○一時保育を利用したい時、ならし保育でいっぱいだから、預かってもらえなかった。風邪でふらふらなのに、急ではない、ならし保育で定員を超え、預けられなかった。子どもの痲癢がひどい時なので、医者にも行けず辛かった。2人目を産みたいのに、諦めた。夫も仕事が忙しく、子どもの風邪が治らないのを責められ辛かった。(上多度 5歳)

○気軽に利用できる一時預かりがあると良い。(池辺 0歳)

7 障がいのある子どもへ等の対応

○配慮を要する子どもを受け入れる場合は、特別支援学級を設けてほしい。通常学級に入る場合は、支援員を増やし、他の子どもの安全、指導、保育が滞ることのないようにしてほしい。安心して預けることのできる、開かれた施設にしてほしい。(広幡 3歳)

8 ひとり親家庭等への支援

○こども園になったのに、園舎はないし、定期的な報告もない。母子家庭で働きながら子育てをしているのに知らないことばかりが増えます。園と役場の連携がきちんと取れているのか不安です。母子家庭でも働きながら子育てできる体制が増えてほしい。1号と2号で差があるのは当然だと思うが、納得がいかない部分も多々あります。(養北 5歳)

○シングルマザーなので、子どもにもっと色々やらせてあげたいけど、経済的に無理。家族と同居していますが、家族に収入があっても、私にまわってくることはありません。同居していても、シングルマザーだったらもらえる特別支援手当があるとありがたい。(養北 4歳)

○母子家庭で就労している身としては、行事が保育園、小学校と重なる月は平日、休みをとらなければならない、貧窮します。母子家庭に限らず、共働きの多い時代だということも考えてほしいです。祖父母がいる、父親に預けられることを前提での夜の役員の集まり等、今後どうしたらいいのか、役員が当たったときのことを考えると不安です。(池辺 4歳)

9 保健センター・保健事業

○離乳食教室や手作りおやつ教室、パン教室の充実。初めての子育てで、「食」に関することが、一番困っていて、何をいつから食べさせていいのかがわからない。(笠郷 0歳)

-
- 町民プールのベビースイミングを利用しているが、健診や子育て相談がベビースイミングと同じ火曜日に設定されているので、違う曜日にしてほしい。(笠郷 0歳)
 - 出産後1か月に、保健センターからの訪問があったが、1か月後だと解決できていることが多いため、出産後2週間等に訪問があるといい。産院から退院してすぐが一番悩みごとが多いと感じました。(日吉 0歳)
 - 母子手帳は、いただける日が少ないと感じました。1人目妊娠の時、その日に合わせて、仕事の休みをとるのが大変でした。(養北 0歳)
 - 子どもの健診が、お昼寝の時間と同じなので考慮してほしい。(笠郷 0歳)
 - 産後1、2か月頃は、不安で心細く、うつ気味だった。実家が遠方で頼れない場合は、少し気に掛けるサポートがあっても良いかと感じました。外出もなかなかできず、ストレスがたまります。産後1～2週間以内に近況確認して、必要な場合は訪問やカウンセリング(話し相手)等あれば心強いです。(養北 1歳)
 - 健診時に離乳食教室に参加しようと思いましたが、子どもを預けて来てくださいと言われてました。預けるところがない場合は、どうしたらよかったですのでしょうか。当時は残念でしたが、帰りました。(養北 4歳)
 - 予防接種の間診票は3歳児健診で配られますが、他の地区では、必ず受けなければいけないワクチンについては、全ての間診票が一冊になっていて、産まれた時にもらえます。養老町でもそのような配布方法だと便利で、病院の先生と話し合いながら、行きたいタイミングで行けるのと思いました。(日吉 2歳)

10 児童館・図書館

- 図書館での子ども参加行事は、午後が多いので、午前にも行ってほしい。(午後からは昼寝するため参加できない。)(池辺 1歳)
- いちごさん、ひよこさん、手作りランドさんには、大変お世話になり、ありがとうございます。しかし、大垣市でいう「キッズピア」や「南部支援センター」のような、毎日でも行ける児童館があると、ありがたいと思います。(養北 0歳)
- 中央公民館のキッズスペース？ 場所が悪い。利用したくなくなります。図書館側へ移動した方が使いやすい。(池辺 2歳)
- 養老町の児童館は、魅力がなく(遊具不足等)大垣の児童館に行っています。子どもの遊べる施設を充実させてほしい。(養老 1歳)

-
- 図書館の本を増やしてほしいです。子どもが読みたくなる本はもちろんですが、大人も一緒に行って借りたくなるような本がもっとあるといいです。(笠郷 5歳)
 - 町の施設のトイレ等、どれも古くて汚いので新しくしてほしい。町の図書館のスペースを広げてほしい。新しい図書館をつくってほしい。(日吉 5歳)
 - 大垣市のキッズピアや大野町のパレット大野のような、きれいな施設をつくってほしい。どこも養老町は古い感じがして行きたくない。(上多度 3歳)

11 プール

- 町内プール(ベビープール教室?)の値段設定の見直し。1回1,000円程かかるのは高くはないか? 値段で諦めているママも数人知っています。(笠郷 0歳)
- 町民プールのバス送迎。(笠郷 5歳)

12 公園等の遊び場

- 公園等、子どもが利用できる施設を充実させてほしい。(笠郷 0歳)
- 歩いて行ける距離に公園がない(養老公園まで行かないとない)ので、小さい公園でいいので、つくってほしい。わざわざ大垣にある公園まで行っています。(養老 0歳)
- 公園をつくってほしい。公園があっても古くて危ない。(池辺 2歳)
- ちょっとした公園でいいので、子どもと外で遊べる場所がほしい。(笠郷 2歳)
- 子どもが気軽に行けて、家からも近い公園を、養老町の地域ごとにたくさん設置してほしいです。(笠郷 3歳)
- 公園が少ない。(広幡 5歳)
- 公園が少ない。(笠郷 5歳)
- 子どもと遊んだり、買い物に行く時は、大垣市まで出なくてはなりません。近場に公園や施設があれば、近所のママ友と遊びやすく相談等もしやすくなると思います。(笠郷 1歳)
- 近くに自転車で走り回れる広い公園がほしい。(笠郷 4歳)
- 養老町にも、新しい公園や小さい子どもが遊べる場所をつくってほしい。保育園の遊具も危なかったりするので、変えてほしい。(笠郷 1歳)
- 笠郷地区にも安心・安全な公園をつくってほしいです。古くて近寄れない公園しかなく不満です。(笠郷 5歳)
- 早急に公園を増やしてほしいです。駐車場は無料で。(笠郷 3歳)

-
- 公園が少ない。(池辺 2歳)
 - 子どもたちだけで遊べる場がありません。団地に公園はありますが、犬の糞等があり汚いです。子どもを遊ばせるのは考えてしまいます。(広幡 2歳)
 - 30年前までは、まだ近所に公園が1、2か所あったが、今ではなくなってしまいました。公園で遊ぶことができません。転勤で色々なところに行きましたが、こんな自治体は初めてです。(養老 3歳)
 - 子どもが安心・安全に遊べる広場や公園が近くにほしい。(養老 5歳)
 - 町のなかに公園がなく、子どもを外で遊ばせてあげられない。(養老 5歳)
 - 公園が少ない。羽島とかの方が多い気がする。(池辺 2歳)
 - 子どもが安心して遊べる、大型の室内施設がほしい。(養北 2歳)
 - 無料で子どもが遊べる施設が増えるといいと思います。大垣まで行けば、施設が充実していますが、もっと近くにほしいです。(養老 0歳)
 - 子どもたちが、気軽に安心・安全に遊べる公園の整備をお願いします。養老公園のように、1点集中ではなく、近所にある公園・広場の整備や遊具の見直しをしてほしいです。古すぎる遊具、充実していない公園ばかりです。子どもたちが集まって遊べる場が、養老町にはありません。(日吉 4歳)
 - 大垣西公園は整備されていて、トイレもきれいで、遊具も新しいので、よく行きます。親子が安心して気軽に遊べるように、まずは公園を整備してほしいです。親同士も一緒に話せるように、ベンチやきれいなトイレがあるととても良いです。近所の公園の石でできたすべり台はズボンに穴が開くので変えてほしいです。ブランコの高さも合っていません。養老こどもの国も、もっときれいにしてほしいです。木の根が伸びて危ないです。(日吉 4歳)
 - 養老公園の他にも、小さい子どもが遊べる公園をつくってほしい(芝生があったり、小さい子どもも遊べる遊具)。(養北 0歳)
 - 養老公園のような大きな公園ではなく、休日等にふらっと立ち寄れるような地域の公園・施設を増やしてほしいです。大垣市や瑞穂市に比べて、とても少なく思います。(笠郷 1歳)
 - 公園をもっと増やしてほしいです。町外から引っ越して来て、ここの子どもたちは、どこで遊ぶのか不思議です。たくさん遊具がなくても、広場くらいでもつくれないのでしょうか…。(池辺 0歳)
 - 近くに公園等の遊べる場所が全然ない。(池辺 0歳)

13 教育・学校

- どんなに頑張っても支援学級はできませんでした。今年は3人の子どもが同じ小学校に通えることを、とても楽しみにしていました。それが今年も叶いませんでした。本当に本当に悲しかったです。そのせいで、他の市に引っ越すことを決めました。(広幡 5歳)
- 始・終業式、土曜授業等の昼食(給食)希望。(笠郷 5歳)
- いくつかの学区がありますが、学区が違う小学校に行けるようにしてほしいです。選んで行けると、保育園の利用も考えてできたり、仕事復帰もしやすくなると思います。(養老 4歳)
- 養老町の子育て政策は、他市町より遅れていると、強く思います(多文化教育、IT教育に関して)。(養北 3歳)
- こども園については、もう卒園してしまうのであまり関係ありません。今後、小学校の駐車場はどうなるのか気になる。(養北 5歳)
- 小学校に上がると、6年間はずっと1クラスで同じなので、友だち同士のいじめや何かレッテルを貼られることがあると、ずっと同じようになってしまう気がします。先生方は、集団行動、友だちとの関わりについて、何かあった時はしっかり指導してほしいです。学習面以外のことも、ちゃんと指導できる先生に指導してもらいたいです。(養北 4歳)
- 教育のことになると思うが、こども園の時から、英語に触れる機会を少しつくってもよいと思う。2人目だと仕事をしているので、図書館の読み聞かせも土曜日にしてもらえると足を運びやすくなると思う。(上多度 0歳)
- 子どもの小学校の通学時間が長いので、近い子に比べると遊ぶ時間、勉強・睡眠面に負担が出ていると思う。(池辺 5歳)
- 2歳から体験訓練のできる、合気道や柔道、剣道、茶道、華道等、日本の「道」が早く学べる環境を是非、この町にも。せっかく、日本人に生まれたので、世界の人が美しいと感じる『日本の礼儀礼節及びその所作』をいち早く身に付けさせ、グローバル社会で活躍できる『よい学び』を与えたい。(広幡 0歳)

14 医療

- 養老町にも急患医療センターのような、土曜日の午後や日曜日・祝日に子どもの病気を診てもらえるところがほしい。(0歳 笠郷)
- 小児救急をしっかりとしてほしい。発熱やインフルエンザ判定等、町外に行き長時間待たなければいけないことは、子どもに我慢させることになります。(養老 4歳)

○近くに小児科が2つもあるのに、休診日がどちらも木曜日と一緒なことが不便です。耳鼻科がないことも不便です。(上多度 5歳)

15 子育て環境・安全

○街灯が少ない。(笠郷 5歳)

○街灯を増やしてほしいです。小学校が遠くて40~50分かかります。道も危ないです。(笠郷 3歳)

○町民会館の駐車場が車と車の間隔が狭すぎて、子どもの乗り降りをさせにくいので、工夫していただきたい。(0歳 笠郷)

○小さい子どもがいるので、スーパー等、屋根付きの駐車場がたくさんほしい。(養老 5歳)

16 相談・情報提供

○利用できるサービス等について、もう少し情報が入りやすいと助かります。(池辺 0歳)

○子育てに関する情報を役場のホームページにまとめて詳しく載せてほしいです。(笠郷 0歳)

○養老こども園の園庭開放等はやっていないのでしょうか？ あまり情報がないので、ホームページでの情報発信等を充実させていただけると嬉しいです。(養老 0歳)

○知っている人だけが得をするという支援では駄目だと思う。どんな制度があるのかを、全ての人にわかるようにしなければならないと思う。母子手帳を渡す時に、支援についての冊子を渡す等。(笠郷 1歳)

○子育て勉強室で「少子化対策」について聞いても「特にしていない。」との返答だったので、養老町での子育てに対して不安を覚えます。ステップアップ教室も、以前は町の補助金が出ていたのに、今は打ち切られてしまったので不満です。ステップアップ教室を「いちご」のイベントの日に重ならないようにしてほしい。(広幡 1歳)

○ホームページの更新(子育て支援よろっこ)や、施設ごとの情報(各こども園のホームページをつくる等)がアップされず、デジタル化が進んでいません。広報や役場、図書館等で配布される情報では、その時を逃すと知らずに済んでしまうことがあるので、デジタル検索できるようにしてほしい。(広幡 3歳)

○養老町はとても子育てしにくい環境です。町として子どもを養育する制度が少なく、情報源がネット(HP)ではなく、紙(広報)であることから、子どもの事について、調べたくてもネットでワード検索をしても全く出てきません。せっかくボランティアの方が、いちご等を

開催しているのであれば、若い方も外国の方も簡単にわかるようにしてほしい。インターネットの時代なので、広報に載せるだけでなく、業者に依頼する等してHPを作成してもらってはいかがでしょうか。現在はネットで役場の情報をみても、結局電話で問い合わせをしないとわからない状態です。(池辺)

17 イベント

- 親子で参加できるイベント・サロン等を充実させてほしい。子育て講座とか、リトミックとか…。お父さんと子どもが参加しやすいイベントや場所があるといい。未就園児が、就園児と触れあえる場があるといい。(笠郷 0歳)
- 町の行事が多い。町民運動会、カルタ大会、縄跳び大会等、廃止希望。行事にお金をかけすぎ。医療費に回してくれた方がありがたい。(笠郷 5歳)
- 子育て支援でのイベント(遊び)を増やしてほしい。(広幡 0歳)
- 未就学児対象の支援活動はあるが、平日のみのため、こども園に通っていると参加できません。土・日・祝日にも園庭を開放する等があると大変助かります。支援活動にはよく参加していた方だと思いますが、どこに行っても参加している人の顔ぶれは同じでした。そういった活動があることすら知らない人も多いので、もっと伝わるように工夫してほしい。(養北 4歳)
- もっと小さい子を対象とした行事を増やしてほしい。友だちができるように、地区の同年の子どもを持つ親も参加できるものがあるといいと思います。一緒に参加する方、知っているママ友がいなくても、気軽に参加してみようと思えるようなものを考えてほしい。(池辺 5歳)

18 経済的支援

- 子ども医療費の無償化を高校生までにしてほしい。(池辺 0歳)
- 高校生の医療費免除。(笠郷 5歳)
- 高校まで医療費を無料にしてほしい。(養老 3歳)
- 養老町の子育て支援には魅力を感じません。18歳まで、医療費を無料にしてほしい。お隣なのに大垣市に比べて、どうしてこんなに違うのかと思う。(養北 0歳)
- 大垣市は高校生まで医療費が無料と聞きました。養老もそれくらいまで、無料にしてほしい。(養老 5歳)

-
- 福祉医療費控除を高校3年修了までにしてほしい。(養老 5歳)
 - 医療費を大垣市みたいに高校3年生まで無料にしてほしい。(養老 5歳)
 - 大垣市のように、子どもの保険料の無償化を高校生までにしていただけるとありがたいです。
(養北 0歳)
 - 大垣市は高校卒業まで医療費無料。隣の、どうしてこんなに違いがあるのか。養老町は、特別税金が高いと思う。その税金はどこに行っているのか……。 (養北 4歳)
 - 乳幼児等福祉医療助成制度の年齢引き上げ：「ここ（養老町）から、出ていきたくない。」と思えることが、子育て世代の町外への流出をとどめる第一歩だと思います。財源等、厳しい中ではありますが、検討いただければ幸いです。(養老 1歳)
 - 経済的な支援がもう少し充実しているといいと思います。例えば、保育料ですが、大垣市のように3人目以降無料だと助かります。上の子が小学校に入って学費が少なくなっても、3人目の保育料が倍になったら、支出が変わらないどころか、逆に増えます。仕事で収入が増えたとしても、その分、保育料も高くなるので、生活はほとんど変わりません。1人でも大変なのに3人以上になると、経済的負担は大きいです。(養北 4歳)
 - 多子家庭だが、収入が増えたことにより2人目の半額が適用されなくなりました。保育料の負担が増え、何のために収入を増やしたのかと思いました。収入に関係なく割引きをしてくれないと、子どもをたくさん産むことはできません。結果的に、養老町は暮らしにくい町になります。(養北 4歳)
 - 3人子どもがいても、3人目の保育料が有料でした。子どもが3人いれば、必要な物も多く、それなりに支援が欲しかった。無料の人もいると思うと良い思いはしない。(笠郷 3歳)
 - 3人子どもがいて、年が離れています。それで、保育料の免除を受けたことがありません。もう少し子どもがいる家庭のことを考えていただきたいです。年が離れているだけで、かかるお金は一緒です。隣の大垣市は、医療費無償が高校生までなので、そうしてほしいです。3年は大きいです。(広幡 4歳)
 - こども園、小・中・高と4人子どもがいても、年が離れているためフルに保育料を支払ってきました。子どもがいて楽しいけれど、3人目以降の保育料は無料にしてほしいです。今まで、養老町の年齢の免除項目にあてはまったことはないです。(養北 2歳)
 - 保育料が以前より、高くなりました。2人目は半額等あったのに、なくなってしまったので経済的負担が大きい。(養北 2歳)
 - 保育料の無償化。(上多度 4歳)

-
- 他の市町村では、兄弟の年齢に関わらず3人目の保育料は無料なのに、養老町はお金がいります。兄弟の年齢が離れていると損？ 去年は、上の子が幼稚園で、下の子は保育園が半額だったが、今年は下の子が保育料が満額で去年の方が安い。(池辺 2歳)
- 認定こども園になったとは言え、2号にすれば保育料が負担になるし、小学生のきょうだいがいると働ける時間が限られ、なかなか就労できません。仕事をしたくても就労時間の条件に合うパートの仕事はない。フルタイムで働けば子どもとの時間が少なくなるので、心配と不安でなかなか踏み切れません。のぞみ教室や2号保育料をもっと引き下げてほしい。(池辺 4歳)
- 子どもがかかりやすいインフルエンザ等の予防接種は、無料化していただきたいです。金額が高いため、諦めることが多いです。よろしくをお願いします。(広幡 5歳)
- おたふく風邪の予防接種を無料にしてほしい。(上多度 4歳)
- 子どもを育てている家庭への補助や手当を増やしてほしい。必要な物の購入時に補助があるとありがたいと思う。オムツやミルク等の消耗品も安くはないから…。(笠郷 0歳)
- オムツ等の可燃ゴミが多いため、大垣市の様に子育て中の家庭に少しでいいので、無償のゴミ袋やゴミシールの配布をしてもらいたい。(0歳 笠郷)
- 車必須レベルの地域であるので、チャイルドシートの助成やレンタルがあるとありがたい。(笠郷 0歳)
- 子どもに対する助成が少ない。チャイルドシートを買ったが、特に何も助成をしてもらえなかったのも理由の1つです。他にも養老町内にスーパー等があるが、買い物に行った時に、何のメリットもなかった。一考していただきたい。(養北 0歳)
- 子育て支援もありがたいが、保育料無料や予防接種も含めた医療費補助をもっとしていただけると、子育てもしやすくなり、暮らしやすくなると思います。第1子の時より、色んな助成金や定期接種となり無料化したものもありますが、子どもが増えるとそれだけ支出も増えるので。(日吉 2歳)
- 両親が遠くに勤めているため、就労時間+通勤時間が長い。祖母に頼る毎日のため、負担が多く申し訳ない。少しでも負担を軽くするため、様々な支援を活用すべきだとは思いますが、費用もかかるため限界があります。双子のため要する費用が多い。子どもが望む進路に対応してあげられるか不安があります。(上多度 5歳)
- 金銭的な援助がほしいです。(池辺 4歳)
- 学費の無料化等、金銭面でもっと支援してほしい。(池辺 1歳)

○養老公園の駐車場を無料にしてほしい。(池辺 5歳)

○養老町にお金がないことは、周知の事実ですが、チャイルドシートの補助金を廃止にしたり、なぜ時代に逆行したことを行っているのかがわかりません。このような状態で養老町で子どもを産んで育てていきたいとは思いません。(池辺 一)

19 役や行事の負担

○子どもの数が少ないのに、学校、PTA、地域、子ども会等の役割が昔と同じように、まわってきて、毎年、何かしらの役が当たります。子どもが多い人は、さらに役が増えてとても負担に思う。なくせるものはなくして、負担が軽くなるといいと思う。そうすれば、子どもを育てたいと思う人も増えると思う。(養北 0歳)

○小・中学校の地区役員、子ども会の育成会等の役が多すぎます。地区によっては2～3軒でまわすところもあり、共働きでは負担がかかり、家のことや子どものことに手が回りません。子ども会は無くてよいのでは？ 町民運動会もかなり負担。もう少し、その辺りをきちんと見直すべき。(笠郷 2歳)

○子育て世帯にとって、消防団の梯子登りで夜出て行くことや、年末年始の3日間の行事は多すぎます。(池辺 2歳)

○子ども会行事が負担になっている。共働きの家庭が多いなかで、子どもも当たり前で習い事をしているし、親の負担が多すぎます。子どもが少ない養老町で学校以外での交流は必要ですか。学校の登下校等で、十分交流できているのではないかと？ 親の負担が大きくなり、子育てが疎かになってしまう。子ども会行事ではなく、家庭で親子が触れ合う時間の方が大切だと思います。(養老 4歳)

○子どもが少ない地区等は、母親の負担が多いと思っています。(広幡 2歳)

○こども園の平日行事が多い。勤務していると休みをとったり、遅刻、早退をしなければならず、仕事に支障をきたすし、行かなければ子どもに寂しい思いをさせてしまう。行事の見直しや曜日の変更をしてもらいたい。(広幡 0歳)

○子ども会の行事(町全体で行うもの)をなくしてほしい。今の時代、母親も働いていることが多いので、とても負担になっているという声もたくさん聞きます。子どもたちも習い事をやっていることが多いので、参加できなくなっています。時代に合わせていかないと、町外へ移住する人たちが増えてくると思います。(養老 5歳)

○仕事の関係で休みが取りづらく、きょうだいともに行事参加できないこともあります。そん

な中で、役員の仕事をされている方に、色々と任せっぱなしで、協力したくてもなかなかできないことが心苦しいと、色々と葛藤がありますが、できる限り地域と関わられるように努力します。(養老 2歳)

○子どもの行事が多く、それに伴い親が役員をやらなければならないため、子どもが多ければ多いほど親の負担が多くなります。養北地区は、園、小学校、子ども会、すべて子どもの数だけ役があたり、かなりのストレスを感じます。小さい子がいる家庭では、その子を連れて役員の仕事をしなければならないので、かなりの負担になります。育成会行事等、減らせるものは減らしてほしいです。(養北 0歳)

○行政とは関係ないかもしれないが、地域の役が多すぎて小さい子がいると負担になります。「支え合う」というのはわかるが、共働きが増えていくなかで、昔と同じような係・委員があるところに疑問を感じます。(笠郷 0歳)

○上多度地区は子どもが少ない。住んでいる地区は特に少ないので、子どもの小学校の役員等、大変そうで仕事との両立に不安を感じます。子どもが大きくなったら、余計に働けない環境になるのではないかと思います。(上多度 3歳)

○親の負担を減らしてほしいです。地区・地域の役など重なって担当すると、子どもを預ける場所がないと夜に出かけることが難しいため、もう少し活動を縮小することを望みます。(池辺 2歳)

20 アンケート

○大垣に住んでいる時は、支援センターや保健センターによく行っていました。養老へ引っ越して来てからはまだ日が浅いので、十分利用できていません。今後、色々調べて利用できる施設等は積極的に利用していきたいです。ですから、このアンケートには十分答えられませんでした。(日吉 0歳)

○このようなアンケートによく答えますが、どのように活かされているのだろうと思います。ピンクの用紙を読んでも、ピンと来ません。(養老 0歳)

○この調査をどのように活かされたのか、ぜひ知らせていただきたい。(養北 0歳)

○アンケートをとるのであれば、今後これらをしっかりと活かしてほしい。(養北 1歳)

○アンケートがわかりづらい。量が多い。(池辺 4歳)

第2 小学生保護者調査

1 子育て全般

○養老町だけではないのですが、就学前までは、子どもの発達や進路などについて、いろいろなところが関わっていただいているように思います。でも、入学後は、相談するところも、見守ってくださっていると思うところも、一気に少なくなるように思います。学校と親の間に入ってくださる人や機関が、もっと身近で、かつ周知されているといいと思います。何かあっても、学校へ伝えることをとまどったり、担任の先生以外で主任の先生などでは、相談窓口のハードルがなかなか高いように思います。今、日吉小では、校長先生が登校時に比較的歩道に立ってくださって、玄関などで子どもたちがクラスに入るまで見守ってくださっています。そのため、とても心強く思っています。子どもたちも、話しかけやすいようで大好きです。親や子どもの立場で考えていただけて、本当にありがたいです。そのおかげで、先生たちも、親身に対応してくださる先生が何人かいて、安心してお世話になれると思っています。親世代の子ども頃とは違って、今の子どもはメンタル面で複雑なことも多いと思うので、保護者・学校・役場・地域で見守っていける養老町であってほしいと思います。

(日吉 1年生)

○子育て支援センターや町で行っていることについて、未就学児に対する支援はそこそこだと思うが、就学児以降の支援は何があるのかわからない。(養老 1年生)

○これから養老町の将来を担う子どもたちに、今よりも補助が必要だと思います。子育てしやすい環境が整わないと、子どもたちの数がどんどん減っていきます。現時点でも、小学校のクラスについても、上の子と下の子のクラスは30名程度、1クラス分減っている状況です。

(養老 5年生)

○子育ての大変なことは、養老町では無理なので、近隣の市町に頼ることがある。町とかでなくNPO法人などに対応をお願いしていることが多い。(広幡 2年生)

○ハード面でもソフト面でも、田舎ほど整備されていません。(養老 1年生)

○子育て支援行事予定が、もっと広報されるとよいと思います。スマホですぐに見られるようにするなど。(養老 3年生)

○役場の1Fの窓口が狭く、受付対応中の会話が漏れてしまい、個人情報を守られていないと感じます。もう少し何とかありませんか。(養老 2年生)

○子ども手当の申請が、土・日曜日にもできるようにしてほしい。手当て申請の数分のために、仕事を早退したり遅刻したりするのは面倒です。(養老 1年生)

-
- 養老町は、近隣市町より福祉に関して遅れすぎて、住みにくい地域です。もっと窓口を広げるべきです。(養老 1年生)
- 養老町が、子育て支援をしてくれていると感じることは、ほとんどありません。(養老 5年生)
- いろいろな支援がない。予算がないとかいろいろ言われて困っています。(広幡 2年生)
- 養老町は、妊婦さんや子どもに、とても冷たいところだと思いました。(養北 1年生)
- 養老町の税金が高すぎます。国民健康保険や町県民税など高すぎるので、子どもに我慢させることがあります。(笠郷 1年生)
- 経済的な暮らしの状況に関して。改善してほしいことでも述べましたが、世帯収入はそこそこあります。ですが、税金を一番引かれる所得層の中にいます。働いても税金で引かれ、所得制限がかかり、色々な手当を十分に受けることはできません。ですので、子どもに我慢させることも少なくありません。明日生活できない、とかではないですが、子どもが将来大学まで行きたいと言っているのも、その分貯めたいのですが、「多い人からとる」とか「中学生までしか受けられない手当」等だと正直苦しいし、色々と心配です。(笠郷 3年生)
- 老人よりも、もっと子どもたちに税金を使ってほしい。(養老 6年生)
- いろいろなサービスができたのはありがたいが、所得制限などがあり、負担しなければいけない場合も多く払うばかり。納税で不公平を感じ、納得がいかない。住民税の額にかかわらず、一律平等料金を望みます。(養老 2年生)
- 税金でたくさんお金をとられて、子どもにしてあげるお金がなく、たくさん我慢させています。野菜なども高く、とてもじゃないけど子どもに食べさせてあげられない。任意の予防接種も高く、接種できません。税金でお金が無くなり、生活苦になるのはどうなのか。こちらは、お国のために働いているわけではなく、自分たちのために働いています。これでは、昔の年貢の取り立てと変わりません。結局日本は、昔から何も変わっていません。町民税、生きているだけで税金なんて、謎すぎます。車を持ったら税金、家を建てたら税金、物を買ったら税金…。これで生活できなくなったら元も子もありません。何のために一生懸命働いているのかわかりません。主婦が働かず、家事や育児に専念できるようにしてほしい。(広幡 1年生)
- 子どもの教育費にお金がかかりすぎます。(養老 6年生)
- 子ども自身が、養老町は良いまちだと実感できない状況では、この子どもたちが大きくなって養老町に戻ってこよう、戻ってきたいと思うのでしょうか。今の状況では、この町は老人ば

かりの町になってしまうと思います。若い人たちの要望を取り入れた町になることを強く願います。(養老 6年生)

○周りに子どもが少なくなってきました。養老町が、子育てしやすい町ということをアピールして、たくさんの人に住んでもらえるように、行政にお願いしたい。(日吉 3年生)

○他県や他市のことをよく比較して、最先端の子育てサポートや住みやすさがないと、人が増えてこないと思います。他と比べて、いろいろ遅れていると思います。留守家庭児童教室も、19時頃までみてくださるところも多いと思います。需要がないのかもしれませんが、体制が整っていないと、働く決断もできないのではないのでしょうか。住みやすい、子育てしやすいところに人は集まります。子どもが大きくなることを考えると、交通の便や習い事など、今後この地域で育てていけるか不安になります。(養老 2年生)

○夫は相談にも乗ってくれるし、2人で子育てをしています。仕事で疲れている時はムリなく外食をし、私のストレスがたまらないようにして、子どもにもストレスをかけないようにしています。3人家族ですが無理なくいられます。子ども会の行事やPTAの役員の仕事など、まだまだ問題は多いですが、1つ1つでもいいので子育てがしやすい養老町にしてほしいです。年寄りも大切ですが、未来の子どもを育てる環境をよくしていかないと本当に人口は減りますよ。(笠郷 3年生)

○子育て支援が充実していくことは、ありがたいことです。さらに、利用しやすい制度になっていくようお願いします。(養老 5年生)

○船附保育園から子ども園、笠郷小とお世話になっています。心身ともに健やかに過ごさせていただけることが、おかげ様で感謝です。辛いこと、悲しいこと、あって結構。その中で学ぶこと、たくさんあると思います。今の養老町で子どもを育てられて感謝です。(笠郷 4年生)

2 留守家庭児童教室

○学童保育の時間を増やす。日数や時間帯。(養北 3年生)

○今は6年生で、利用しなくてもよくなりましたが、留守家庭児童教室を4年生まで利用していました。すごく助かっていましたが、土日以外の学校が休みの日など、預かってもらいたいと思いました。(池辺 6年生)

○年末年始やお盆も仕事なので、預けられるところがあるとうれしい。(養老 5年生)

○小学校の登校が7:30頃です。仕事が8:00からなので、留守家庭児童教室も7:30頃からにして

-
- ほしい。春・夏・冬休み、毎日遅刻して仕事に行っています。できれば、お願いしたいです。
- (上多度 3年生)
- 休みの時には留守家庭教室が8時からしか開かないのは非常に困る。決められた時間の中で仕事をするのに非常に負担。小学校は8時前に登校しているのに矛盾を感じます。(笠郷 2年生)
- 養老町において、子育て支援サービスに対する整備が不足していると強く感じています。留守家庭児童教室が小4までしかない。小5から1人で留守番させるのは不安。特に、発達支援が必要であるため、そんな子どもに対しては、町において支援が受けられるよう整備してもらいたい。小6まで留守家庭児童教室を利用できるようにお願いしたい。(上多度 2年生)
- 留守家庭児童教室について、対象学年を「全学年対象」にしていただきたい。全家庭が、祖父母と同居ではない。また、夏休み中だけの利用等、長期休暇のときだけ利用できるようにしてほしい。できれば、利用料金は安い方がありがたい。(日吉 5年生)
- 留守家庭児童教室の預けられる年齢について、今は小4までなのですが、小6までにしてほしいです。祖父母と同居している人たちばかりではないので、時代に合った対応をしてほしいです。(日吉 3年生)
- 夏休み等の長期休暇は、6年生まで学童保育の利用ができるようにしてほしいです。今年の夏はとても暑く、熱中症等、留守宅にひとりで過ごしているときに見守る人がいないため心配です。(養老 1年生)
- 長子が3～4年生になるまでは、子どもだけで留守番は考えられませんでした。学童は3年生までで終わってしまいます。現在は4年生までになっていますが、5年生になると、きょうだいのみで留守番。夏休みも自宅で過ごし、プールに自分たちで行くことになり、初日は時間に間に合わなく、みんな行ってしまったことがありましたが、その後は間に合うようになりました。きょうだいがおらず、5～6年生1人のみの生活になると、違った心配があると思います。(日吉 4年生)
- 現在、子ども園でも、小学校でも、とてもよくしていただいています。問題は、来年度からです。養老町は、小4までしか学童保育がありません。常々願うことは、小6までみていただきたいことです。育ちに遅れがあるので、余計にそう感じます。(日吉 4年生)
- 留守家庭児童教室について、高学年の利用も適用にしてほしいです。きょうだいでばらばらの生活をさせなければいけないのは、心苦しいです。(養老 1年生)
- 留守家庭児童教室を、小4までではなく小6までにしてほしい。小2の下の子は入れても、

-
- 小5の上の子は入れず、夏休みに家に1人では置いておけないので、小2の下の子も夏休み
の間、留守家庭に入らず、2人で留守番をさせていました。日中6時間ほど。祖父母も仕事
のため、休めるときと休めないときがあります。(上多度 2年生)
- 留守家庭児童教室について、夏休みも6年生まで預かってほしい。(養北 1年生)
- 夏休みだけではなく、春休みなども預かってほしい。(養北 1年生)
- 留守家庭教室利用料金について、所得に応じての料金なのでしょうが、その世帯の子ども数
は考えてもらえないでしょうか。子どもの人数によって出費も多く、正直つらいです。何の
ために働いているかわかりません。(笠郷 1年生)
- 留守家庭教室が高くなったので、利用しづらくなってしまった。(笠郷 1年生)
- 指導員を増やす。(養北 3年生)
- 指導員の質を向上する。ことばづかいなど。(養北 3年生)
- 留守家庭児童教室の評判があまりよくありません。耳に入ってくるのは悪いことばかりです。
行くのを嫌がる子が多々いると聞きます(先生が怖い、色々強要されるなど)。子どもが楽し
める場にしてほしいです。このままでは利用したいのに安心して利用することができません。
(笠郷 2年生)
- 学童の先生の対応が非常に悪い。もう少し低学年だからこうしてほしいと伝えたと、ちゃん
としていますという感じで言われます。朝の預かり時間も職場に応じて対応してほしい。子
ども同士のトラブルもちゃんと対応してくれているのかわかりません。(笠郷 1年生)
- 子どもたちが、将来、全国、世界に飛び出していけるのか、教育、刺激が足りない気がしま
す。長子は高校生となり、この子が一番、留守家庭児童教室のお世話になりました。利用対
象の学年を上げるなら、高学年の子どもたちが満足できる内容の時間の過ごし方を提案でき
たらいいだろうと思います。(笠郷 6年生)
- 指導する場所を広げる。(養北 3年生)

3 障がいのある子ども等への支援

- 発達障がい児に対する情報提供とサポート体制の充実を求めます。町内における子どもや保
護者に対する交流等もあるとよい。(上多度 2年生)
- 難聴の子どもに対する相談の場所がほしい。周りに難聴の子どもがいないため、相談が難し
い。(養老 5年生)
- 養老には放課後等デイサービスがないので、他の地区まで通っていましたが、時間的に難し

いのでやめました。有料でもいいので、小学生向けの療育の場があるといいなと思います。

(池辺 3年生)

○グループホームなどを増やす。養老町内にも利用できる放課後等デイサービスをつくる。(養

北 3年生)

○障がい児への支援をもっと充実させてほしい。土曜や日曜に、運動会や習い事などのきょうだいの行事と一緒に連れて行けない場合、障がい児を安心して預けられる場所があればいい

と思います。(養老 2年生)

○重心障がい児が受けられるリハビリ施設、理学療法・作業療法・言語療法などが近くにあまりありません。(養老 2年生)

○難聴に対する支援をしてほしい。(養老 5年生)

○難聴教室をつくってほしい。(養老 5年生)

4 ひとり親家庭等への支援

○地域性もありますが、他校より複数の小学校が集合する中学校の生活について、少々不安があります。ひとり親で、いじめや学力面など。(日吉 4年生)

○母子家庭になり、行政からの支援が本当に少ないことにビックリしました。自己申告で判断のつきにくいところもあるとは思いますが、うまいことやりくりしている人もいます。行政をあざむいている人がいる中で、正直なことを書いて支援してもらえないことに、すごく納得いかないです。養老町内・外を含めてです。(養老 4年生)

○子どもを犠牲にして仕事をして、母子手当がもらえないのが少しつらい。一定の所得があっても手当がもらえるといいなと思います。決して楽ではないです。子どもの進学の時も、考えると今後がとても不安です。(笠郷 5年生)

○母子家庭に優しくない。病院代を払うのが大変。住民税をたくさん持っていかれて手取りが少ない。(池辺 5年生)

○病児・病後児保育は養老町内ではないため、働いている親からすると、そこまで預けに行くことすら大変です。母子家庭だと、利用料金の面ではつらい部分があります。(養老 1年生)

○母子家庭の家に、学校の役員などは負担が大きいいのでやめてほしい。考慮してほしい。(日吉 5年生)

○母子家庭のサポート、本当にありがとうございます。地域の少子化のため、学校の役員がすぐあたります。仕事もしていますし、役員の仕事が減ってくれると助かります。行事が多す

ぎると大変です。(池辺 1年生)

○母子家庭で、毎年夏に旅行の案内が来ますが、もう少し早めに案内がほしい。すでに勤務が決まってしまうと、1回も行けません。(笠郷 5年生)

○母子家庭ですので、父親がいません。その分、子どもにはさみしい思いをさせていると感じていますが、祖父母がサポートしてくれていますので、何とか安心はしています。しかし、これからが心配です。強い子に育てたいと思っています。(養老 5年生)

5 その他の子育て支援

○何かあった時に頼れる人が町内にいない。どこか頼れるサービスがあるとありがたい。(笠郷 5年生)

○大垣市みたいに、ファミリー・サポート・センターがあるといい。大垣に住んでいるときは、ファミリー・サポート・センターに頼ってみたいと思っていました。(上多度 2年生)

○ファミリー・サポート・センターについて初めて知りました。養老町では実施していないとのことでしたが、ぜひ検討していただきたいです。自分が病気で動けないときに、子どもの送迎、お迎えだけでもお願いしたり、逆に自分がサポート役になったりと協力したいです。(養老 1年生)

○ファミリー・サポート・センター制度をぜひ導入してほしいです。(養北 5年生)

○親が働いているために、児童の習い事や塾への送迎が困難な家庭に対して、児童を送迎してくれるようなサポートサービスを望みます。中学校卒業ぐらいまで。養老町は田舎のため、大垣市まで送迎しないとよい環境は選べないので。もちろん有料でかまいません。(養老 2年生)

○病児・病後児保育の施設を町内に設置してほしい。できれば医療機関の施設内で。(池辺 6年生)

○自分の親が近くにいないので困ることがあった。病児保育がない(医者の診断があるので急な風邪だと大変)。(笠郷 1年生)

○子どもが風邪をひいたときに預けるところがなく、子どもだけ家にいたこともあり、母親なのにと自分を責めることもあったので、どこかに預けたりできるところがほしいです。家に子どもが1人で待っていると思うと仕事が手につかないこともあります。子ども3人育てるのは本当に大変です。子どもが1人以上いるところはもっと援助してほしいです。子ども1人しか産んでいない人の方が生活が楽そうなので、自分の子どもに申し訳ない。(笠郷 1年生)

-
- 共働き世帯への買い物代行、夕食作りや洗たくなどの家事代行サービスがあるとよい。有料でかまわない。(養老 2年生)
 - 民間の事業だと思いますが、大垣市にある子育て支援スクール E Placeのような習い事+学童保育の施設や、放課後デイサービスのような発達支援が養老にもあるといいなと思います。(養老 1年生)
 - 子ども3人目からの子育て支援がもう少しあってもいいと思います。(笠郷 1年生)
 - 養老町民として、子育て中、優待のような利用施設等はあるのでしょうか。公園も駐車代も含め、代金必要では大型連休しか利用機会もなく、他の市民と変わらない。子育てサロン「ひよこ」は利用できたが、イベント時は応募でいつも参加できず、また参加してもアレルギー持ちの子どもへの対応はなく、寂しい思いをして帰ってきました。(池辺 1年生)
 - 子育て支援室の利用は、子ども同士の交流も、母親同士の交流も、とてもいいと思います。その当時は日々の相談などをし、話をすることで安心したり、改善したりできた。また、10年後、子どもが大きくなってからも子育て支援で交流した人たちと中学校で再会したり、繋がりを感じたりすると、とても良かったなあと思えます。(笠郷 6年生)
 - 私立保育園への支援。(上多度 1年生)
 - 認定こども園が幼稚園化しており、温かい感じがなくなってきました。(上多度 6年生)
 - 認定こども園に移行したことによって、今までの保育園と幼稚園が一体化して預けやすくなったが、経済的な負担が増えました。しかも、養老幼稚園の園舎を利用していることもあり、一時的なことかもしれないが、狭いのではないかと思います。(養老 1年生)
 - 幼稚園がなくなってしまったので、小学校にあがってから親の付き合い方が難しくなった。子どもが遊びたいと言っても、なかなか連絡も取れないし、親同士が仲良くなるきっかけがありません。(笠郷 1年生)

6 学校・教育

- 発達に心配のある子どもに対して、もう少し支援できる先生の確保をお願いしたい。いじめの声もちらほら聞こえ、不安でしかない。しっかり子どもをみてほしい。(広幡 4年生)
- 小学校の高学年になっても、普通教室で支援員の人についてもらえるとありがたいです。(養北 4年生)
- 子ども園では昼食後に歯みがきをしていたのに、小学校になってなくなったのが疑問です。食べたらみがく習慣をつけるためにも行ってほしいです。フッ化物洗口も導入されましたが、

-
- 歯みがきをしないと歯肉炎は予防できないと思います。(笠郷 2年生)
- 勉強も大切ですが、友だちと遊ぶ時間の中で、「これは言うてはいけないこと」とか「これはしてはいけないこと」ということを学ぶことができることが、今の子どもには必要だと思います。(上多度 4年生)
- 建物が2つにわかれての子ども園は、年長・年中と年少以下とのつながりが薄くなり、園としての一体感がなくなった1年だった。先生も半分わからないまま1年を過ごしてしまった。それを成功として、養北も園舎を分けたまま子ども園にした役場は、どうなんだと思ったのが本心。建物が建つまでの数年間、子どもと保護者が、不自由な思いをすればいい。そうしてまで、「子ども園化した」と言いたいのか。昔から、役場の養老町の子育て支援には、いろいろ思うこともあったし言うてはきたが、小学校に上がり、家庭での学習見守り等に時間と体力を使いすぎ、伝えたいという気力はもう失った。先生は大変だと思うし、余計な手間はかけさせたくないとも思うが、先生が、児童・生徒に学力を身につけさせる力が弱いと思います。だから、昼までのパートに出るくらいの仕事にセーブせざるを得ない。学校を学習塾とは思っていない。ただ、学校は、学校としての仕事をしてほしい。(日吉 1年生)
- 学校の先生にこそ、ゆとりですよ。どのくらいからがモンスターペアレントなのかを、文面にして教えるべき。他人の子どもをケガさせたら、あやまることを教えて。(池辺 6年生)
- 担任の先生の行動や言葉にとまどうことがあります。そのため、先生に相談がしにくい。(上多度 2年生)
- 宿題が多いので、寝るのが遅くなりイライラします。(養老 1年生)
- 毎日の荷物が多くて、ランドセルが重たく感じます。教科書等の置き勉強を実施することはできないか。6年間ずっとこんな感じだと、腰に負担がかかります。(養北 1年生)
- 自身の子どもの頃に比べて、禁止事項や制限が増えた気がします。あくまで子どもから聞いた内容ですが。例えば、雨の日は図書貸出なしなど。もっと柔軟な対応だと、子どもものびのびと育つのではないかと思います。(池辺 1年生)
- 平日の放課後、学校のグラウンドで遊ばせてほしいです。(養老 4年生)
- 放課後の小学校の校庭の開放。現在、総合体育館への申請をしないと、放課後勝手に遊んではならないと聞いたので。(池辺 4年生)
- 夏休みの学校プールは参加者が少ないので、町民プールで行うと、きれいだしいと思う。養老小のプールは更衣室などが汚すぎます。(養老 6年生)
- 学校にエアコンの設置が必要です。大人でも猛暑で熱中症になったり、冬に防寒するので、

我が子がエアコンなしの部屋で1日中勉強するのはどうかと思います。特に子どもたちは、自分の体調をはっきり伝えられなかったりするので、登下校30～40分間歩いて行くのも夏場は特に不安です。(日吉 3年生)

○町内の全学校に、早期エアコンの設置を心から望みます。特に夏に関しては、あの暑さの中、エアコンなしで勉強に集中できるとは思えません。エアコンがある学校とない学校では、学習能力に差が出るような気がします。(日吉 4年生)

○学校の給食が少なすぎると思います。うちの子はあまり食べる方ではないが、それでも給食が少ないと毎日言ってきます。どのくらいの量を食べているのか知りたい。育ちざかりの子が、うどん1袋のみとかでは足りないのでは。パンをプラスするなど、給食費を上げてもいいので、もう少し量を増やしてほしい。中学校でも同じく、少ないのであるならばおかしい。朝に部活動とかがあるし、やはり給食は必要。(上多度 6年生)

○中学生のカバンが重すぎます。バランスをくずして転んだり、田んぼや堤防から落ちる子が、毎年何人もいます。風の強い地域ですし、坂が多く、自転車を引いて上り坂を歩くことも多いし、道も狭いので、荷物をもっと減らしてください。学校に話をしても、なかなか改善してくれません。(上多度 3年生)

○放課後、家でゲームやテレビばかり見ているので、習字やそろばん、勉強をみてくれるところなどがあるといいなと思います。(養老 5年生)

7 医療

○歯科は多いが、耳鼻科や皮膚科が近くにないので、医療機関関係の充実を望みます。(上多度 5年生)

○養老町には、耳鼻科と皮膚科がないため、他市町にわざわざ行かなければならないのが不便です。(養北 3年生)

○養老町には、耳鼻科や皮膚科がない。(養老 5年生)

8 図書館・体育館等

○総合体育館など、施設が古く、トイレも狭く暗く汚いので、新調してほしい。(日吉 3年生)

○養老町の数々の施設がボロボロで汚い。総合体育館や学校体育館、格技場、トイレなどをもっときれいにすべき。(養老 6年生)

○名古屋市などのように、体育館でバドミントンや卓球やバスケットなど、道具を無料で貸し

-
- 出してほしい。養老町では、チームを作らないと、個人ではバドミントンはできませんと断られました。(養老 5年生)
- 町の新しい図書館をつくってほしい。もう少し過ごしやすいスペースがほしい。(日吉 3年生)
- 養老町は図書館の場所とプールの場所が離れていたりして利用しづらい。例えば、海津市はプールの横に図書館があり、夏休みなどプールで遊んでから図書館の利用ができたりする。平田町図書館は小学生向けの本が充実している。子どものための設備にお金を使ってほしい。(池辺 6年生)
- 公共施設など、子どもに危険なところがあり利用しにくいです。(養北 1年生)
- 無料施設、小学生(小学生以上の子)が利用できるものがあるとよい。(笠郷 4年生)

9 公園等の遊び場

- 養老町は、学校の周りにお寺や神社が多いが、公園など子どもたちが集まって遊べる場所が少ない。子ども園の遠足など、お寺や神社巡りでかわいそう。(日吉 3年生)
- 公園とか、子どもが遊べるところをつくってほしい。(養老 1年生)
- 子どもたちが安心して遊べる場所をつくってほしい。(笠郷 1年生)
- 子どもが遊べる環境づくりをしてほしい。(上多度 4年生)
- 子ども達が遊べる広場を作してほしい。(池辺 3年生)
- 町内の公園を増やしてほしい。(養老 4年生)
- 公園など子どもがもっと外で安全に遊べる場所がほしいです。街路灯を増やしていただきたい。(笠郷 1年生)
- 近くに公園などがなく、遊びまわるスペースがないので、遊べる場所がほしいです。(笠郷 3年生)
- 放課後、子どもたちが遊べる公園などの施設がない。(養老 3年生)
- 住んでいる地区では、公園がすべてなくなりました。子どもたちは、外でボールで遊ぶこともできません。(養老 6年生)
- 公園がない。ボールで思いっきり遊べたり、自転車の練習をするところがない。(上多度 1年生)
- 子どもたちや親たちの過ごす環境が少しずつでもいい状況になるといいと思います。公園などの公共施設も充実していただけると、子どもたちも、今よりもっと外で遊んだりするよう

-
- になるのかなと思います。(養老 5年生)
- 子どもたちが外で思いっきり遊べる場所が近くになく、放課後に友だちと遊ぶのも、家の中でゲームをするか、道路で遊んだりしているので、安心して遊ばせることができません。高田地区に公園をつくってほしいとずっと思っています。(養老 1年生)
- ゲームで遊ぶことに慣れてきて、外で遊んでいる子を見かけなくなった。それは公園(広場)が少ないからだと思う。家が増えてきて土地がないのか、なるべく遊べる場所がほしい。(笠郷 1年生)
- 家から近いところに、子ども達が遊べる場所(公園)がほしい。昔と違って、小学校の遊具を家へ帰ってからや休日に使用することができない。逆上がりなど、なかなか練習することができないし、バドミントン等、広いスペースで遊ぶスポーツができません。親世代に比べて、できないこと(運動能力)が多すぎます。(笠郷 4年生)
- 気軽に利用できる公園をつくってほしいです。(養老 4年生)
- 公園がないので、子どもだけで自由に遊べる場所がなく、すべてにおいて親がついていかなければ行くことができないので、負担が大きい。(養老 1年生)
- 養老町内にある公園は、遊具があるのは養老公園ぐらいで、子どもたちが気軽に歩いて行ける遊具がある公園がない。特に小さな子どもがいる家庭では、歩いて行ける範囲で遊べるところを求めていると思います。田舎ほど整備されていない。(養老 1年生)
- 外遊びを安全にできる魅力ある場所を、もっとたくさんつくってほしいです。家の中にこもってゲームばかりしています。この前テレビで、名古屋市的高速道路の下の空き地を利用して、若い20歳代の人たちに交じって、小学生の子どもたちも、ダブルダッチを楽しくやっていました。スケートボードのジャンプ台や登坂などもあって、うらやましかったです。養老町の公園には「ボール遊びできません」と書いてあってショックでした。(養老 5年生)
- 子どもからお年寄りまで利用できるステキな散歩コースやジョギングコースなどがあったらいいですね。(養老 5年生)
- 雨の日でも遊べる場所があればいいと思います。(上多度 4年生)
- 養老町は道路も危険なところが多い。外で遊ばせられず、家にこもらせてしまうことになるので改善が必要。(日吉 3年生)

10 通学等の環境・安全

- 登下校に使う道路を、長期にわたり工事のために通行止めにするのはやめてもらいたい。(広

幡 6年生)

○養老鉄道の踏切に歩道をつけてほしい。自転車で通るにも、子どもたちが使う通学路としても危険です。(養老 6年生)

○利用していた道路を渡るための信号がないために、遠回りさせて信号を使って渡らせるのではなく、歩行者用の信号を設けるようにして、遠回りしなくてもいいようにしてやってほしい。(広幡 6年生)

○飯田から高田中学校への通学路付近の道路は、道幅が狭く、自転車通学に不安を感じます。特に橋のところは、信号もなく車通りも多いので心配です。信号機のない橋のところ毎日誰か立って見守ってくれる人がいるとよいのですが。(養北 5年生)

○通学路に防犯カメラを設置してほしい。また、通学路で事故の多い場所の対策を考えてほしい。(笠郷 1年生)

○下校時間は明るい時間が多いので、必要とされていないのだと思いますが、雨で薄暗い日等、下校の道に灯りが1つもない所があります。田んぼばかりで、下に足を踏み外し、汚れて帰ってきたこともあるので、街灯を少し増やしてほしいです。(笠郷 5年生)

○登校班の人数が1人や2人になる地域が多く、学童にも入れず、登下校が不安です。(日吉 3年生)

○登下校に乗り合いバスのようなものがあると安心です。(養北 5年生)

○スクールバスの利用範囲を広くしてほしい。特に夏休みのプールは、スクールバスが利用できれば利用する子も増えます。(養老 6年生)

○うちの子たちは、これから中学生になる子どもたちばかりです。自転車通学になります。メンタル面では自転車は良いことだと思うのですが、帰り道が特に心配です。オンデマンドバスとか、近鉄バスに任せさせてもらいたいと思っています。(養老 6年生)

○駅やバス停まで遠いので、通勤や通学の時間帯に利用できるようなオンデマンドバスを設けてほしい。(池辺 6年生)

○朝、夕方だけでいいので、オンデマンドバスで鳥江駅まで送迎をしてほしい。(池辺 3年生)

11 子育て環境

○これからも子育て、生活しやすい安心した環境にしてほしいです。(笠郷 6年生)

○男性が子育て、家事をするのが普通だという意識が低い。育休をとらなくてもいいが、家に帰ったら何か家事をするということを社会全体で共有していきたい。(広幡 1年生)

○他市町や他県での取組をみると、ひとつ屋根の下で、高齢者は介護施設、障がい者は障がい者施設、子どもたちは学童保育や留守家庭児童教室、放課後デイサービスとして過ごすことができる施設を行政として運営しています。養老町内においては、旧養老女子商業高校や旧池辺幼稚園の建物の再活用も含めて、検討していく必要があるのではないのでしょうか。(上多度 2年生)

○末っ子が高学年となり、小さかった頃のような大変な子育ての時期は過ぎたため、以前感じていた支援の物足りなさはなくなったと思います。ただ、前回のアンケートの後、留守家庭教室の対象学年が3年生から4年生までに引き上げられ、夏休みは高学年も利用できるようになったことは大変ありがたく、アンケートに答えたかいがあったと思いました。子どもが園児の頃には、ことばの教室にも通っており、留守家庭教室とことばの教室は本当に自分の育児の中では、ありがたい制度だったので、今後も絶対に継続していただきたいと思います。養老町は南北に長い地域のため、子育て支援に関する施設が自宅から遠い等の印象があります。子どもが幼い頃には、下笠保育園の地域子育て支援センターを利用していたこともありました。自宅が大垣市に近い位置でもあったため、移動時間が長く、小さな子連れでは気軽に利用しにくいと感じたこともありました。時には、大垣市の施設を利用したこともありました。難しいとは思いますが、拠点施設をもっといろいろな場所に増やしていただいて、気軽に利用しやすい環境になればよいと思います。特に、大垣市や南濃に近い地域など。(養北 5年生)

○高齢化にともない、老人福祉センターなどの老人の集まれる場所はあるのに、親子が気軽に集まれる「いこいの場」がない。使っていない会議室や研修室などを、ママ友と子どもたちが集まるとき、時間制でもいいので開放してほしい。(養老 2年生)

○大垣市に比べると、金銭的にも利用施設(休日を含む)も劣っていると思います。住みづらい。(養老 4年生)

12 就労環境

○今はパート勤務です。常勤にならないのは、子育てとの両立が非常に難しいと感じていることも一因です。個人的な理由でもありますが、仕事と子育ての両立が難しくないよう支援が充実していると感じられれば、養老町は非常に子育てしやすい町になるのかなと思います。(養北 5年生)

○養老町全体でママの就労をサポートすることをやってほしい。養老町にも働きやすい職場は

あるのでは…。養老町で働いていたら、子どもを預けるサービスを利用でき、預ける場所ももっと子どもが楽しめる雰囲気づくりが大切。子どもが預けられないとなったら仕事ができない。親が仕事をして、寂しい思いをしている子どもたちに温かな雰囲気を作ってほしい。養老町ももっと子育て支援に立ち上がってほしい。まだまだ甘いと思う。仕事をしていないのにこども園に子ども（未満児）をあずけている人もいます。もっと厳しくチェックしてもらいたい。子どもがかわいそうだと思う。（笠郷 3年生）

○働く母親にとって、仕事との両立の厳しさが負担。忙しさと「きちんと宿題もやらせなければ」との板ばさみでイライラすることもあります。また、病児預かりなどが整えば、もっと仕事もしやすくなります。母親も人間なので、自分の時間がごくたまにでも取れるとリフレッシュできて、心のゆとりをもって子どもに接することができるので、放課後や休日の単発での有料預かりサービスや施設があると助かります。（養老 1年生）

○共働きで私も正社員です。学校は何とかなりますが、子ども会、PTA、役員、会議など、体と時間がそんなにありません。8時間労働の正社員には何か新しいシステムがあるといいです。働いて保険も住民税も払っていて、役員はパートの人と平等なんだて、誰も正社員8時間を選ばないと思います。一生懸命働いて、すごく大変なのに平等を求められると、8時間働いてから言ってほしいと思います。正社員の人がパートの人と同じ子育て支援では無理です。子どもから手が離れて働いたら自分も年です。会社からしたらもう必要ないです。40歳を過ぎて正社員希望は難しいです。買い物に行く時間もなくて大変なんです、共働きは。しかし働かないとお金に困ります。本当の正社員の主婦はのぞみに入ることができていない。家で待たせています。パートの人でのぞみに入れている人ばかり。確認してるのか、本当に必要なのか、のぞみはパートでも入れるのか。各学校単位でのぞみに人件費がかかりすぎ。働く女性が住みやすい、子育てしやすい養老町になることを願っています。池辺幼稚園も空いてるのだから児童館にしたら、放課後に遊べる所ができます。2月の子育て支援行事予定表を見ましたが、小学生の利用はあるのですか。未就学児対象で利用者数、数えていますか。共働きで働いている子には何の意味もない。共働きで働くには子育てしにくい。主婦が働けない。疲れるのみ。（池辺 3年生）

○子育てと仕事の両立はとても難しい。フルタイム勤務は、祖父母と同居または近居でないと続けることはできません。父親の育児や子育てへの参加が進むよう、企業へのPRをしてほしい。長時間労働が常態化しています。（養北 5年生）

○仕事と家のことの両立には悩みますが、周りの協力もあるので、頑張っていこうと思います。

子どもが小さい頃は、支援センターなど様々な子育て支援にお世話になりました。大切な思い出です。(広幡 4年生)

13 役や行事の負担

- 子ども会の役員の負担が大きい。働いているのに、子ども会の行事や町内会行事への出席が多すぎます。(養北 2年生)
- 子ども会のあり方を考えてほしいです。昔と違って今は共働きなので、活動がなかなかできません。子どもの数も少ないので、なくしたいと思っています。(養老 1年生)
- 子どもの数が減っているのに、役員の数以前のままだったり、みんな負担だと思っているのに、地域の老人の意見が通り、行事を減らすどころか、増えているような状況があります。休みの日は家族で過ごしたいのに、他の用事が入り予定がつぶれるということが続き少し参っています。(上多度 1年生)
- 父母ともに働いているのに、そして子どもの数も減ってきているのに、「子ども会」活動を存続する必要がありますか。就労しているにもかかわらず、子ども会役員や評議員、運営委員にあたること、すべてが負担です。周りには同じような年の子も少なく、近所づき合いも薄いため、はっきり言って育てにくいです。就労しなければやっていけないのに、役員にあたりと仕事を休まなければならないなど、子育てと仕事の両立ができません。この調査に意見を書いても、何かが改善されているようには思えません。(養老 3年生)
- 子どもを育てることは、楽しく充実しています。子ども会の活動が、養老町は他の地域と違って、親への負担が大きいです。子育て世代は養老町に住みたいとは思わないと思います。「お年寄りが、豊かに暮らせるまちにしましょう」というのが養老町のめざすところだから、お年寄りばかりの町になると思います。(日吉 4年生)
- 子ども会活動が盛んですが、発表会に負担を感じます。(日吉 6年生)
- 毎年7月に、親と子のふれあい広場という行事があります。子ども会の発表があたると、事前準備が多いため、仕事も早退の繰り返しになり困ると聞いています。親子で何かを作ったりするのはいいと思うのですが、働いている親が多い中、休みの日に1日時間をとられるのはつらいです。昔は、働いていない親が多かったのでよかったのかもしれませんが、今の時代には合わないと思います。子ども会の花壇、新聞作りなども、人数が少ない地区にとっては負担でしかありません。改善を希望します。(上多度 1年生)
- 養老町のボランティア(地域、子ども会、学校役員など)の負担が多すぎます。同居されて

いる家が多いためか、夜の集まりや休日などの用事も多く、核家族で、しかも夫の帰りや休日が不規則な家では子どもだけで留守番させるしかありません。高齢化が進んでいる中、子育て世代の負担は増えるばかりです。無理やり人数集めをする行事や子ども会など、少しでも負担が減るようにしてもらいたいと思います。(笠郷 3年生)

○子ども会、せめて小6まででいいと思います。役員が回ってくると、夜、子どもを1人にして出かけなければならず、フルタイムでの仕事だととても大変です。町で色々なイベントがありますが、すべてが数合わせのため役員の人たちが嫌々出ています。本当に必要な行事だけでいいと思います。たくさんありすぎて大変です。すべての行事に対してアンケートを取ってみてください。数合わせで強制的に出させられています。何のためですか。平日は母親も父親も仕事が忙しく、家族でゆっくり過ごす時間がありません。唯一ゆっくり過ごせる時です。またスポーツ少年団をやっている子もいます。カルタ大会や縄跳び大会、必要ですか。他の地域は婦人会や婦人消防がない地域がありますよ。町民運動会もやっているところは少ないと思います。やってもせいぜい半日で終わっています。養老町は少しおかしいです。いつまでも古いまま、老人には優しい町だと思いますが、やり方が古すぎて若者は住みにくいです。昔の伝統を残すのはいいですが、それが時代遅れになっていることに早く気付いてください。私は町外から転入してきましたが、後悔しています。ずっと住んでいる人は気付かないと思いますが、異常な町です。(笠郷 3年生)

○子どもの人数が減っているが、学校の役員や、地域の役員、行事などは減らず、子どもと接する時間が削られたり、かえって忙しくなって、自分に余裕がなくなりストレスを感じてしまったりします。(日吉 3年生)

○学校での役員、子ども会の役員、何度やればいいのかと思う。大垣市の人から聞くと差を感じます。古い決まりごとが多く、仕事の量や内容も、それ必要なのかと思うことが多い。町で行う行事に、子ども会が強制参加させられている印象です。共働きで、土曜日でも仕事があったりする中、やっと家族でゆっくりできる休みに、強制的にさせられる役員の仕事。土日に習い事をやっている子どもも多く、集まるのにも一苦勞。都合が悪く参加しないと、文句を言う人もいるし気まずい。そこまでしてやるものでもないと思います。年配の元気な、時間に余裕のある人が、自発的に町内の行事に参加するのはよいと思いますが、それを無理やり一緒にやらされている感じがします。こちらはそんなに暇じゃない。役場が主導する行事は、広報か何かで知らせて、行きたい人だけ参加でよいのではないのでしょうか。子ども会に人集めをさせないでください。それで人が集まらないのであれば、内容に魅力がないから

-
- だと思うので、内容の改善をすべき。または、行事をなくせばいいと思います。意味のわからない子ども会のみこしづくりとか、本当に負担です。支援の前に負担軽減では。(養北 2年生)
- 向き不向きに関係なく、子どもの人数に応じて無理やり役員をやらせられるのが、苦痛です。
(広幡 6年生)
- 子どもを夜間に家に留守番させておいて、役員行事への参加はおかしいと思います。(広幡 6年生)
- 子どもが小学校中学年になり、上の子も大きくなったので、それほど不安に感じることも少なくなりましたが、小学校の役員や地区の役員などの集まりが夜に行われるので、預けられるところもないし、夜なので生活リズムもくずれてしまうし、負担でした。(上多度 3年生)
- 小学校や中学校のPTA役員は、夜に集まったりして大変なので、PTA活動をやめてほしい。PTAは必要ないと思います。(養老 1年生)
- 子どもの数が少ないので、すぐ役員になります。地域の役員も何かしらあるので、毎年2つ3つの役員を掛け持ちし、ずっと役員をする年が続くことになるのでうんざりしています。田舎で子育てをしたくない理由は、実はこういうところにあります。(上多度 3年生)
- PTAや子ども会の役員ばかりで、もう1人子どもがほしいと思っても、そのことがあるのであきらめました。今は、母親も仕事をしなければ経済的にきびしい家庭も多いと思います。そんな中、養老町は子ども会行事も異常に多く、役員なら一緒に行かなければなりません。貴重な休みなのに、本当にストレスでしかありません。何とかしてください。もう限界です。
(養北 2年生)
- 子ども会について。養老町は他の地区と比べると、子ども会の活動が盛んです。それを良いことととらえる人も多いでしょうが、私はとても負担に感じています。特に親の育成会長にあたってしまうと、その1年は仕事や家庭生活にも支障をきたすほどです。小1～中3までというのも、中学生の行事予定が多く、部活との両立は大変で、休みがちになるので意味がないと思います。少子化のこの時代、子どもが4人、それも年が離れていると、長期間にわたり、学校の役員、子ども会の役員、それぞれの行事と多忙な生活になり、年とともにつらくなってきました。話を戻すと、花壇作り、壁新聞作り、おみこし作りなど、大人がいないとできない内容の活動はなくしていくべきです。子育て支援も必要ですが、親の負担を軽くすることも重要です。(笠郷 5年生)
- 子ども会行事の多さが気になります。カルタ大会、映画、昔遊び、なわとび大会。子ども会

-
- ごとに参加人数が割り当てられますが、子どもの人数が少なく、それぞれスポーツ少年団や習い事等もあるため、負担が大きいです。いろいろな団体から「年に数回だから」と言われ、年に数回でも合計するとかなりの回数になります。行事内容を精選してほしいです。(養老 5年生)
- 子ども会の花壇コンクールはやめてほしい。異常気象が増えて、花を上手に咲かせるのは難しいし、費用もかかります。(養老 6年生)
- 育成会の行事や子ども会花だん等、なくしてほしい。土日は親子で過ごしたい。子ども会から抜きたい。(池辺 4年生)
- 学校や保育園の先生には、子どもの成長や教育の面で、とてもお世話になっており感謝していますが、町のイベントごとへの参加は必要ないと思っています。町の少年団や学校での関わりの中だけでも、十分成長していると思います。親の負担を減らしてほしいと思います。PTAや子ども会の活動を、子どもたちが喜ぶものや学校生活に必要なものだけに減らしていただくと助かります。そういう役員の負担が、就労しづらい原因となっていると思います。(養北 5年生)
- 子ども会を廃止してほしい。地区の子どもの人数が少ないのに、一家族の負担が重すぎます。昔とは違って共働きです。町民運動会も取りやめてもいいと思います。そういうのが無くなってくれば、子育ての環境も大きく変わります。PTAの地区役や委員会も必要最低限にするだけで、かなり違うと思います。(笠郷 1年生)
- 小学生の子を持つ親ですが、養北小学校で、地域の方や保護者の協力(強制)が多いと感じます。例えば、小学校をきれいにする夏休みにやる「クリーン活動」は、なぜ親がやらなければならないか疑問です。子どもが先頭に立ってやり、親はおまけぐらいで大丈夫だと思います。あと。資源活動も親だけで行うのがとても不思議です。子どもが出ないのはなぜなのでしょう。学校にはお掃除をする用務員がいないのでしょうか。人を採用して、少しでも親の負担がなくなるようにできないのでしょうか。ただでさえ毎日疲れているのに…。他県市の他の学校ではそんなことしていないとの意見をもらい、私も子どもの頃、親がしていた記憶もありません。資源活動したお金は何に使われているのか、毎回明確にしてもらいたいです。いつまでたっても学校は古いまま。そんなイメージがあります。地域の方が学校の校庭などきれいにしてくださっているらしいのですが、小学校のことは小学校がやるべき、もしくは役場。(養北 3年生)
- 子ども会の活動、PTA、地域の行事が多すぎます。家族の時間が少なくなります。また世

帯や子どもの減少などで、役員の回数など負担が多い。子どもをもっとほしいと思いますが、役員のことなど考えると、子どもをあきらめています。また、子どもも、子ども会の活動、地域の行事など、ほとんど楽しみにしていません。極力少なくしてほしい。また、PTA、子ども会など、任意団体のはずなのに、絶対参加みたいな雰囲気があります。親にも子どもにも、そこまでプラスになっている団体のように思えない。また誰も参加したいと思っていません。意味があるのでしょうか。時代に合わせて、こういう団体も見直す必要があるのでは。(養北 1年生)

○子ども会について、親が面倒だから参加しないとか、信じられません。何ための子ども会なのか理解できません。そんなことだから、その子どもも同じ考えになりますよね。(養老 5年生)

14 経済的支援

○子どもに対する経済的な支援があればうれしいです。学費や医療費で助けてほしいです。(広幡 1年生)

○今あるかどうかわかりませんが、多子施策で、きょうだい間の年齢が開いていると何か安くなるサービスが受けられなかった経験がありました。うちは5歳離れているのですが、子どもとして同じようにしていただきかったです。(上多度 2年生)

○金銭的な支援をもっと増やしてほしいと思います。他の地域に比べると、少ないと思います。(養老 5年生)

○子どもが小さいうちはお金がかからないので、児童手当は必要ない。その反対に、子どもが中学校・高校・大学くらいになった頃にお金が必要になるため、中・高・大のときに町からの援助がほしい。(上多度 6年生)

○児童手当も高校生も対象にしてほしい。(養北 2年生)

○児童手当を1人当たり上げてほしい。(養老 1年生)

○高校生も医療を無料にしてもらいたい。(笠郷 2年生)

○高校卒業まで医療費を無料にしてほしい。(養北 3年生)

○隣の大垣市のように、高校生まで医療費を補助してほしい。(養北 1年生)

○子ども医療費の無料化を、ぜひとも18歳までにしてほしいです。(養北 3年生)

○子どもの医療費について、15歳まで無料を18歳までにしてもらえると助かります。(養北 4年生)

-
- 養老町も大垣市と一緒に、18歳まで医療費を補助してほしいです。(笠郷 3年生)
 - 養老町も大垣のように医療費助成を18歳までにしてほしい。(池辺 2年生)
 - 医療費の助成を高校卒業までにしてほしい。(笠郷 1年生)
 - 高校生も医療費を無料にしてほしい。(池辺 3年生)
 - 医療費が高校生まで支援していただけるとありがたいです。(笠郷 6年生)
 - 医療費を高校卒業するまでに延長してほしいです。(池辺 6年生)
 - 医療費の補助を18歳、高校卒業までにしてほしい。(日吉 4年生)
 - 医療について、子どもが大きくなればなるほど、けがなど多くなると思います。高校卒業までの医療控除をしていただけると家庭が助かります。(養老 1年生)
 - 他の地区では医療費が高校生まで無料になっているので、高校生まで無料にしてほしい。(笠郷 4年生)
 - 子どもの医療費を、中学までの助成ではなく、高校までにしていただきたい。高校生になると、部活動などでよくケガをすると、高校生の子どものもつ親さんによく聞くため。(上多度 2年生)
 - 医療費をせめて高校生まで延ばしてほしい。(笠郷 1年生)
 - 医療費を、周りの市町のように高校卒業までに早急にしてください。(養老 2年生)
 - 医療費無料を高校卒業までにしてほしい。(養北 2年生)
 - 医療費受給者証について、高校まで無料にしてほしい。(上多度 1年生)
 - 高校生まで医療費が無料になることも、大切なことだと思います。(養老 6年生)
 - 高校生まで医療費無償化を伸ばしていただきたいです。他の市町に比べて子育て事業が一步遅れていると思います。もっと率先して子育て事業を進める、自慢できる養老町であってほしいです。(上多度 2年生)
 - 医療費の助成制度を、高校生まで対象に広げてほしいです。義務教育から外れるためとのことは理解できますが、お金がかかる時期なのでプラス医療費もとなると…。共働きしていますが、子どもが大きくなれば食費も増えます。高校によっては交通費もかかります。一人ひとり家庭環境も違うので何とも言えませんが、共働きをしている親たちは多くなっていると思います。少しでも負担を減らしていただけるとありがたいです。(養老 6年生)
 - 養老町は医療費助成制度が0歳から中学校3年生までで、高校生になると医療費がかかってくるため経済的負担が大きくなります。部活動などでのケガが多く、度々病院に通わなければいけないので、正直困ります。大垣市や他の町も18歳までは無料の制度があるので、ぜひ

-
- 養老町も実施してほしいです。(養老 4年生)
- 大垣市は、医療費が高校生まで無料と聞いたので、養老町も変更してほしいと思います。子どもが4人いると、風邪などももらうことも多いので改善してほしい。(養老 3年生)
- 高校生まで子ども医療費助成制度のある市町村が多い(西濃)。養老はできないのか。大変うらやましい。安心して医療を受けさせることができます。養老も子育てしやすい町にしてほしい。人口が他の地区へ流出しますよ。(池辺 3年生)
- 養老町の医療費控除は、中学校卒業までですが、近隣の大垣市では高校卒業までです。養老町の高校は1校のためほとんどの養老町民が大垣市の高校に通うのに、同じ部活動等でものをしても、養老町の高校生だけ負担がかかります。中学校入学時のヘルメットの費用負担といい、子どもの数が減っているのに、その子どもたちにかかる経費が削減されて、何を大切にしたいと思っているのかわかりません。これから未来を担っていく子どもたちを育てやすい町にするために、必要経費をもう少し子ども中心にしてほしいです。高校入学を機に大垣市に住所を移そうか検討中です。もう少し子育て世代の意見を聞き入れられるような若い議員さんに一新してほしいです。(養北 6年生)
- 18歳(高校卒業程度)までは、中学卒業以降、乳幼児医療証に変わる医療証を発行していただき、病院での費用を無償にしていただけると経済的に助かるうえ、何か気になればすぐ病院にかかれるのでありがたいのですが…。例え、そういうものがなくても、病院に行かないわけではないですが、あればすごく助かります。(笠郷 6年生)
- 予防接種など、医療費で助けてほしいと思います。(広幡 1年生)
- インフルエンザ等の予防接種の補助金や、医療費補助の面で、もう少し力を入れてもらえるとう助かります。(池辺 3年生)
- インフルエンザ予防接種などの助成がほしい。(広幡 1年生)
- インフルエンザ予防接種などの補助金があるといい。(養老 1年生)
- 予防接種、インフルエンザなど、毎年うっていないので、無料化していただけたら大変助かります。(広幡 4年生)
- 子どもが3人います。しかし学年が対象にならず、何の支援も受けることなく、上の子が高校生になりました。保育料も満額を3人支払い、今さら私たちの税金で、フラフラしている若者の子どもの保育料が無料なのは納得できない。その人達はのちに課税されるわけでもなく、私たちには得がなく損しかしていない。保育料が高いから、部分休業をやめてフルタイムで働き、子どもとの時間を削って今があるのに。今の人ばかり子どもとの時間あって、お

金もかからないなんておかしい。今まで支払った人へも返すべきだ。留守家庭もあんな意地悪は初めてです。もう入室させません。どこの家も町内勤務じゃない。二重保育して倍お金がかかりました。(池辺 3年生)

15 アンケート

- 毎回書いていますが、何か変わりましたか。これは書く必要がありますか。これを書くのに時間をムダに使っていると思います。このアンケートをやめてほしい。(養老 3年生)
- アンケートを書いても、何も改善されていないような気がします。(日吉 3年生)
- アンケートの設問の文章で、気になるところがいくつもありました。保護者としては、そんな言い回しを選びたくないのと思うところがありました。もう少し保護者の気持ちに立って文書を作ってください。(日吉 1年生)
- この質問がおかしい。選択肢が少なすぎ。(池辺 6年生)
- このアンケートは何に反映されるのか教えていただきたい。(笠郷 1年生)

16 その他

- 成人の年齢が18歳になるとのことだが、他の自治体のように、成人式は20歳にしてほしい。上の子が他の学年と合同になるのかと心配している。(日吉 4年生)
- 今年中学生になるので、制服の購入にあたり、上2人の兄の制服を使ってくれることに子どもは納得してくれたのですが、一定の金額の制服を購入すると、ディズニーランドかユニバーサルスタジオに連れて行ってもらえます。子どもたちにとっては、楽しいイベントだと思います。上の子の高校入学とかぶるので、子どもに事情を話し、我慢をさせてしまったところもあります。購入先のお店からも「子どもが、かわいそうじゃないですか」と言われました。もちろん、かわいそうだとは思いましたが、「きれいな状態で保管してあるので、大丈夫です」とお伝えしたら、「子どもさんに聞いてあげましたか」と言われてとても嫌な思いをしました。家庭によっていろいろな事情があるので、対応をもう少し気をつけていただけるとありがたいです。(養老 6年生)
- 現在は子の親である私たちも祖父母とも介護を必要とするようなこともなく、長期入院や通院などもないので、緊急時は祖父母の助けや職場の理解もあり、子育てしています。しかし、いつ自分たちの身に支援の必要なことが起きるかわかりません。(池辺 4年生)
- 別件になるかもしれませんが、来年度中学校に入学する子どもがいるのですが、通学用ヘル

メットが有償化となり、お金の振込の案内がありました。フルタイムで働く立場の意見として、窓口での支払いは通常不可能です。コンビニ支払い、PTA会費からの引落とし等、配慮した方法をとってほしいです。(笠郷 4年生)

第4部

ま と め

1 就労している母親の増加

現在就労していない母親は減少を続け、就学前児童の母親では 17.5%、小学生の母親では 11.1%となっています（11、101 頁参照）。経済的な理由に加えて、人手不足による女性の労働力への需要の増大、男女共同参画社会の促進、子ども・子育て支援に係る制度の充実などが要因として考えられます。このような背景のもと、就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業を利用する割合は高くなり、小学生の留守家庭児童教室を利用する割合も高くなっています（19、113 頁参照）。

サービス利用率の上昇と同時に出生数の減少を考慮し、必要なサービスの確保・見直しを行っていく必要があります。また、土曜日や日曜・祝日の利用希望も高くなっており、利用状況によっては教育・保育事業や留守家庭児童教室の利用できる機会を増やすことを考える必要があります。

2 育児休業

育児休業を取得した、または取得中である就学前児童の母親は 40.7%となっています（88 頁参照）。ただし、育児休業中に仕事を退職したり、実際の取得期間と希望の期間に差があるなど、課題はあります。また、就学前児童の父親の育児休業の取得率は 2.3%にとどまっています。

職場の子育て支援は、休暇取得への配慮など理解が進んでいる状況はうかがえますが（76、144 頁参照）、育児休業の取得がどの会社や組織でも進められるよう、更なる啓発を行う必要があります。また、仕事への復帰ができるよう子育て支援の充実を図る必要があります。

3 子育て支援の評価

就学前児童保護者の子育て支援を感じたことがある割合は 54.0%と平成 25 年より高くなっています（73 頁参照）。子ども・子育て支援事業の満足度については、調査を行った 16 項目中、「そよかぜ教室」「子育て支援いちご」「ひよこハウス」の 3 項目の「(ほぼ) 満足」が過半数を占める一方、「子育て応援ガイドブックのホームページ」は 16.9%にとどまっており、「(やや) 不満が」上回っています（55 頁～参照）。

小学生保護者の子育て支援を感じたことがある割合は 44.4%と平成 25 年より高くなっていますが（143 頁参照）、改善してほしいことや子育てしづらい理由で留守家庭児童教室の利用に対する意見が多くあります。

4 留守家庭児童教室・放課後子ども教室

前回の調査の要望等により留守家庭児童教室の利用児は4年生までが対象になりました。しかし、6年生まで対象とすることを望む意見が多くあります(117頁参照)。この要望に応えるため、留守家庭児童教室の受入体制の拡充を図る必要があります。

地域の方々の協力のもとに、子どもたちと勉強やスポーツ・文化芸術活動、交流活動等を行う放課後子ども教室については、「わからない」との回答が高く、実施の可能性や留守家庭児童教室との関係について検討していく必要があります。

5 公園等の野外の遊び場

「公園がない・少ない」という要望が数多く寄せられていました(69・139・141・頁参照)。公園の整備の可能性と併せて、放課後や休日の校庭、園庭の開放など、現在ある施設や活用できる施設も検討して子どもの野外の遊び場の確保に努める必要があります。

6 児童虐待の防止

子育てのストレスなどから、子どもに手をあげてしまう、あるいは手をあげそうになったことがあると回答した人は、就学前児童保護者は64.1%と、平成25年と大きく変わりませんが、小学生保護者は68.9%と平成25年より8.1ポイント高くなっています(81、151頁参照)。

また、母親の27.2%が産後うつを感じているというアンケート結果からも、その知識の普及、予防・支援は必要です。妊産婦や乳幼児に対して切れ目のない支援を提供する体制の充実を図る必要があります。

子どもへの虐待に関する痛ましい報告が後を絶たない状況の中、本町においても早期の気づきと対応ができるよう、相談体制の充実とともに、関係機関との連携、情報の共有などを図っていく必要があります。

7 子ども会やPTA等の活動

子ども会やPTA等の役員の活動が大変であるという意見が多くあります(69、79、139、149、179、197頁参照)。子ども会や地域の行事は伝統的なものもあり、担い手の育成として子どもが参加する機会を提供しています。ただし、共働きの家庭が多くなり、母親に対する負担が大きくなっていることが考えられます。子ども会や地域の行事は子どもと親、地域の人とのふれあいの機会でもあります。行事や活動、役員数等の見直し、子育て家庭以外の協力のあり方等を検討し、伝統を守りつつ、負担の少ない運営ができるようにする必要があります。

8 NPO法人、ボランティアの活用

仕事や会社を退き、居場所や生きがい、活動の場を求める高齢者は少なくありません。子育てサロン、土・日曜保育、夏休み・冬休み等の留守家庭児童教室、地域の見守りなど高齢者をはじめとしたボランティアの活躍の場は数多くあります。子育て支援の人手不足の解消とともに高齢者自身の生きがいや居場所づくりともなります。高齢者に対する研修の機会を設け、ボランティア活動を活性化することで、活動の継続性を確保する必要があります。

また、社会福祉法人には、福祉サービス供給の中心的な役割を果たすだけでなく、法人がもつ人材や施設・設備などの資源を活用して、子ども・高齢者・障がい者など地域住民の頼りとなる地域の拠点の一つとなり、地域住民が健康で安心して生活できるよう地域貢献活動に取り組むことが期待されています。

これらとの連携を図り、地域の福祉力を高める中で子育て支援の取組を推進していく必要があります。

9 広報・情報提供

就学前児童の保護者では、「そよかぜ教室」「子育て勉強室」「子育て応援ガイドブックのホームページ」の認知度は30%以下、ファミリー・サポートセンターを「知らない」と答えている人が77.6%もいました(46、58頁参照)。どれだけ子育て支援を行っても、サービスが必要な人に情報が届いていなければ利用されず、利用意向も正しく把握はできません。各種サービス等の情報提供に努める必要があります。

10 子育てのしやすいまち

「養老町は子育てのしやすいまちだと思いますか」という設問に対する回答は、<しづらい>が<しやすい>をかなり上回っており、<しやすい>は過去の調査から低下が続いています(68、138頁参照)。

本町には、ファミリー・サポートセンターや病児・病後児保育施設がありません。近隣市町と比較して、子どもの医療費助成制度の対象も中学校3年生までです。このようなことから、本町は子育て支援サービスが充実していないと考えられたのではないかと推察されます。

多くの保護者が、子育てに困った時には、企業、親族・知人、地域、ボランティア、子育て支援サービスなど、必要に応じて選ぶことができる重層的なサービス等の提供体制が望まれます。

11 少子化対策

子ども・子育て支援は、子どもの育ちと、家族の子育てを支援するものには違いありませんが、その根本には子どもを増やしたいというねらいがあります。

平成6年に打ち出した国のエンゼルプランからすでに25年目を迎えています。全国の子ども数は減少の一途をたどっています。本町においても出生数は平成26年以降200人を割り込み、平成29年は128人と急激に減少してきています。出産・子育ては個人の自由な選択によるものであることは当然ですが、中長期を含めた少子化施策について検討していく必要があります。

子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書

平成 31 年 3 月

発行 養老町
編集 養老町 住民福祉部 子ども課
〒503-1392
岐阜県養老郡養老町高田 798 番地
TEL 0584-32-1100 (代表)
0584-32-5078 (直通)